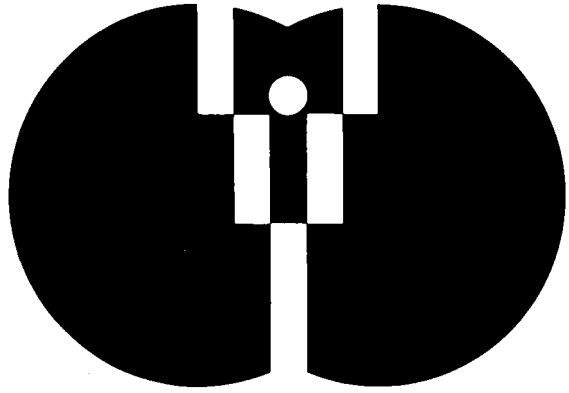
こどもの城

事業年報

平成7年度

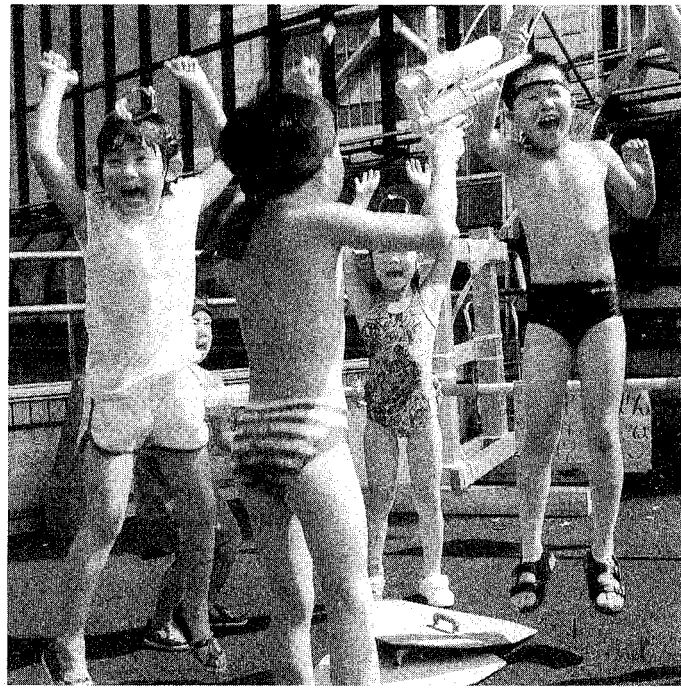


財団法人　児童育成協会

こどもの城

事業年報

平成7年度



財団法人　児童育成協会

こどもの城事業年報　平成７年度

目　次

Ⅰ　事業の概要

1　事業と運営の基本構想……7
2　運営の基本的な考え方……8
3　〔こどもの城〕の活動概要……8
1)「こども活動エリア」の活動……8
2)その他の活動 ……9
3)青山劇場・青山円形劇場 ……9
4　組織機構図と役員名簿……10
5　平成７年度の活動の概要……11
1)事業活動 ……12
（ア）入館者数……12
（イ）一般来館児・者のための活動 …12
（ウ）講座・クラブ活動 ……14
（エ）グループ活動 ……14
（オ）保育研究開発と小児保健……14
（カ）劇場事業……14
（キ）各種の普及・協力活動……15
（ク）利用者サービス事業 ……15
2)〔こどもの城〕開館10周年記念事業…15
3)＜動くこどもの城＞ ……16
4)その他の活動 ……16
6　活動時間・入館料(こども活動エリア)……17
1)平常期間 ……17
2)特別期間 ……18
3)入館料 ……18
4)その他 ……18
7　活動状況一覧……20
1)入館者数 ……20
2)グループ活動実施状況 ……22
3)講座・クラブ等 ……23
（ア）講座 ……23
（イ）クラブ……24
（ウ）短期集中講習会等 ……25
（エ）専門指導者向け講習会等……25
4)視察・見学実績 ……26
5)１年の活動の歩み ……27

Ⅱ　各部の活動(1)

1　体育事業部……31
2　プレイ事業部……49
3　造形事業部……63
4　音楽事業部……77
5　AV事業部 ……95
6　保育研究開発部 ……109
7　小児保健部 ……125
8　企画部 ……133
9　劇場事業本部 ……141

Ⅲ　各部の活動(2)

1　広報部 ……157
2　研修教養部 ……163
3　国際交流部 ……173
4　営業部 ……183

Ⅳ　〔こどもの城〕開館10周年記念事業

1　〔こどもの城〕開館10周年記念事業　…191

Ⅴ　動くこどもの城

1　動くこどもの城
（キャラバン隊派遣事業）……207

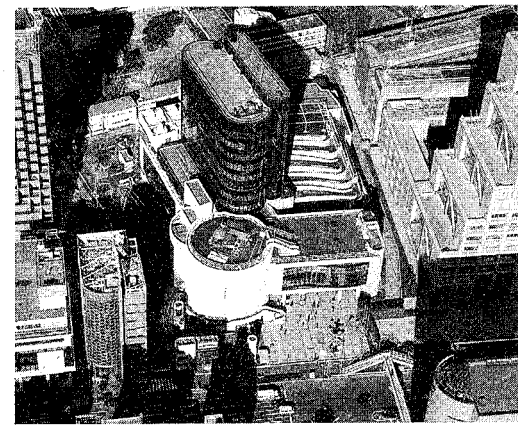
Ⅵ　その他の活動

1　こどもの城全国連絡協議会 ……215
2　チャリティー事業 ……220
3　こどもの城友の会 ……221

Ⅰ　事業の概要

1　事業と運営の基本構想 ……7
2　運営の基本的な考え方 ……8
3　〔こどもの城〕の活動概要 ……8
4　組織機構図と役員名簿……10
5　平成７年度の活動の概要……11
6　活動時間・入館料……17
7　活動状況一覧……20

I　事業の概要



〔こどもの城〕は1979年（昭和54年）の国際児童年を記念して厚生省が計画・建設した児童の健全育成のための総合施設である。

国が東京都から譲り受けた，渋谷区神宮前5-53-1の約１万m²の敷地に，昭和56年11月に着工された。以来，４年の歳月と323億円（土地取得費を含む）の国費をかけ，地上13階，地下４階のミラーガラスに包まれた美しい建物が完成，昭和60年（1985年）11月１日に開館した。運営は厚生省の委託を受けて㈶日本児童手当協会（平成８年８月１日から，㈶児童育成協会に名称変更）が当たっている。

平成７年度は，開館10周年の区切りの年に当たる。これを記念して自主公演「イーハトーボの音楽劇　銀河鉄道の夜」（青山劇場），「ビクトルダミコ展」（造形スタジオ・ギャラリー）など，10年の活動を踏まえて次の10年を展望する各種の記念事業を行った。

1．事業と運営の基本構想

〔こどもの城〕の創設に当たって，昭和54年，厚生省により「こどもの城企画委員会」（葛西嘉資座長）が設けられ，「近年，わが国の社会の都市化，工業化に伴い，児童の健康や安全が損なわれており，また，核家族化，家庭規模の縮小に伴う児童の人間関係の変化によって，さまざまな問題が生じている。一方で，高年齢化が進んでおり，この中で，豊かな活力ある社会を維持していくために，未来を担う児童の健全育成の必要性が高まってきている。このときにあたり，わが国の児童をとりまく諸問題に適切に対処し，明るい21世紀を展望する総合施設を建設することは，時宜に適したものである（要約）」という意見書が児童家庭局長に提出された。

以来，厚生省と㈶日本児童手当協会は，この「基本構想に関する意見」を踏まえ，協力しながら〔こどもの城〕の建設に当たり，運営に取り組んできた。開館以来10年を経過した現在も社会環境の変化に柔軟に対応しつつ，基本構想に示された理念を大切にしながら，より一層の充実を目指して活動している。

2．運営の基本的な考え方

〔こどもの城〕は乳幼児から高校生までのすべての児童を対象に，幅広い福祉・文化活動を行っている。「こども活動エリア」と総称される体育，プレイ，造形，音楽，ＡＶの各部門のほかに，保育研究開発，小児保健，企画，劇場事業（青山劇場・青山円形劇場），広報，研修教養，国際交流などの部門があり，児童だけでなく，親をはじめ児童の福祉・文化関係者，研究者，教育者など，子どもの幸せを願うあらゆる人が利用できるように開かれている。

「こども活動エリア」で毎日行われている数々のプログラムのほかに，平日の午前中を利用して行われている保育所や幼稚園・小学校などの集団を対象にした「グループ活動」，そして〔こどもの城〕ならではのユニークな内容の講座・クラブなどの数々の実践を通して，次代を担う子どもたちが心身ともに健やかに成長していくことを目指して活動している。

また，親や児童福祉・文化関係者なども視野に入れ，子育て支援活動や育児に関する研究や研修活動にも力を入れている。

〔こどもの城〕は既成のプログラムだけではなく，先駆的で実験的なプログラムの開発を心がけ，全国に普及していくこと，そして国際的視野に立って世界各地の子どもたちと交流を図ることを運営の基本に活動している。

平成６年度から国の助成を受けて始まった〈動くこどもの城〉は，〔こどもの城〕が持っているさまざまなノウハウを紹介すると同時に，全国の児童館・児童センターとの交流・情報交換を進める場として，重要な活動の１つになっている。

このように〔こどもの城〕では，①芸術・文化・科学・スポーツなどの活動による児童の健全育成　②児童福祉関係者の研修・現任訓練　③児童福祉に関する研究・開発　④国際交流――といった各種の機能を併せ持つ総合施設として，これらの機能を相互に関連させながら運営している。

3．〔こどもの城〕の活動概要

いろいろな分野の専門スタッフがいる〔こどもの城〕は，その総合施設としての機能を生かして，来館児・者がいきいきと参加し，体験できるプログラムの企画・開発・実施に努めている。

1）「こども活動エリア」の活動

〔こどもの城〕の活動は，①一般来館児・者を対象とした活動　②団体を対

象としたグループ活動　③講座・クラブ活動――の３つを柱に行われている。

「一般来館児・者を対象とした活動」は，毎日「こども活動エリア」で行われている。〔こどもの城〕に遊びに来た子どもやその家族が楽しみながら参加，体験できる〈あそび〉を通して，出会いと発見，そして仲間作りができるように工夫されたプログラムで，初めての子どもでも，自然に〈あそび〉の輪の中に入って楽しむことができる。

平常期間の平日は，スタッフとの触れ合いを大切にしたきめ細かいプログラムを，土曜日・日曜日・祝日には，多くの子どもたちに対応できるようにプログラムの内容などを工夫している。また，学校の季節休み（春休み，夏休み，冬休み）の期間と児童福祉週間（ゴールデンウイーク），開館記念日（11月１日）の前後を特別期間とし，各部門が協力して，たくさんの人が参加できる大型のプログラムを集中的に行っている。

「グループ活動」は，保育所，幼稚園，小学校，ハンディキャップを持った子どもたちのグループを対象に，平日の午前中に行う活動。一般来館児・者の活動や講座･クラブ活動の経験を基に，〔こどもの城〕ならではのプログラムを開発し，積極的に受け入れている。

「講座・クラブ」は，平日を中心に〔こどもの城〕の整った施設・設備を利用して実施。幼児と親が一緒に受講するもの，就学前の幼児を対象にするもの，小学生から高校生までを対象にするもの，高校生から一般成人，更に専門家を対象にするものなど50種類を超える講座・クラブを開講している。

2）その他の活動

「こども活動エリア」のほかに，保育の実践と研修事業の２つを中心に活動する保育研究開発部門，子どもの心や体の健康について取り組む小児保健部門，ボランティアの養成とコーディネートを主に担当する研修教養部門，全体を円滑に運営するための調整をしたり〔こどもの城〕全体にかかわる業務を担当する企画部門，国際交流部門，広報部門，利用者サービス部門などがある。

〈あそび〉を通して直接子どもたちと触れ合う活動だけでなく，研究や研修活動など，子どもを取り巻くさまざまな活動を展開している。

3）青山劇場・青山円形劇場

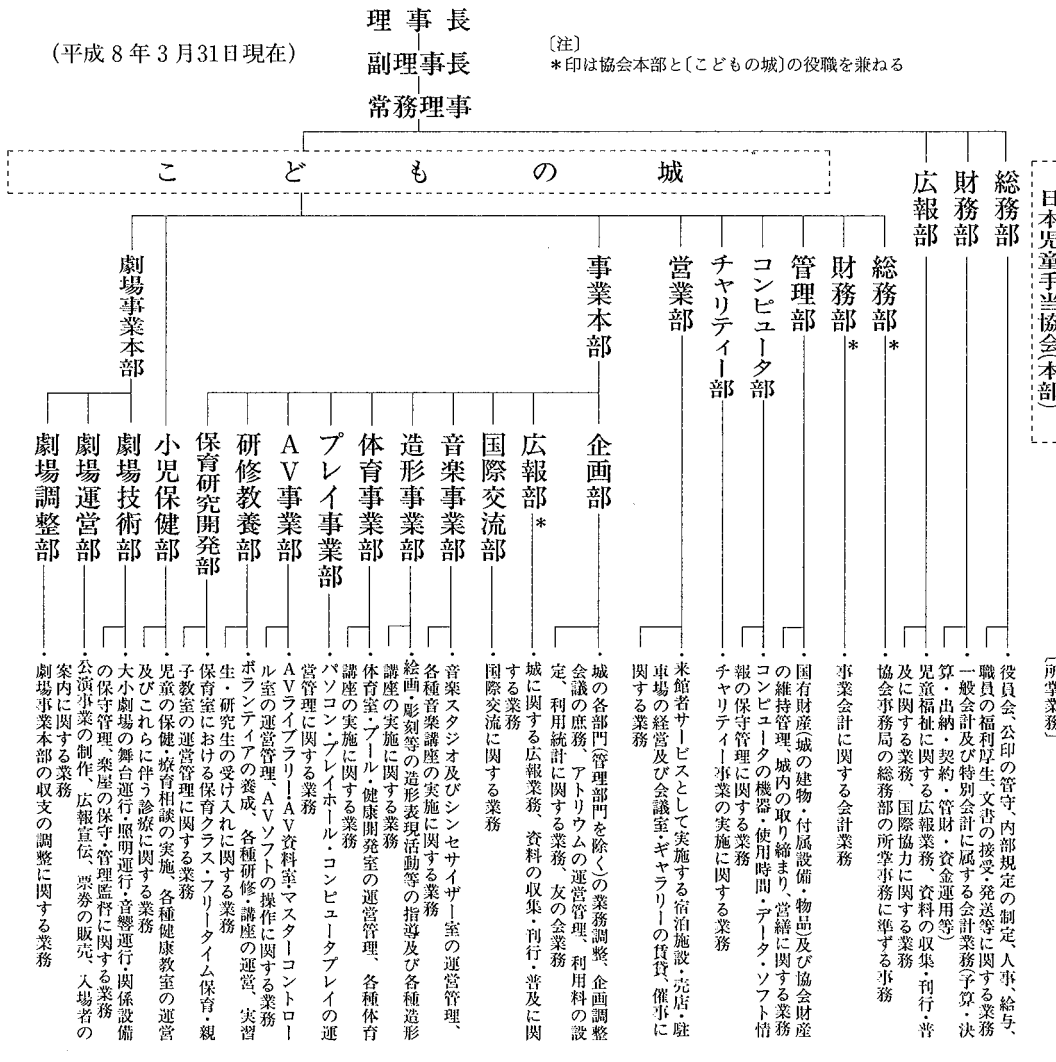
〔こどもの城〕には，「こども活動エリア」のほかに青山劇場と青山円形劇場の２つの劇場がある。あらゆる世代の人間が，それぞれの視点で楽しめ，見終わった後に対話が生まれるような，真の意味での“ファミリー向け”の演目を上演している。自主公演はもとより，貸し劇場の場合も，企画の内容を吟味し，〔こどもの城〕の劇場としてふさわしいものを選んで上演している。

4．組織機構図と役員名簿

(財)日本児童手当協会組織機構図

(平成8年3月31日現在)

〔注〕
＊印は協会本部と〔こどもの城〕の役職を兼ねる



部＼職員数	一般	嘱託	計	部＼職員数	一般	嘱託	計	部＼職員数	一般	嘱託	計
総務	6		6	企画	14		14	保育研究開発	9		9
財務	7		7	国際交流	0		0	小児保健	7		7
広報	2	1	3	音楽事業	6	1	7	劇場技術	7		7
管理	1	1	2	造形事業	5		5	劇場運営	10		10
コンピュータ	3		3	体育事業	9	1	10	劇場調整	1		1
チャリティー	0		0	プレイ事業	10		10				
営業	12	1	13	AV事業	6		6				
事業本部	1		1	研修教養	2		2	合計	118	5	123

㈶日本児童手当協会役員　（平成８年３月31日現在）

役　職	氏　名	
理事長	今泉昭雄	
副理事長	小山敬次郎	
常務理事	弓掛正倫	
理　事	石野清治	資生堂相談役
理　事	大野出穂	
理　事	金平輝子	㈶東京都歴史文化財団理事長
理　事	品川正治	経済同友会副代表幹事
理　事	谷村昭一	日本商工会議所専務理事
理　事	成瀬健生	日本経営者団体連盟常務理事
理　事	平田寛一郎	早稲田大学政治経済学部教授
理　事	平山宗宏	日本総合愛育研究所所長
理　事	松崎芳伸	日本携帯電話㈱取締役相談役
監　事	藤間秋男	藤間公認会計士事務所所長
監　事	秋山昭八	弁護士

5．平成７年度の活動の概要

昭和60年（1985年）11月１日に開館した〔こどもの城〕は，平成７年（1995年）11月１日で満10歳の誕生日を迎えた。児童の健全育成のための総合施設として，幅広い分野から専門スタッフが集められて開館した〔こどもの城〕は，さまざまな試行錯誤を繰り返してきた。〈子ども〉を考えるときにも，子どもを取り巻く環境（家族など）への視点が要求されるようになったり，子育て支援の活動が重視されたりなど，社会環境の変化に対応して活動内容は常に検討が加えられてきた。

無我夢中で新しい施設の運営を軌道に乗せようと頑張ってきた開館当初，開館前に考えていたことと現実との狭間で活動プログラムの見直しを図ったころ，〔こどもの城〕の活動が認知されてステップアップへの道を踏み出そうとしている今――10年間にわたる活動の蓄積が，良い面も悪い面も含めて現在の〔こどもの城〕である。〔こどもの城〕にとって大きな節目に当たる平成７年度は，10年の歩みを踏まえた数々の記念プログラムが実施された。

ギャラリーと造形スタジオで開催された「ビクトル・ダミコ展」は，美術教育に関する海外の活動を紹介する展覧会。開館記念の「ブルーノ・ムナーリ展」，開館５周年記念の「フランツ・チゼック展」の延長線上に位置するものとして開催された。

10年間の活動の成果をまとめたものとして，「みる・しる・つくる　アニメーションキット」の制作（ＡＶ事業部）がある。〔こどもの城〕で行われてきたアニメーション（動いて見える映像）のワークショップを集大成したもので，本とビデオと工作キットで構成されている。また，「造形スタジオ展～手から心へ」「こどもたちのパソコンソフト作品展」のように10年の歩みの中で作られた作品の展示，こどもの城児童合唱団が毎年夏の合宿で交流した各地のグループと一緒に行った「こどもたちからのサウンドメッセージ」のコンサート（青山劇場），日本とブラジルの修好100周年を記念した「日本ブラジル　こども絵画交流展」など多彩な記念事業が行われた。開館記念特別期間には，「おやっ！と発見　子と発見！」のタイトルで，親子で体験するワークショップを全館で開催した。

また，青山劇場では８月３日から７日まで，開館10周年記念「イーハトーボの音楽劇　銀河鉄道の夜」を自主公演した。親子で楽しめる演目であること，平成８年が宮沢賢治の生誕100年ということから選ばれた演目である。毎年実施している「青山バレエフェスティバル」を除くと，開館５周年記念公演・日本のミュージカル「龍の子太郎」以来の青山劇場における自主公演である。

昭和61年（1986年）８月から毎年開催している「青山バレエフェスティバル」は，本年度は「開館10周年記念ガラ公演」として８月９日・10日に青山劇場で開催された。

開館10周年記念事業のほかに，通常の〔こどもの城〕の活動の拡充を図った。国の助成を受けて行われている〈動くこどもの城〉も２年目を迎え，より充実した活動を展開することができた。

本年度の〔こどもの城〕全体の運営に要した費用は，25億1,659万円。スタッフは年度末現在123人。

１）事業活動

(ア)　入館者数（20～21ページ参照）

本年度の年間入館者数は，一般来館児・者が402,709人，劇場入館者が413,822人，これに保育，小児保健，講座・クラブ関係のほか，研修・会議室関係の利用者を加えた総数は1,028,649人。

(イ)　一般来館児・者のための活動（各事業部の項参照）

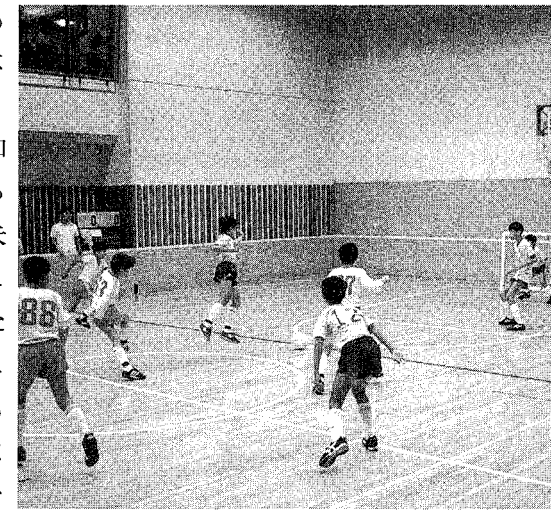
(1)平常期間

文化体育事業（体育，プレイ，造形，音楽，ＡＶの「こども活動エリア」を担当する部門の事業）は，子育て支援と家族が一緒になって楽しめる活動の強化を重点目標として，親子がともに参加できるプログラムや小学生以上の子どもを引きつけ，友だち作りができるプログラムを積極的に実施した。

また，日替わりプログラムや季節行事によって活動に変化を持たせるよう努

めるとともに，各部門連携のもとに新鮮な効果，魅力を出すように努めた。

体育事業部では，初めて参加する人や幼児でも簡単にできるように，練習プログラムを工夫したり，ルールをアレンジ(〔こどもの城〕の独自ルール）したプログラムを実施。運動することの楽しさ，感激を味わってもらうようにし，幼児から大人までがスポーツを楽しめる活動を行っている。



独自ルールの「ウォールサッカー」は大人気

プレイ事業部では，スタッフやボランティアリーダーなどの“人”を含めた遊びの環境作り，子どもの遊び文化をテーマにした実践活動（人形劇や伝承遊びなど）を行った。また，プレイ事業部の活動の土台となる仲間作り，人間交流のための活動（遊びのクラブやキャンプなど）を展開した。

造形事業部では，開館10周年記念事業の大きな柱の１つである「ビクトル・ダミコ展」を開催，先駆的な海外の美術教育の活動を紹介した。また，造形スタジオの10年間の活動を回顧する「造形スタジオ展～手から心へ」も夏休み特別期間に実施した。

音楽事業部では，幼児の多い平日には，手遊び，リトミック，音楽遊びなど親子が一緒になって楽しめるプログラムを中心とした子育て支援，親子支援を基本としたプログラムを実施。夏休みなどの特別期間には，３歳以下の幼児とその親を対象とした「ゆったり親子のおんがく園」をスタジオＡで開催した。

ＡＶ事業部では，10年間の活動内容を凝縮させた「みる・しる・つくる　アニメーションキット」の制作のほか，ベルリン映画祭の子ども部門公認で行われた「第４回キンダー・フィルムフェスト・ジャパン」を開催，ＡＶライブラリーの10年を振り返る特集をするなど精力的に活動を展開した。

(2)特別期間

学校の季節休み（夏，冬，春の各期の休み）の期間および児童福祉週間（ゴールデンウイーク）を特別期間とし，外部の企画などを取り入れ，楽しんで多くの来館児・者が参加できるように，各種のプログラムや大型の行事を集中的に行った。本年度は開館10周年に当たるため，夏休み特別期間から記念事業を実施した。また，例年どおり一部の劇場公演について劇場入場券を「こども活動エリア」入館券と共通にして，来館児・者のサービス向上に努めた。

夏休み特別期間には，「第１回人形劇カーニバル」「第４回キンダー・フィルムフェスト・ジャパン」など，本年度も外部の企画協力を得て，〔こどもの城〕ならではのプログラムを開催した。また，「造形スタジオ展～手から心へ」「がんばれマックロー！～夏はとにかく10種のスポーツ」などの開館記念プログラムを実施した。

また，夏休み特別期間恒例の「渋谷スタンプラリー」は，本年度で12回目。今回は〔こどもの城〕，東京都児童会館，電力館，たばこと塩の博物館，五島プラネタリウム，ＮＨＫスタジオパークの６館で実施した。

(ウ) 講座・クラブ活動

継続的・体系的に〔こどもの城〕を利用できるプログラムとして，講座・クラブを実施し，その充実と活性化に努めた。

講座は44種・90コースで受講者数は2,430人。クラブは10種で会員数1,058人となった。このほか，夏休みや春休み特別期間には，体育，造形，音楽などの事業部で短期集中講座（11種・49コース・895人受講）を開くとともに，専門指導者向け講習会（７種・12コース・780人受講）を実施した。

(エ) グループ活動

グループ活動は，保育所や幼稚園，小学校，ハンディキャップを持った子どもたちのグループを対象に，平日の午前中に行う活動。一般来館児・者活動や講座・クラブ活動の経験を基に，〔こどもの城〕ならではのプログラムを開発し，積極的に受け入れている。本年度は，109グループ（延べ2,410人）が利用した。

(オ) 保育研究開発と小児保健

保育研究開発部は，３つの柱である幼児グループ，保育クラブおよび親子教室を継続して実施したほか，育児相談のケースカンファレンス，ニュースレターの発行，保育セミナーの開催など，保育関係者のための研修プログラムを積極的に展開した。

小児保健部は，日常の診療・相談を実施したほか，他事業部との連携事業である「健康スポーツ教室〈太りすぎクラス〉」「母と子のリトミック〈ダウン症クラス〉」「マタニティ・スイミング」などを継続して実施した。また，小児保健関係者のための研修会，「小児肥満のための指導者講習会」「小児保健セミナー」や“現代版井戸端会議”ともいうべき「赤ちゃんサロン」を実施したほか，本年度から育児支援プログラム「育児サークル　コアラッ子」を実施した。

(カ) 劇場事業（141～146ページに公演名一覧）

自主公演は青山劇場で２公演，青山円形劇場で17公演行った。青山劇場では，恒例となった「第10回青山バレエフェスティバル～10周年記念ガラ公演」のほかに，開館10周年記念公演として「イーハトーボの音楽劇　銀河鉄道の夜」を上演した。また，青山円形劇場でも「五線譜のなかの動物たち」シリーズ，「こ

どもの城・キリンファミリー劇場」「青山演劇フェスティバル」「アラカルト～役者と音楽家のいるレストラン」などを上演した。

このうち，青山劇場の「イーハトーボの音楽劇　銀河鉄道の夜」「第10回青山バレエフェスティバル」，青山円形劇場の「五線譜のなかの動物たち～奇想天外音楽活劇～夏の夜の夢」「こどもの城おまつり劇場～こどもの花ごよみ」「オブジェクトシアター　乙女文楽と車人形による生写朝顔話」の５作品は，日本芸術文化振興会の助成対象に選ばれた。

貸し劇場としては，青山劇場が22件，青山円形劇場が47件で，両劇場とも年間フルに使用された。

㈜　各種の普及・協力活動

〔こどもの城〕の活動の主旨・内容を広く知ってもらい，関係団体との交流を進めるために各種の事業を行った。

主なものは，「児童厚生員等実技指導講習会」（５月，９月，11月，１月），「小児肥満のための指導者講習会」（７月，３月），「保育セミナー」（８月），開館10周年記念事業として行われた「狭山市立第２児童館合唱クラブ」（埼玉県）「おばあちゃんコーラス　トワ・エ・モア」（広島県）「Ｚ児童合唱団」（岩手県）との交流コンーサート「こどもたちからのサウンドメッセージ～時のおくりもの」（11月）などである。

また，前年度に引き続き各地の児童厚生施設との連携によって，地域の健全育成活動に対し巡回する支援活動と実技指導〈動くこどもの城〉事業を16か所で実施した。

㈜　利用者サービス事業

〔こどもの城〕を利用する人などの便宜を図るため，ホテル，売店，自動販売機および駐車場の営業を行い，サービスに努めた。また，各種の研修，会議などに研修室を貸与した。

なお，今まで直営で営業してきたカフェテラス「アンファン」，コーヒーラウンジ「アミティーエ」，劇場スナックについては，平成７年５月から業者による営業に切り替えた。

２）〔こどもの城〕開館10周年記念事業

昭和60年（1985年）11月１日に開館した〔こどもの城〕は，平成７年（1995年）11月１日で満10歳の誕生日を迎えた。これを記念して，10年間の歩みを総括しながら，次の10年を展望するため，各種の記念事業が夏休み特別期間から開館記念特別期間にかけて実施された。

主なものは，青山劇場公演「イーハトーボの音楽劇　銀河鉄道の夜」，「ビクトル・ダミコ展」，「みる・しる・つくる　アニメーションキット」の制作など。

各部門で多彩な記念プログラムが実施された。また，〔こどもの城〕の案内パンフレットを全面改訂し，〔こどもの城〕の10年の歩みを簡単にまとめたリーフレットも作成した。

3）〈動くこどもの城〉

国の助成を受けて行う〈動くこどもの城〉（公称は「キャラバン隊派遣事業」）は，本年度が2年目。〔こどもの城〕の活動を館外へ移動し，児童の福祉文化の活性化のために地域の児童館などと連携して，積極的に実践協力するもの。本年度は全国16か所で各種のワークショップなどを実施した。

4）その他の活動

前記の〔こどもの城〕の事業活動のほかに，次の事業を行った。広報や国際交流，ボランティアの養成・コーディネートなど，〔こどもの城〕全館にかかわる活動である。

(ア) 広報

〔こどもの城〕の事業の主旨，活動内容の周知を図り，より正確に〔こどもの城〕を理解しもらうためのＰＲ（パブリック・リレーション）活動を行い，併せて来館児・者増を図ることを目的に各種の広報活動を行った。活動の主なものは，①「こどもの城ニュース」の発行（年９回）　②ちらし・ポスターなどの作成・配付　③各種媒体へのパブリシティー　④月刊誌「こども未来」(財)こども未来財団発行）を通じての〔こどもの城〕の活動紹介――などである。本年度の新聞，テレビなどの取材対応は，外国のものも含めて177件にのぼった。

(イ) こどもの城友の会

〔こどもの城〕の活動をより理解し，利用してもらうための家族単位で参加する組織。常に加入の呼びかけを行っている。会員は，「こどもの城ニュース」や各種案内の送付を受けるほか，ファミリーハイキング，ファミリーキャンプなどの会員向け催しに参加することができる。

平成８年３月末日現在の会員数は2,452家族。

(ウ) こどもの城全国連絡協議会

全国の児童の健全育成に資することを目的に，会員相互の連携により，情報交換，資料提供，催事の支援，研修会の開催などの事業を行ってきたが，平成８年３月31日をもって解散し，同年４月に(社)全国児童館連合会に統合された。

(エ) 国際交流

外国の児童を交えてのパフォーミング・アーツ・グループを運営したほか，東京・横浜地区のインターナショナルスクールの子どもたちの美術作品展「アートスケープ展」にギャラリーを提供。クリスマスには青山円形劇場で外国人

家族とともに楽しむ国際交流プログラムを実施した。

(オ) ボランティアの養成とコーディネート

〔こどもの城〕の事業に協力するボランティアを養成するために，学生・社会人を対象とした「ボランティア講習会」(32期，33期の2回で100人）と女性を対象とした「女性ボランティア講習会」(1回で8人）を開催した。本年度の講習会修了者は108人で，〔こどもの城〕での活動を希望して登録している人は，前年度からの継続者も含めて平成8年3月末日現在，442人となった。

登録したボランティアは，各部門で活動することになるが，ボランティアと〔こどもの城〕スタッフの間に入って活動のコーディネートを行った。

(カ) 実習生・研修生の受け入れ

大学などの要請に応じて，〔こどもの城〕の各事業部をフィールドとし，その活動内容を研修対象とする実習生・研修生を受け入れている。本年度は18人を受け入れた。

(キ) チャリティー事業

ハンディキャップを持つ子どもや養護施設の児童などを対象にチャリティー事業を行っている。本年度は，延べ21回，880人を青山劇場，青山円形劇場の公演観劇に招待した。

(ク) 講師派遣等

福祉・文化・健康の幅広い分野で，児童の健全育成に取り組んでいる〔こどもの城〕には，実践に裏付けられたさまざまなノウハウがあり，それを実践するスタッフがいる。そのため，児童館をはじめ，全国の施設・団体から，講師派遣依頼が数多く寄せられている。本年度は92件の講師派遣を行った。

6．活動時間・入館料（こども活動エリア）

1）平常期間

平　日　開館時間（午後0時30分～5時30分）

土曜日
日曜日
祝　日　開館時間（午前10時～午後5時30分）

月曜日　休館（祝日または振替休日に当たるときは開館し，翌火曜日が休館。
開館時間は午前10時～午後5時30分）

2）特別期間

学校の季節休み（夏休み，冬休み，春休み）は特別期間とし，曜日にかかわりなく，午前10時から午後5時30分まで開館した。

夏休み特別期間（7月21日～8月31日）の休館日は7月24日，8月7日，21日の3日間で，このほかの月曜日を9月4日～6日に振り替えて休館とした。冬休み特別期間は12月23日～1月7日で，12月28日～1月2日は休館とし，1月3日は午後0時30分に開館した。また，春休み特別期間は3月23日～4月7日で，全期間開館し，期間中の月曜日を4月8日～10日に振り替えて休館した。

また，本来の児童福祉週間は5月5日からの1週間であるが，4月29日～5月7日のゴールデンウイークを〔こどもの城〕の児童福祉週間特別期間とし，厚生省，㈳全国児童館連合会との共催で「おやこフェスティバル」などの特別プログラムを実施した。

さらに，10月28日～11月5日を〔こどもの城〕開館記念特別期間とし，開館10周年記念として「おやっ！と発見　子と発見！～親子体験ワークショップ」を全館で実施したほか，開館10周年記念「ビクトル・ダミコ展」を開催した。児童福祉週間および開館記念特別期間の開館時間は，平常期間と同じ。

また，横浜開港記念日（6月2日），千葉県民の日（6月15日），埼玉県民の日（11月14日）は，午前10時に開館し，特別行事を企画し，多くの来館児・者を迎えた（川崎市制記念日＝7月1日，東京都民の日＝10月1日は，それぞれ土曜日，日曜日に当たったため，午前10時に開館）。

3）入館料

開館以来据え置いてきた入館料を平成7年4月8日から，以下のとおりに改めた。

一　　般	18歳未満	400円（保護者に同伴される3歳未満児は無料）
	18歳以上	500円
一般回数券	18歳未満	12枚つづり4,000円
	18歳以上	12枚つづり5,000円
団　　体 （20人以上）	18歳未満	320円
	18歳以上	400円

4）その他

例年どおり，5月5日の「こどもの日」と11月1日の「こどもの城開館記念日」は18歳未満の入館料を無料とした。

参考：日本児童手当協会の助成事業等

1）啓発活動事業

ア）児童の健全育成に関する月刊誌「こども未来」を購入，配付

(1)購入部数　36,000部（3,000部×12か月）

(2)配付先　　中央官庁，地方公共団体，社会保険事務所，各県経営者協会及び商工会議所，中央児童福祉審議会委員等関係者

イ）児童手当（受給者のしおり）を作成，配付

(1)発行部数　500,000部

(2)配付先　　地方公共団体等

2）キャラバン隊派遣事業〈動くこどもの城〉

全国の児童厚生施設における児童の健全育成活動に対し，巡回による支援活動及び実技指導を行った。

(1)巡回支援活動　兵庫県など16か所

(2)巡回実技指導　大分県など10か所

3）優良児童劇巡回等事業

㈳全国児童館連合会が実施した，中央児童福祉審議会推薦による優良児童劇，映画を各地の児童厚生施設で上演する等，児童福祉・文化財の普及を目的とした事業に対して助成した。

平成７年度助成額　210,526,000円。

4）児童健全育成対策事業

（社福）こどもの国が実施した，独創的，先駆的な事業等，児童の健全育成に資することを目的とした事業に対し助成した。

平成７年度助成額　25,500,000円。

7．活動状況一覧

1）入館者数

	一般来館者			劇場			その他	計
	有料		総数	青山劇場	青山円形劇場	小計		
		(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)
4月	大人	9,867	30,176	27,816	4,030	31,846	16,921	78,943
	子ども	11,137						
	団体	7,972						
			推計					推計
	小計	28,976	(35,114)					(83,881)
5月	大人	12,336	32,685	34,205	4,286	38,491	18,458	89,634
	子ども	9,147						
	団体	5,591						
			推計					推計
	小計	27,074	(38,860)					(95,809)
6月	大人	8,335	18,162	40,344	7,061	47,405	21,478	87,045
	子ども	7,859						
	団体	978						
			推計					推計
	小計	17,172	(22,337)					(91,220)
7月	大人	11,724	26,354	34,422	6,305	40,727	18,390	85,471
	子ども	11,769						
	団体	1,438						
			推計					推計
	小計	24,931	(32,223)					(91,340)
8月	大人	22,854	66,551	32,145	7,111	39,256	13,610	119,417
	子ども	26,703						
	団体	13,037						
			推計					推計
	小計	62,594	(77,985)					(130,851)
9月	大人	8,317	16,951	22,008	8,089	30,097	16,966	64,014
	子ども	6,892						
	団体	831						
			推計					推計
	小計	16,040	(21,116)					(68,179)
10月	大人	8,064	17,329	24,727	9,890	34,617	21,229	73,175
	子ども	7,174						
	団体	1,102						
			推計					推計
	小計	16,340	(21,364)					(77,210)
11月	大人	9,944	22,401	16,785	8,005	24,790	18,083	65,274
	子ども	8,687						
	団体	2,043						
			推計					推計
	小計	20,674	(27,380)					(70,253)

	一般来館者			劇場			その他	計
	有料		総数	青山劇場	青山円形劇場	小計		
		(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)
12月	大人	6,988	15,427	23,754	7,271	31,025	14,182	60,634
	子ども	6,634						
	団体	690						
			推計					推計
	小計	14,312	(18,926)					(64,133)
1月	大人	11,969	30,116	28,121	8,598	36,719	14,823	81,658
	子ども	11,164						
	団体	5,254						
			推計					推計
	小計	28,387	(36,108)					(87,650)
2月	大人	9,985	21,493	24,317	3,602	27,919	19,489	68,901
	子ども	8,422						
	団体	1,682						
			推計					推計
	小計	20,089	(26,491)					(73,899)
3月	大人	13,320	38,137	27,843	3,087	30,930	18,489	87,556
	子ども	14,437						
	団体	6,165						
			推計					推計
	小計	33,922	(44,805)					(94,224)
計	大人	133,703	335,782	336,487	77,335	413,822	212,118	961,722
	子ども	130,025						
	団体	46,783						
			推計					推計
	小計	310,511	(402,709)					(1,028,649)

〔こどもの城〕開館10周年記念セレモニーをアトリウムで開催(11月3日)

2）グループ活動実施状況

		保育所	幼稚園	小学校	養護学校	ろうあ学校	盲学校	小学校特殊学級	中学校特殊学級	幼児教室・研究所	自主保育グループ	障害児施設	計
件数		14	52	4	14	0	2	13	3	6	1	0	109
月別内訳	4月												
	5月	1	3	1						2			7
	6月		3					4		2			9
	7月	1											1
	8月												
	9月	1	1	2	2								6
	10月		4		2			3					9
	11月	1	11		2			2	3				19
	12月		2					1			1		4
	1月	2	4		3		1						10
	2月	3	18		2		1	2		1			27
	3月	5	6	1	3			1		1			17
地域別内訳	東京都 区	13	49	4	10		2	11		5	1		95
	東京都 市		1		1			2					4
	他府県	1	2		3				3	1			10
参加児童数別内訳	10未満		3		4			11	3	5			26
	10～19	6	19		9		2	2		1	1		40
	20～29	7	15										22
	30～39	1	6		1								8
	40～49		5										5
	50～59		1										1
	60～79		1	2									3
	80～99		1	1									2
	100～149		1	1									2
	150以上												
参加児童数	延べ数	290	1,407	360	165		21	89	19	49	10		2,410
	1件当たり	20.7	27.0	90.0	11.7		10.5	6.8	6.3	8.1	10.0		22.1
引率者数		54	209	22	116		12	50	8	11	1		483
付き添い者数		35	228		21		10	5		10	5		314
活動部門	体育	3	14	3				4		2			26
	プレイ	6	15	3	4			2	3	1			34
	造形		10	3				2		1			16
	音楽	2	20	4	10		2	4		2			44
	AV	3	8	3				1			1		16
	プレイ自由	12	43	4	7		2	13	3	4	1		89
	AV自由	1	2							1			4

3）講座・クラブ等

（ア）講座

部門	プログラム	対象	コース	総定員
体育	幼児・母親水泳	幼児・母親	1年 2コース	60(組)
	幼児水泳	幼児	〃 6〃	330(人)
	幼児体育	〃	〃 3〃	120
	小学生水泳	小学生	〃 7〃	380
	シニア・スイミング	小・中学生	〃 2〃	60
	シニア・スイミング・フレッシュ	〃	〃 1〃	30
	小学生体育	小学生	〃 2〃	60
	ジュニア新体操	〃	〃 1〃	35
	シニア新体操	小・中学生	〃 1〃	35
	手足の不自由な子の水泳	〃	〃 1〃	15
	レディース・スイミング	女性	〃 3〃	180
	レディース・リズム&ストレッチ	〃	〃 1〃	30
	幼児・母親体育	幼児・母親	3か月 3〃	90(組)
	母と子のすくすくランド	〃	〃 3〃	60
	母と子のパチャパチャスイム	〃	〃 3〃	90
プレイ	小学生パソコン教室Ⅰ（初級）	小学生	2か月 2コース	40(人)
	小学生パソコン教室Ⅱ（中級）	パソコンⅠ修了者	〃 1〃	20
造形	こどもクリエイティブクラブ 火曜日コース	小・中・高校生	1年 1コース	11(人)
	〃 水曜日〃	〃	〃 1〃	11
	〃 木曜日〃	〃	〃 1〃	11
	〃 金曜日〃	〃	〃 1〃	11
	〃 土曜日〃	〃	〃 1〃	11
音楽	おんがく星みつけた（就園前のリトミック）	幼児・母親	3か月 3コース	90(組)
	おかあさんもいっしょ（リトミック）	〃	1年 3〃	60
	リズムムービング	幼児	〃 3〃	42(人)
	リズムムービング&パーカッション	小学生	〃 1〃	20
	合唱講座	〃	〃 1〃	30
	ガムラン講座	小・中・高校生	〃 1〃	15
	三味線	〃	〃 3〃	36
	和太鼓グループ	〃	〃 1〃	12
	集まれ・みんなのリズム	小・中学生	〃 1〃	10
	エレクトリック・アンサンブル	小・中・高校生	〃 1〃	8
	シンセサイザー短期講座	〃	4か月 2〃	10
	おとなのためのガムラン	一般	〃 1〃	15
	混声合唱	高校生以上	1年 1〃	15

部　門	プ　ロ　グ　ラ　ム	対　象	コ　ー　ス	総定員
国際交流	パフォーミング・アーツ・グループ	小学生	1　年　1コース	30(人)
研修教養	手話講座 点訳入門講座	高校生以上 一般	5か月　2コース 1　年　1　〃	60(人) 30
保育研究開発	幼児グループ 親子教室	幼児 幼児・親	1　年　1コース 3か月　3　〃	20(人) 42(組)
小児保健	健康スポーツ教室〈太りすぎクラス〉 母と子のリトミック〈ダウン症児のクラス〉 マタニティ・スイミング 育児サークル　コアラッ子	小学生 ダウン症児・母 妊婦（16週～） 乳幼児・親	1　年　1コース 〃　1　〃 通　年　1　〃 1回／月　12　〃	25(人) 15(組) 35(人) 120(組)
合　計	44種		90コース	2,430

（イ）クラブ

部　門	プ　ロ　グ　ラ　ム	対　象	コ　ー　ス	総定員
体　育	ダイナミック・ヘルス・クラブ	一般	通　年　1コース	会員数 202(人)
プレイ	パソコンクラブ キッズクラブ ユースクラブ	小・中・高校生 小学生 小・中学生	通　年　1コース 1　年　1　〃 〃　1　〃	100(人) 30 40
音　楽	こどもの城児童合唱団 ガムラングループ パーカッション・アンサンブル	合唱講座修了者 ガムラン講座修了者 小・中・高校生	1　年　2コース 〃　1　〃 〃　1　〃	90(人) 15 15
研修教養	L. I. T.（高校生ボランティア養成） 点訳サークル	高校生 入門講座修了者	1　年　1コース 〃　〃	30(人) 20
保育研究開発	保育クラブ	幼児	通　年　1コース	会員数 437(人)
合　計	10種		11コース	1,058

※講師により指導しているクラブについては，講座に準じた。利用型のクラブについては3月末の登録者数とした。

(ウ) 短期集中講習会等

部門	プログラム	対象	コース	総定員
体育	夏休みこども集中水泳講習会	幼児・小学生	5日間 4コース	180(人)
	春休みこども集中水泳講習会	〃	〃 2 〃	90
	夏休み体操教室「ガンバ！'95」	小学生	〃 1 〃	30
	成人集中水泳講習会	一般	1か月 12 〃	240
プレイ	小学生パソコン教室Ⅱ（中級）	パソコン教室Ⅰ修了者	5日間 1コース	20(人)
	小学生パソコン教室Ⅲ（上級）	パソコン教室Ⅱ修了者	〃 1 〃	20
造形	夏休み造形教室	小学生3年生以上	1日 20コース	200(人)
	遊びと造形発想セミナー	一般	〃 1 〃	30
	〔こどもの城〕開館10周年（ビクトル・ダミコ展）記念講演「人間性の美術－ビクトル・ダミコの業績」	〃	〃 1 〃	200
AV	AVビデオ集中講習会	一般	4コース	50(人)
小児保健	春休みこども一日ドック	小・中学生	1日 1コース	10(人)
	夏休みこども一日ドック	〃	〃 1 〃	10
合計	11種		49コース	895

(エ) 専門指導者向け講習会等

部門	プログラム	対象	コース	総定員
研修教養	児童厚生員等実技指導講習会	児童厚生員等	3日間 3コース	150(人)
			2日間 1 〃	50
保育研究開発	保育セミナー	保育関係者	2日間 1コース	150(人)
	育児相談の研修会	育児相談担当者	3回／年 1 〃	40
	育児相談概論研修会	保育従事者	1回／年 1 〃	130
小児保健	小児肥満のための指導者講習会	小児保健関係者	2日間 2コース	120(人)
	小児保健セミナー	〃	〃 1 〃	100
	小児保健研修会	〃	〃 2 〃	120
合計	7種		12コース	780

4）視察・見学実績

年度		都道府県・市区町村の本庁その他の行政部局，公共団体		児童館，保育所，幼稚園，学校，施設，サークル，これらの団体		外国人		その他		計	
昭和											
60年度		(100)	1,122	(100)	1,578	(22)	169	(18)	410	(240)	3,279
61年度		(121)	714	(192)	4,085	(52)	359	(31)	513	(396)	5,671
62年度		(107)	439	(123)	2,437	(36)	347	(20)	477	(286)	3,700
63年度		(91)	598	(69)	770	(30)	211	(32)	296	(222)	1,875
平成											
元年度		(72)	541	(71)	931	(10)	86	(25)	195	(178)	1,753
2年度		(65)	605	(27)	292	(8)	156	(17)	212	(117)	1,265
3年度		(63)	417	(47)	705	(11)	77	(6)	274	(127)	1,473
4年度		(78)	585	(62)	1,038	(9)	122	(6)	35	(155)	1,780
5年度		(69)	698	(75)	1,182	(14)	119	(9)	41	(167)	2,040
6年度		(96)	782	(73)	1,251	(13)	144	(13)	116	(195)	2,293
平成7年度	4月	(8)	13	(5)	135	(0)	0	(2)	10	(15)	158
	5月	(14)	37	(1)	237	(0)	0	(2)	4	(17)	278
	6月	(10)	79	(9)	137	(0)	0	(0)	0	(19)	216
	7月	(14)	148	(4)	76	(2)	59	(0)	0	(20)	283
	8月	(5)	31	(9)	48	(1)	1	(1)	46	(16)	126
	9月	(12)	196	(13)	262	(2)	21	(1)	4	(28)	483
	10月	(6)	91	(11)	151	(3)	62	(1)	2	(21)	306
	11月	(16)	74	(13)	95	(0)	0	(2)	3	(31)	172
	12月	(5)	12	(8)	101	(1)	3	(0)	0	(14)	116
	1月	(8)	111	(3)	10	(3)	50	(2)	4	(16)	175
	2月	(15)	90	(10)	134	(4)	49	(2)	12	(31)	285
	3月	(23)	74	(15)	156	(3)	28	(3)	9	(44)	267
	合計	(136)	956	(101)	1,542	(19)	273	(16)	94	(272)	2,865
累計		(998)	7,457	(940)	15,811	(224)	2,063	(193)	2,663	(2,355)	27,994

※(1)「外国人」：韓国，中国，タイ，インド，アメリカ，その他
(2)「その他」：中央官庁，中央団体，会社など

5） 1年の活動の歩み

月　　日	事　　項
平成7年 4月8日	〔こどもの城〕入館料改訂。子ども300円を400円に，大人400円を500円に
4月11日～23日	アートスケープ展'95（ギャラリー）
4月24日	小島弘仲理事長退任
4月29日～5月7日	児童福祉週間（GW）特別期間〈子どもたちの本当の声に耳を傾けよう〉 ※5月5日は18歳未満入館無料
4月29日・30日， 5月3日～5日	開館10周年記念「こどもフェスティバル」（青山円形劇場）
5月24日	今泉昭雄理事長・小山敬次郎副理事長就任
5月25日	育児支援プログラム「育児サークル　コアラッ子」スタート。毎月第4木曜日に開催（小児保健プレイルーム）
5月31日～6月3日	平成7年度第1回児童厚生員等実技指導講習会（こどもの城ほか）
6月12日	プレイホールの「めいろくん」を撤去して，フリースペースとして有効利用を図る
7月7日	開館10周年記念「イーハトーボの音楽劇　銀河鉄道の夜」上演を記念した「児童イメージ画コンクール」の募集締め切り
7月9日	マレーシア国家福祉財団一行〔こどもの城〕を視察・見学
7月21日～8月31日	夏休み特別期間〈ドキドキ!!　おもしろ探検隊〉
7月21日～8月10日	開館10周年記念「第4回キンダー・フィルムフェスト・ジャパン」（スタジオA，B）
7月21日～8月31日	開館10周年記念「がんばれマックロー！～夏はとにかく10種のスポーツ」（体育室）
7月21日～9月3日	開館10周年記念「造形スタジオ展～手から心へ」（ギャラリー，造形スタジオ）
8月2日～8日	開館10周年記念「五線譜のなかの動物たち16　奇想天外音楽活劇　夏の夜の夢」（青山円形劇場）
8月3日～7日	開館10周年記念「イーハトーボの音楽劇　銀河鉄道の夜」（青山劇場）
8月9日	宋慶齢基金（中国）一行〔こどもの城〕を視察・見学
8月9日・10日	開館10周年記念「青山バレエフェスティバル～10周年記念ガラ公演」（青山劇場）
8月15日～17日	開館10周年記念「第1回人形劇カーニバル」（青山円形劇場ほか）
8月19日・20日	開館10周年記念「おまつり劇場」（青山円形劇場）
8月23日～27日	開館10周年記念「第10回こどもの城・キリン・ファミリー劇場　ファンタジック冒険活劇　7人のこびとと白雪姫」（青山円形劇場）

月　　日	事　　項
8月27日・28日	開館10周年記念「保育セミナー～こども・家族・社会　PARTⅡ」(研修室，青山円形劇場)
9月15日～10月10日	開館10周年記念「日本ブラジル　こども絵画交流展」(ギャラリーほか)
9月28日～30日	平成7年度第2回児童厚生員等実技指導講習会（こどもの城）
10月4日～11月23日	開館10周年記念「第9回青山演劇フェスティバル」(青山円形劇場)
10月7日	開館10周年記念「小児保健セミナー」(研修室)
10月28日～11月3日	開館10周年記念「みる・しる・つくる　アニメーションキット公開ワークショップ」(スタジオB)
10月28日～11月5日	開館10周年記念「第2回親子体験ワークショップ　おやっ！と発見　子と発見！」を全館で
10月28日～12月3日	開館10周年記念「ビクトル・ダミコ展～こどもアートカーニバル」(ギャラリー，造形スタジオ) ※11月18日に特別記念講演（研修室）
11月3日	開館記念セレモニー（アトリウム）
11月10日～12日	おりがみカーニバル（フリーホール）
11月17日，22日	平成7年度第3回児童厚生員等実技指導講習会（こどもの城）
11月19日	開館10周年記念「こどもたちからのサウンドメッセージ～時のおくりもの」(青山劇場)
12月9日・10日	開館10周年記念「ミセスサンタのクリスマス」(青山円形劇場)
12月15日～25日	開館10周年記念「ア・ラ・カルト～役者と音楽家のいるレストラン」(青山円形劇場)
12月23日～ 平成8年1月7日	冬休み特別期間〈ひらこう!!　遊びのタイムカプセル…〉
12月28日・29日， 平成8年1月3日～7日	開館10周年記念「第8回こどもの城・キリン・ファミリーオペレッタ　トンガリぼうしの魔法使い～パパとアキオの時間旅行」(青山円形劇場)
1月12日～15日	開館10周年記念「五線譜のなかの動物たちアンコール公演～12秒間の鳥たち　ライト兄弟物語」(青山円形劇場)
1月24日～26日	平成7年度第4回児童厚生員等実技指導講習会（こどもの城）
2月3日～6日	開館10周年記念「青山円形劇場オブジェクトシアターVOL.5 乙女文楽と車人形による生写朝顔話」(青山円形劇場)
2月17日～28日	開館10周年記念「第1回東京ダンスコレクション」(青山円形劇場)
3月23日～4月7日	春休み特別期間〈えがお満開　出会いワクワク〉
3月24日～26日	開館10周年記念「ぼくらのサウンド'96」(青山円形劇場)
3月29日～4月4日	開館10周年記念「五線譜のなかの動物たちアンコール公演～モーツァルトの音楽遊園地」(青山円形劇場)
3月31日	「こどもの城全国連絡協議会」を解散

Ⅱ　各部の活動(1)

1　体育事業部……31
2　プレイ事業部……49
3　造形事業部……63
4　音楽事業部……77
5　ＡＶ事業部……95
6　保育研究開発部 ……109
7　小児保健部 ……125
8　企画部 ……133
9　劇場事業本部 ……141

1 体育事業部

(1) 7年度活動一覧

1）平常期間プログラム

名　　称	期　　間	備　　考
プール　一般利用	水曜日・金曜日 16:30～17:30 土曜日 13:30～16:00 日曜日・祝日 10:30～17:30	各曜日にそれぞれの時間帯で一般開放。 利用料は，大人（18歳以上）300円，子ども（小学生～18歳未満）200円，幼児100円。レンタル（タオル・水着）各200円。幼児は保護者が1対1で付いて利用。
体育室　一般開放 レクリエーション ゲーム ニュースポーツ ゲーム 卓球 ミニサッカー ユニホック	各月 第1日曜日と 前日の土曜日 第2日曜日と 前日の土曜日 第3日曜日と 前日の土曜日 第4日曜日と 前日の土曜日 第5日曜日と 前日の土曜日	週ごとに内容を変えて行っている。卓球の週は終日卓球のみ（混み合う場合は各グループ20分交代で利用）。他の種目は，日曜日が①14:00～　②16:00～の2回，土曜日が14:00～の1回，練習とゲームを行い，それ以外の時間帯はフライングディスクの的当てとフリースローイングを行っている。利用時間は土曜日が13:30～16:00，日曜日が10:00～17:00。
体力測定	土曜日 ①14:00　②15:00 日曜日・祝日 ①11:00　②13:00 ③14:00　④15:00 ⑤16:00	健康開発室で7種目9項目の体力測定を行っている。4歳児くらいから大人までだれでも利用でき，男女別に全国平均値と比べることができる。利用料1人100円。
グループ活動	火・木曜日 10:00～12:00	午前中を使ってまとまった団体（グループ）を指導する。体育室を使っていろいろなプログラムを展開している。

独自ルールの“的当てドッジボール”は子どもたちの人気の的

名　　称	期　　間	備　　考
小児肥満のための指導者講習会	7.7，3.22 10:00～17:00	小児保健部との協力事業。体育では運動指導や測定についてのレクチャーおよび実践を行った。
ブラジル・日本修好100周年記念ブラジル・日本こども交流サッカー大会	10.10	在日ブラジル人の子どもと日本の子どもたち（小学生～高校生）を募集し交流サッカー大会を開催。リフティング大会やＪリーガーからのビデオメッセージ，サンバ大会を午前中に，午後から小学生の部と中学生の部に分かれ，〔こどもの城〕独自ルールによるウォールサッカー大会を行った。
第８回水泳記録会	12.3 10:00～15:00	体育の講座受講生，D.H.C.のメンバーがエントリー（１人２種目500円）を行い参加。年齢別・男女別で記録に挑戦。195人参加。幼児４種目，小学生・大人９種目。日本体育大学ライフセービングクラブによるデモンストレーション。
'96 こどもの城体操発表会	3.17 10:30～13:30	新体操，幼児体育の講座受講生による演技発表会。新体操専用のマットを敷き，観覧席を設置。受講生の家族のほか，〔こどもの城〕来館者にも開放している。88人参加。ぴゅあＲ・Ｓ・Ｇの選手によるデモンストレーション。

2）特別期間プログラム

名　　称	期　　間	備　　考
〈児童福祉週間〉 がんばれマックロー！　ゴールデンウイークはスポーツ！スポーツ！		
ドッジボール	4.29～5.1 ①10:30　②13:00 ③15:30	“普通のドッジボール”のほかに，〔こどもの城〕独自のルールによる“中当てドッジボール”“的当てドッジボール”などを行った。
ウォールサッカー	5.3～5 ①10:30　②13:00 ③15:30	体育室という空間の特性を生かした，〔こどもの城〕独自のルールによるサッカー。全面を約１mの高さの壁で囲い，壁を使った壁パスができ，またゴール後方のスペースも使用できるボールデッドの少ない，スピーディーな展開のサッカー。
卓球	5.6 10:00～12:00 12:30～16:00	通常の卓球台のほかに，ミニ卓球台，円形のラウンドピンポンの台を置き，来館児・者同士が自由に卓球を楽しめるようにした。
フライングディスク	5.7 10:30～12:30	フライングディスクを使い，パスをつないでゴールを目指すゲーム（アルティメットのルールを簡素化したもの）を行った。
こどもの城ミニ運動会	5.7 ①13:00　②16:00	運動会の種目をだれもが楽しめるようにアレンジ。段ボールで作ったキャタピラの中に入って進んでいく「キャタピラリレー」，丸めたマットを転がしていく「マット競走」，棒や綱を引き合う「棒取り」などを，お父さんお母さんも含めた２チームに分かれ，ゲームを楽しんだ。

名称	期間	備考
〈夏休み〉 開館10周年記念　がんばれマックロー！ 夏はとにかく10種のスポーツ		
おにごっこ スペシャル	7.21～28 ①14:00　②16:00	普段の遊びの中で行っている「おにごっこ」。スポーツ的なもの，大きい子と小さい子が一緒にできるものなど，さまざまなおにごっこに挑戦した。
カバディ	7.29・30 ①14:00　②16:00	「カバディ，カバディ」と声を出しながら敵を捕まえに行くインドの国技。大きな声を出すことと，守りでのチームワークが重要。日本代表選手の細川笑子さんが指導。
卓球	7.31～8.4 ①14:00　②16:00	通常の卓球台，４人でできる円形のラウンドピンポン，小型のミニピンポンと好きな台を選び，受付でラケットを貸与して行った。
第７回児童館 こども卓球大会	8.5・6	東京都児童館連絡協議会との合同企画。小学生31チーム，中学生８チーム参加。(財)日本卓球協会の協力を得て，練習会やデモンストレーションも実施。
ポートボール	8.8～11 ①14:00　②16:00	台の上に立った人にボールをパスすれば得点になる，ポートボール。練習で相手に捕まった人にパスをして助け出す「お助けボール」を行った。
ハンドボール	8.12・13 ①14:00　②16:00	柔らかいスポンジボールでのハンドボール。ドリブル無しや，ボールを持っている人は動けないなど独自のルールによるゲームなどを行う。チュックボールも実施。
ウォールサッカー	7.14～20 ①14:00　②16:00	体育室の壁を有効に利用した独自のルールによるボールデッドの少ないサッカー。
なわとび スペシャル	8.22～25 ①14:00　②16:00	短なわ，長なわ，ダブルタッチ（２本なわ）といろいろな跳び方に挑戦。特に高学年生はダブルタッチを一生懸命練習した。
トランポリン	8.26・27 ①14:00　②16:00	楽しく空中遊泳で空中感覚の向上に。見た目には楽そうだが，ハードな運動である。
一輪車	8.28・29 ①14:00　②16:00	日本一輪車協会の協力により，指導，デモンストレーションを行う。バーを持ってバランスを取りながら練習をした。
タッチラグビー	8.30・31 ①14:00　②16:00	タックルの代わりに背中をタッチして攻撃を止め，４回の攻撃権でゴールを目指した。前にパスを出せるゲームにも挑戦した。
〈　〃　〉 ちびっこプール	7.21～8.31	５階屋上に仮設プールを設置，一般に開放。利用料200円，レンタル（タオル・水着）各200円。遊び道具がついた幼児用プールの提供を受け設置，好評であった。
〈　〃　〉 こども一日ドック	7.25	小児保健部との協力事業。体力測定など運動面の指導を担当。
〈開館記念〉 ドキドキ！スポーツトライアル		
ユニホック	10.28･29,11.1･2	スティックを使ってボールをシュートするゲーム。
フライングディスク	11.1～5	フライングディスクを使い，パスをつないでゴールを目指すゲーム（アルティメットのルールを簡素化したもの）を行った。
〈　〃　〉 家族でチャレンジ 体力測定	10.28～11.5	健康開発室で７種目９項目の体力測定。年齢別・男女別に全国平均値と比較することができる。親子でチャレンジしてもらった。利用料は１人100円。
〈　〃　〉 プール特別プログラム	11.1・2 10:00～12:00	平日午前中の講座受講生を対象にタイムアタックの日，フォームチェックのためのビデオ撮影の日を設け，実施。両日とも準備体操として水中エアロビクスを行う。

名　　称	期　　間	備　　考
〈冬休み〉 ミニサッカー	12.23・24 ①14:00　②16:00	壁を有効に使って試合を進める〔こどもの城〕独自のルールによるウォールサッカーの練習と試合を行った。
〈　〃　〉 卓球	12.26～28 (12:00～13:30を除く開館時間中)	体育室に，通常の卓球台や円形のラウンドピンポンの台など数種の卓球台を置き，卓球を楽しんでもらった。
〈　〃　〉 チャレンジ！ ベースボール	1.3～7	球速を計測する速球王，コントロールの良さを競うコントロールチャンピオン，ティーにボールを乗せて打つティーボールノックのコーナーを設け，それぞれに挑戦してもらった。14:00，16:00には子どもを集めてティーボール野球を行った。
〈春休み〉 いよいよシーズン　野球だ　サッカーだ！		
サッカー	3.23～31 ①11:00　②14:00 ③16:00	壁を有効に使って試合を進める〔こどもの城〕独自のルールによるウォールサッカーの練習と試合を行った。
野球	4.1～7 ①11:00　②14:00 ③16:00	ティーの上に乗せたボールを打つティーボール野球の練習と試合。それ以外の時間はフライングディスクの自由利用。
〈　〃　〉 お父さんがんばって 100円からの体力づくり	3.23～4.7	通常の体力測定に加えて，お父さん（保護者）向けの体力づくりコーナーを設置。ここでは，体脂肪測定器で体脂肪率を測定し，その量によりエアロバイクの負荷を変え10分間こいでもらい，体力づくりに励んでもらった。
〈　〃　〉 こども一日ドック	3.30	小児保健部との協力事業。運動指導面を担当。
体力測定	特別期間中	健康開発室で７種目９項目の体力測定。男女別に全国平均値と比べることができる。
プール一般利用	〃	10:30～12:00，13:30～17:30に一般開放（プログラムにより変更あり）。

3）講座・クラブ

＜講座＞

名　　称	対象・定員	受講数	曜　日・日　時	備　　考
	(組)	(組)		
幼児・母親水泳A	幼児・母親 (30)	①　26 ②　30 ③　19	水曜日　10:00～11:00	１・２歳児と母親の楽しい水泳教室。お母さんと一緒なので安心して，水慣れなどプールで活動している。 受講料＝１期・２期各27,000円，３期19,000円。
〃　　B	〃	①　15 ②　18 ③　9	土曜日　　〃	

名　　称	対象・定員	受講数	曜　日・日　時	備　　考
	(人)	(人)		
幼児水泳　A	3・4歳児 (50)	① 15 ② 21 ③ 13	火曜日　13:30～14:30	単に泳法の修得だけでなく，陸上と同じように水中でも楽しく活動できるように指導。プールでの活動を通して，水に慣れることやバランスよく水に浮く感覚など，水泳に必要な運動の基礎を身に着ける。クラスの人数も少ないので，ゆったりとした雰囲気で行われている。6段階にレベル分けをして，次のステップへの目標としている。
〃　B	〃	① 30 ② 34 ③ 31	水曜日　〃	
〃　C	〃	① 14 ② 12 ③ 11	木曜日　14:00～15:00	受講料＝1期・2期各21,000円，3期15,000円。
幼児水泳　D	4・5歳児 (60)	① 59 ② 59 ③ 56	火曜日　14:30～15:30	水慣れから泳ぎへと個人差に応じた班分けを行っている。クロールなどの練習のみならず，幼児期に必要な水中感覚を得られるように指導を行っている。6段階にレベル分けをして，次のステップへの目標としている。 受講料＝1期・2期各21,000円，3期15,000円。
〃　E	〃	① 41 ② 39 ③ 35	木曜日　15:00～16:00	
〃　F	〃	① 24 ② 24 ③ 32	金曜日　14:30～15:30	
幼児体育　A	3・4歳児 (40)	① 27 ② 28 ③ 30	火曜日　14:30～15:30	たくさんの友だちと一緒に思い切り体を動かし，運動遊び，リズム遊びなど楽しく動きながら健康な体や運動の基礎をつくる。
〃　B	〃	① 25 ② 17 ③ 20	水曜日　〃	
〃　C	4・5歳児 (40)	① 40 ② 40 ③ 31	木曜日　15:00～16:00	幼児体育A・Bを土台にして，それを発展させながらさまざまな運動を体験し体の使い方を学んでいく。 受講料＝1期・2期各19,000円，3期14,000円。
	(人)	(人)		
小学生水泳　A	小学生 (60)	① 68 ② 58 ③ 45	水曜日　14:30～15:30	生涯楽しめるスポーツ「水泳」を基礎から学び，4泳法をマスター。シニア・スイミングへのステップアップが目標。 各期の後半に進級テストを実施(10級～1級)。次への目標としている。本年度からGコースを新設した（シニアスイミングCを変更)。 受講料＝1期・2期各21,000円，3期15,000円。
〃　B	〃	① 54 ② 50 ③ 42	火曜日　15:30～16:30	
〃　C	〃	① 69 ② 58 ③ 56	水曜日　〃	10級　顔付け　もぐり　息こらえ　ボビング　水なれ 9級　伏し浮き　背浮き　板キック　ボディーイメージ1
〃　D	〃	① 50 ② 46 ③ 40	金曜日　〃	8級　伏し浮きキック　背浮きキック　ボディーイメージ2 7級　ノーブレクロール　バックキック　ボディーイメージ3 6級　クロール・バック(12.5m)　ブレスト・バタフライ（キック）
〃　E	〃	① 42 ② 39 ③ 36	木曜日　16:00～17:00	5級　クロール・バック(25m)　ブレスト・バタフライ（リズム）
〃　F	小2以上 (40)	① 37 ② 36 ③ 26	火曜日　16:30～17:30	4級　クロール・バック(50m) ブレスト・バタフライ（呼吸） 3級　ブレスト(50m)　バタフライ(25m)　個人メドレー（タイム）
〃　G	〃	① 15 ② 14 ③ 9	木曜日　17:00～18:00	2級　個人メドレー(100m)（タイム） 1級　個人メドレー(200m)（タイム） ※バランス良い発達ができるよう小学生体育と小学生水泳から各1コース，計2コースを選択して受講ができる。 受講料（2コース)＝1期・2期各25,000円，3期18,000円。

名　　称	対象・定員	受講数	曜　日・日　時	備　　考
シニアスイミング A 〃 B	(人) 小・中学生 (30) 〃	(人) ① 14 ② 11 ③ 13 ① 25 ② 22 ③ 21	火曜日 16:30～18:00 水曜日 〃	小学生水泳からの移行の場であり「シニアスイミングB」へのステップとしての役割もあるため，基礎体力の向上と4泳法の完成を中心に行った。 個別のメニューを組んでより速く泳ぐことにチャレンジする上級者向けのコース。水球で球技も経験する。指導者の推薦が必要。本年度から「Cコース」を小学生水泳に変更した。 受講料＝1期・2期各21,000円，3期15,000円。
シニアスイミング フレッシュ	小3～中学生 (30)	① 32 ② 30 ③ 21	金曜日 16:30～18:00	小学3年生以上で泳ぎが不得意な人のクラス。クロールで25m以上泳ぐことを第1目標に練習を進める。90分の練習とあいまって上達の度合いが大きかった。 受講料＝1期・2期各21,000円，3期15,000円。
小学生体育 A 〃 B	小学生 (30) 〃	① 12 ② 19 ③ 12 ① 19 ② 24 ③ 18	火曜日 15:30～16:30 木曜日 16:00～17:00	器械体操，球技を中心に多種多様な運動経験をし苦手な種目を克服する。本年度から「総合体育」を無くし「小学生体育A・B」とした。 受講料＝1期・2期各17,000円，3期12,000円。 ※バランス良い発達ができるよう小学生体育と小学生水泳から各1コース，計2コースを選択して受講ができる。 受講料（2コース）＝1期・2期各25,000円，3期18,000円。
ジュニア新体操	小1～3の女子 (35)	① 25 ② 22 ③ 21	水・金曜日 15:30～17:00	跳ねたり，跳んだり，回ったり，リボンやボールを使って楽しく体を動かす。基礎的な運動も含めた新体操の初歩を指導。 受講料＝1期・2期各26,000円，3期20,000円。
シニア新体操	小3～中学生の女子 (35)	① 15 ② 17 ③ 16	水・金曜日 16:30～18:00	ジュニアから一歩進んで新体操独特の美しい表現ができるような練習。創作活動や発表会も開催。 受講料＝1期・2期各26,000円，3期20,000円。
手足の不自由な子の水泳	小・中学生 (15)	① 16 ② 15 ③ 14	土曜日 17:00～18:00	身体に障害があり，水泳の機会に恵まれない小・中学生を対象にし，スタッフ・ボランティアの個人指導を中心に楽しく活動。 受講料＝1期・2期各16,000円，3期11,000円。
レディース スイミング A 〃 B 〃 C	女性 (60) 〃 〃	① 49 ② 48 ③ 42 ① 48 ② 47 ③ 38 ① 40 ② 39 ③ 37	火曜日 10:00～11:00 木曜日 〃 土曜日 11:00～12:00	生活習慣の中に定期的な運動を取り入れることが健康づくりの第一歩。各クラスとも4班編制で，各自のレベルに合った班を選択し，クロールの練習から4泳法の修得を目標に健康づくりをしている。 受講料＝1期・2期各21,000円，3期16,000円。 ＊レディーススイミングA・B・Cとレディースリズム&ストレッチの4コースから2コースを選んで受講できる。 受講料（2コース）＝1期・2期各31,000円，3期22,000円
レディース リズム &ストレッチ	女性 (30)	① 24 ② 20 ③ 20	水曜日 10:00～11:00	ゆったりと気持ちのよいストレッチと軽快なリズム運動，楽しく動きながら明日への活力を生みだす。 受講料＝1期・2期各21,000円，3期16,000円 ＊レディースリズム&ストレッチとレディーススイミングA・B・Cの4コースから2コースを選んで受講できる。 受講料（2コース）＝1期・2期各31,000円，3期22,000円
健康スポーツ教室（太りすぎクラス）	(組) 太りすぎの小学生とその親 (25)	(組) ① 24 ② 25 ③ 25	土曜日 16:00～17:00	医師によるチェック，栄養士によるチェック，体育指導者による体力チェック，この3者が協力してトータルな活動を行う。小児保健部との協力事業。 受講料＝1期・2期各22,000円，3期19,000円。

名　　称	対象・定員	受講数	曜　日・日　時	備　　考
マタニティ・スイミング	(人) 妊娠16週以降の妊婦 (35)	(人) 延べ 361	火・木曜日 11:00～12:00	水泳プログラムを通して，妊娠中を楽しく過ごすためのクラス。医師が活動前後にチェックを行い，活動中も不測の事態に備えて常駐する。お産や子育てに関するレクチャーや栄養・心理の相談も受けられる。小児保健部との協力事業。 受講料＝12,000円（月７回），入会金＝10,000円。

講座回数＝１期13回　２期13回　３期10回（新体操は週２回）

〈クラブ〉

名　　称	対象・定員	受講数	曜　日・日　時	備　　考
ダイナミック・ヘルス・クラブ (D.H.C.)	成　人 メンバー ビジター 法　人 その他 招　待 計	(人) 年間延 11,676 761 684 170 92 13,383	火～土曜日 12:00～13:30 18:00～21:00 日曜日・祝日 18:00～20:00	18歳以上の大人のためのクラブ。プール，体育室，ジムほかを利用し体力づくり，健康管理のために最適な環境で楽しく活動。東急東横・新玉川・田園都市線に中づり広告を出し，６月，12月，３月に入会金50%割り引きの特別会員募集を実施。 個人会員は，入会金10,000円，会費（年会費70,000円，４か月会費26,000円，月会費7,000円），利用料（１回300円。１か月パス券3,000円，４か月パス券11,000円）。ビジター利用料2,000円。

〈講習会〉

名　　称	対象・定員	受講数	曜　日・日　時	備　　考
幼児・母親体育	(組) ２・３歳児と母親 (30)	(組) ① 31 ② 30 ③ 29	水曜日　11:00～12:00	親子が体育室でリズムに合わせて跳ね，跳び，走るうちに運動神経を養い，楽しさを身に着ける。 受講料＝19,000円（10回）。
母と子のすくすくランド	お座りのできる乳児と母親 (20)	① 13 ② 9 ③ 11	金曜日　10:00～11:00	はいはいから歩行へと成長していく時期の赤ちゃんを対象に，楽しい体操や親子での遊び，お母さんのシェープアップも。 受講料＝23,000円（10回）。
母と子のパチャパチャスイム	１・２歳児と母親 (30)	① 19 ② 22 ③ 8	金曜日　10:00～11:00	楽しくプールの活動をして，水慣れとともに母子のコミュニケーションを深める。 受講料＝25,000円（10回）。
成人水泳集中講習会	(人) 18歳以上の男女 (月20)	(人) 延べ 164	火・金曜日 18:00～19:00	18歳以上の初心者やレベルアップを考えている人の集中水泳講習。月ごとに募集を行い，各月の講習種目に合わせて指導を行う。 受講料＝10,000円（月７回）。

〈短期講習会〉

名　　称	対象・定員	受講数	曜　日・日　時	備　　考
	(人)	(人)		
春休みこども集中水泳講習会　A	小学生 (50)	50	4.1～5　9:30～10:30	春休み期間を利用して，5日間の集中練習で泳力アップといろいろな泳法体験。 受講料＝各 7,000円。
〃　B	幼児 (40)	40	〃　10:30～11:30	
夏休みこども集中水泳講習会　A	小学生 (50)	50	7.21～23, 25・26 9:30～10:30	夏休み期間を利用して，5日間の集中練習で泳力アップといろいろな泳法体験。 受講料＝各 7,000円。
〃　B	幼児 (40)	42	7.21～23, 25・26 10:30～11:30	
〃　C	小学生 (50)	50	8.26～30 9:30～10:30	
〃　D	幼児 (40)	40	8.26～30 10:30～11:30	
ハッスル '95	水泳講座生 7級～(40) レディース (15)	23 7	8.1 ～3　9:30～11:30 9:30～10:30	クロールが泳げる講座生以上の泳力アップ特別プログラム。レディーススイム受講生にも募集を行い，個々のレベルアップを目指した。 受講料＝小学生10,000円，レディース 8,000円。
ガンバ！ '95	小1～3 (30)	30	8.26～30 9:30～10:30	器械体操や球技などの基本動作を習得する，体操の苦手な子の体操教室。 受講料＝6,000円。

4）その他（野外活動など）

名　　称	期　　間	備　　考
新体操選抜合宿	6.24・25	小・中学生13人参加。新潟県越後中里丸善旅館。第7回東京ジュニア新体操選手権大会（7月22・23日　武蔵野総合体育館）参加のための，選抜メンバーによる強化合宿。
<動くこどもの城> 楽しいスポーツに挑戦	7.9 7.10	「大分っ子すこやかフェスタ」の1つの催しとして，集まった一般の子どもたちにプログラムを実施した。グラウンドではフライングディスクのゲーム，体育館では幼児・小学校低学年対象に，ボール，縄，新聞紙の体操を指導した。 県内の児童厚生員を対象に「児童館でのスポーツ活動の活性化」をテーマに，レクリエーション的な要素の体操とフライングディスクを使ったスポーツゲームの講習を実施。狭間町勤労者体育センター（大分県）で開催。
スポーツ合宿	8.21～24	小学生～高校生33人参加。福島県ルネサンス棚倉。3泊4日の合宿による集団生活や交流を深めた集中練習。新体操，水泳に分かれてそれぞれのレベルアップを目指した。
スポーツキャンプ	7.26～29	小・中学生61人参加。新潟県グリーンピア津南。アウトドアでさまざまなスポーツに挑戦した，スポーツ体験キャンプ。
スキースクール　Ⅰ	12.26～29	小学2年生～中学生81人参加。本年度は長野県菅平高原で実施。スキー技術のレベルアップを目指したキャンプ。
スキースクール　Ⅱ	3.26～29	小学1～3年生46人参加。新潟県グリーンピア津南。コテージに宿泊し，スキーや雪遊びで雪と親しむ低学年キャンプ。

(2) 体育事業部の活動

おかあさんと一緒に（幼児・母親体育）

体育事業部では〔こどもの城〕の3本柱である一般利用，講座・クラブ，グループ活動を中心に，大人のためのスポーツクラブのダイナミック・ヘルス・クラブ（D.H.C.），スポーツキャンプやスキースクールなどの野外活動，他事業部との協力事業を行っている。

一般利用の活動では，初めて参加する人や幼児でも簡単にできるように，練習プログラムを工夫したり，ルールをアレンジ（〔こどもの城〕の独自ルール）して実施。幼児から大人までが，スポーツを楽しめるように工夫している。

講座・クラブの活動では，指導体制の整備を行い，指導の充実を図った。木曜日講座の受講生がここ数年減少しているため，木曜日の午後の開講時間を30分遅くし，受講者のニーズに対応するよう試みた。また「シニアスイミングCコース」を「小学生水泳Gコース」へと変更したほか，「総合体育」を「小学生体育」にし，「小学生水泳」と2講座受講できるシステムを導入した。

グループ活動は，体を動かすことの楽しさを伝えたり，日ごろできない種目の紹介など6種類のプログラムを用意している。本年度は，実施件数も増え，充実して活気ある活動が行えた。

一般成人を対象とするD.H.C.では，プログラムを充実しメンバーのニーズに対応するとともに，東急東横・新玉川・田園都市線の中づり広告や入会金50%割り引きキャンペーンを行い，新たなメンバーの確保に当たった。

1）一般利用（平常期間）

定期的な利用ができる講座受講生や近隣に住む人々はもちろんのこと，年に数回程度の来館児・者に対しても，運動の楽しさを伝え，感激を味わってもらうことを目指している。また，親子関係の大切さが叫ばれている昨今，親子が運動を介して触れ合いを持つ場を提供することも重要なポイントだと考える。これらの考え方のもとにプログラムを企画し，実施した。

平常期間の一般利用は，プール，体育室，健康開発室を利用して土・日曜日と祝日に行った（平日の特定時間にも，プールを一般開放）。

体育室のプログラムは前年度の種目を継続し，子どもたちの定着を図った。練習と試合で１時間のプログラムであるが，前半の練習の内容を充実させ，常連の子どもたちにも退屈させないように工夫をした。小学生と幼児が一緒に活動する場面が多いので，ぶつかってけがなどをしないように，またそれぞれが楽しめるように安全に注意をはらっている。

(ア) 体育の日

今年は日本･ブラジル修好100周年であり，両国ともに人気の高いスポーツであるサッカーを通じて在日ブラジル人の子どもと日本の子どもの交流を考えた「ブラジル・日本修好100周年記念　ブラジル・日本こども交流サッカー大会」を開催した。事前に小学生低学年の部（１～３年），高学年の部（４～６年），中学生の部，高校生の部の４部門で参加を募った。低学年の部12チーム，高学年の部20チーム，中学生の部３チーム，高校生の部５チームが参加，小学生はトーナメント，中・高校生はリーグ戦で行った。

〔こどもの城〕独自のルールであるウォールサッカーで大会を進めていったが，中・高校生には体育室が狭すぎ，見合わない感があった。また大会を盛り上げるために，午前中にリフティング大会や音楽事業部の協力によるサンバ大会，Ｊリーグの協力でブラジル人選手（カレカ，ドゥンガなど）のメッセージをビデオで放映のプログラムを実施した。体育室以外でも，ミズノ㈱の協力でＪリーグ全チームのユニホーム展示とＪリーグ記録集，日本代表対ブラジル代表対戦記の展示「目指せＪリーグ展」を行った。子どもたちは見たり触ったりしてとても喜んでいた。

２）一般利用（特別期間）

児童福祉週間(ゴールデンウイーク)，夏休み，開館記念，冬休み，春休みの特別期間には，プールの一般開放，健康開発室での体力測定，体育室での特別プログラムを実施した。

特別期間にはそれぞれに統一したタイトルを付け，子どもたちの興味を引きつけたり，内容が分かるようにし，体育フロアの活動を全体として来館児・者にアピールした。

体育室でのプログラムは，平常期間ではなかなかできない種目を取り入れ，新たな運動体験ができるようにしている。多種多様な子どもが参加するので，プログラムも，簡単な練習からゲームに近い動きの練習へと移行し，初めてでもスムーズにゲームができるように配慮している。

また，夏休みは各スポーツ協会の協力を得て現役選手や指導者を招き，講習

会やデモンストレーションを行い，子どもたちが本物のスポーツと触れる機会にしている。本年度も，㈶日本卓球協会から全日本の大会入賞経験のある古市智子氏と柴田紀子氏，「カバディ」は日本代表選手の細川笑子氏，「トランポリン」は指導者の山田光明氏，「一輪車」は日本一輪車協会の紹介で大富和子氏に，指導とデモンストレーションを行ってもらった。

(ア) 児童福祉週間（ゴールデンウイーク）

《がんばれマックロー！　ゴールデンウイークはスポーツ！　スポーツ!》のタイトルのもと，体育室で「ドッジボール」「ウォールサッカー」「卓球」「ミニ運動会」を日替わりで実施した。

(イ) 夏休み特別期間

《開館10周年記念　がんばれマックロー！　夏はとにかく10種のスポーツ》と開館“10”周年にからめて，10種目のスポーツにチャレンジした。

「鬼ごっこスペシャル」と「なわとびスペシャル」を，この夏の目玉にした。幼児から高学年まで幅広い年齢の子どもが楽しめるように，幼児用と高学年用の２種類のプログラムを作ったり，一緒にできるように内容を工夫した。広く一般的に行われているものだけに，独自のルールを作るのに苦労したが，実施しながらも工夫を重ね，楽しいプログラムが行えた。

そのほかのプログラムも，初めて取り入れた種目が多く，スタッフにとっても新たな発見と楽しさが見いだせ，今後のプログラムや講座・クラブに生かせる素材となった。

プールの一般利用では，水遊び中心の幼児や低学年の子どもたちは５階屋上，しっかりと泳ぎたい高学年以上から大人は地下２階へと設定どおりに自然な流れができ，お互いに使いやすくなっていた。ちびっこプールには㈱フットマークの提供で，新しい型の子どもプールを設置した。滑り台や噴水などが付いていて子どもたちが喜びながら使っていた。今後もこのようなプールの設置を考えながら新しい活動の場を提供していきたい。

屋上ちびっこプールには新型の子どもプールも設置

(ウ) 開館記念特別期間

体育室の「ドキドキスポーツトライアル」，健康開発室の「家族でチャレンジ体力測定」，プールでの「プール特別プログラム」と３つのエリアでプログラムを実施した。

体育室では期間前半をユニホック，後半をフライングディスクにし，練習とゲームで汗をかいた。

健康開発室は昨年同様，家族でチャレンジをして，今後の家族での運動に結び付けられるよう考えた。測定結果を６角形の表にするのだが，その形が家族で似ていて驚きや今後の運動に活用しようとする声も聞こえ，家族でのコミュニケーションの場になっていた。

プールでは11月１・２日に，平日の講座受講生（レディースおよび幼児母親）を対象に特別プログラムを実施した（参加者の大半がレディーススイミングの受講者)。10時30分から12時までの１時間半で，１日は水中エアロビクスとタイムアタック，２日は水中エアロビクスとビデオ撮影とし，それぞれ記録や自分の泳いでいる姿を見て，今後の励みにしていた。プールでのプログラムはほとんど行っていないが，今後も機会があれば行いたいと考えている。

(エ) 冬休み特別期間

冬休みは，野球を題材に「チャレンジ！　ベースボール」。体験プログラムとして，スピードガンで投げた球のスピードを計測する「速球王」，的にくっつくボールを使ってコントロールの良さを競う「コントロールチャンピオン」，ティーの上にボールを乗せて打つ「ティーボールノック」の３つを実施。好きなものに何回も挑戦できるようにし，個々に楽しんでもらった。

14時と16時には子どもたちを集め，「ティーボール野球」を行い，大勢で楽しんだ。ノックやバッティング練習の後，２チーム（人数が多いときには３・４チーム）に分かれゲームをした。３アウトでチェンジではなく，チーム全員が打ち終えたところで攻守交代(ランナーは次回に繰り越し)というルール。３・４回で勝負を決したが，意外にもルールの分からない子どもが多かったのと，小さなボールを捕るのが難しかったようである。攻撃側には太鼓を用意し，応援しながら盛り上がっていた。新しいプログラムであったが，なじみの深い種目であったためか，子どもの反応はよかったようだ。

(オ) 春休み特別期間

《いよいよシーズン　野球だサッカーだ！》と題し，３月中は「ウォールサッカー」，４月は「ティーボール野球」を行った。それぞれ14時と16時に子どもたちを集め練習と試合をした。期間中毎日遊びにくる子どももいてリーダーシップをとってチームをまとめていた。

3）講座

体育事業部の活動の中心となる講座は，体育事業部の基本概念のもと，水泳のクラス・体操のクラスとそれぞれの特徴を生かして指導。各曜日，各時間ごとに担当者を決め，幼児，小学生，レディースクラスと展開している。本年度

は木曜日の午後の講座開講時間を30分遅くし，「総合体育」を「小学生体育」にし「小学生水泳」と２講座を受講できるシステムにした。また「シニアスイミングＣコース」を「小学生水泳Ｇコース」とした。

(ア) 幼児・母親水泳と幼児のプログラム

「幼児・母親水泳」は期によって受講者の増減が大きい。幼児と母親が一緒に参加する講座なので，子どもが母親を信頼していて，慣れないプールを嫌がらなかったり，怖くても母親と一緒なので水の中に潜ることができたりするなど，母子関係の強さを感じる場面が多い。子どもたちも水慣れするのが早く，元気よく参加していた。

「幼児水泳」の３・４歳児クラスは期の始めに泣く子どもも多いが，親が粘り強く続けて講座に連れて来ると，ほとんどの子どもは水中での活動を楽しむようになってくる。幼児のクラスは子どものがんばりもさることながら，親の理解と協力も大きな要素になっている。また３・４歳児クラスの受講者数が減少しているのでPRに力を入れて募集を行っていきたい。

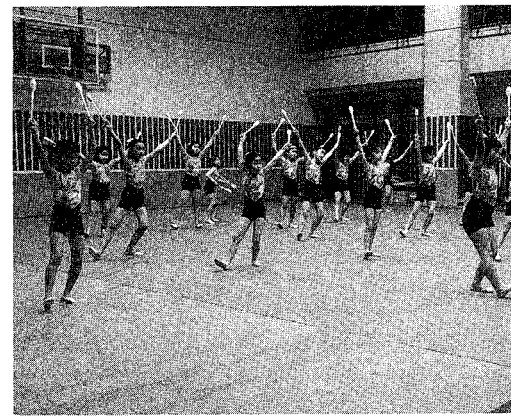
「幼児体育」は遊びから運動への移行を中心に行ったが，特に４・５歳児のクラスでは，リズム体操や球技，器械体操などを取り入れ，バランスのとれた運動，体作りを目標とした。基礎的な体の使い方に向上が見られた。

(イ) 小学生のプログラム

「小学生水泳」は，４泳法を早いうちから導入したことで，クロールだけでなく，平泳ぎやバタフライの上達が見られた。本年度からＧコースを新設したが，受講生が少なく今後のPRなどで受講生を確保していきたい。

「小学生体育」などの体育講座は指導種目の研究が進み，指導方法などにも工夫が見られ，受講生個人それぞれに伸びが見られた。受講生の多くは運動が得意ではない子であるが，楽しく活動していく中で技術も体力も向上していった。本年度から「小学生総合体育」「小学生体育」を「小学生体育Ａ・Ｂ」にし，バランス良い体力作りを目指し，「小学生体育」と「小学生水泳」の２講座を受講できるシステムにした。

「ジュニア新体操」では，巧ち性，柔軟性，瞬発力，持久力などを養い，新体操特有の美しく動くための意識を育てながら，練習を通して身体を動かすことの楽しさを伝えると同時に，自主性を持って参加するよう促すことが目標。



「体操発表会」で練習の成果を披露

「シニア新体操」ではジュニアから一歩進み，自分で動きを作り出す“創作力”やイメージを正しく表現する“表現力”，“忍耐力”や“自主性”，グループでの動きをまとめる“協調性”などを高い次元で身に着けることが目標。ジュニアクラスは講座の人数が増え，活気が出て良い雰囲気になってきたので，シニアクラスにスムーズに移行できるよう基礎の練習に力を入れている。

「手足の不自由な子の水泳」ではボランティア・リーダーと一緒に，自分に合った泳ぎを見つけることから始めている。浮き身・背浮きから，独りで立つことができるようになり，泳ぐ練習に入っていく子どもや，長期に続けて，かなりの泳力を持ってきている子が増えてきた。

(ウ) 水泳記録会と体操発表会

講座・クラブ受講生を対象に行っている「水泳記録会」と「体操発表会」は例年第３期に行っていたが，水泳記録会を12月，体操発表会を３月にと分けてそれぞれ行った。

「水泳記録会」は，小学生，幼児，レディースの水泳講座受講生，D.H.C.のメンバーから参加を募り，“プール講座受講生の交流ができる，開かれた記録会”を目指した。前年度から成人も参加できるようにしたが，２年目になり慣れてきたのかリラックスして大会に臨んでいたようであった。参加者も195人と大会全体も盛り上がった。日本体育大学ライフセービングクラブのメンバーによる救急救助のデモンストレーションでは，子どもたちも一緒に参加して救急救助の実際を体験した。

「体操発表会」は，魅せるスポーツ新体操を体験する絶好の機会である。子どもたち１人ひとりが出演することで本来の良さを味わうことができる。幼児体育講座受講生による体操では，講座の中で行っているリズム体操や，器械体操の発表を行った。当日は観客数も多く，ぴゅあＲ・Ｓ・Ｇのメンバーに演技を行ってもらった。同年代の演技に刺激され，自分たちの演技に臨んでいた。父母の協力の下で行った幼児たちの体操は，なんともほほえましく発表会を和ませてくれた。幼児の体育室での講座紹介とともにジュニア新体操への橋渡しの意味でも有意義であった。

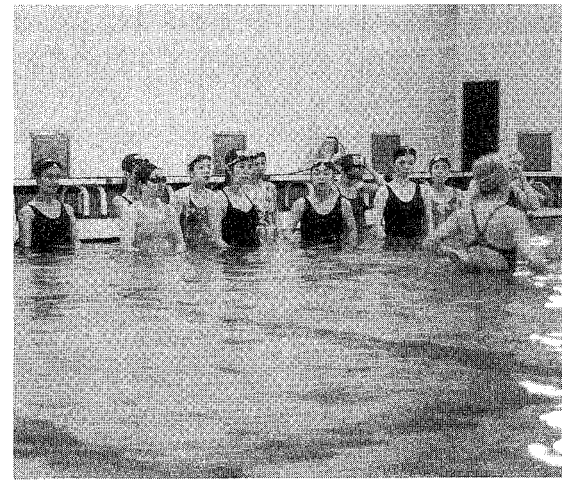
(エ) 成人のプログラム

成人の講座は，健康作りとシェープアップを中心としたレディース・エクササイズ・コースのみで，「レディーススイミング」３コースと「レディースリズム&ストレッチ」１コースの２種類・４コースから２つまで受講できるようになっている。

このほかに，妊娠16週以降の妊婦を対象に月単位で実施している「マタニティ・スイミング」（小児保健部との共同事業）がある。

「レディーススイミング」は各クラスとも少し減少しているが，長年続けて

いる人と新規の人の交流もあり，和気あいあいと活動した。上級班はかなりの泳力があり，質の高い練習をこなしていた。「マタニティ・スイミング」は，夏期は人数も多く，活気のある活動を行っている。冬期は寒さのためか，参加人数が減る傾向にあるが，参加している人は積極的で，とても良い雰囲気の中で活動が行われた。



妊娠中も楽しくスポーツ(マタニティ・スイミング)

4）講習会

「幼児・母親体育」「母と子のすくすくランド」「母と子のパチャパチャスイム」は10回で完結，「こども集中水泳」などの講習会は3～5回で完結する。講座と違い開始時期までに対象年齢に達していれば参加できるので，講座に入る前に経験したい人や地域的に通い切れない人なども参加しやすくなっている。

「母と子のすくすくランド」は，お座りができるぐらいの乳児が歩行までの運動（特にはいはい）を自発的にたくさんできるようにしたり，幼児期に向けての精神的・体力的な土台作りをしたり，また母子のスキンシップと母親の体力維持などを図ることをねらいとして活動している。母親同士の交流や情報交換も見られ，サロンとして仲間作りの場になっている。講習終了2・3か月後には体育事業部主催で子どもとその両親が集まり，思い出会として近況報告やゲームなどをして過ごす。ここでは，活動中に撮ったビデオを上映し，変化の大きなこの時期の記念として配布している。1時間半程度の会だが，父親の子育て論を聞くなど講習の中だけでは分からない部分をかいま見ることもあり，指導者としてはこのような点も重視したい。

「幼児・母親体育」は，体育室で2・3歳の幼児と母親を指導。リトミック的な内容と親子体操を中心に多種多様な運動を経験できるように考えた。子どもだけ，親子一緒，親中心の3種類に大きく分けて活動を行っている。親から離れる練習も続けていたので，数m離れただけですぐに後を追っていた子どもたちも少しずつ平気になり，体育室いっぱいに広がっても不安になる子どもは少なくなった。

「母と子のパチャパチャスイム」は，1・2歳という変化の大きい年齢を対象にしているため，1歳児ではプールフロア（水深を調整するための台）1段に立てない子どもがいる反面，2歳児はどんどん独りで歩ける子どもがいるな

ど，個別に対応が必要であったが，最終回にはかなり水慣れが進み，差が縮まってきた。期間中に小児保健部の協力で，子育てについてのレクチャーがあり，心配事などを質問したり，熱心に育児に取り組む母親の姿が見られた。

夏休みと春休みに行っている「こども集中水泳」は，普段の講座プログラムとは全く違う5日間連続という特徴を生かし，いろいろな泳法への挑戦や経験ができるように考えている。夏休みには，水泳講座7級以上の泳力のある子どものためのレベルアップ講習会「ハッスル'95」を実施した。3日間のプログラムであったが，体育室での準備運動を兼ねた運動とプールでのトレーニング（2時間のプログラム）の中で十分な効果が得られ，泳力もアップした。またレディーススイミング受講者の参加もあり，子どもたちと一緒に泳ぎ，刺激を与えられ，お互い切磋琢磨（せっさたくま）していた。

5）野外活動

明るい太陽の下で体を動かし汗を流すことは，子どもにとって必要な経験である。運動技能や体力の向上を目指すことはもちろんだが，心を開いて仲間とのかかわりを持つことも重要であろう。季節に応じた内容で子どもたちに幅広い体験をさせたいと考えている。夏には「スポーツキャンプ」「新体操合宿」，冬や春には「スキースクール」を実施した。

「スポーツキャンプ」は“自然の中で楽しく汗をかく”をテーマにして，キックベース，フライングディスクにじっくりと取り組んだ。日差しが強く暑かったので，のんびりと休憩を取りながら行った。カナディアンハウスでの生活も自然の中に溶け込みやすく，キャンプをしているといった感じにさせている。スタッフの手作りの料理も好評で，暑さの中でもバテずにがんばっていた。

「新体操合宿」は選抜合宿と通常の合宿の2度行った。①集中的に練習を行うことで講座ではできないレベルの活動を経験，習得する　②生活面，精神面での自立を促し，集団活動により協調性を養う，という項目を目標とした。

選抜合宿は，東京ジュニア新体操選手権大会参加のためのレギュラーによる強化合宿で，演技の完成やチームとしてのまとまりを目指した練習を行った。例年行っている通常の合宿では，参加者1人ひとりが記録ノートを作り，新体操の勉強や練習内容を記録。小学1・2年生には少し困難な点も見られたが，上級生の手伝いもあり全員が完成させた。ジュニアとシニアの交流や講座の中では体験できない集中的な練習ができたため，個人個人の精神面も含めた成長が見られた。シニアでは各自演技を創作して発表することができ，合宿の成果としては上々であった。

「スキースクールⅠ」は，本年度から場所を菅平高原スキー場に移し，移動手段も電車からバスへと変更した。ミニスキーを増やし，初心者班は導入とし

て利用した。初心者にとってスキーの操作が容易になり滑走感覚が得られるといった面で，すぐに滑りだした。通常のスキーにもスムーズに移行でき，初心者の指導として効果があったと感じられる。上級班での使用ではバランス感覚の向上が見られ，初心者班とは違う効果があったようである。今後も指導方法を研究していきたい。

「スキースクールⅠ」には小学２年生～中学生81人が参加

「スキースクールⅡ」は，低学年で40人という少人数で開催している。ここでは，雪遊びとスキーレッスンを通して自然との触れ合いを楽しんだ。スキー初体験の子どもたちもすぐに慣れ，楽しみながら練習ができた。生活面ではコテージを使用したため，１軒丸ごと自分たちの世界という設定になり，子どもたちにとっては魅力的で，想像力をかきたてるものとなったようである。カウンセラーを務めたボランティア・リーダーにとってもグループの動きを把握しやすく，１人ひとりの子どもに適切なアプローチができた。

夜のプログラムも雪上でグループごとにゲームをしたり，話し合いをしたりと自然と触れ合った。「スノースライダーを作ろう」と夜のプログラムでは班ごとに滑り台を作り，新たな仲間作りをしていた。とても思い出深いプログラムになった。

6）グループ活動

グループ活動は，他の講座・クラブとの関係で，火曜日と木曜日の午前中に実施している。６種類のプログラムを用意しているが，それぞれ体を動かすことの楽しさを伝えたり，日ごろできないような種目の紹介などを実施している。プログラム内容も利用団体のニーズに合わせて数種類の種目の中からピックアップして対応した。なかでも，幼児ではパラバルーン，新体操などの人気が高く，多くの団体が活動に取り入れた。

本年度は実施件数が増え，充実した活動が行えた。新規の団体や，幼児，障害児学級は増えたが，小学校の利用が少なく，今後に向けてＰＲやプログラムの検討が必要であると考えられる。

7）ダイナミック・ヘルス・クラブ（D.H.C.）

〔こどもの城〕の大人のクラブであるD.H.C.は，平日の昼とこども活動エリアが終了した後の夕方に，地下2階のプール，体育室，トレーニングジムなどを活用して行っている。このクラブ活動の場では，大人の健康作りを主眼として考え，個人会員，法人会員，ビジターなどいろいろな方法で利用できるようにしている。

本年度は新規会員の確保に力を入れ，東急東横・新玉川・田園都市線に中づり広告を実施した。この広告と併せて入会金50％オフ特別会員募集キャンペーンを実施した。入会者も多数ありかなりの反響があった。

内容的にはプログラムの新規導入を含め，ランニングなど会員のニーズにこたえるプログラム作りを行った。

8）その他の活動

(ア) 協力事業

「こども一日ドック」「マタニティ・スイミング」「健康スポーツ教室」「小児肥満のための指導者講習会」（以上小児保健部），「ジュニア・アウトドア・スクール」（研修教養部・プレイ事業部と合同）などを行った。

(イ) 動くこどもの城

ふだん〔こどもの城〕で行っているプログラムを，数多くの子どもたちおよび指導者に伝えた。特にフライングディスクのゲームは，多くの人が知らないが，やり方を間違わなければ，運動の質・量的にもよく，初めてでも容易に楽しくできるので，多くの人に伝えていきたいと考えている。

9）まとめ

〔こどもの城〕開館10周年の節目に当たり，特別プログラム，講座，D.H.C.などで内容の変更や新規プログラムの導入を行い，新たな一歩を踏み出せた。施設も10年の歴史の中で使いやすく改善したところもあれば，逆に老朽化して使用状態が悪くなっているところもあるが，今後もより良く使用できる場所にしていきたい。また，第2・4土曜日の学校休日による子どもの動きに対応をするためにも，講座，一般活動などのプログラムの研究をし，活気ある活動を目指したい。

D.H.C.は，PRの成果で新規会員が多く入会したが，継続していく会員と一時的に入会しただけの会員といるので，できるだけ多くの会員が活動を続けられるようにプログラムを有意義なものにしていきたいと考えている。

今後も10年の経験を生かし，更なる飛躍をしていきたい。

2 プレイ事業部

(1) 7年度活動一覧

1）平常期間プログラム

名　　称	期　　間	備　　考
おはなし紙芝居の集い	毎週火曜日 15:00～15:30	青年・女性ボランティアを中心に36回実施。子どもたちと一緒に手遊びをしたり歌を歌ってから，紙芝居を3本読み語る。参加性のあるものやじっくり聞くものなど参加者の様子や季節によってさまざまなものを選択した。子どもたちはボランィアの肉声による紙芝居に引き込まれ，終了後ももっと聞きたいという声が印象的であった。
おはなし人形広場Ⅰ	毎週水曜日 15:00～15:30	人形劇，影絵，パネルシアターのボランティアグループとスタッフの運営によるプログラム。この人形広場では，あたかも母親が子どもをひざの上に乗せてお話をするような優しい雰囲気を大切にしており，親子での参加を呼びかけたことによって，親子で対話をしながら参加する姿が目についた。
おりがみ遊び広場	毎週木曜日 14:00～15:00	女性ボランティアの協力で34回実施。活動も4年目になりプレイホールの活動として定着し，毎週参加している子どもの成長も見ることができた。今年は協力するボランティアが少なく毎回3・4人だったため，折った折り紙を使って遊ぶことまで活動が展開できなかったが，その分プレイホールの季節を彩る装飾に力を注いだ。
おはなし人形広場Ⅱ	毎週土曜日 14:00～14:30	音楽事業部スタッフの協力により，ゆったりとした雰囲気の音楽ロビーで運営を始めて6年を経た。「人形劇を親子で楽しむ」イベントとしてすっかり定着したようだ。第2・4土曜日は小学校高学年の子どもも多く，上演団体に内容の工夫をお願いした。
ファミリー プレイタイム	年11回 11:00～12:30	親子でプログラムに参加し，一緒に楽しむ活動。内容の範囲は幅広く，工作やレクリエーションゲーム，野外プログラム，科学遊びなど毎回異なった活動を準備した。2年目を迎え参加者数も安定してきたが，3期分から受付方法を変更し，より多くの家族が参加できるように，同じ家族が複数のプログラムを予約できないものとした。

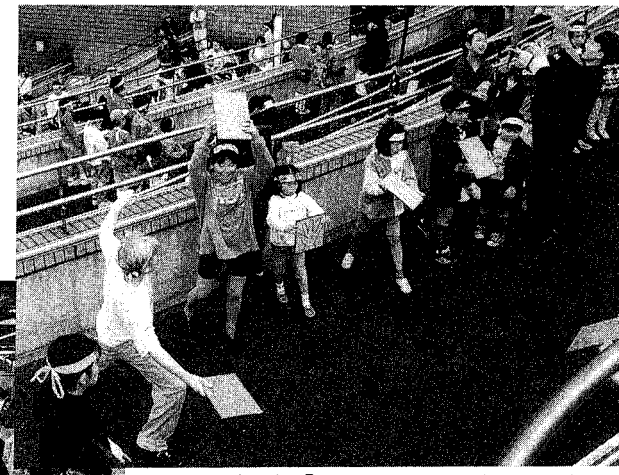
親子で「野外クラフトに挑戦！
焼き板＆くんせい」（ファミリープレイタイム）

名　　称	期　　間	備　　考
〈母の日〉 おかあさんだいすき ～手作りプレゼント～	5.13 13:00～16:00 5.14 11:00～16:00	お母さんへの感謝の気持ちをこめて，段ボールを使ったフォトフレームのプレゼントを作った。いろいろな種類のスタンプでフレームに模様を付け，写真を飾る部分にはお母さんへのメッセージを書いた。子どもの数だけ個性的なフォトフレームができ上がり，子どものみならず大人も熱中する姿が見られた。
〈父の日〉 お父さんとあそぼう	6.17 13:00～16:00 6.18 11:00～16:00	普段なかなか一緒に遊ぶことの少ないお父さんと，体を動かす遊びをしようという主旨で，ニュースポーツに挑戦。クロリティ，はねっこ，ユニカールなどを親子一緒に楽しんだ。また，それぞれの種目について1回ずつ大会を開き，他の親子との交流を図った。
〈七夕まつり〉 天までとどけ ねがいごと	7.6・7 13:00～16:00 7.8・9 11:00～16:00	短冊に願い事を書き，プレイホールに立てられた竹につるすプログラム。学校休みの第2土曜日が入り，総参加人数は1,444人。親子で願い事を書いて，笹（ささ）に下げていく姿が印象的だった。プレイホールの壁面では，伝承されてきた7種類の七夕飾りを由来とともに紹介した。
〈敬老の日〉 おじいちゃん・おばあちゃんは遊びの鉄人 ～なつかし遊び大集合	9.15 11:00～16:00	子どもたちに，昔遊びを通してお年寄りと世代を超えた交流を体験してもらおうと，渋谷区笹塚の楽寿会の協力を得て実施。遊具を使った〈遊び〉だけでなく，楽寿会の皆さんが手遊びや歌遊びなどをその場で教えてくださったり，子どもたちの新しいルールで昔遊びを展開したりと，奥行きの深い，豊かなプログラムとなった。
〈秋分の日〉 第16回バンパー大会	9.23 小学生の部　午前 中・高生の部 午後	小学生の部，中・高生の部と2部に分けて実施した。小学生の部には12人の参加があった。常連の子どもたちに初参加の子どもたちが加わり，大会も盛り上がりを見せた。また中・高生の部では14人が参加。前回小学生大会に出場していた子どもたちが中・高生の部に仲間入りし，決勝まで予断を許さない展開となった。
〈体育の日〉 体育の日記念 おもしろゲーム チャンピオンシップ	10.10 11:00～16:00	体育の日を記念して，いろいろなスポーツを基に考えた「だれでもが楽しめる」記録ゲーム大会を実施。上位3位までの記録を掲示し，参加者がそれぞれのベスト記録を目指して競った。ゲームは「バスケットボール」「棒高つみ（とび）」「リレー」「ボクシング」「砲丸投げ」の5種類。各ゲームは，それぞれの記録に年齢差がなるべくでないように配慮し，来館した家族がみんなで楽しめるようにした。
〈節分〉 節分会 大まめまき大会	2.3　15:00～ 2.4　①13:00～ ②15:00～	スタッフが扮する福の神と子どもたちが節分の豆まきをしようとしていると，突然会場に鬼の軍団が現れた。鬼は福の神を連れ去り，子どもたちは福の神を助けようと力を合わせて豆まきをするという参加劇仕立ての豆まき大会。節分行事を楽しく，分かりやすく伝えることを目的に，参加者の無病息災を祈る毎年恒例の行事。今年も延べ1,000人以上の参加があった。
〈ひなまつり〉 みんなでひなまつり	3.2 13:00～16:00 3.3 11:00～16:00	日本古来の風習である「ながしびな」を折り紙で作り，川をデザインした大型パネルに飾った。ながしびなを折った子どもたちに，人形に自分たちの汚れや病気などを移して流すという由来をボランティアが話し，皆の健康を願った。男の子も多く，また親子での参加が目立った。参加，延べ400人。
〈春分の日〉 第17回バンパー大会	3.23 小学生の部　午前 中・高生の部 午後	小学生の部は11人が参加。はじめはお互いの名前すら知らなかった子どもたちも，数多くの試合をすることで，仲間と知り合うきっかけとなったようだ。また，中・高生の部は13人が参加。参加者全員が顔見知りということもあり，実力伯仲の中にも和気あいあいとした雰囲気の大会となった。
パソコンクラフト ヒミツのたからばこ	6.9～7.2	数種類の宝箱の展開図をパソコンの画面上に読み込み，好きな模様，色を付けてデザインする。カラープリンターで印刷し，画用紙に張って組み立てる，というプログラム活動。親子はもちろん，高学年の子どもがじっくり取り組めるものになった。

2）特別期間プログラム

名　　称	期　　間	備　　考
〈児童福祉週間〉 キャッスルファイト・ファイナル 「五龍大武闘大会」	4.29~5.7	屋上ふしぎが丘を「五龍（ウーロン）大武闘大会」という架空のカンフー大会の会場に見立て，“修行”と称したさまざまなゲーム勝負を行う。子どもたちは初めて出会った相手とゲーム勝負を行い，勝つとカードが渡される。このカードを所定の時間内にたくさん集めた子どもがチャンピオンになれるという，テレビゲームをヒントにしたごっこ遊び。
〈　〃　〉 人形劇フェア	5.3~7 11:00~16:00 公演　①13:00 ②15:00	人形劇を見る，人形を作って遊ぶというプログラムを「パペットマーケット」と大学の人形劇ネットワーク「じゃんぐるじむ」と〔こどもの城〕が企画，運営した。子どもたちは自分で作った人形とともにお話の世界を楽しんでいた。 5月3日＝パペットシアターおまけ　大型絵本『からからからが』 4日＝物語配達人　ざ・まりりん　人形劇『クックとキッキ』『どうながのプレッツェル』 5日＝人形劇団空中分解　人形劇『サンカクくん海へいく』，パネルシアター『ふくろうのそめものや』 6日＝人形劇団ひぽぽたあむ　人形劇『ふたりのお話』 7日＝人形劇場だぶだぶ　人形劇『コッコさんはうたがすき』『ミーとムックのおかたずけ』
〈夏休み〉 ウオーター アドベンチャー'95 「タイムパトパト隊 緊急出動!!」	8.15~20	屋上ふしぎが丘を会場に，毎年恒例となった，豪快に水遊びを楽しむワイドゲームを実施した。今回は時間を操る悪の親玉を参加者がパトロール隊員となり，やっつけるという設定。水鉄砲と盾を使って悪者のいるセクションをクリアしていくゲーム。参加の子どもたちがグループを作りリーダーと対決するため，その場で知らない子ども同士が連帯していく姿が見られた。

プレイホールで一日中人形劇
（開館10周年記念人形劇フェア）



屋上ふしぎが丘で「キャッスルファイト・ファイナル」

名　　称	期　　間	備　　考
〈開館記念〉 人形劇フェア みんなあつまれ！ 人形広場	11.3～5 ①11:30　②12:30 ③13:30　④14:30 ⑤15:30　⑥16:30	開館10周年を機に，人形広場の原点（遊んでいる広場で人形劇が始まることによって特別に子どもが身構えずに見ることができる“遊びの中の人形劇”）に立ち返る目的で，1日3団体による6公演を実施。1日中プレイホールの中で人形劇が上演され，遊びと人形劇が融和した楽しい場となった。 11月3日＝夢まあるく舎　人形劇『ウィッキー・でかめ丸の花丸日記』 人形劇団空中分解　人形劇『へっこきあねさ』 人形劇公演童(わらべ)塾　人形劇『すいかねこ』 4日＝BUNちゃん・で・Show　エプロンシアター，パネルシアター，テーブル人形劇 ミニチュア劇場あおテント　三本毛博士の人形劇教室ほか おはなし劇場エバット　エプロンシアター『赤ちゃん病院』ほか 5日＝人形劇団空中分解　人形劇『へっこきあねさ』 てんたん人形劇場　人形劇『黄丸ちゃんと赤丸ちゃん』 青空共和国　人形劇『ふしぎなキャンディー　なめちゃった，正義の味方ハチマキくん』
〈　〃　〉 人形劇フェア ウレタン人形のパクパクちゃんを作って遊ぼう	11.5 13:00～15:45	人形を作るだけではなく，作った人形で遊ぶまでを目的としたワークショップ。講師に人形劇団ひとみ座の石原ひとみ氏をお願いし，親子15組が参加。作る楽しみから遊ぶ楽しさまで存分に引き出され，講師の特別上演もあり楽しい一時となった。
〈冬休み〉 人形劇フェア	12.23・24 11:00～16:00 公演　①13:00 ②15:00	都内近郊の大学の児童文化研究会・人形劇サークルで構成されている「じゃんぐるじむ」による企画・運営。人形劇の上演のほかにハンカチや折り紙によるワークショップも行い，子どもたちと積極的にかかわりながら児童文化の伝承に努めた。また，児童文化を伝えていく側として学生の育成にも努めた。 12月23日＝早稲田大学児童文化研究会　人形劇『クリスマスってだれのもの？』 法政大学児童文化研究会　ペープサート『サーカス』 青山学院大学児童文化研究部　影絵『走れカリメロ』 大妻女子大学　クリスマスパネルシアター8部作 明治学院大学人形劇団ＺＯＯ　『トランプの国のイタズラジョーカー』 24日＝創価大学児童文化研究部　人形劇『希望サンサンと』 青山学院大学児童文化研究部　絵話『くまの子ウーフ』 日本女子大学人形劇研究会　人形劇『ぽん太のじどうはんばいき』 創価大学児童文化研究部　影絵『お月様と王女』 横浜国立大学人形座　人形劇『あわてんぼうのサンタクロース』
〈　〃　〉 昔遊び大集合 むかしあそびコーナー	1.3～7	企画部を中心に昔遊びをテーマにした共催事業として計画。今回は，スタジオBで「新春紙相撲初場所（協力＝村杉紙相撲道場）」を実施。各自の作った力士での勝ち抜き大会やイベントとしてビッグ紙相撲大会(勝者当てゲーム)も行った。また，屋上ではこまを中心に伝承遊びの体験コーナーを運営した。
〈春休み〉 人形劇フェア	3.29～31 ①13:00～ ②15:00～	外部の人形劇団に公演を依頼して実施。紙芝居，パネルシアター，人形劇と日替わりで3種類のプログラムを行った。子どもたちはどの演目に対しても，ときには真剣なまなざしで見入り，またときには大声で笑ったり声援を送ったりと，人形劇を通して子どもたちの夢が広がったようである。 3月29日＝ひょうしぎ　大型紙芝居『ないたあかおに』『ごきげんのわるいコックさん』『ひもかとおもったら』ほか 30日＝ぱねるっぱ　パネルシアター『どきどきどん一年生』『ひよこさんのさんぽ』ほか 31日＝木ぐつの木　人形劇『ぬくぬく』『いざブレーメンへ』ほか

名　　称	期　　間	備　　考
パソコンルーム		
〈児童福祉週間〉パソコンに挑戦！ことばで遊ぼう	4.29～5.21	言葉遊びをテーマにパーソナルコンピュータを利用して，しりとり，アナグラム，暗号解読，4W遊びを実施。パソコンを相手に楽しみながら，コンピュータの機能，特徴を体験。パソコンに勝つまで，しりとりに挑戦する親子の姿もあった。
〈夏休み〉ネイチャー・ウオッチング	7.21～8.31	パソコンを使って，自然の風景をグラフィックスで表現したり，データベースで観察・検索しながら鳥や花の名前を当てるプログラム活動。今年は枝の角度・長さを入力すると1つの枝の形から大きな木に成長していくグラフィックス「木のプログラム」を実施。できた木にスタンプで葉や実などを書いて自分の木を作っていった。
〈開館記念〉こどもたちのパソコンソフト作品展	10.28～11.26	10年間の活動の記録の1つとして，パソコンルームで活動した子どもたち（受講生・クラブ員・一般来館児）がパソコンで作ったさまざまな作品を紹介した。併せて，パソコンルームで普段活動している一般利用時のプログラムの作品展示と体験コーナーを実施した。
〈冬休み〉カードをつくろう	12.1～1.8	パソコンを使ってクリスマスカードや年賀状作りを楽しむプログラム。あらかじめパソコンの中に登録してある絵に色を塗り，印刷をしてカードに張ってデザインするという活動。自分で色を塗った絵が実際に手元に出てきて，カードとして完成するのが楽しく，何度も遊びに来る子どもが大勢いた。
〈春休み〉コンピュータでミュージック	3.25～4.7	コンピュータ内蔵の音源を簡単な操作で演奏させるプログラム。「動物ハンターゲーム」では親子が一緒に歌を口ずさむ姿，「簡単作曲マシーン」では仲間と合奏して楽しむ小学生，「どれみふぁコンピュータ」では大好きな曲をじっくり入力する中・高生……と，幅広い年齢層の子どもたちがそれぞれに楽しんでいた。

3）講座・クラブ

<講座>

名　　称	対象・定員	受講数	曜　日・日　時	備　　考
	(人)	(人)		
小学生パソコン教室ⅠA	小4～6 (20)	20	4.9～5.21 日曜日10:30～12:30	初めてパソコン教室に参加する子どもたちのためのコース。ロゴ言語を使用し，グループ活動によるグラフィックス作品の協同制作を内容とし，パソコンを媒体とした小集団活動を展開することがテーマ。5人程度のグループに分かれ，各々が絵の部品を作成し，最後にその部品を合体させグラフィックスを完成させる。受講料＝各7,000円（6回）
〃　B	〃	20	10.8～11.19 日曜日10:30～12:30	
小学生パソコン教室ⅡA	小4～6 (20)	13	8.23～25，28・29 各日10:30～12:30	小学生パソコン教室Ⅰを修了した子どものためのコースでゲーム作りがテーマ。ロゴ言語を使用し，ゲーム作りのプログラミングの中で，変数や再帰処理といった概念も学ぶ。受講料＝各6,000円（5回）
〃　B	〃	20	1.14～2.18 日曜日10:30～12:30	
小学生パソコン教室Ⅲ	小4～6 (20)	17	3.26～30 10:30～12:30	小学生パソコン教室Ⅱを修了した子どものためのコースで，ロゴ言語のリスト処理機能を使って，おみくじ，遊園地やヒーローの名前作成プログラム，5W遊び，しりとりなど言葉遊びプログラムを作った。受講料＝6,000円（連続5日間）

<クラブ>

名　　称	対象・定員	受講数	曜　日・日　時	備　　考
キッズクラブ	(人) 小1～4 (30)	(人) 30	隔週土曜日 15:00～17:00 1・2期は6回。3期は5回	小学校低・中学年を対象とした遊びのクラブ。遊びを通して①家庭や学校では体験できない活動を行う　②地域や学校とは違う新しい人間関係作りを目指す　③（ボランティアリーダーなど）大人の援助を得ながら子どもたち自身がプログラムを考え作り上げることで，創造的な発想と発言力，行動力を養う。 受講料＝1・2期各9,000円，3期8,000円。
ユースクラブ	小5～中3 (40)	38	隔週日曜日 13:30～15:30 1・2期は6回。3期は5回	①グループワーク的視点で人間関係作りを目指す　②自分たちで次回のプログラムを相談することで，創造的な発想と発言力を養う　③家庭や学校では体験できない幅広い活動を行う。この3点を大きなねらいとした遊びのクラブ。 受講料＝1・2期各9,000円，3期8,000円。
パソコンクラブ	小4～高3 (40)	38	水・木曜日 14:00～17:30 土曜日　13:00～17:30 日曜日　10:00～17:30	パソコン教室を修了した子ども，またパソコンに興味のある子どものための交流を中心としたクラブ。交流のためのミーティング，パソコンやソフトの使い方の講習会を実施。11月のパソコンソフト作品展にはゲームやグラフィックスなどのオリジナルソフトの作品を出品した。 受講料＝5,000円（1年間）。

4）その他（野外活動など）

名　　称	期　　間	備　　考
ちびっこ冒険団'95	Ⅰ期　7.22～25 Ⅱ期　7.29～8.1	小学校1～3年生のための宿舎泊のキャンプ。野外での体験の少ない低学年を対象としているため，スタッフの創作した話をきっかけに野外での遊びを発展させていく。今回は実施地付近の伝説『やさしいまぼろしの大きな木』を題材に，木を探しに山へ行くなど班ごとに多彩な活動を行った。Ⅰ期は参加者79人，ボランティア21人，Ⅱ期は参加者78人，ボランティア21人，各期スタッフ3人。福島県国立那須甲子少年自然の家で実施。
〈動くこどもの城〉パソコン遊びのワークショップ	7.24～8.3	低学年から楽しむことができるコンピュータグラフィックス遊び，しりとりや暗号解読などの言葉遊びのプログラム活動を用意した。夏休み中でもあり，延べ2,400人の子どもたちが参加した。草加市立住吉児童館で開催。
ゆきんこ冒険団'95	12.25～28	小学校1～3年生を対象に，雪遊びをテーマにした宿舎泊のキャンプ。多くの雪に恵まれ，子どもたちはそり滑り，雪合戦，かまくら作りなど，冬の野外プログラムを十分に楽しむことができた。参加者75人，ボランティア21人，スタッフ4人。福島県国立那須甲子少年自然の家で実施。

(2) プレイ事業部の活動

プレイ事業部の活動も10年目を迎えた。プレイ事業部の活動は，①遊びの環境作り　②子どもの遊び文化をテーマにしたさまざまな実践活動　③仲間作り・人間交流のためのプログラム活動という３つの方向性を持っている。

「節分会　大まめまき大会」などの季節行事プログラム

遊びの環境作りでは，プレイホールや屋上を中心とした遊び場所作りを進め，またその場所で展開される遊びを促進するための遊具を配置した。またスタッフやボランティアリーダーの子どもたちに対するかかわりも遊び環境の１つとして注目し，よりうまく機能するように考えた。

子どもの遊び文化をテーマにした活動では，人形劇や折り紙，紙芝居などをテーマにした活動，季節の行事，伝承的な遊び活動も行った。また伝承的な遊び活動とは逆に，パソコンを使った遊びの活動も，子どもたちの新しい形の遊びの文化と捉え，活動を進めた。

そして，仲間作り・人間交流のための活動は，プレイ事業部の土台となるものと考えてきた。遊びは仲間がいなければ広がりも，深まりもしないという考え方を基本に，遊びのクラブやキャンプの活動，そしてプレイ事業部のすべての活動を進めた。

10周年となる本年度は，記念事業として11月に「人形劇フェア」そして「こどもたちのパソコンソフト作品展」を実施した。

1）平常期間の活動

(ア) 週間プログラム

平常期間には，曜日ごとに決めた定例の週間プログラムを実施した。人形劇や紙芝居など子どもたちに文化を伝える場として，またプレイホールに常設された遊具で遊ぶだけでなく，スタッフやボランティアなどの“人”が介在して楽しめる時間，空間を作ることをねらいとした。内容はスタッフとボランティ

アが一緒に検討し実施した。

(イ) 季節行事

日本の伝統的な行事や遊びを子どもたちに伝えていくため，季節行事をプログラムの中に取り入れている。季節の行事に登場する具体的なものだけでなく，スタッフやボランティアの声かけによって文化の伝承が行われ，親子が一緒に活動することによって，家庭の中にもその文化が浸透していく展開を目指した。

(ウ) ファミリープレイタイム

主に幼児～小学校の子どもと親子の“遊び”を提案するプログラム。家族のための遊びのワークショップと銘打って前年度からスタートし，今年で2年目を迎えた。利用者の間にもこのプログラムが浸透し，月1回の予定はほとんどのものが募集と同時に定員に達した。活動内容については，子どもの年齢，性別などを考慮し，さまざまなジャンルのプログラムを取り上げて実施した。また，親子の活動では，子どもを楽しませようとして親が十分参加できないことがあるが，親子が一緒になって考え，遊び，楽しむことを目指し，プログラムを立案する際に，実際の作業を親子が分業して進められるように計画するなど，みんなが楽しめるよう配慮した。

【ファミリープレイタイム・プログラム内容】

実施日	内　　容	対　象	参加家族
4月22日	パソコンでデザイン・ペーパープレーン	小1以上	14家族
5月28日	バーバースライム	年少以上	10家族
6月10日	室内記録ゲーム大会	年長以上	10家族
7月8日	キャンピング・グッズ入門	年中以上	10家族
9月9日	パソコンで作る，あなただけの宝箱	年長以上	12家族
10月14日	野外クラフトに挑戦!焼き板&くんせい	年少以上	8家族
11月11日	折り紙飛行機を作って飛ばそう！	年長以上	10家族
12月9日	「祝　クリスマス」キャンドルを作ろう	小1以上	11家族
1月27日	昔あそびに挑戦①エイッ! とコマまわし	年長以上	13家族
2月24日	昔あそびに挑戦②フワッ! とタコづくり	年中以上	10家族
3月17日	パソコンでデザイン! はいてく紙ずもう	年長以上	12家族

2）特別期間の活動

入館者の多い特別期間には，平常期間をベースにして発展させ，多くの人にとって楽しめるプログラムを実施した。それぞれの行事には，スタッフ，ボランティア，人形劇団，学生人形劇グループなどたくさんの人々がかかわり，一緒に作り上げたプログラムとなった。

(ア) 特別期間の恒例プログラム

特別期間は多くの来館者が訪れるため，各期間ごとにそれぞれの季節感を生かした特別事業を実施した。比較的遠方から初めて来館する子どもたちが多いこの時期に合わせて，年齢や性別を超えて多くの来館者が興味の持ちやすい内容とし，親子でも参加しやすいように配慮をした。

「キャッスルファイト」(児童福祉週間)，「ウオーターアドベンチャー」(夏休み)，「昔遊び大集合」(冬休み)などは，各特別期間の恒例プログラムになっているため，開催時期に合わせてこれらのプログラムを楽しみに来館する子どもたちの姿も多く見られた。

それぞれに趣向は異なっているが，知らない子ども同士であっても，その場でグループを作り，同世代の子どもたちが一緒になって活動をし，遊びの“場”と“時間”を共有することを通して“人とのかかわり”を体験し，人と出会い，大勢で遊ぶことの楽しさを感じることをねらいとした。

(イ) 人形劇フェア（10周年記念ほか）

1985年11月２日の〔こどもの城〕開館記念行事からスタートした人形劇活動も，「おはなし人形劇場」「人形劇の集い」「人形劇フェスティバル」と名前を変えながら，現在では平日活動の「おはなし人形広場」(毎週水曜日と土曜日）と特別期間の「人形劇フェア」のスタイルで定着した。

本年度の人形劇フェアは，児童福祉週間（５月)，開館10周年記念（11月)，冬休み（12月)，春休み（３月）の４回実施したが，人形劇の上演のみにとどまらず，それぞれ趣を変えて企画を立てた。

中でも「開館10周年記念人形劇フェア」では，２つの特別な試みを行った。１つは，開館当時にプレイホールで行われていたスタイル，すなわち子どもたちの遊び空間の中で，街頭紙芝居のような感じで小さな人形劇・人形遊びが始まるというスタイルである。おまけに１日６公演も行われるため，一日中人形劇を横目で見ながら過ごすことができるのである。今までのフェアが，地下のフリーホールや音楽スタジオに舞台や照明を設置し，小劇場に子どもたちを招き入れるというスタイルであったことを考えると，この企画は冒険でもあったが，子どもたちの遊びと人形劇が交じり合い，プレイホールの中にアットホームな空間ができ上がった。

もう１つは，人形劇団ひとみ座の石原ひとみ氏に指導いただき，親子で人形を作り，その人形で遊んでみようというワークショップ。母と子に限らず，父と子が一緒に人形を作る場面や，大人と子どもがお互いに即興人形劇を上演し合って楽しむという，親子のかかわりや，人形を使っての表現を楽しむことができるたいへん温かいプログラムとなった。

3）講座・クラブ等の活動

(ア) キッズクラブ

キッズクラブの活動も4年目を迎え，子どもたちの間にも「遊びは自分たちでつくるもの」という考え方が浸透してきた。特に今年後半の活動は，あえて全体を小グループ化せずに，クラブ全体で遊ぼうということを考え，子どもたち自身が必要に応じてグループ分けをして遊べるようなプログラム編成を行った。特に上級生が中心になってのグループ分けは，子どもたちが自分たちの手で遊びを作っているということの自覚につながり，その後のプログラムでも自分たちが遊びの主人公なのだという姿が随所に見られた。

【キッズクラブ・プログラム内容】

Ⅰ期	4月15日	新メンバーを迎えての「はじめまして・ゲーム大会」
	5月20日	代々木公園へ出かけての自由遊び「代々木公園へ行こう！」
	6月3日	プロペラで垂直上昇の飛行機「タケコプターを作って飛ばそう」
	6月17日	屋上でホッケーに似たスポーツ「ユニホックにチャレンジ」
	7月1日	「どらやきづくり」ではグループで1つのどら焼きを作る
	7月15日	水鉄砲を用いて陣取り遊び「ウオータープロジェクト」
Ⅱ期	9月16日	雨でも室内(階段)を使って「スーパーだんだんすごろく」
	10月7日	「NHKスタジオパーク」をクイズラリー形式で見学
	10月21日	「ペットボトルロケット」をグループごとに作って飛ばす
	11月18日	「たこやき」を作り，縁日ふうのお店やさんごっこ
	12月2日	「街にクリスマスを探しに行こう」は次回プログラムの伏線に
	12月16日	子どもたちが企画から作り上げた「クリスマスパーティー」
Ⅲ期	1月20日	職員に名前を尋ね，その名前を使っての「ビンゴ大会」
	2月10日	第2土曜日の活動は「羽根木プレイパークでのデイキャンプ」
	2月17日	直径1mの「巨大こま」を段ボールで作った
	3月2日	パンをテーマにグループ独自のお菓子作り「パンパンおやつ」
	3月16日～17日	「こどもの城館内に宿泊」暗やみの陣取り大会やドッジボールなどダイナミックな遊びにチャレンジ

(イ) ユースクラブ

継続者の多いユースクラブにとって今年は14人（約34%）の新入部員を迎えるという異例な年であった。そのためⅠ期は，新メンバーがより早く仲間作りを促進できるように，全体を2つのユニットに分け，その中だけで班作りを行った。Ⅱ期以降は仲間の輪を更に広げるためにユニットを解体した。またⅡ期からはグループを中心としたプログラムを多く盛り込み，班ごとに考えたり，意見を交換する活動を多く取り入れた。特に第Ⅲ期は活動のすべてを自分たちで話し合って決定したためか，小・中学生ともに強い達成感を持つことができ

たようだ。

【ユースクラブ・プログラム内容】

Ⅰ期	4月16日	初回は新旧メンバーが打ち解けるように「親睦ゲーム」を行う
	4月23日	悪天候のため，館内宝探し「トレジャーハンティング」
	5月28日	「渋沢デイキャンプ」で，ますのつかみ取りとバーベキュー
	6月11日	「東京ウオーカー」(探偵ごっこ)。地図を片手に代官山をかっ歩
	6月18日	「クッキング作戦会議」では，次回のメニューなどを相談する
	7月9日	「縁日風クッキング」では七夕寿司や本格手打ちうどんが登場
	8月30日	夏休みの最後に久しぶりに集まり，水鉄砲の撃ち合い遊び「ウオーターアドベンチャー」を代々木公園で実施。第Ⅱ期へのステップとなる
Ⅱ期	10月1日	「城の外で遊ぼう」をテーマに，屋上で親睦ゲームを実施
	10月8日	「みんなでゲームを作る会」を実施。次回の大会に各班大乗り気
	10月22日	オリジナルゲーム大会「竹ちゃんの暴れていいとも」を実施
	11月1日	等々力渓谷を「ポイントハイキング」し，ゴールでは焼き芋も
	11月19日	作戦会議で一番希望の声が多かった「仮装」のイメージ作り
	12月3日	10日の「仮装パーティー」に向けて，各班衣装やスタンツの準備
	12月10日	Ⅱ期最終回は，プレゼントをテーマに各班で考えた仮装スタンツを披露。歌あり，寸劇ありでたいへんな盛り上がりを見せる
Ⅲ期	1月14日	「新春ユーススペシャル」は，お正月にちなんで人間かるたや人間すごろくを実施。かるたの読み札は子ども全員の特徴を記載
	1月28日	「ケーキの鉄人」は班ごとに作ったケーキのコンテストを実施
	2月11日	暖かな日差しの中，コンパスと地図を使った本格的な「オリエンテーリング」。神奈川県秦野の弘法山パーマネントコースで実施
	2月25日	班ごとに「ペットボトルロケット」を作り，飛距離を競う
	3月9日・10日	閉館後から翌日の開館までの時間を使い，泊まりがけで「ポリ袋の巨大ドーム」を作成。1年の締めくくりのプログラムとなる

(ウ) 野外活動

本年度は対象を小学校1～3年生に絞り，自然に親しみ，また仲間と過ごす楽しさを体験することを目的にキャンプを実施した。親元を離れての生活体験や野外活動の経験の少ない年齢層ではあるが，回を重ねるごとに上級生である経験者が中心となりキャンプの雰囲気を伝え，充実した活動となってきている。

プログラムも全体で実施していた初期の活動から，小グループの自主性を重視した活動へ移行してきた。また，自然に目を向ける動機付けとして，簡単なストーリーに沿ったキャンプを行ってきた。回を重ねるごとに，野遊びを楽しむ，仲間と楽しく過ごすなど，これらの活動を自然に深めていく素地がキャンプ全体に広がり，この「ちびっこ冒険団」「ゆきんこ冒険団」のキャンプが，1つのスタイルを確立しつつあるということができる。今後はこの流れを基に，小学校高学年を対象にした活動の展開を検討していく必要が出てきているので

はないだろうか。

(1)ちびっこ冒険団 '95

	1 日 目	2 日 目	3 日 目	4 日 目
朝	〔こどもの城〕出発 ↓	冒険の旅（各班ごと「不思議な木」を探しに行ったり虫を見つけに行くなど目的はさまざま。ささやぶの中，道なき道を進む“やぶこぎ”にも挑戦）	朝の集い（野外炊事のメニューをくじで決める。6チームに分かれた）	清掃～後片づけ（片づけが終了した班から，表に出て記念撮影）
昼	施設周辺の探検（周辺を探検して，虫や花を観察したりスケッチしたり）		野外炊事（キャンプ長の出店許可のもと，豚汁，焼きそば，サンドイッチなどを作り出店。太陽から採った1つの火を元に料理，お祭りを実施）キャンプファイヤー	那須甲子 少年自然の家出発 ↓
夕	仲良しになる集い（那須甲子の森を救った「大きな不思議な木」を探しに探検隊を結成）	あそぼうタイム（工作したり星を見に野外へ行ったり，班ごとに自由に過ごす）		〔こどもの城〕到着（解団式では涙を流してリーダーや仲間との別れを惜しむ子も）

(2)ゆきんこ冒険団 '95

	1 日 目	2 日 目	3 日 目	4 日 目
朝		到着午前4時27分 到着が遅れたため起床を10時にする	屋外フリータイム（班ごとにかまくら作り，探検，そり滑りなどを楽しむ）	清掃～後片づけ（片づけが終了した班から，表に出て自由時間。最後の雪遊び）
昼	〔こどもの城〕出発 ↓	フリータイム（班ごとに雪合戦そり滑りなど） もちつき（ついたもちはおやつに）	ゆきんこ大作戦（村対抗の大雪合戦。リーダー対子どもの勝負は子どもたちの圧勝）	那須甲子 少年自然の家出発 ↓
夕	降雪のため東北道通行止め（一般道を使って現地へ） ↓	室内フリータイム（班ごとに探検やクラフトなど自由に過ごす）	キャンプファイヤー（室内営火場で歌やゲームの楽しいキャンプファイヤーを実施）	〔こどもの城〕到着（解団式ではリーダーや仲間との別れを惜しむ子も）

4）パソコン活動

パソコンを使って活動する場所が，3階のコンピュータプレイルームと10階のパソコンルームの2か所ある。どちらもパソコンを使った“遊び”のプログラムで，コンピュータプレイルームはパソコンを「遊具」として慣れ親しんでもらうこと，パソコンルームはパソコンを「道具」として活用することを主眼にして，活動を行っている。

パソコンを“道具”として活用(パソコンルーム)

(ア) コンピュータプレイルーム

コンピュータプレイルームには，お絵かきソフト，パズルゲーム，読み聞かせソフトなどが数種類あり，利用者は，それらの中から自由に選んで遊ぶ。

ソフトは既製ソフトを中心にしているが，その選定は，幼児向け，小学校低学年，小学校高学年以上などと，対象年齢に分けて設定したり，親子や友だち同士の2人以上でもコミニュケーションをとりながら遊べるように配慮している。

本年度の利用者は66,959人だった。

(イ) パソコンルームの活動

パソコンルームでは，パソコンをツール（道具）として活用したさまざまな遊びの活動を実施している。カードや宝箱などのペーパークラフトのデザイン，野鳥や花の検索，言葉遊びや音楽遊びなど，パソコンを表現したり調査したりする“道具”として活用するプログラムを一般来館児活動として実施した。

また，一般来館児・者を対象とした活動以外にメンバー間の交流や各自の興味に沿ったパソコン活動をするパソコンクラブ，ロゴ言語を使用したパソコン教室も3コースで計5クラスを実施した。

10周年記念行事「こどもたちのパソコンソフト作品展」では，一般来館児活動のプログラム紹介と，教室やパソコンクラブの活動で制作したグラフィックス，アニメーション，ゲームなどの作品を展示し，開館以来の活動のまとめとした。

5）グループ活動

プレイ事業部のグループ活動では，さまざまな遊びや劇遊びなどのプログラ

ムを通して，豊かな心と社会性や子どもたち同士の連帯感をはぐくむことを主なねらいとして実施している。

本年度実施したプログラムは「忍者修行道場」8回，「森へいこう」9回，「キャッスルオリンピック」6回，「パソコン体験」2回，「みんないっしょに」5回，「ごっこでGo! Go! 」1回の計31回であった。

幼稚園，保育所の利用が大半を占めているが，本年度は幼稚園・保育所の親子遠足や養護学校の利用も多かった。そのため，今まであるプログラムを利用者に合わせてアレンジし実施した。

また本年度は新しく2つのプログラムを開発した。7匹のこやぎなどのお話を再現し，ごっこの世界を楽しむ「ごっこでGo! Go! 」と紙コップなどの身近な物を使って人形を作り，遊ぶ「みんなで作ろうパペットランド」の2つである。「みんなで作ろうパペットランド」は開発したのが遅かったため，本年度は実施されなかったが，今後，試行錯誤を繰り返し，完成されたプログラムにしていきたい。

6）〈動くこどもの城〉

埼玉県草加市の住吉児童館において，7月25日から8月3日にかけ，「パソコン遊びのワークショップ」を実施した。プログラムは「コンピュータグラフィックス(キッドピクス)」「ことばで遊ぼう」，そして児童館独自で用意されたソフト2種を期間中組み合わせて実施した。また，28日には，事前募集したメンバー23人の参加で，パソコンでデザインするペーパークラフトのプログラム活動である「ヒミツのたからばこ」を実施した。

1日当たり30人前後であろうという児童館の予想に反し，250人以上の子どもたちが連日参加，9日間で延べ2,400人という，うれしい誤算となった。子どもたちの反応も非常によく，参加者全員がゆったり楽しむには，もっと多くのパソコンが必要であった。

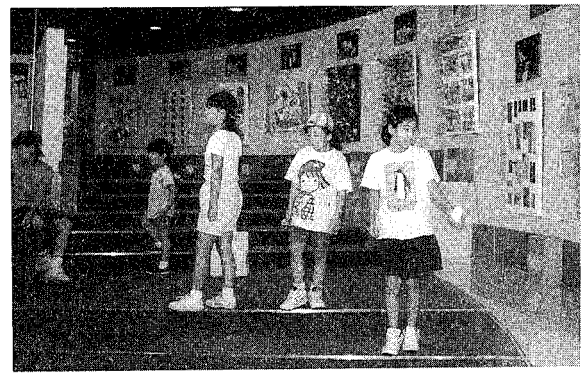
3　造形事業部の活動

(1)　7年度活動一覧

1）平常期間プログラム

名　　称	期　　間	備　　考
やってみよう！ つくってみよう！	4.11~23 5.10~7.20	開館10周年記念「第10回造形スタジオ展」に向け，9年間の活動プログラムからテーマを組み替え，プログラム内容を検討し実施した。
第8回 遊びと造形発想展 －かえる・かわる・ みちがえる－	6.10~25	造形作家，大学講師などで構成される「遊びと造形発想の会」と共催で実施してきた展覧会。造形の発想の視点をテーマに，展覧会を通して，造形のおもしろさを発見し，体験するものである。今回のテーマは「かえる・かわる・みちがえる」。ギャラリーで開催。
やってみよう！ つくってみよう！	9.7~10.27	9年間の活動プログラムの中から「動き」や「光」を取り扱ったものを選び，その内容に検討を加え実施した。
第6回遊びと造形発想セミナー	12.9	“遊び心”をキーワードとして造形の発想をとらえなおすことを目的に，身近な材料と道具を使ってできる楽しい造形の方法と作品を紹介するセミナー。第6回目の今回は，「しかけのあるグリーティングカード」を制作した。
こども歳時記 「節分」	1.17~2.3	「節分」の鬼にちなんだプログラムを実施した。プログラムは「オニかめん」と「マリおにット」。
やってみよう！ つくってみよう！	2.4~18	9年間の活動の中から，「動き」や「光」の内容を持ったプログラムを選び，その内容に検討を加え実施した。プログラムは「ゆきんこひらひら」と「うごくかげえ」。
こども歳時記 「ひなまつり」	2.20~3.3	季節行事の「ひなまつり」にちなんだプログラムを実施した。プログラムは「ちびなかざり」と「プリントびな」。
やってみよう！ つくってみよう！	3.5~17	9年間の活動の中から，「動き」や「光」の内容を持ったプログラムを選び，その内容に検討を加え実施した。プログラムは「おもしろカード」と「バッタマン」。

第10回造形スタジオ展（会場入口）


第10回造形スタジオ展（会場）

2）特別期間プログラム

名　　称	期　　間	備　　考
〈児童福祉週間〉 こども歳時記 「こどもの日」	4.25～5.7	「こどもの日」にちなんで大きな帽子状のこいを作り身に着ける「こいかぶり」と竹と丸太を使い動く機構の「ゆれるこい」を作った。
〈　〃　〉 ブルーノ・ムナーリ 巡回展示キット展	4.29～5.14	昭和60年（1985年）に開館記念事業として行われた「ブルーノ・ムナーリ展」での展示作品から〔こどもの城〕のコレクションとなったグラフィック・アート，プレイシングズ，絵本，オブジェなどで構成された展示。本年度から〈動くこどもの城〉の事業プログラムの1つとなり，新たに全国の児童館に巡回展示することになった。ギャラリーで開催。
〈夏休み〉 開館10周年記念 第10回造形スタジオ展 手から心へ Hands-on to Minds-on	7.21～9.3	開館10周年を記念して，過去9年間の活動から造形スタジオでの活動がふかんできるようにプログラムをセレクトし，実施した。また，ギャラリーでは，「素材との出会い展」「造形発見展」「オープンスタジオ」「その他の活動」のテーマ別に作品パネルを展示し，同時にワークショップも実施した。
〈開館10周年記念〉 第2回親子体験ワークショップ「カーニバルハットをつくろう」	10.28～11.5	国際家族年記念「親子ワークショップ」の第2回。開館10周年記念「ビクトル・ダミコ展」のプログラムから「カーニバルハット」を親子でともに作り楽しめるようにアレンジし実施した。
〈　〃　〉 ビクトル・ダミコ展～ こどもアートカーニバル in Tokyo	10.28～12.3	開館記念事業「ブルーノ・ムナーリ展」，開館5周年記念「フランツ・チゼック展」に続く〈子どもの健全育成のための活動を行っている芸術家や美術教育家の展覧会〉シリーズの第3回目である。ニューヨーク近代美術館の初代教育部長として，美術の力を美術館だけでなく日常生活を豊かにする1つの営みとして理解し，人間性を豊かにする最も内実のある行為とみなしたダミコの日本初の本格的な展覧会とワークショップを実施した（造形スタジオ＋ギャラリー）。
〈　〃　〉 特別記念講演 人間性の美術	11.18	アメリカの美術教育史家アーサー・エフランド氏によるアメリカ美術教育におけるビクトル・ダミコの歴史的意味および今日の美術教育におけるビクトル・ダミコの影響についての講演会。研修室で開催。
〈冬休み〉 こども歳時記 「クリスマス」	12.5～24	過去9年間のプログラム活動から季節に即したものをピックアップして実施した。クリスマスをテーマに「ふわふわツリー」，共同制作の「インディアンドン・ツリー」，石膏を使った「白いクリスマス・ツリー」を実施した。
〈　〃　〉 こども歳時記 「お正月」	12.26～1.15	過去9年間のプログラム活動から季節に即したものをピックアップして実施した。お正月にちなんで「おもしろ絵馬」，「絵・ねんど・コラージュ」，「おめで竹」を実施した。
〈春休み〉 オープンスタジオ 造形動物園	3.19～4.7	動物をテーマに，紙，木，金属，粘土などの材料，はさみ，のこぎりなどの道具とそれぞれの方法との関係を年齢別に分かりやすく提示したワークショップ活動。

3）講座・クラブ

〈講座〉

名　　称	対象・定員	受講数	曜　日・日　時	備　　考
	(人)	(人)		
こどもクリエイティブクラブ　A	小1～高3 (各11)	① 9 ② 10 ③ 11	火曜日　16:00～17:30	紙，木，金属，土，ガラス，プラスチックなどさまざまな素材を使いながら，専任の造形指導員による多彩で活発な造形活動を総合的に実施した。本年度は火曜日から土曜日まで基本的に同じプログラムを実施した。 今回のプログラムは「こどもクリエイティブクラブ」や「造形教室」などで実施してきたプログラムを基に小学1年生からでも楽しく制作できるように改良を試みた。また，基本プログラムが同じでも担当指導員によってそれぞれに改良を試みた。プログラムは，1期に「石のおめん」「リサイクル・アート（虫のすみか）」「木をみがこう」，2期に「スポンジはんが」「メカニック・キャッスル」「クリスマス・ボトル」，3期に「はがすコラージュ」「カンカンギター」「ゴーゴー・カーレース」を実施した。 (受講料年間　58,000円)
〃　B		① 11 ② 11 ③ 11	水曜日　〃	
〃　C		① 11 ② 11 ③ 12	木曜日　〃	
〃　D		① 12 ② 11 ③ 11	金曜日　〃	
〃　E		① 11 ② 11 ③ 11	土曜日　〃	

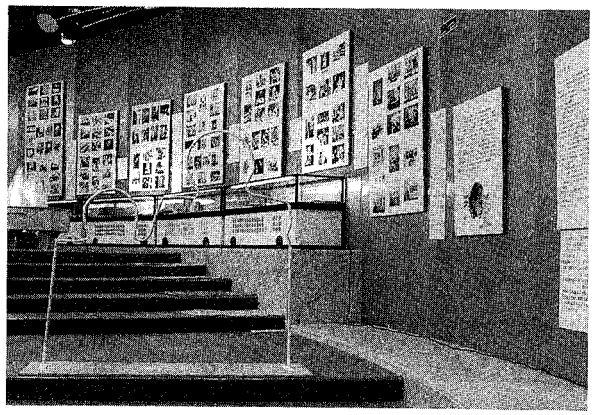
開講回数：1期(4～7月）は，火・水・土曜日コース＝9回，木・金曜日コースは8回
2期(9～12月）は，火・木・金曜日コース＝10回，水・土曜日コースは9回
3期(1～3月）は，火曜日コース＝7回，水・木・金・土曜日コースは8回　　講師はすべて〔こどもの城〕専門職員

〈短期集中講習会〉

名　　称	対象・定員	受講数	曜　日・日　時	備　　考
	(人)	(人)		
夏休み造形教室A タイル・タウン	小3～高3 (各日10)	4日間計 40	7.25～28 12:30～17:00	発泡スチロールで建物の型を作り，いろいろな色のタイルをさまざまな形に切り，発泡スチロールを覆うように張り合わせる。ベニヤ板にもタイルを張り地面にする。タイルとタイルのつなぎ目にタイル目地材を埋め込むと「タイル・タウン」の完成である。
〃　B 動物カリンバ	〃	〃 40	8.1～4 12:30～17:00	「カリンバ」は，親指ではがねを弾くと不思議な音の響きを持ったユニークな民族楽器の1つである。子どもたちは，自分ではがねをたたき，動物の形の共鳴箱を作り，自分だけの「動物カリンバ」を作った。
〃　C 造形木箱	〃	〃 40	8.8～11 12:30～17:00	1枚の長い桂板から大きな木箱を作った。寸法を計り電動糸のこで切り，箱の部材を作ることから始める。くぎを使わず，ほぞを組み込んで箱にする。ふたには，バーニングペンで模様を描き，自分だけの宝箱を完成した。
〃　D コラージュ・ブック	〃	〃 40	8.15～18 12:30～17:00	自分自身の顔をモチーフにしてシルクスクリーンの版を作り，手触りや色の違う紙や木，セルなどいろいろな素材に版を刷る。刷り上がった版画をさまざまな形に切り，コラージュして1冊の自画像の本を制作した。
〃　E メカニック・ワールド	〃	〃 40	8.22～25 12:30～17:00	ボールの器に粘土を詰め，歯車，ボルト，工具などで型押し，半球体の雌型を作る。1：1の割合で水に溶いた石膏をその型に流し込み，できた凹凸の石膏の半球体の塊にスプレーラッカーで着彩し，ミニチュアの人形を取り付け完成。

4）その他

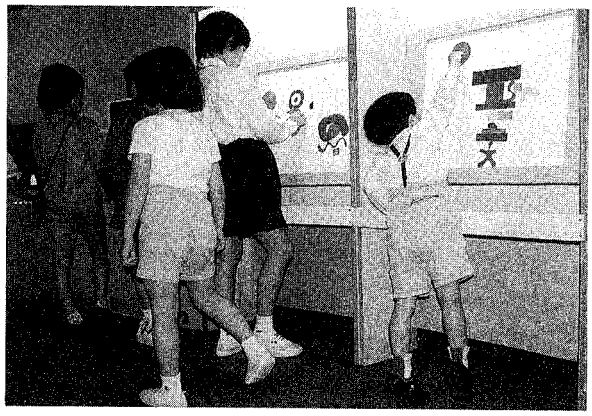
名　　称	期　　間	備　　考
〈動くこどもの城〉 ブルーノ・ムナーリ展	9.19~10.8	本年度から〈動くこどもの城〉の巡回展示プログラムになった「ブルーノ・ムナーリ展」の1回目の巡回展である。展示および指導員向けのワークショップ「木をつくろう」「さまざまなかたち」を実施した。霊山こどもの村（福島県）。
〃 造形ワークショップ	10.3	展示スペースがないため，児童厚生員への実技講習会のみ実施した。造形スタジオでの企画，運営から具体的なプログラムを生み出すまでの話を基に実際のプログラム体験をした。宮崎県立図書館。
〃 造形ワークショップ	10.18	「素材との出会い展」「造形発見展」「オープンスタジオ」のプログラムパネルを構成し，展示した。併せて，児童厚生員の実技指導も行った。造形スタジオでの企画，運営から具体的なプログラムを生み出すまでの話を基に実際のプログラム体験をした。ＰＯＭ広島県府中市こどもの国。
〃 ブルーノ・ムナーリ展	10.18~31	展示および指導員向けのワークショップを実施した。東村山市保健福祉部児童課（東京都）の主催で，東村山市の富士見児童館で実施。
武蔵野市わくわく親子事前研修会	1.10	武蔵野市（東京都）の私立幼稚園教諭約80人を対象にした実技講習会。パネル展示はできないので，小パネルにプログラム見本をポートフォリオのような形で提示しワークショップを実施した。



会場風景（ギャラリー）

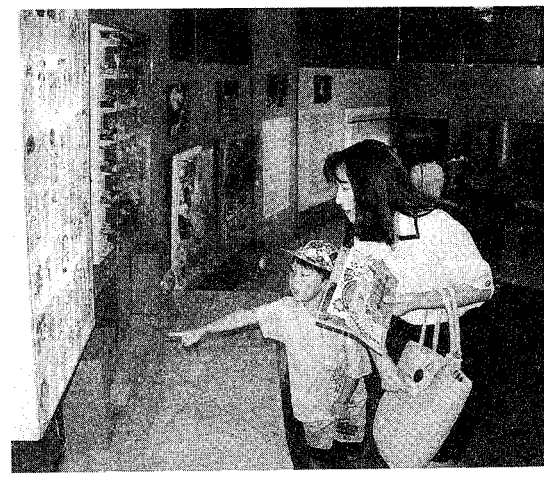
ビクトル・ダミコ展
～こどもアートカーニバル～

〈ワークショップエリア〉で
制作活動をする子どもたち



〈モチベーション・エリア〉の“美術玩具”で遊ぶ子どもたち

(2) 造形事業部の活動


子どもたちの作品を熱心に見る親子
（第10回造形スタジオ展）

開館以来，造形スタジオは，子どもたちの制作意欲などを刺激し，豊かな感性やクリエイティブな発想がはぐくまれいくことを目指して，単に作ることだけでなく，さまざまな造形活動の中で子どもたちの全身的な成長をうながす環境作りを行ってきている。

これまでと同様に，①一般来館児へのワークショップ活動 ②講座・クラブ活動 ③グループ活動の３つの主要な活動を実施した。

造形スタジオの最も重要な日常活動の「一般来館児へのワークショップ活動」では，平成６年９月から平成８年３月までの間，開館以来９年間にわたり造形スタジオが開発し，実践を続けてきたオリジナルプログラムから，内容を再検討したり，更に新しい要素も付け加えながら，代表的なプログラムをほぼ２週間単位で切り替え，実施した。

これまでの「展示・体験・制作」という基本コンセプトに加え，プログラムに応じて改めて環境設定を行い，その環境に子どもたちが積極的にかかわっていけるようにプログラムを展開した。

夏休み特別期間には，アトリウム・ギャラリーと造形スタジオの２か所で，10年間のプログラムの集大成として，「第10回造形スタジオ展～手から心へHands-on to Minds-on」とワークショップ活動を実施した。

そして，開館記念特別事業「ブルーノ・ムナーリ展」，開館５周年記念事業「フランツ・チゼック展」に続く開館10周年記念事業として「ビクトル・ダミコ展～こどもアートカーニバル in Tokyo」を開催した。

講座・クラブの活動では，「こどもクリエイティブクラブ」として５つのコースを実施した。少人数によるメンバー制のクラブだが，本年度は，造形スタジオでの一般活動と同様に，今までの活動からの選出したプログラムを中心に行った。

平常期間の午前中はグループ活動。受け入れの総合案内課と協力して従来の

プログラムどおり造形スタジオの運営を行った。

1）平常・特別期間の活動

(ア) オープンスタジオ　やってみよう！　つくってみよう！

（平常期間＝4.11～23，5.10～7.20ほか）

前年度の9月から引き続いて実施した「オープンスタジオ　やってみよう！　つくってみよう！」では，開館以来9年間に造形スタジオで開発・実施してきたプログラムから，テーマを組み替え，内容を再検討し，更に新たなプログラムを加えながら，ほぼ2週間ずつ親子プログラムと高学年プログラムの2種類を行った。

これまで造形スタジオでは展示・体験・制作のワークショップ活動を基本に3つの大きな企画を柱に実施してきている。「素材との出会い展」「造形発見展」「オープンスタジオ」である。

身の回りにある造形素材を単に造形的な立場からだけでなく，生活者の立場からも見直し，子どもたちが素材の来歴を知って，広くかかわり，手を動かし，制作の過程で素材の特質を体験していく，従来にない視点を持つ活動が「素材との出会い展」である。

「造形発見展」の企図は，素材そのものを造形活動の中心におくのではなく，子どもたちの視点・発想を広げるために，造形と直接かかわりのないと思われるもの，例えば音や光や空気などと造形と結び付け，造形の表現領域の拡大を目指したワークショップである。

また，“道具と素材と技法”の密接なかかわり合いを，具体的な制作物や制作を通して体験するワークショップが「オープンスタジオ」である。

それぞれのワークショップのテーマは異なるが，子どもたちにテーマに含まれているいろいろな造形要素を体験させるために環境を設定していくということが，一貫している。

「スタンディング・モビール」を作る子ども

テーマを組み替える作業は，1つ1つのプログラムに内在していた造形的要素に改めてスポットを当てることになった。また，造形的要素以外の要素と組み合わせることで，変化するプログラムもある。例えば，プログラムに季節感を要素として組

み込むことで，子どもたちのイメージは広がりを見せたり，同じ素材・技法を使っても，より身近なテーマをとることで制作の幅が広がり，充実した作品が多く生まれた。これらのことから，プログラム自体が生命を持ち，固定化したものではなく，いろいろな外的要素を取り込んだり，造形的要素にスポットを当てることで発展していく現在進行形のものであることを再認識できた。

こどもアートカーニバル「カーニバルハット」

(イ) 開館10周年記念　第10回造形スタジオ展

「手から心へHands-on to Minds-on」(夏休み特別期間＝7.21～9.3)

これまでの造形スタジオの活動内容を見直し，再構成することを目的にした展覧会とワークショップをギャラリーと造形スタジオの2か所で開催した。「手から心へHands-on to Minds-on」という副題を付け，10年間の活動の集大成としてワークショップ活動と展示を行った。

この副題は，直接物に触わり，制作にかかわる子どもの“手”が感じる質感，表面性，硬軟，温感などを体験するさまざまな行為から，それを受け止める子どもの感性が育てる“心”へと，行為が心へ結び付いていくそのような階梯を「手から心へ」と表現した。造形事業部が開館以来追求してきた「子どもとの造形活動」を象徴的に示している。

(ウ) オープンスタジオ　やってみよう！　つくってみよう！(平常期間＝9.7～10.27ほか)

第10回造形スタジオ展までと同様に開館以来9年間に造形スタジオで開発・実施してきたプログラムから，テーマを組み替え，内容を再検討し，更に新たなプログラムを加えながら実施した。「素材との出会い展」「造形発見展」「オープンスタジオ」と，それぞれに3つのワークショップのテーマは異なっているが，子どもたちがテーマに含まれている要素の何を体験してゆくか，それがスタッフの造形環境の設定にかかわる一貫した課題である。

プログラムは9月からほぼ2週間ずつ，親子プログラムと高学年プログラムの2種類を期間中行った。それぞれに大きなテーマは掲げなかったが，“光”“動く”などをキーワードにプログラムを再構成・実施した。

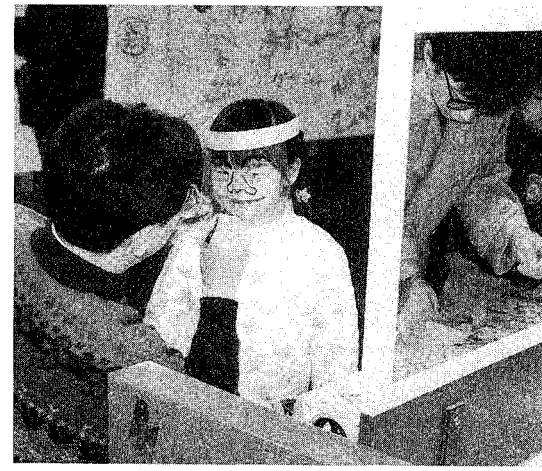
(エ) 開館10周年記念「ビクトル・ダミコ展～こどもアートカーニバル in Tokyo～人間性の美術」(開館記念特別期間＝10.28～12.3)

(開館10周年記念事業の項参照)

(オ) こども歳時記（冬休み特別期間＝12.5～1.15ほか）

冬休み特別期間は「こども歳時記」と題した季節感を重視したプログラム構成で「クリスマス」と「お正月」の2部構成で実施した。

新聞紙で作る「ペーパー・クリスマス・ツリー」は，造形スタジオを訪れた子どもたちの共同作業で徐々に大きく高く作り上げられてゆき，時間とともに作品自体が変化していく参加型インスタレーション的なプログラムといえる。また，2月，3月には「節分」「ひな祭り」を実施した。



こども歳時記「節分」

(カ) 春休みオープンスタジオ「造形動物園」（春休み特別期間＝3.19～4.7）

春休みには，これまでのプログラムの中から，材料，技法，道具の関係を再検討し，改めてプログラムを作り直した。そして，動物をサブテーマに「オープンスタジオ～造形動物園」を実施した。

「オープンスタジオ～造形動物園」は造形スタジオを「紙」（親子コーナー），「粘土」「絵の具」（新小学校2年生からのコーナー），「木」「金属」（新小学校4年生からのコーナー）に分け，それぞれの素材を生かすための方法を体験的に学びながら，素材に合った道具を使い「動物」を作った。

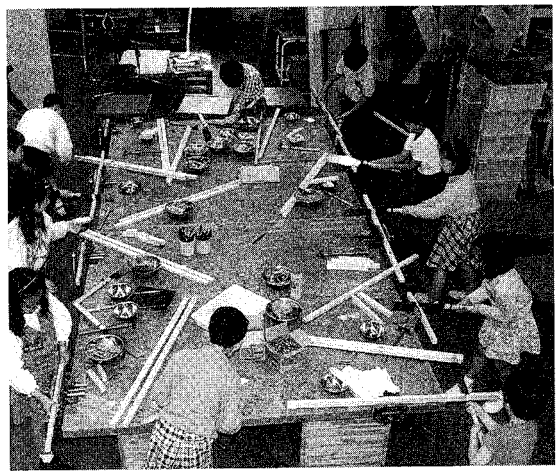
2）講座・クラブ

(ア) こどもクリエイティブクラブA，B，C，D，E

「こどもクリエイティブクラブ」は，少人数の受講生によるメンバー制のクラブである。本年度は，一般活動と同様に9年間の「こどもクリエイティブクラブ」や「造形教室」でのプログラムを検討し，火曜日から土曜日まで基本的に同じプログラムを実施した。

1期は，紙，粘土，廃材，木などを使った素材からのアプローチを重視したプログラムを実施した。障子紙を何層にも石に張り付けて型取りして作る「石のおめん」。いろいろな機械部品などを分解し，紙粘土と組み合わせて虫を作り，角材を組んで作った「虫のすみか」。丸太を切り，やすりで磨いた後，更に蠟（ろう）で磨いてつやを出して飾りびょうを打った「木をみがこう」。以上の3プログラムを実施した。

2期は，技法を中心にとらえ，ユニークな版画技法の「スポンジ版画」，と石



こどもクリエイティブクラブ

膏の型取り技法を使った「メカニック・キャッスル」，いろいろな素材と方法を合わせ，見て楽しい「クリスマス・ボトル」を実施した。

3期は作って遊べるものをテーマにし，色クラフトテープを何層にも張り，カッターで切った場所で色の違う「はがすコラージュ」，空き缶を共鳴体にした「カンカンギター」，角材，丸棒，ゴム，スポンジなどで作る動く車「ゴーゴー・カーレース」を実施した。

それぞれ，曜日で担当者が変わっても，プログラム自体が持っているおもしろさや素材や技法の体験を子どもたちは，それぞれに楽しめたようである。

造形

3）グループ活動

「かげをうつそう」「木をつくろう」「粘土のジャングル旅行」そして，10周年記念「ビクトル・ダミコ展」のワークショッププログラムを実施した。

依然として，インターナショナルスクールとの打ち合わせ時の先生と，実施担当の先生が違っており，実施内容が十分に伝わっていないことがあった。確認作業をする必要がある。

4）その他の活動

(ア) 第8回〈遊びと造形発想展〉(6.10～25)

〈遊びと造形発想展〉は，昭和63年から毎年ギャラリーを会場として，遊びと造形発想の会と共催で実施してきた展覧会である。

遊びと造形発想の会は，長年にわたって「造形の基礎とは何か」を実践的に追求するかたわら，数多くのデザイナーや造形作家，造形教育専門家を育ててこられた高山正喜久氏（元筑波

グループ活動「木をつくろう」

大学教授）の活動に賛同する造形教育関係者で構成されたグループである。

今回は，「かえる・かわる・みちがえる」といテーマで伝統的な遊びを含めて，なるべく手を加えずに物を変身させるというアイディア（着想）をいろいろな造形の観点から紹介し，造形発想へのアプローチを試みることを軸とした。大学・専門学校など，それぞれの現場で実践しているプログラムやカリキュラムの中から，テーマに基づいた児童・生徒・学生の作品を選び，展示を行った。今回も，来場した人たちの直接の質問や展示内容について，会の代表高山氏をはじめとした展示作品指導者自らが説明とQ＆Aの場として6月17日に「ギャラリートーク」を開催した。また，造形スタジオのプログラム「わりばしオブジェ」を会場で行った。

更に，12月9日には，「しかけのあるグリーティングカード」をテーマに第6回「遊びと造形発想セミナー」を研修室で開催し，造形指導関係者など約20人が参加した。

5）実施プログラム一覧

(ア)　「やってみよう！　つくってみよう！」

プログラム名	実施期間(対象)	内　　容
マキマキプルルン	4.11～23 (一般親子)	真ちゅう線をラミン棒に巻き付けて，押しばねを作る。ばねの片方の端を10cm角くらいのラシャ紙に糊で接着し，ユラユラと動く機構を作る。ばねの反対の端には動物や車，飛行機など動くものをラシャ紙で作り，接着。指で軽く弾くとユラユラ動く。
アルミバッジ	4.11～23 (小３以上)	0.4mmの厚さのアルミの板に下書きをしたトレーシングペーパーを当て，ボールペンでなぞる。紙をはがすと下書きの線が薄くアルミ板に写っている。たがね，金づち，いもづちなどを使い，鍛金（たんきん）技法でレリーフ状のバッジを作る。
こども歳時記「こどもの日」 こいかぶり	4.25～5.7 (一般親子)	大きくて長い紙を半分に折り，大きな横長の帽子を作る。クレヨンで模様を描いたり色紙を張ってこいのうろこなど飾りを付ける。できた「こいかぶり」を頭にかぶると，子どもたちは元気に川を泳ぐこいのようである。
こども歳時記「こどもの日」 ゆれるこい	4.25～5.7 (小４以上)	竹を輪切りにして，小刀で竹を削ってうろこにする。こいのあごあたりにドリルで穴を開け，竹ひごを通す。12cm径くらいの丸太を適当な厚さに切り台座にする。台座の中心にドリルで穴を開け竹ひごを挿して完成。こいはユーモラスに動く。
カズー	5.10～21 (一般親子)	紙の中心部分を折り，はさみで吹き口を切る。直径３cmくらいの塩ビパイプに紙を巻き付けて，重なり部分を接着する。片方の口にハトロン紙を張り，胴体部分には，ラシャ紙などで飾りを付ける。塩ビパイプを抜き，吹き口に口を当てしゃべると声が震えた音に変わる。
平面だいこ	5.10～21 (小３以上)	３mm厚のベニヤ板に太鼓全体の形とたたく面（皮面）を考えながら，下書きをし電動糸のこで切る。紙やすりで磨き，板全体に下地の色を塗る。乾燥したらトレーシングペーパーを張り，ポスカで模様を描く。ビニールテープを巻いた竹ひごをばちにしてたたいてみると……。
シェクシェク	5.23～6.4 (一般親子)	Ｂ５サイズのピーチコート紙を半分に折り，セロハンテープでＬ字に口を止め，残った１つの口から小石を入れる。袋の口をテトラパックのようになるようセロハンテープで留める。マラカスのように振って音を楽しむ。
ケロケロブンブン	5.23～6.4 (小３以上)	４cmくらいの紙管をのこぎりで６cmくらいに切り，片方の口にトレーシングペーパーを張る。紙管の胴体に飾りを付け，トレーシングペーパーの中心に小さな穴を開け，たこ糸を通し，２cmくらいの竹ひごに結んで留める。たこ糸を輪にして，松やにを付けたラミン棒に取り付け，回すと，まるでせみかかえるが鳴いているような音がする。
ポコポコ糸だいこ	6.6～18 (一般親子)	紙コップをひっくりかえして，胴体に割りばしを留める。紙コップの底の中心に小さな穴を開け，てぐすを通し，割りばしにピンと張るように結び付け，弾いて音を出す。
パンフルート	6.6～18 (小３以上)	マーカーなどのキャップとビニールホースを組み合わせた手作り楽器。ホースの長さを変えて音の高低を決め，ベニヤ板で挟んで持ちやすくする。
ＵＦＯクルリン	6.20～7.2 (一般親子)	スペシャリテーズという鏡のような特殊な紙で円すい形のＵＦＯを作る。表面に蛍光紙で模様を付け，ブラックライトの部屋で回すと蛍光紙はライトに反応して光る。
コロコロ	6.20～7.2 (小２以上)	セロハンテープの心の片面に，同じ直径のケント紙にポンチで穴を開け，色セロハンでステンドグラスのようにしたものを張る。残った片面にトレーシングペーパーを張ってスクリーンにし，コロコロマシーンに入れると動く万華鏡になる。
ウインクめがね	7.4～16 (一般親子)	青と赤の２色のマーカーで１枚の紙に２とおりの絵を描く。青と赤のセロハンで左右の色が違う眼鏡を作る。ウインクして，青のセロハンを通して見ると，赤の絵が，赤のセロハンを通すと青の絵が見える。

プログラム名	実施期間(対象)	内　　容
ひかりのステージ	7.4～16 (小2以上)	B5サイズくらいの大きさのラシャ紙を半分に折り，はさみで額縁のように切る。紙を開き，トレーシングペーパーを張り，色セロハンやカラペなどを切り，模様や絵を作る。紙の縁をのり付けし，光を通して見るとすてきな「ひかりのステージ」になる。

(イ) 「開館10周年記念　第10回造形スタジオ展 手から心へ Hands-on to Minds-on」

プログラム名	実施期間(対象)	内　　容
リング・リング・リング	7.18～8.6 (一般親子)	塩ビパイプに新聞紙を巻き，粘土の輪を張り付けていく。パイプの上まで粘土の輪をつなぎ，パイプと新聞紙をゆっくり抜き取ると，リングの塔の完成。
くっつけむし	7.21～8.6 (小1以上)	白いラシャ紙に床用両面テープを張る。両面テープに小枝，葉っぱなどを組み合わせて，虫を作る。
かざりタイル	7.21～8.6 (小3以上)	10cm角のタイル状の柔らかな粘土に貝，工具などいろいろなものを型押しし，石膏で型取りする。
はっぱのはがき	7.21～8.6 (一般親子)	経木と白紙をのりで張り，葉っぱの形に切る。片側に葉っぱの模様を描き，反対側に手紙を書く。自分だけの「はっぱのはがき」ができる。
はんしゃめがね	8.8～20 (一般親子)	スペシャリティーズという鏡のような紙の裏からボールペンで絵を描く。トレーシングペーパーを張った虫眼鏡のようなスクリーンに反射した絵が浮き出る。
コロコロ	8.8～20 (小2以上)	セロハンテープの心の片面に，ポンチで穴を開けたケント紙に色セロハンを張ったものを張る。残った片面にトレーシングペーパーを張り，コロコロマシーンに入れると動く万華鏡になる。
バンブーじゃらん	8.8～20 (小4以上)	竹の張力を用い，涙（なみだ）型の枠を作る。木や金属などの音の出る材料にくぎで穴を開け，アルミ針金を通す。竹の枠に取り付けて振ると，不思議な音が出る。
シェクシェク	8.8～20 (一般親子)	ピーチコート紙で牛乳のテトラパックと同じ袋を作る。袋の中に小石を入れて振るとシェクシェクとマラカスのような音がする。
マペット	8.22～9.3 (一般親子)	ラシャ紙を手でよくもんで和紙のように柔らかくする。封筒のような形にのり付けし，飾りを付ける。手を入れて動かす。
つちでえをかこう	8.22～9.3 (小1以上)	段ボール板の表面を1枚はがし，木工用ボンドと土を塗る。その上に絵の具を混ぜた土で絵を描く。
スタンディング・モビール	8.22～9.3 (小4以上)	アルミの板を電動糸のこで切り，台を作る。アルミ針金を巻いたり，たたいて“やじろべい”のようにバランスをとり，台に取り付ける。
いとはんが	8.22～9.3 (一般親子)	3層の段ボールにクラフトテープを裏返して両端をセロハンテープで張り，粘着面に糸で絵を描く。インクを付け，スタンプにする。

＊「リング・リング・リング」は先行プログラムとして実施

(ウ) 「やってみよう！　つくってみよう！」

プログラム名	実施期間(対象)	内　　容
シースルーブック	9.7～24 (一般親子)	横長のトレーシングペーパーとラシャ紙を組み合わせ，中心をホッチキスで留める。マーカーと色ラシャ紙で張り絵をして，透けて見える絵本を作る。
ハリガネ・サーカス	9.9～24 (小4以上)	サーカスに登場するような動物などをラジオペンチなどで針金を曲げ，はんだ付けして作る。

プログラム名	実施期間(対象)	内　　容
あなあきえほん	9.26～10.8 (一般親子)	ラシャ紙にポンチで穴を開け，穴の形を生かした絵を描く。ページをめくるとまた，違った絵が見えてくる。
くるくるえほん	9.26～10.8 (小1以上)	巻物のように細長い紙に竹ペン，マジック，筆，ボールペンなどいろいろな描画用具で絵を描く。
ころりん	10.10～22 (一般親子)	ラシャ紙にポンチで穴を開ける。同じ大きさのケント紙にマーカーで絵を描く。ケント紙を内にして丸い筒を作る。「ころりん」は，木の重しを付け，転がすがん具。
ギャロッパー	10.10～22 (小4以上)	木っ端を木工用やすりで削り，動物などを作る。セロハンテープの心の強さと輪ゴムの張力を用い，木の動物を挟んで，指で弾くと動くがん具を作る。

(エ)　「開館10周年記念　ビクトル・ダミコ展－こどもアートカーニバルー」

プログラム名	実施期間(対象)	内　　容
カーニバルハット	10.24～11.5 11.18・19 (一般親子)	1枚の大きなラシャ紙を大人と子どもで分ける。頭の大きさに合わせて，丸めて筒を作る。頭にかぶる部分をはさみで切り込みなどを入れたり，色ラシャ紙で飾りを付けたりする。
ワークショップ	10.28～12.3 (5歳以上)	「モチベーション・エリア」のアート遊具などで触覚や光や色の体験をした後，その体験を基に，または，自由に「ワークショップ・エリア」でいろいろな素材を選びコラージュをする。更に，4色の絵の具で絵を描く。
スペース・デザイン	11.7～19 (一般親子)	ストローに竹ひごを通し，回転体を作る。直径6cmくらいの円を3枚切り，ストローを中心にして張り，羽のように吹くと回るようにする。羽自体に色を付けたり，周りを飾る。息を吹き，羽を回すと，色や模様が変わる。
かわりえクルクル	11.21～12.3 (一般親子)	型紙を使い大きさの違う2つの円を切る。大きな円と小さな円の2つを組み合わせ，中心に穴を開けはと目で留める。1つ絵を描いたら，円を動かし，2つ，3つと絵を描いていく。円を回すと絵や模様がくるくると変わる。

＊「カーニバルハット」は先行プログラムとして実施

(オ)　「冬休み特別期間プログラム」

プログラム名	実施期間(対象)	内　　容
こども歳時記「クリスマス」 ふわふわツリー	12.5～24 (一般親子)	少し厚手の紙の中心にポンチで穴を開け，カラペという薄い色紙の端を穴に差し込み接着する。カラペを木のような形に膨らませ，飾りを付けツリーを作る。
こども歳時記「クリスマス」 白いクリスマスツリー	12.5～24 (小3以上)	壁紙を三角に切り，木工用ボンドを塗り，毛糸などを張る。円すい形にし，テープを張り石膏を流し込む。乾燥したら台座を付けてツリーの完成。
こども歳時記「クリスマス」 インディアンドン・ツリー	12.19～24 (小1以上)	A4サイズくらいの大きさの障子紙にセロハンや布などでコラージュする。高さ約3mの四角すいの自然木の枠に次々と張り，巨大な光のツリーを作る。
こども歳時記「お正月」 おもしろ絵馬	12.26～1.15 (一般親子)	経木とラシャ紙を張り合わせ，絵馬の形に切る。いろいろな種類の紙でコラージュする。裏には願い事を書いて飾る。
こども歳時記「お正月」 絵・ねんど・コラージュ	12.26～1.15 (小1以上)	たたく，延ばす，つまむ，丸めるなどの粘土の基本的な技法を体験しながら，動物などを作った後で，4色の絵の具で絵を描く。
こども歳時記「お正月」 おめで竹	12.26～1.15 (小4以上)	2つ割りにした竹の内部に，木，毛糸，ゴムなどで仕掛けを作り，開くと飛び出す，ゆかいな竹の箱を制作した。

(カ) 「やってみよう！　つくってみよう！」

プログラム名	実施期間(対象)	内　　容
こども歳時記「節分」 オニかめん	1.17～2.3 (小1以上)	20cm角くらいの透明ビニールシートに帯と輪ゴムのベルトを付ける。顔にかぶり，鏡を見ながら油性マーカーで鬼の顔を描く。
こども歳時記「節分」 マリおにット	1.17～2.3 (小3以上)	セロハンテープの心を胴体にし，帯ゴムを手足にする。手足の先と頭に細い針金を付け，マリオネットの構造を仕立てる。
ゆきんこひらひら	2.4～18 (一般親子)	風車のように風で回転するがん具。雪の結晶のような形の型紙を写し，切り取る。マーカーで模様を描き，ストローに糸でつなぎ，持って走ると回転する。
うごくかげえ	2.4～18 (小3以上)	動物など動くものを下書きする。手，足，頭など動かしたい部分には，割りピンを付ける部分を足す。厚手のボール紙を切り組み合わせ，取っ手を付けて完成。
こども歳時記「ひなまつり」 ちびなかざり	2.20～3.3 (一般親子)	繭玉くらいの大きさの焼成した粘土に水性マーカーで顔を描く。段ボールの板をひな壇にして，色紙などで飾りを付け1対のひな飾りを作る。
こども歳時記「ひなまつり」 プリントびな	2.20～3.3 (小3以上)	円すい形に型取ったボール板にわら，毛糸，布など触感の違う素材でコラージュする。おびな，めびなの2種類を作り，布に刷る。円すいに接着して完成。
おもしろカード	3.5～17 (一般親子)	ラシャ紙を半分に折り，1本または2本の切り込みを入れる。L型，掘り起こしなど「とびだす絵本」に使われている機構を使ったカード作り。
バッタマン	3.5～17 (小3以上)	セロハンテープの心の1か所に2cm角，幅5cmくらいの木をくぎで打ち付ける。ラシャ紙に動くものの絵を描き，木に付けて，坂を転がす。

(キ) 「オープンスタジオ　造形動物園」

プログラム名	実施期間(対象)	内　　容
シースルーアニマル	3.19～4.7 (一般親子)	新聞紙を丸めてビニール袋に詰める。膨らんだビニール袋を動物の形にしたあとにセロハンテープで固定する。手，足，耳などはラシャ紙などを切って張り付けてもよいし，細長いビニール袋に新聞紙を詰めてもよい。
絵・ねんど ・おもしろ動物園	3.19～4.7 (新小2以上)	約5kgの粘土の塊をたたいたり，丸めたり，延ばしたりと土の基本的な方法を体験しながら，ひも・板・球などの形を作り，子どもたちがそれぞれに好きな動物を作る。粘土で動物を作ったあとに，絵の具を使い動物の絵を描く。
マリオネットアニマル	3.19～4.7 (新小4以上)	自分で作りたいマリオネットの動物の図面を描く。図面を基に指導員と相談して自然木，角材などを組み合わせ，動物の体を作る。動かしたい部分にヒートン，ちょうつがい，くぎ，ねじなどを取り付け，糸，針金などで結んでマリオネットに仕立てる。

4 音楽事業部

(1) 7年度活動一覧

1）平常期間プログラム

名　　称	期　　間	備　　考
みんなでライブ！	毎週火曜日 14:30～	親子で触れ合いながら音楽を楽しむことに重点をおいた活動。手遊び，歌遊びなども，子どもだけでなく親が加わることによって幅広い展開となるように工夫している。親と子がペアになって楽しむダンスも好評で引き続き行っている。
水曜コンサート	毎週水曜日 15:30～	季節に合ったテーマを決めて，歌遊び，手遊び，パネルシアターを行った。主に，子どもたちとスタッフとで作っていくプログラムで，海のさまざまな生き物に変身する遊びでは，子どもたちは自由な発想で全身を使って表現を楽しんだ。
みんなであそぼう 木よう広場	毎週木曜日 14:30～	親子を対象としたプログラム。音楽を聴き体を使って遊び，体を動かして自由に表現をすることをねらいとしている。聴くことに重点をおき，使用楽器も固定せず民族楽器なども用いている。
木ようワンダーランド	毎週木曜日 16:00～	音楽スタッフ扮する「楽器屋さん」では世界各地の楽器を素材別に取り上げ，店長（司会者）と子どもたちのリラックスした交流のなかで，音楽や楽器の楽しさを伝えていくことをねらいとした鑑賞型のプログラム。希望者は楽器の体験もできる。
楽器であそぼう	毎週金曜日 15:00～	「サンバ」音楽を基本に，楽器を媒介としたさまざまな体験（合奏遊び）を提供することをねらいとしたプログラム。今年で5年目となる活動で，女性ボランティアとともに毎期新しいプログラムを積極的に展開している。
きいてさわって 世界の楽器	毎週土曜日 ①13:15　②15:30 人形劇のない場合 ①13:15　②14:15 ③15:30	演奏を聴く・楽器に触れる・演奏するという体験を通して世界のさまざまな音楽を楽しむ鑑賞・体験合体型のコンサート。〔こどもの城〕所蔵の楽器を駆使し，お話・クイズを織り交ぜて音や楽器のおもしろさを発見してもらうことを目指した。幅広い来館者層が訪れる土曜日の特質を生かし，子どもから大人まで楽しめる内容を提供している。
うたってHappy	毎週日曜日・祝日 ①13:00　②14:00 ③15:00　④16:00	バンド形式による弾き語り。レパートリーは童謡のほか，アニメのヒットソングやドラマの主題歌など。リクエストも多く，子どもたちが積極的にロビーの楽器を楽しめる。また，一方的ではなく，子どもたちと演奏者とのやりとりに発展を見せている。

名　　称	期　　間	備　　考
サンバコンサート	「わいわいスタジオ」が音楽事業部担当でない日曜日・祝日（隔週～月1・2回）14:30～	今までどおり，コンサートのオープニング・楽器紹介・ダンスの3部構成になっているが，楽器紹介とダンスの部分は来館者の状態を判断して，毎回説明を変えたりしながら，少しずつ新しいことを試みて，マンネリ化を防いでいる。
音楽広場		手遊び，歌遊び，リズム遊びを中心に豊富な内容で展開するプログラム。担当スタッフ1人1人の個性とレパートリーを生かした内容を行い，またパネルシアターやダンスなども豊富に加えたバラエティー豊かなプログラム。今年は小人数化を図った。
いろいろ楽器コンサート	毎週日曜日 16:30～	世界各地の楽器を演奏し，紹介する鑑賞型のプログラム。世界のさまざまな楽器を演奏し，リズムを感じさせ，楽器の特長を紹介し，居ながらにして音楽の豊かな世界を実感するプログラムであり，今後も新しい音楽を紹介していく予定。
わいわいスタジオ	日曜日・祝日（平均的に隔週）①13:30 ②15:30	親子全般を対象にしているコンサートで，特に幼児でも楽しめるような内容に構成している。アフリカ，インドネシア，ブラジル，中国などの民族音楽，ジャズやロックなど，さまざまなジャンルの音楽を取り上げるように努めている（スタジオB）。

2）特別期間プログラム

名　　称	期　　間	備　　考
〈児童福祉週間〉南の風・竹の楽器アンクルン・コンサート	4.29・30 5.3～7 ①13:30 ②14:30 ③15:30	インドネシアの竹の楽器「アンクルン」のミニコンサート。1回目と3回目は体験形式で，スタッフによる短い演奏のあとで子どもたちが伴奏部分を受け持ちアンクルン体験をした。2回目は，スタッフの演奏を聴く鑑賞型。インドネシアの曲と子どもたちが親しみやすい日本の童謡など5曲をアレンジし，また楽器の説明も織り交ぜた，変化に富むプログラム。5日はマックローも参加。
〈　〃　〉海の向こうへ音楽旅行「面白楽器博物館」	4.29・30 ①13:30 ②15:30	3人の楽器博士が登場するクイズ番組。〔こどもの城〕所蔵の楽器に加え出演者の持つ民族楽器をクイズ形式で紹介。参加者は3人の博士の演奏とコメントを聞き，正解の博士を当てる。「演奏を聴く」体験とは異なった切り口で楽器や音楽を紹介した（スタジオB）。
〈　〃　〉うたってハッピー	4.29・30，5.3～7 ①13:00 ②14:00 ③15:00 ④16:00	歌とシンセサイザー，ベース，ドラムという楽器編成のバンド形態でさまざまな歌の演奏を提供した。歌のお姉さんが子どもとコミュニケーションをとりつつ進行し，子どもたちは一緒に歌ったり，ロビーに用意されたさまざまな楽器でにぎやかに音楽を楽しんだ。
〈　〃　〉おんがくがスキ！	5.5 ①11:00 ②13:30 ③15:00	本年度は女性ボーカルをサポートメンバーとし，オリジナルの「歌」を中心としたプログラム構成を試みた。雰囲気が柔らかくなった反面インパクトに欠けた感もあった。“こどもの城らしいオリジナル性”のアピールの仕方を，改めて構成から検討したい（青山円形劇場）。
〈　〃　〉ゆったり親子のおんがく園	4.29～5.7	0～3歳の幼児と親がゆったりと音の出るおもちゃ〈音具〉で遊ぶことのできる部屋として昨年に引き続き開園した。親子の触れ合いを楽しむためのスペースとして位置づけられ，今回は〔こどもの城〕青年ボランティアのパネルシアターも行ってみた（スタジオA）。
〈　〃　〉いろいろ楽器コンサート	4.29・30，5.3～7 16:30～	世界の民族楽器を紹介するコンサート。毎回4・5種を選んで紹介した。「こいのぼり」などこどもの日にちなんだ曲も取り入れ，にぎやかなコンサートとなった。アフリカの太鼓，ブラジルのサンバ，インドネシアのアンクルンなど。
〈夏休み〉面白楽器商店街	7.21～8.31	基本構想は昨年と同じ。素材や地域・国ごとに特徴ある民族楽器や手作り楽器を扱う楽器店が音楽ロビーに立ち並び，それぞれにイベントを行った。3期に分けマンネリ化を防ぎ，リピーターにも配慮したプログラム作りを実行した。

名　　称	期　　間	備　　考
〈夏休み〉 面白楽器商店街（スタジオB）		
みんなでおどろう！ ダンスでぽん！	8.11～25 13:30	本年度の新企画。スタジオBの中に“やぐら”を組み，その周りを輪になって踊る。歌詞，曲，振り付けなどすべてスタッフのオリジナル（オリジナル曲「面商音頭」）。
和太鼓の体験	8.11～25 15:30	床にじかに置いた大きな和太鼓を使っての合奏体験。リズム遊びのプログラム。
手作り楽器の ワークショップ	8.26～30 ①13:30　②15:30	空のフィルムケースを使って鳥笛を作るワークショップ。「回す鳥笛」「かもを呼ぶ笛」をそれぞれの回に作った。小学生以上，各回の定員30人。
〈　〃　〉 ゆったり親子の おんがく園	8.12～31	ゴールデンウイークと同じ形で開園。この夏休みで1周年を迎えて，特別期間の催しとして着実に定着してきている。〈音具〉については，新しいものを増やすとともに，現在使用しているもののメンテナンスを行い，良い状態を保つよう努力している（スタジオA）。
〈開館記念〉 親子でうたって Happy Happy	10.29～11.3 ①13:00　②14:00 ③15:00　④16:00	歌とシンセサイザー，ベース，ドラムという楽器編成でさまざまな歌の演奏を提供した。歌のお姉さんが子どもとコミュニケーションをとりつつ進行し，子どもたちは一緒に歌ったり，ロビーに用意されたさまざまな楽器でにぎやかに音楽を楽しんだ。
〈　〃　〉 親子でふるルン アンクルン	10.28・29, 11.3～5 ①13:30　②15:30	インドネシアの竹の楽器アンクルンの演奏を親子で体験するプログラム。本年度は，音楽ロビーというオープンなスペースで幅広い年齢層が楽しめるようにした。子どもの体験だけではなく，大人だけで演奏にチャレンジする場面では，子どもたちが親たちに声援を送り，アンクルンの温かい音色とともに心温まる交流が持てた。
〈　〃　〉 いろいろ楽器 コンサート	10.28・29, 11.3～5 16:30	世界各地の楽器を演奏し，紹介する鑑賞型のプログラム。多人数のアンサンブル形式の音楽を中心に紹介し，珍しい楽器に加え，その独特の音楽を十分実感できる楽しいコンサートとなった。
〈　〃　〉 ゆったり親子の おんがく園	10.28～11.5 10:00～17:30 最終日は16:00まで	毎回開園のたびに好評な「おんがく園」。今回は，親子体験ワークショップというテーマのもと，新たな試みとして，自由に参加できる親子遊びの時間を作った。親から子どもへのいろいろな働きかけを提案でき，また，親子とも楽しんでいた（スタジオA）。
〈　〃　〉 わいわいスタジオ 親子で草笛コンサート	11.5 ①13:30　②15:30	草笛名人，中村進四氏を招き，体験中心のコンサートを行った。身近な草木を使い手軽に楽しめる草笛の音の出し方から，情緒あふれるメロディーの楽しみ方まで，ゆっくり体験できるプログラムとなった。幼児向けに「草笛マシン」も工夫した（スタジオB）。
〈　〃　〉 こどもの城児童合唱団 「開館10周年 記念コンサート」	11.19	開館10周年記念行事として，地域と世代を超えた音楽交流をテーマに，「こどもたちからのサウンドメッセージ～時のおくりもの」というタイトルで行った。今までこどもの城児童合唱団と交流のあった「トワエ・モア」「Z児童合唱団」「狭山第2児童館合唱クラブ」と，プロの音楽家をゲストに交え，総勢500人の大ステージのコンサートを行った（青山劇場）。
〈冬休み〉 うたってハッピー	12.23～1.7 ①13:00　②14:00 ③15:00　④16:00	恒例の，スタッフによる童謡・アニメソングなどの歌のコンサート。寒い冬に暖かな日だまりを連想させるような演奏を目指し，子どもたちも太鼓などで楽しく演奏に参加し，心も体も温まるようなハッピーなプログラムとなった。
〈　〃　〉 ゆったり親子の おんがく園	12.23～1.7	〈音具〉でゆったり遊ぶことに加え，入室した親子に珍しくておもしろい音を提供するために，前年度の松本秋則氏に続き，今回はドイツのアーチストのピーター・フォーゲル氏の「ミニマル・ミュージック・ウォール」を展示。光と影と動きによって音を楽しめる作品で不思議な仕掛けに喜ぶ姿が見られた（スタジオA）。

名　　称	期　　間	備　　考
〈冬休み〉 わいわいスタジオ どうようコンサート うたおうクリスマス	12.23・24 ①13:30　②15:30	わいわいスタジオの定番のプログラム「どうようコンサート」をクリスマスの題材で行った。音楽事業部のスタッフ3人——歌のお姉さんと人形そして音楽の3者が一体となりクリスマスの世界を繰り広げた。24日には来日していたフィンランド政府の公認サンタクロースも出演した（スタジオB）。
〈　〃　〉 南の国の音楽会	12.23・24, 1.3～7 14:30	「南の国」をイメージする音楽を提供する“ごきげん”でホットなミニコンサート。インドネシア（アンクルンなど），アフリカ（太鼓類），カリブ海（スチールドラム），ブラジル（サンバ）の音楽を日替わりで紹介した。
〈　〃　〉 いろいろ楽器 コンサート	12.23・24, 1.3～7 16:30	世界のさまざまな楽器を紹介するコンサート。1月の正月期間は，和太鼓の合奏や箏，中国の楽器などをプログラムに入れ，年始めのおめでたい雰囲気を出した。
〈　〃　〉 やってみよう！ 新春箏さらい	1.3～7 ①11:00　②13:30 ③15:30	箏の演奏を体験するコンサート。対象は5歳以上，20人。来館者の出入りの多い音楽ロビーで行ったため，短時間で簡単に体験できるよう，「かえるの歌」を体験曲目にし，また，クイズやおはやし・笛子の伴奏を入れるなど盛り上げる工夫をした。
〈春休み〉 春は元気に 1！　2！　3！	3.27～4.7　14:30	手遊び，歌遊び，リズム遊びを中心にして豊富な内容で展開するプログラム。担当スタッフ1人ひとりの個性とレパートリーを生かした内容で行い，またパネルシアターやダンスなども豊富に加えた親子で楽しめるバラエティー豊かなプログラム。
〈　〃　〉 ストリートオルガン タイム	3.27～4.7 ①13:30　②15:30	2月下旬に，新たに音楽ロビーに設置されたストリートオルガンを使った，初めてのイベント。ハウステンボス（長崎県）からやってきた異国情緒あふれる音色と美しい外観。そしてその仕組みのおもしろさをアピールしながらコンサートや演奏体験を行った。
〈　〃　〉 春はうたって Happy Happy	3.27～4.7 ①13:00　②14:00 ③15:00　④16:00	恒例の，スタッフによる童謡・アニメソングなどの歌のコンサート。来館者の多いこの時期，多人数にも十分対応でき，子どもたちも太鼓などで楽しく演奏に参加し，春らしく明るく元気なプログラムとなった。
〈　〃　〉 いろいろ楽器 コンサート	3.27～4.7　16:30	世界各地の楽器を演奏し，紹介する鑑賞型のプログラム。今回は紹介する音楽を3・4種類といつもより減らし，そのぶん，たっぷりと演奏を聴かせ，じっくりと紹介して，その独特の音楽を十分実感できる楽しいコンサートとなった。
〈　〃　〉 ゆったり親子の おんがく園	3.27～4.7	毎回開園のたびに好評な「おんがく園」。今回は，親子体験ワークショップというテーマのもと，新たな試みとして，自由に参加できる親子遊びの時間を作った。親から子どもへのいろいろな働きかけを提案でき，また，親子とも楽しんでいた（スタジオA）。
〈　〃　〉 ぼくらのサウンド'96 （青山円形劇場）	3.24　14:30	リズム・ムービングA・B・C，およびリズム・ムービング&パーカッションとパーカッション・アンサンブルの合同コンサート。宇宙をテーマに体や声，言葉を使ったリズムの表現や，オルフ楽器，パーカッションのアンサンブルをバランスよく展開。また今年はエレクトリック・アンサンブルとのアンサンブルにも初チャレンジした。
	3.24　17:30	三味線の3クラス，ガムランの2クラスのコンサート。三味線の独立した演奏の最後に，日本のわらべ歌による合同演奏を行い，ガムランの演奏に移行する構成であった。子どもたちによる司会・進行は観客を最後まで引きつけていた。
	3.25　12:30	エレクトリック・アンサンブル，集まれ！みんなのリズム（サンバ），和太鼓のコンサート。単独の演奏ではその講座の特徴が十分に発揮され，合同演奏では，「そうらん節」に挑戦。昨年の「八木節」に引き続き，更に，それぞれの個性がうまく生かされながら，はつらつとしたサウンドを生み出すことができた。
	3.26 ①13:00　②15:30	リトミック初級・Ⅱ・Ⅲと合唱講座・合唱団・混声合唱が一堂に会して「1日の生活の流れ」をテーマに行った。リトミックは，ルロイ・アンダーソンの軽快な音楽に乗せて，時計・料理・会社で働く大人・社交ダンス・学校・遊びなどをイメージした表現活動を行った。また，合唱団は，「組曲・友だち」を手話などを交えて演奏。

3）講座・クラブ

〈講座〉

名　　称	対象・定員	受講数	曜　日・日　時	備　　考
リズムムービング A	(人) 3歳児(12)	(人) ① 15 ② 11 ③ 9	火曜日　13:30～14:30 (全32回)	子どもに自分の名前を使ってリズム遊びをすることから始まって，身の回りのさまざまなことからリズムを感じさせ，子どもたちの眠っている感覚を揺り動かし，創造性を引き出し，はぐくむことを目指した活動を行っている。主にコンガ，ボンゴなどの打楽器，リズムやメロディー，ハーモニーを即興で演奏できるオルフ楽器を使用しているが，幼児のクラスはそのほかに，全身でリズムを表現したり，造形活動を行ったりしている。 受講料＝1期14,000円，2期15,000円，3期11,000円。
〃　B	4歳児(15)	① 14 ② 12 ③ 9	〃　14:30～15:30 (全32回)	
〃　C	5歳児(15)	① 12 ② 8 ③ 7	〃　15:30～16:30 (全32回)	
リズムムービング&パーカッション	小1～3 (20)	① 22 ② 21 ③ 21	火曜日　16:30～17:30 (全32回)	リズムによる自己表現も行う。更に読譜力など，音楽的基礎力の理解，打楽器演奏法の導入，オルフ楽器を使った即興演奏をするなど一歩踏み込んだ指導を行う。 受講料＝1期14,000円，2期15,000円，3期11,000円。
お母さんも一緒 リトミック初級	(組) 3～5歳児と母親 (20)	(組) ① 24 ② 21 ③ 20	水曜日　13:30～14:30 (32回)	子どもの発達段階に即したリズム遊び，歌遊び，簡単な造形活動を通して親子のコミュニケーションを図り，音楽を楽しむ心と豊かな感受性を養うことを目指している。 受講料＝1期14,000円，2期15,000円，3期11,000円。
〃　Ⅱ	4歳児と母親 (20)	① 21 ② 21 ③ 20	水曜日　14:30～15:30 (全32回)	初級で培ってきた感性や音に対する感受性を引き続き伸ばすよう心がけ，それぞれの成長の実際に合わせながら，個性豊かな発達を促すような活動へと更に高めていっている。 受講料＝1期14,000円，2期15,000円，3期11,000円。
〃　Ⅲ	5歳児と母親 (20)	① 17 ② 18 ③ 18	水曜日　15:30～16:30 (全32回)	就学を控えるころになると子どもの感受性も親離れが始まり，子どもたち同士の接触の機会が多くなる。生き生きと目を輝かせて音楽を楽しみ，遊んでいる子どもたちが印象的。「リトミックⅡ」修了者対象。 受講料＝1期14,000円，2期15,000円，3期11,000円。
おんがく星みつけた（就園前のリトミック）	2歳児と母親 (30)	① 29 ② 30 ③ 30	木曜日　10:30～11:30 (全29回)	就園前の幼児と母親が対象で，リズム遊びや手遊びを中心に，造形活動や身体表現なども取り入れた活動を行っている。母親とスキンシップをしながら楽しく音楽と遊べることを目指す。 受講料＝各期10,000円。
シンセサイザー短期講座	(人) 小5～高3 (5)	(人) ② 5 ③ 6	金曜日　17:00～18:00 (全10回)	シンセサイザーの基礎やコンピュータとの接続，レコーディングなどを体験する基本講座。 受講料＝各期10,000円。
和太鼓グループ	小3～高3 (12)	① 13 ② 13 ③ 12	土曜日　14:00～15:30 (全32回)	日本の伝統音楽の1つ，湯島に伝わる「助六太鼓」のコース。大太鼓・中太鼓・締め太鼓の3種の太鼓を使って演奏する組み太鼓。楽譜は一切使わずに，口唱歌で指導をしている。 受講料＝1期13,000円，2期14,000円，3期10,000円。
集まれ！みんなのリズム	小3～中3 (10)	① 9 ② 9 ③ 9	土曜日　15:30～17:00 (全29回)	ブラジルの独特な打楽器を使い，サンバのリズムを楽しくアンサンブルするコース。合奏だけにとどまらず多彩なリズムを生かし，体操，ゲームなどの体を使う活動も取り入れている。 受講料＝1期14,000円，2期14,000円，3期9,000円。

名　　称	対象・定員	受講数	曜　日・日　時	備　　考
合唱講座	(人) 小1～4 (30)	(人) ① 32 ② 31 ③ 30	土曜日　14:00～15:30 (全32回)	遊ぶことを通して無理なく声を出し，身体表現なども取り入れて，上手に歌うことだけではなく，体全体で音楽を表現するユニークな合唱活動プログラム。 受講料＝1期14,000円，2期15,000円，3期11,000円。
混声合唱	高校生以上 (15)	① 31 ② 30 ③ 27	土曜日　19:00～21:00 (全32回)	子どもたちに豊かな音楽や表現のすばらしさを伝えることを目指している。コンサートや合宿などのときは，常に「こどもの城児童合唱団」と活動をともにしている。 受講料＝1期14,000円，2期15,000円，3期11,000円。
エレクトリック アンサンブル	小5～高3 (8)	① 11 ② 11 ③ 12	日曜日　10:00～12:00 (全29回)	アンサンブルの中での各楽器の役割が分かりやすいバンド形式のプログラム。無限の音色が操れるシンセサイザーを活用することで，さまざまなジャンルの音楽にチャレンジしている。 受講料＝1期16,000円，2期17,000円，3期13,000円。
三味線　初級	小1～高3 (12)	① 9 ② 9 ③ 9	日曜日　10:00～11:15 (全32回)	日本の伝統音楽でありながら，日常では触れる機会の少ない三味線。五線譜に慣れている子どもたちにも，分かりやすい譜面を取り入れることや，なじみのある童謡やわらべうたから始めることによって，楽しみながら楽器に親しんでいく。進むにしたがって伝統的な長唄の曲にも取り組んでいる。青山円形劇場での「おまつり劇場」や，田島講師主宰の「佳の会」との共催の「三味線のつどい」のほか，音楽スタジオでのイベントなどにも出演した。合奏することによって，始めたばかりの子どもでも，楽しく演奏に参加している。 受講料＝1期16,000円，2期17,000円，3期13,000円。
〃　中級	小1～高3 (12)	① 7 ② 7 ③ 7	日曜日 11:15～12:30 (全32回)	
〃　上級	小1～高3 (12)	① 10 ② 8 ③ 9	日曜日　12:30～13:45 (全32回)	
ガムラン講座	小1～高3 (15)	① 15 ② 14 ③ 16	日曜日　14:00～16:00 (全32回)	インドネシアの青銅の打楽器アンサンブル「ガムラン」の初心者のクラス。さまざまな音楽的な要素が潜在しているガムラン音楽は，アンサンブルでその特異さが分かる民族音楽。 受講料＝1期16,000円，2期17,000円，3期13,000円。
おとなのための ガムラン	18歳以上 (15)	① 20	日曜日　18:00～20:00 (1期のみ)	インドネシアの代表的な民族音楽である「ガムラン」の幅広い世界を見聞し，既成の音楽感にとらわれずに，音楽の多様な可能性を体験する入門的なコース。 受講料＝17,000円。

〈クラブ〉

名　　称	対象・定員	受講数	曜　日・日　時	備　　考
パーカッション アンサンブル	(人) 小4～高3 (15)	(人) ① 24 ② 22 ③ 19	火曜日　17:30～19:30 (全32回)	さまざまな打楽器をふんだんに使い，演奏したり，体を楽器にしてリズム打ちを行ったり，子どもたちのはじけるようなリズム感を表現する。初心者も，丁寧な指導で，すぐに楽しんでいる。 受講料＝1 期16,000円，2期17,000円，3期13,000円。
こどもの城 児童合唱団Ⅰ	小2～3 (30)	① 48 ② 45 ③ 44	土曜日　15:30～17:30 (全32回)	音楽を通し，協調性・創造性・幅広い知的好奇心を養い，豊かな音楽性を育てることを目的としている。合唱活動だけでなく野外活動，シンセサイザーやリズム楽器による合奏なども体験するユニークな総合プログラムを展開。 受講料＝1期14,000円，2期15,000円，3期11,000円。
〃　Ⅱ	小4～中3 (60)	① 80 ② 73 ③ 71	土曜日　17:00～19:00 (全32回)	

名　　称	対象・定員	受講数	曜　日・日　時	備　　考
ガムラングループ	(人) 小4～高3 (15)	(人) ① 10 ② 11 ③ 10	日曜日　16:00～18:00 (全32回)	ガムラン講座の継続者のコース。年齢の差を超えて，子どもたちは打楽器の合奏を楽しむことができる。初級修了者と経験者が一緒になってアンサンブルをして練習している。 受講料＝1期16,000円，2期17,000円，3期13,000円。

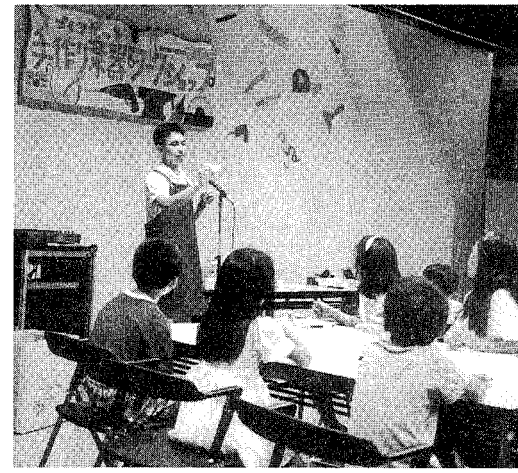
4）その他

名　　称	期　　間	備　　考
こどもの城児童合唱団 児童福祉文化賞発表会	5.13	(財)朝日生命厚生事業団の主催で厚生省などが後援する平成6年度児童福祉文化賞表彰式にゲストとして協力出演。合唱団Ⅰ・Ⅱのクラスのメンバーと混声合唱団のメンバー合わせて110人で出演。朝日生命ホール（新宿区）。
おまつり劇場　'95 「こどもの花ごよみ」	8.19・20	三味線，和太鼓，日本舞踊など，日本の伝統芸能を伝承している子どもたちの活動を紹介する催し。今回のテーマは「花」。四季折々の花にちなんだ歌や踊りを春夏秋冬の4章に構成した。〔こどもの城〕からは三味線グループと和太鼓グループが出演。青山円形劇場。
平成7年度 こどもの城児童合唱団 夏期合宿	8.18～21	今年の合宿は岩手県水沢市の県立県南青少年の家で行った。11月の10周年コンサートを控え，特にコンサートにウエートをおくプログラムとなった。合宿中に以前から交流のある水沢市のZ児童合唱団とのジョイントコンサートを水沢市民会館Zホールで行った。
〈動くこどもの城〉 「おんがくがスキ！」 第1回みえ県民文化祭 子どもフェスティバル コンサートと研修会	9.9・10	フェスティバルのゲストとして〈動くこどもの城〉のプログラムで三重県桑名市でコンサートを実施した。その翌日，精義小学校で親子，教諭，ジュニアリーダー，児童厚生員など約100人を対象に「打楽器であそぶワークショップ」を行った。打楽器の紹介，リズム遊びの体験，スプーンを使った演奏とレクチャーをした。
手作り楽器であそぼう	9.20	小学校1年～6年生の約70人を対象に，楽器の製作およびその合奏の指導を行った。身の回りにある材料「おしゃもじ」を使い，簡単に音の出せるカスタネット状のものは，子どもたちの注目を集め，全員でそれを用いて合奏をした。鷺の宮児童会館（中野区）。
第7回三味線のつどい	9.23	こどもの城三味線講座の講師である田島佳子氏と音楽事業部の共催する演奏会。三味線講座生も3クラスそろって出演し，「越後獅子」という古典曲をプロの演奏家とともに演奏した。青山円形劇場。
〈動くこどもの城〉 手作り楽器であそぼう	10.3	宮崎県の福祉生活部児童家庭課の要請により，〈動くこどもの城〉のプログラムとして県の児童館の職員を対象にして実技研修を行った。同時に造形のプログラムも行われた。音楽事業部は，廃材の「フィルムケースの笛」を制作。太鼓を用いて，リズムのとり方や合奏を行い，見方を変えると音楽が楽しくなることを体験。宮崎県立図書館研修ホール。
NHKテレビ おかあさんもいっしょ	11.12	さまざまな音楽活動，特に親子を対象とした音楽活動では特異な分野を切り開いている音楽事業部へコンサート依頼があり協力したプログラム。「ガトガト」という即製のグループにより，スプーン，タンバリン，サンバの楽器，アフリカの太鼓，手作り楽器などを用いて演奏した番組は，従来にないものだった。NHK101スタジオ。
「インドネシアの楽器の実演研修会」	11.22	〔こどもの城〕にたびたび来館し，活動に興味を持つ先生方からアンクルンの演奏指導を依頼された。園の教諭10人に「きらきら星」のほかクリスマスソング2曲を題材にとても熱気ある研修会となった。聖クララ幼稚園（群馬県邑楽郡）。

名　　称	期　　間	備　　考
〈動くこどもの城〉手作り楽器であそぼう	11.24	静岡県の東部地区児童厚生施設連絡協議会の要請で，〈動くこどもの城〉のプログラムとして，県の児童厚生員を対象にワークショップを行った。太鼓道場ではリズム感についての体験と「フィルムケース笛」の製作を通じて身の回りの音楽を考えた。長泉町福祉会館（静岡県駿東郡）。
「音のでるおもちゃとあそび」	1.23	0・1歳児とその母親，スタッフが参加。音の出るおもちゃ，おもちゃを取り囲む親子の行動，小さな子どもと親の音遊びについて，「ゆったり親子のおんがく園」の活動を基に実際に遊びながらプログラムを進行した。杉並区南保健所。
第4回児童厚生員等実技指導講習会	1.25	全国の児童施設の職員約60人を対象に，11月24日～26日に乳幼児とその親への対応について講習をした。11月25日に音楽事業部は，子育て支援プログラムとしてすぐ実践に移せるよう留意したうえで，「おんがく園」での親子の活動を紹介した。〔こどもの城〕研修室。
手作り楽器であそぼう	1.25	群馬県の第3回児童厚生員の実技研修会事務局の要請により，「手作り楽器であそぼう」のプログラムを実施した。身の回りにある材料，スプーン，フィルムケースがどのような発想で楽器に変身するか，またタンバリンなどを織り交ぜた即興の合同コンサートは，従来の音楽観を変えるほどインパクトのある実技などの講習会であった。ぐんまこどもの国児童会館。
〈動くこどもの城〉「おんがくがスキ！」こどもみらい'96 弘前大会	1.28～29	フェスティバルのゲストとして〈動くこどもの城〉のプログラムである「おんがくずき」のコンサートを実施した。その翌日，児童厚生員・保母約150人を対象に，スプーンなどを取り込んだ「打楽器で遊ぶワークショップ」を実施。弘前市民会館（青森県）。
アンクルンコンサート	1.29	国際機関アセアンセンターの依頼により，スタッフ2人ほかからなる「こどもの城アンクルングループ」の演奏を行った。インドネシアの曲，ビートルズの曲，日本の曲などを交え，幅広い年齢層に好感をもたれるコンサートであった。参加体験もあり，インドネシアの理解のためには有効であるプログラムであった。アセアンセンター。
親子でリズムあそび	2.1	3～6歳児対象の音楽活動をテーマに「親子のあそび」「職員と子どもたちとのあそび」「手づくり楽器の紹介と活動」の3テーマを現場にすぐ生かせる形で実技中心のプログラムを実施した。千葉県児童館連絡協議会主催の千葉県児童厚生員研修会（船橋市塚田公民館）。
「もっと身近にうたあそび」	2.8	児童厚生施設の職員を対象に，乳幼児から小学生低学年向けの手遊び・歌遊びを行った。指遊び・パネルシアターから全身を使った表現遊びまで，受講者にも実際に参加してもらい，受講者の積極的な質疑にいろいろな提案のできる場となった。練馬区児童部児童課職員研修会（練馬区立中村児童館）。
狭山市立第2児童館合唱団コンサート	2.11	かねてより交流のある狭山市立第2児童館の合唱団の定期コンサートに，こどもの城混声合唱団のメンバーが友情出演。狭山市民会館中ホール。
なにができるかな？なわを使った表現活動	2.26	発達にいろいろ問題のある子どもと，育児不安を抱える母親を対象にした親子教室の母子（1～3歳）を中心に，60組ほどの親子を対象として行った。打楽器などによる生演奏に合わせてイメージを膨らませ，「なわ」を使った表現遊び・手遊び・ダンスなど親子の対話・スキンシップや個々の想像力を大切にした遊びを行った。静岡県島田市健康課親子リズム教室（島田市初倉公民館）。
春ウキウキコンサート	3.28	高齢者と小学生が一緒に音楽を通して触れ合うことを目的としたコンサート。中国の二胡・笛子，日本の箏などを組み合わせたコンサートと，年齢を超えて楽しめ，交流が持てる手遊び・ゲームのコーナーを組み合わせたプログラムを実施した。静岡県島田市健康課の主催で，市立第2小学校と市立初倉小学校で各1回公演した。

(2) 音楽事業部の活動

本年度の事業で特筆すべきものは幾つかある。それは昨年同様①児童福祉週間（ゴールデンウイーク）の「こどもフェスティバル」(青山円形劇場) で３年連続の“おんがくずき”の「おんがくがスキ！」公演　②夏休みなどの特別期間に３歳以下の幼児と親を対象にした昨年来の「ゆったり親子のおんがく園」(スタジオＡ)の開催である。また夏休みの企画として初めて試みたスタジオＢの「みんなでおどろう！　ダンスでぽん！」は，室内での行事であるにもかかわらず，季節感に満ち，夏祭りの風情を参加者に与え，独創性と新鮮さにおいて重要な試みとなっている。



「手作り楽器のワークショップ」

本年度は開館10周年を迎え，地域の合唱団と「こどもの城合唱団」の交流の足跡を振り返るコンサートを特に実施した（開館10周年記念事業の項参照)。

1）平常期間の活動

基本的に個々の活動に大きな変化はない。それは，この10年間に変わりゆく状況に対応しながら築き上げてきた活動がほぼ定着してきたからである。開館当時は，主に子どもを対象にした活動が中心であったが，出生率の低下による子どもの数の減少に伴い，幼児プログラムや子育て支援のプログラムを導入するなどという時代のすう勢も十分に視座に入れた活動の結果である。だから大きな変化がないという意味は，恒常的に活動を“まもる”という保守的な姿勢ではなく，さまざまな変化にも柔軟に対処できるしっかりとした定着的な活動が保持され，利用者との関係を柔軟に紡いできたからであると推測される。

平常期間には，一般来館児・者活動と並行し，スタジオＡとＢで講座・クラブを運営しているために，一般に使用するスペースは，日曜日・祝日などにスタジオＢで行うコンサート，イベントなどを別とすれば，基本的に音楽ロビーに限定されている。活動は昨年とほとんど同じである。

平日のプログラムが，打楽器・リトミック・種々の楽器・歌遊び・手遊びなど特に職員スタッフの固有のレパートリーや得意な領域などに負っているとこ

ろが多いために，各々のスタッフの特長を生かした日替わりのプログラムが主になっている。特に幼児の多い平日は，手遊び，リトミック，音楽遊びなど，親子が一緒になって楽しめるプログラムを中心とした“子育て支援”あるいは“親子支援”が基本となっている。これらのプログラムは，おおむね来館者の多い午後の時間帯，２時から３時に行われ，イベントやコンサートの形式を採用している。

イベント以外の時間は，ロビーに配置してあるさまざまな楽器（マリンバ，ガンザ，ボンゴ，シンセサイザー，タンバリン，コンガ，アフリカンタムタムなど）をだれでも自由に利用できるように「いろんな楽器やってみよう」の時間にし，親子で自発的に楽しんだり，スタッフの弾き語りに合わせて，合奏に参加したり，活動内容はさまざまである。これを音楽遊び，音楽体験への導入的な活動と位置づけている。

本年度からは，長崎のハウステンボスの製作による「ストリートオルガン」を備えて，親子で手回しオルガンを体験的に演奏するなど「いろんな楽器やってみよう」の時間が充実されてくるようになった。

高学年の子どもたちが多く来館する日曜日，祝日などには，スタジオＢを利用して，年齢層にかかわりなく楽しめるプログラム「わいわいスタジオ」を実施し，さまざまな音楽が体験できるコンサートを行っている。

火～土曜日の日替わりのプログラムは過去の経験を生かして，親子支援のプログラムを基本において，幼児ばかりの参加形態になる場合には，親も参加するように積極的に呼びかけたり，あるいは付き添いの保護者も対象にするプログラムにしている。基本的には，前年度とほぼ同様の活動を展開した。

音楽ロビーを利用する親子連れを観察すると，昨年と同様に平日は幼児連れが多く，日替わりの平日定番プログラムを特に求めて来館する親子が多くなってきている。その結果から日常活動が活性化してきていると言える。また夏休みなども，事前のプログラムの告知が行き届き始めているのか，特定の活動に参加し，親子ともども音楽体験を豊かにしようと繰り返し来館する利用者が増えてきている。

２）特別期間の活動

(ア) 児童福祉週間（ゴールデンウイーク）特別期間

インドネシアの「アンクルン」は，竹の持つ柔らかい音が親しみを呼び，また形のおもしろさが楽器とは思えない“竹の楽器”のミニコンサートである。一般的に〔こどもの城〕の活動の特長は自分で体験して学ぶということである。日本ではまだなじみの薄いこのアンクルンの演奏体験を通じて異民族の音楽を学ぶということは，子どもには刺激的な学習であったろう。

〔こどもの城〕の楽器のコレクションは，普通の児童施設では見られないほど多種多様で，機会のあるごとにしばしば活動に使用されている。おしなべて民族楽器は普通では考えられない形態と音色を持ち，どこの国の楽器であるとかどんな音が出るのかとかを目の前で体験することは，単なる知識では身に着かない実践的な学習といえるであろう。

新たに登場した「ストリートオルガン」

この時期毎年恒例となっている「わいわいスタジオ」は，クイズ形式の「面白楽器博物館」を２日間にわたって行い，さまざまな楽器を楽しく考えながら知るバラエティー番組として幅広い年齢層を楽しませるものとなった。クイズの参加者には記念品を配布して，より満足感を味わえるようにした。そして更に，１日２回の公演の内容を違うものにしたため，２回目の公演の答えが知られることもなく２回とも楽しむことができるようになった。また青山円形劇場における「こどもフェスティバル」の演目の公演時間とかち合わないように，実施時間帯などの改善を試みた。その結果として，干渉することはあっても，予想どおりたいして観客動員に関係がないように思われた。なお「面白楽器博物館」の２日間のプログラムは以下のとおり。

４月29日＝各地の土笛，口琴，イリンバなど

30日＝ななめ笛，うなり木，ピンジャカンなど

青山円形劇場で実施された「こどもフェスティバル」のプログラムのうち「おんがくがスキ！」は，来館者にファンが出るほどになり，定番の位置を獲得している。前年度の事業年報でも報告したが，このプログラムは，音楽事業部が日常活動から地道に掘り起こしてきたもので，短時間で出来上がったものではない。一般来館児との対応活動や「わいわいスタジオ」のミニコンサートなどで恒常的に続けてきたものが結晶化したものである。パーカッション，ベースギター，シンセサイザーなどを縦横無尽に使いこなし，歌遊びあり，手遊びありで，「音楽はひとりでなく，みんなといっしょに歌ったり，演奏したりすればもっと楽しくなる」という，普段の音楽活動からのメッセージを込めて出演者がみんな音楽が好きということを前面に押し出し，観客に参加を呼びかけるコンサートである。観客が単に聞くコンサートとか，手拍子を舞台の演奏者に合わせて打つとかいうものではなく，客席の観客とステージの演奏者との間の境

界がなくなり，両者がまさに一体となって行うという「鞍上人なし鞍下馬なし」の諺のような，真の意味における参加型のコンサートといえるであろう。

(イ) 夏休み特別期間

春休みや夏休みなど，来館者が特に多い期間には，大きな子どもたちの活動が躍動的で，激しいものになり，静かに親子が楽しめるプログラムが少なくなり，特に幼児連れの親子がのんびりと安心して遊べるスペースがなくなってしまうのが現実である。その対応策として，ロビー活動の1つとして年来「計画していたプログラム」を試みにスタジオAで平成6年の夏休みから実施している。内容は3歳未満の乳幼児と親とを対象にして，音のでる玩具（音具）を準備して，親子がのんびりと気の向くままに楽しめる「ゆったり親子のおんがく園」というものである。乳幼児が安全に遊べる空間をこのような形で実現したが，利用者の反応もたいへんよく，今後も継続して設定してほしいという声がたくさん聞かれた。スタジオの環境における「親子のコミュニケーション」を最重要視するために，特に親子を対象にするイベントなどのプログラムを行うことはせず，「子育て支援」の一環としてとても効果的な場となった。この企画は好評であったために冬休み，春休みにも実施している。

音楽

音楽ロビーでの活動は，前年度まで夏休み期間を前期と後期に分けて，別々の企画を実施してきたが，本年度は昨年実施して好評だった「面白楽器商店街」を全期間を通して実施した。前・後期に分けると別々の環境構成や装飾を考え，また準備などしなくてはならないといったこともあり，全期間を1つのテーマに絞ることで，装飾などを充実させた。また，新たな試みを長期に実施していくなかで，日々の反省点を生かして常に改善し，プログラムとして完成させることをねらった。

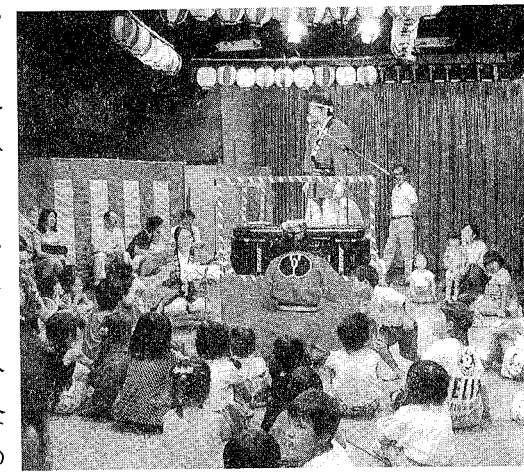
ベーシックなものは昨年と同じく，素材や地域・国々ごとに特徴ある民族楽器や手作り楽器を扱う楽器店（めずらし屋・竹屋・ガムラン屋・がらくた屋）が音楽ロビーに立ち並び，それぞれデモンストレーション演奏を行い，来館児が自ら体験できるというものである。

“手作りの音”をアピールした「がらくた屋」

このうち「がらくた屋」は，「展示してある楽器が自由に触れる，おまけ的な店」という昨年のスタイルをリメイクして，手作り楽器のデモ演奏や来館児も参加して合奏するなどの活動も織り込み，よ

り積極的に「手作りの音」をアピールする形とした。

前年度まで夏期を前・後期に分けていた理由は，７月末と８月では来館児の年齢層が違うということと，40日間毎日同じプログラムを繰り返すことから起きるマンネリを避け，リピーターも考慮しようということにあった。そこで今回も「面白楽器商店街」という全期間の１つのテーマの中を３つの期間に分けて，各店舗の活動以外のプログラムをそれぞれ次のようにアレンジした。



「みんなでおどろう！　ダンスでぽん！」

Ⅰ期（７月21日～８月10日）＝ 幼児を主な対象として，手遊び・歌遊びを交えた活動を実施

Ⅱ期（８月11日～25日）＝「夏まつり」と称して，Ｂスタジオで盆踊りや和太鼓体験の催し

Ⅲ期（８月26日～31日）＝「店じまいセール」として，サンバコンサートや手作り楽器ワークショップを実施

今年の新企画の１つに「みんなでおどろう！　ダンスでぽん！」という盆踊りプログラムがあるが，スタジオＢ内にやぐらを組み，その周りを丸くなって踊る。歌詞，曲，振り付けなどすべて〔こどもの城〕スタッフのオリジナルで予想以上にたくさんの親子が参加し，好評だった。最終日にはわざわざ浴衣を着てきて参加するという常連の子どももいた。

(ウ) 開館記念特別期間

(1)開館10周年記念「こどもたちからのサウンドメッセージ」コンサート

（開館10周年記念行事の項参照）

(2)開館記念セレモニーでの演奏

恒例の開館セレモニーの際に，音楽事業部のレパートリー「いろいろ楽器コンサート」で好評のトリニダード・トバコのスチール・ドラムの演奏を行った。昨年はインドネシアのアンクルンの演奏を行い，来館者に民族楽器のおもしろさを紹介し好評であった。今年は新たにカリブ海のトリニダード島の手作りの鉄の楽器「スチール・ドラム」の軽快であるが，哀調を帯びた音色を紹介した。

(3)開館記念プログラム「おやっ！と発見　子と発見！」

国際家族年のプログラムから発生した「おやっ！と発見　子と発見！」では，音楽ロビーでアンクルンの体験型イベント「親子でふるルン　アンクルン」，お

なじみの童謡やアニメソングなどのステージ生演奏「親子でうたってHappy Happy」，そしてスタジオAでの「ゆったり親子のおんがく園」の特別プログラムを実施した。それぞれのプログラムはどれも親子で楽しめる内容に統一したため，新しい楽器や音楽との出会いの中で，親と子が新たな接点を見いだせるような，新鮮な体験ができたようだ（企画部の項参照）。

(エ) 冬休み特別期間

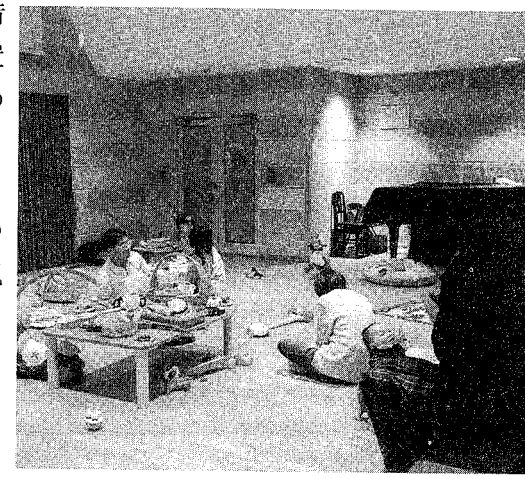
年末年始は，日本人として最も伝統的な行事が多い季節で，その時期に伝統的な音楽を体験してもらうということを中心に行われた。

クリスマスの2日間には特別企画としてクリスマスにちなんだ童謡コンサートを開き，2日目にはフィンランドの公認のサンタクロースが訪れるなど，バラエティー豊かな内容で子どもたちに夢を与えた。また，音楽ロビーでは，親子向けの参加型プログラムとして「南の国の音楽会」と題したイベントを組み，日替わりでブラジル，アフリカ，インドネシアの音楽のコンサートを実施した。

1月中は，箏（こと）の演奏を体験する「やってみよう！　新春箏さらい」を音楽ロビーで行い，例年どおり多数の希望者で埋まった。日本の伝統を身近に体験できることで好評のため，しばらく毎年同様の催しを行っているが，毎回，改良が加えられ，更に今後も発展させていくことが望まれる。

また，全体を通して，「ゆったり親子のおんがく園」（夏休みと同様），「うたってハッピー」（童謡・アニメソングなどの生演奏に合わせて子どもたちが打楽器などを体験する），「いろいろ楽器コンサート」（世界の民族楽器，特にこの時期は日本の楽器を中心に紹介）の3つの定番プログラムを催し，安定してほのぼのとした雰囲気の中で親子が楽しむ姿が見られた。

また，冬休み特別期間中の12月25日から1月7日まで，“音と造形”をテーマにしているドイツの造形作家のピーター・フォーゲル氏の影と光とコンピュータ制御による「音具」を2作品借用し，同じスペースの一部に設置して親が体と耳を澄まし，良質の音楽体験ができるような環境作りも考えた。


「ゆったり親子のおんがく園」

企画意図を十分に理解し，音の出る玩具を幼児とともに楽しむ親もいたが，子どもを放置したままで，休憩室と取り違えたかのようにくつろいでしまう大人も見かけられ，施設を積極的に活用できない大人をどのように啓発していく

か，昨年に引き続き，非常に大きな課題となっている。

〔こどもの城〕は，活動の対象を子どもだけに限定せず，大人も視座の範囲に取り入れることが，時代のすう勢になってきている「現状」を認めざるをえない。したがって，単なる「親子支援」という「親子プログラム」の実施だけではなく，子どもに随伴してくる親や保護者に対する啓発プログラムにまで広げていくことは，今後の方針として検討すべきものではある。「子育て支援」という概念からすれば，当然ながら子どものいろいろな活動に対して「開明的な大人を育成する」ことは含まれるが，〔こどもの城〕の事業部としては今後本格的に取り組まざるをえない「事業」になってくると予測している。

(オ) 春休み特別期間

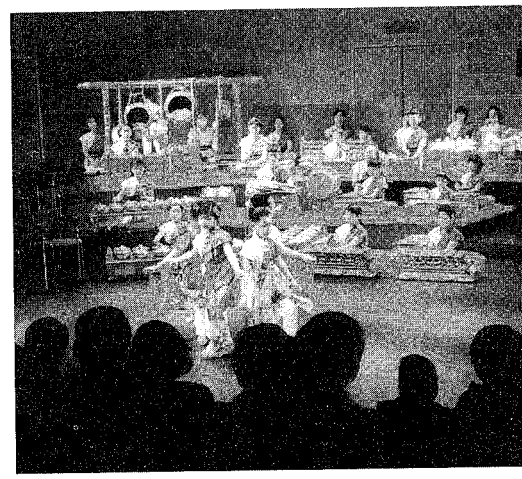
春休みの特別期間は，年度変わりの学校休みなので，宿題などがなく子どもたちが自由に遊べる時間があるので，比較的高学年の児童が来館する。そのため，大きな子どもたちでも十分参加できるプログラムを考え，実施している。

音楽の活動エリアでは，「春は元気に1！　2！　3！」という参加型のイベントを日替わりで実施した。内容は毎日の担当スタッフの得意分野から組み立てるようにしたため，毎日バラエティーに富んだ内容を提供できたと思う。また，得意分野ということで，各スタッフのキャラクターが全面に押し出され，それぞれに個性的なイベントとなり，何日も続けて来館している子どもたちも，連日楽しめた。

プログラムの一例として，サンバのイベントを挙げると，音楽に合わせて楽器によるリズム遊びを体験するという流れは変えず，新曲を取り入れたり，歌も歌わせるなど，改良を加え，新鮮で躍動的な内容を子どもたちに提供した。

(1)「ぼくらのサウンド」

年度末に，音楽事業部の講座・クラブが1年間の成果を発表する合同コンサートで，青山円形劇場で3日間にわたって開催された。一般の来館者など，広く〔こどもの城〕の活動を知ってもらうという目的で実施されているが，実際には，人数の多い講座の公演日には，父兄や親類でほぼ満員の状態である。数年来，コンサートが父兄などを対象とした内輪の活動に狭められてきている傾向があり，一般の来館者も楽しめる内容にしていく必要がある。内容的には，子どもたち



「ぼくらのサウンド」で演奏するガムラン講座受講生

の生き生きとした音楽を楽しむ姿がどの公演にも見られ，日ごろの活動の成果が表れた。

「エレクトリックアンサンブル」の講座風景

3）講座・クラブ

一般来館児・者に対応する活動をしながら，1週間に20クラスほどの講座・クラブを運営しているので，スタッフの人数・仕事量からみて，講座数はほぼ限界状況である。開館から10年の経験を積み重ねてきた結果として，邦楽，民族音楽，リトミックなど音楽領域全体にバランスある取り組みになっている。また，講座・クラブ，一般来館児・者への対応，グループ活動の3本柱が，均衡がとれた配分で運営がなされている。

4）グループ活動

2年前までグループ活動の利用率が下降し始め，活性化を求められていたが〔こどもの城〕の音楽のような活動は，ほとんどの学校，幼稚園，保育所では行われていないことを知らせる企画部総合案内課の地道な紹介の努力が実り，音楽事業部の活動を求める需要が増している。その結果として，音楽事業部はこの活動に貢献している（企画部のグループ活動の項目参照）。

一般来館児・者を対象とした活動と講座・クラブ，グループ活動の3つの柱をバランスよく運営していくには，どれか1つに力を注げば他はおろそかになりかねない可能性もある。グループ活動が多過ぎれば，グループ活動に比重がかかり過ぎて，平日の午後の一般来館児・者を対象とする活動に影響が出てくることも予測しておく必要があろう。

実績でいえば，本年度はより積極的に受け入れを行い，オーダーメイドプログラムにもできるだけこたえられるようにしてきた。その姿勢が利用者たちに伝わり，利用グループ側からも積極的なアプローチが得られ，よりよい活動が展開されることもあった。全体のグループ活動利用の半数を占めている音楽事業部としては今後も利用グループの要求にこたえられるよう努力したい。

5）その他の活動

(ア)　〈動くこどもの城〉

「手作り楽器のワークショップ」は，作る過程と音を出す過程が1つの流れ

の中に混在しているプログラムなので，多くの児童厚生員に評判である。

「おんがくがスキ！」のプログラムは昨年同様，好評であったが，本年度は女性ボーカルをサポートメンバーとし，オリジナルの「歌」を中心としたプログラム構成を試みた。女性が参加したことで全体の雰囲気が軟らかくなり，和やかなステージという感が増した。しかしその反面，きれいにまとまりすぎてインパクトに欠けたという面もあり，評価が分かれた。

今後どのように“こどもの城らしいオリジナル性”をアピールしていくか，原点に戻り改めて構成を検討したい。

こどもの城合唱団の交流コンサートは，その地域の合唱団との交流を重ねてきた実績を勘案し，〈動くこどもの城〉のプログラムとして実施した（〈動くこどもの城〉の項参照）。

(ウ) 他事業部との協力事業

例年どおり「母と子のリトミック〈ダウン症クラス〉」は，ダウン症児とその親を対象とした小児保健部との共同プログラム。開講して今年で11年目に当たる。カスタネットを使ったリズム遊びやリトミック活動，リラックス，歌遊び，仕上げのリトミック体操など。どの活動においても親子のスキンシップを十分に図ることと，それらを通して特に母親の気持ちが解放される場であることを目指している。

(エ) 交流活動・協力活動

外部団体・組織への活動は，毎年増加しつつある。要因としては次の諸点が考えられる。①10年経て，〔こどもの城〕の実践活動が本当の意味で一般的に広く知られてきたこと　②〔こどもの城〕の仕事が保育所，幼稚園など幼児の教育施設における活動を刺激する内容を十分に持っていること　③専門のミュージシャンにイベントなど依頼して高い謝礼を払うより，子どもの専門家であり，音楽の専門家である〔こどもの城〕の職員に依頼したほうが経済的にも安く，かつ内容も安心していられること　④雑誌・新聞・テレビなどのメディアでの取り上げられかたが多くなってきたことなどである（事業の詳細は別表参照）。

(オ) 職員の外部への派遣

昨年も記述したが，〈動くこどもの城〉のように音楽事業部全体としてではなく，職員個人が他の自治体・組織・団体などから実践活動の講師として，あるいは講演などの講師として派遣してほしいという要請が，ますます増加している。と同時に，国の助成を受けて行う派遣業務の〈動くこどもの城〉の需要が多くなっている。したがって個人としての職員の講師派遣，国の補助事業としての部単位の派遣事業，この両者が活発になってくると音楽事業部の年間の業務量が予想をはるかに超えて増加している。その結果，実際には目に見えない形で，事業の肥大化にもつながってきている（事業の詳細は別表参照）。

(カ) 夏期合宿

今年は岩手県水沢市の県立県南青少年の家で８月18日から21日の日程でこどもの城児童合唱団の合宿を実施，11月の10周年記念コンサートを控えて，例年に比べるとコンサートにウエートをおいたプログラムとなった。以前から交流のあるＺ児童合唱団（幼児～高校生約100人）とのジョイントコンサートを８月20日に水沢市民会館Ｚホール（1,500人収容）で実施。合同曲を含め，全28曲，約２時間のステージを展開した。

岩手県水沢市のZ児童合唱団とジョイントコンサート

5　ＡＶ事業部の活動

(1)　７年度活動一覧

1）平常期間プログラム

名　　称	期　　間	備　　考
ＡＶライブラリー自由利用	開館時間中	趣味，教養，娯楽，スポーツ，アニメなど，さまざまなジャンルにわたるビデオソフトが，12,000タイトル網羅されたビデオの図書館。利用者は，ＡＶライブラリー内に設置された35のブース(小部屋)で好みのソフトを視聴できる。
ＡＶライブラリー「旅特集」	6.1～30 1.17～2.18	本年度は，年間２回「旅特集」をテーマに，１回目は観光を中心とした「世界ビデオの旅」，２回目は美術など芸術の世界を訪ねる「ビデオ芸術の旅」のプログラムを実施した。
ビデオ玉手箱	毎週木曜日 15:30～17:30	10月まで，ＭＳＸパソコンを利用した「人間ぱたぱたアニメ」を実施し（スタジオＢ），11月から「ファミリー・ビデオ・クラブ」の宣伝を兼ねて，ビデオカメラの撮影体験コーナーを設置。ビデオに対する来館者のいろいろな質問なども受け付けた（４階ロビー）。
おもしろビデオ館	毎週金曜日 15:30～16:00	ＡＶライブラリーのビデオの中からテーマを決めて作品を選び，上映。絵本を基にしたヤマハの「世界絵本箱」シリーズ，身近な生き物を紹介する岩波の「いきもの大集合」シリーズを紹介した（スタジオＢ）。
くるくるアニメをつくろう	毎週土曜日 15:00～17:30	２枚の絵を描いて簡単なアニメおもちゃを作るワークショップ（音楽ロビー）。
こどもの城映画劇場	日曜日・祝日 (隔週～月１回)	「武藤行雄記念文庫」収蔵のカナダ国立映画制作庁（ＮＦＢＣ）の短編アニメーションを上映。上映時間は，①11:30 ②13:30 ③14:30 ④15:30 の４回（スタジオＢ）。
不思議な映像実験室	日曜日・祝日 (月１回) 11:00～17:30	映像が動いて見える仕組みや写る仕組みを応用した，映像遊びのプログラム。２つの絵が合成されて見える「ソーマトロープ」，１枚の風景写真から昼と夜の景色を作りだす「ライトパノラマ」，円すい形の鏡で見ると像が浮かび上がる歪み絵「アナモルフォシス」などを実施（スタジオＢ）。
バンダイビデオ試写会	日曜日・祝日 (スペース使用が可能な日に実施)	ＡＶライブラリーの待ち利用者を対象に，バンダイと提携して行っている人気ビデオ作品の試写会。開催時間は，12:45～17:15(フリーホールまたは研修室)。
テレビ中継（録画）	日曜日・祝日	スタジオＢで実施される，各部プログラムの館内へのテレビ中継および録画（スタジオＢ，映像調整室）。

2）特別期間プログラム

名　　称	期　　間	備　　考
〈児童福祉週間〉 こどもの城映画劇場 「世界のアニメーション」	5.3～7	イギリス，ドイツ，カナダ，日本の子ども向けアニメーションの特集上映会（スタジオB）。
〈　〃　〉 光の魔法特別企画 「映画歴史館」	5.4～7	映画生誕100年を記念したプログラム。映画が発明される前の視覚玩具（レプリカ）の展示と映画のメカニズムを中心とした歴史パネル・模型などの展示を実施した（研修室）。
〈夏休み〉 第4回 キンダー・フィルムフェスト・ジャパン	7.21～8.10	キンダー・フィルムフェスト・ジャパン実行委員会と共催した子どものための映画祭。世界の子ども映画，アニメーションの上映。ワークショップ，セミナーなどを実施した（スタジオA，B）。
〈　〃　〉 いろいろ工作コーナー 「天体望遠鏡と立体眼鏡工作」	7.21～8.31	今までに行った工作コーナーのうち，好評だった天体望遠鏡と立体眼鏡を10年の締めくくりとして再度行った。今回は特にボランティアの協力で，プログラムを進行した（AVライブラリー）。
〈開館10周年記念〉 AVライブラリー 「特集この10年　I」	10.10～11.5	この10年に，青山劇場・青山円形劇場で行われた公演で，収録したすべての作品を写真で紹介。その中でライブラリーで視聴可能な作品の10年の視聴回数ランキングを発表した。
〈　〃　〉 みる・しる・つくる アニメーション・キット 公開ワークショップ	10.28～11.3	10周年を記念して制作した「みる・しる・つくる　アニメーション・キット」（ビデオ＋ブックレット＋工作キット）を使ったワークショップと上映会を行った（スタジオB）。
〈　〃　〉 親子体験ワークショップ「フィルムであそぼう」	11.3～5	映画生誕100年を記念して，フィルムをテーマにしたワークショップと映画の歴史の展示を実施した（研修室）。
〈冬休み〉 「紙ずもう初場所'96」 中継	1.4～7	紙相撲のトーナメント戦を〔こどもの城〕全館に中継・録画した（スタジオB，映像調整室）。
〈春休み〉 こどもの城映画劇場 「カナダのアニメーション」	3.28～31	武藤行雄記念文庫のカナダ・アニメーションからテーマを決めて作品を選び，2プログラム，7作品を上映した（スタジオB）。
〈　〃　〉 アニメおもちゃであそぼう	3.23～26	2枚の絵を使ったアニメおもちゃ「ソーマトロープ」と「くるくるアニメ」を実施した。「みる・しる・つくる　アニメーション・キット」の展示も同時に行った（スタジオB）。
〈　〃　〉 フィルムであそぼう	3.27～31	フィルムに直接絵を描いて作る「映画フィルムに絵をかこう」，紙フィルムの工作「ハタキネマ」，2枚の黒フィルムを引っかいて絵を描く「シネカリぱたぱた」を実施（スタジオB）。
〈　〃　〉 開館10周年記念 AVライブラリー 「特集この10年　II」	3.23～4.7	この10年に行ってきた特集を当時のものを再現して，展示した。また，10年間のライブラリーの視聴ランキングを年度ごとに発表するとともに，ロングセラー作品なども紹介した。

名　　称	期　　間	備　　考
バンダイビデオ試写会	特別期間中のスペースの使用が可能な日に実施	ＡＶライブラリーの待ち利用者を対象に，バンダイと提携して行っている人気ビデオ作品の試写会。開催時間は12:45～17:15。特別期間総実施日数55日（フリーホールまたは研修室）。

3）講座・クラブ

<講座>

名　　称	対象・定員	受講数	曜　日・日　時	備　　考
ファミリー・ビデオ・クラブ	(人) 成人　(10)	(人) ①　4 ②　6 ③　2	①初心者コース／初級 6.9，16 ②簡易編集コース／中級 11.25，12.2 ③電子編集コース／上級 2.24，3.2 各日　10:00～12:00	ビデオカメラの使い方や撮影の方法など，基礎的なノウハウを伝える「初心者コース」と，簡易編集，電子編集などを体験するコースを実施（映像調整室，スタジオＢほか）。
業務用ビデオ・ハードウェア講座	成人　(20)	18	8.26・27	業務用ビデオ機器を使いこなす知識を身に着ける講義と実習（マスターコントロール室，映像調整室ほか）。

4）その他（野外活動など）

名　　称	期　　間	備　　考
劇場公演および館内外活動の記録		劇場公演や他部で行われた館内外のプログラムをビデオ撮影し，オリジナル作品としてＡＶライブラリーに登録。また，一部の作品については関係者に限りビデオを有料頒布した。
開館10周年記念 みる・しる・つくる アニメーション・キット 制作		ビデオ＋ブックレット＋工作キットがセットになった「アニメーション・キット」は，10年間の映像活動の集大成として，その内容を凝縮したもの。ほかの施設や子どもたちが活用できることを意図して制作した教材。
全国保育所理事長・所長ゼミナール（研修）	10.4～6	保育所や施設の記録などでビデオカメラを使う方法を実習する講習会。新潟県佐渡八幡温泉。
〈動くこどもの城〉 アニメワークショップ	11.11 ・12	〔わくわく工房〕でアニメーション・キットの型紙を用いたワークショップを実施。会場ではキットに収録したアニメ作品の写真パネル展示を併設し，アニメ作品のビデオを放映。キットを使用した実技指導者講習会も実施した。愛知こどもの国。
栃木県児童館連絡協議会研修会	3.7	「みる・しる・つくる　アニメーション・キット」を使用した，絵が動いて見える視覚玩具を用いた遊びの講習会。栃木県鬼怒川温泉。

(2) ＡＶ事業部の活動

ＡＶ事業部の利用者に対する活動は，４階にあるＡＶライブラリーとスタジオスペースを中心に展開されている。前者には約12,000タイトルという膨大な数のビデオソフトが網羅されており，子どもたちは自分の意志で好みのソフトを選択し，視聴することができる。また，後者では国内外に存在するさまざまな映像のうち，内容的に優れたものを厳選して行う上映活動や，映像の歴史や仕組みを分かりやすく解説するワークショップ形式のプログラムを中心に行っている。

直接利用者に接することのないセクションとしては，部内活動全般の後方支援を行うＡＶ資料室や，青山劇場・青山円形劇場の公演をビデオ収録し，オリジナルソフトとしてＡＶライブラリーに登録するマスターコントロール室がある。

各セクションともに10周年ということもあり，実施されたプログラムや活動にはより磨きをかけたが，特に節目である本年度は――

○10年間の活動内容を凝縮させたキット（みる・しる・つくる　アニメーション・キット）の制作

○世界的な映画祭であるベルリン映画祭の子ども映画部門公認で行われたキンダー・フィルムフェスト・ジャパンの実施

○ＡＶライブラリーの過去から現在までを振り返る「特集この10年」の実施

など精力的な活動を展開した。

１）平常期間の活動

(ア)　〈みる〉

(1)ＡＶライブラリー

【自由利用】本年度，目立って利用の多かった作品の１つに『忍たま乱太郎』がある。これは現在テレビで放映中であることと，視聴時間の短いことで，子どもたちの人気を集めているようである。また，昨年同様に『クレヨンしんちゃん』『幽遊白書』『恐竜世紀』（双方向対話型オリジナルソフト）などがよく視聴された。女の子には，『美少女戦士セーラームーン』シリーズが，根強く，圧倒的に人気の的となった。

一方，利用状況は，組数では前年度比97.9％の68,089組であった。これは，〔こどもの城〕の入館者数が前年度比95.3％に低下していることにも関係があると思われる。

少子化や都心の過疎化が進むという厳しい状況下において，利用者を更に増

大させるには,「利用年齢層の拡大策を講ずるべきである」という考えの下，大人向け長編作品の視聴促進に力を注ぐことも考慮する必要がある。休日のみの対応を考えた場合には，混雑緩和のため短編作品を数多く視聴してもらい，稼働率を向上させる（＝利用組数増大)べきだが,「ＡＶライブラリー＝子ども専用」というイメージを払しょくし，かねてから懸案となっている平日の利用者増を図るために，このような方向も必要と考える。

AVライブラリーはビデオの図書館

今後の課題は「平日の利用者増」対策推進と次世代の子どもたちの志向を視野に入れた運営とをバランスよく両立させることであると考える。

このような考えから本年度は新たな試みとしてＣＤ－ＲＯＭソフトの導入も行った。関心はかなり高いようであるが，現在の利用層が小学生中心ということで，実際の利用に結び付く頻度はまだまだ低いようである。

しかし，これらの低年齢利用者が中学･高校と成長するにつれ,〔こどもの城〕を“卒業”してしまうという現状に一石を投じるという意味では大いに期待がかけられそうである。

【旅特集】本年度は「旅」をテーマに年２回特集を組んだ。

◎第１回目

①名　称　世界ビデオの旅

②内　容　世界33か国の観光局などから提供された観光用ビデオの視聴や，観光局提供のポスターの展示，パンフレットの配布など

③期　間　平成７年６月１日～30日

◎第２回目

①名　称　ビデオ芸術の旅

②内　容　クラシック映画館＝チャップリン，黒澤作品など名画約150本
名作オペラ劇場＝オペラ約30作品。そのほかクラシック音楽多数
世界の美術館＝世界の有名な美術館所蔵の作品を紹介

③期　間　平成８年１月17日～２月18日

最近，不振の国内旅行に比べ，海外への旅行者は過去最高を記録している。そのようなブームの中で行った「世界ビデオの旅」は，各国の観光局などからの熱心な支援もあり，利用者に反響を呼んだ。夏休みの前だったこともあって，

家族で視聴する姿も見られ，「旅」というものに関心を持つ人が意外に多いことを改めて知らされた。

「ビデオ芸術の旅」では，音楽・美術関係ソフトの視聴回数が思ったより少なかった。利用者の大半が子ども連れか子ども同士なので，こうした領域への関心が薄かったものと思われる。しかし映画は，昔を懐かしむ大人たちも多く，視聴回数が増加した。映画は年齢を問わず楽しめる娯楽であり，今後も積極的に取り組んでいきたいと考える。

【特集この10年 I】AVライブラリーでは，オリジナルソフトの1つとして，青山劇場・青山円形劇場で公演したものを収録したものがある。

そこで今回，この10年間に収録したものをすべて写真にして，年度別にポスターで紹介した。著作権などの関係で，ライブラリーに置くことのできないビデオが多くあるが，ライブラリーに置いてある作品の視聴ランキングなども紹介した。最も多く見られていた作品は，『ミュージカル・アニー』で，そのほか『はだかの王様』『黒蜥蜴』などがある。

今回，印象的だったのは，ある子どもたちが自分たちが出演していた公演のビデオを見て，自分たちの何年か前を思い出していたことである。〔こどもの城〕では，自主公演の作品に講座などの子どもたちが出演することがあるが，AVライブラリーは，そんな子どもたちの大きなアルバムとしての役割もあるようだ。

AVライブラリーは，劇場公演に参加した子どもたちは言うまでもなく，今後は，遊びに来た子どもたちのアルバム的存在にもなっていければと考える。

(2)こどもの城映画劇場

毎月第2日曜日に開催しているこの催しは，開催日が固定していることと，新聞や雑誌などで告知しているためか，リピーターの姿が目立つようになってきた。上映後に実施しているアンケート回答率も高く，好評である。本年度中の入場者総数（平常期間）は，2,272人であった。上映作品は，今年も〔こどもの城〕のフィルムライブラリー「武藤行雄記念文庫」に収蔵されているカナダ国立映画製作庁＝NFBC（ナショナル・フィルムボード・オブ・カナダ）のアニメーション作品を中心に上映した。

NFBCからは，毎年少しずつ新しい作品を購入しており，本年度はアニメーションだけでなく，教材としても使用できるような，映画の仕組みを解説した実写映画を数本購入した。しかし，これらには外国語（英語）でのナレーションや台詞が付いていて，その翻訳に掛かる手間が大きく，また上映の仕方も検討する必要があるため（字幕を付けるのか，ボイスオーバーか，事前の解説のみで済ませるのか），上映は見合わせている。外国語作品の上映では，いまのところ，内容の要約を配布したり，上映前にたっぷりと内容や見所を解説するだ

けで済ませているが，これは昨年からの課題となっていて，十分に検討する必要があると感じている。

(3)おもしろビデオ館

ＡＶライブラリー収蔵作品から，短編ビデオ作品の上映を行っている。ＡＶライブラリーの“自由にソフトを選べる”視聴形態とは対象的に，送り手が選定したソフトを上映する形式である。優れた作品ではあるが，日常，子どもたちの目にあまり触れることのない短編作品を事前に解説を加えてから上映している。

本年度のプログラムは，以下の特集を上映。

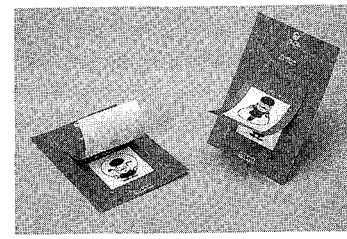
「アニメーションでみる世界のおはなし」学研の人形アニメーションシリーズから／「心があったか～くなるおはなし」ＹＶＬ世界絵本箱から／「ミュージカルアニメ」ＹＶＬシリーズから／「人気アニメアンコール上映」ＹＶＬシリーズ＋こどもの城アニメーション・キットから

近年，上映作品が毎年繰り返しになり，新しい作品を探したい。

(4)バンダイビデオ試写会

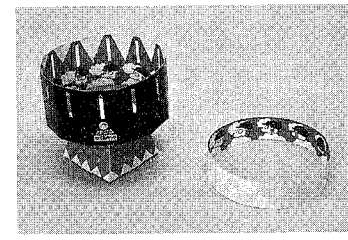
前年と同じく，「ウルトラマン」シリーズのダイジェスト版と，名作アニメの２本立てを上映した。実行日数は94日，実行回数は657回。総利用者数は9,283人であった。１日当たり平均利用者数は，特別期間(137人)と平常期間(124人)で大差はなくなりつつある。企画自体が“特別な”“お祭り的な”ものとして見られなくなっているようだ。本年度は久しぶりに冬休み期間の上映を研修室で行ったが，１日当たり平均利用者数はこの時期が一番少なかった（80人程度)。

機材さえ移せばどこででも行えるので，本企画は他部門の企画の影響を簡単に受け，頻繁に実施場所が変更される。ＡＶライブラーからこぼれた利用者の受け皿という初期の目的を考えれば，利用者がアクセスしづらい場所で小人数を相手に行うのは，効率的であるとはいえないだろう。



くるくるアニメ(マジックロール)の工作キット

「みる・しる・つくるアニメーションキット」



ゾートロープの工作キット

(イ)　〈しる〉〈つくる〉

(1)くるくるアニメをつくろう

毎週土曜日には２枚の絵をビデオで撮影して簡単なアニメを作る「ぱたぱたアニメ」を開催していたが，本年度からは「くるくるアニメ」に切り替えた。「くるくるアニメ」は，少し動きの異なる２枚の絵を描き，上の絵だけをペンの軸などに巻き付けて巻き癖をつけて上下にこすると，

上と下の絵が交互に見え，絵が動くというもの。

プログラムを変更した大きな理由の１つは，混雑する第２・４土曜日に対応するためである。そして，身近な材料を用いて，持って帰って遊ぶことが可能な「くるくるアニメ」のほうが，幼児からを対象とする映像遊びを普及させるには適切なのではないかという理由からでもある。

会場の音楽ロビーは，広く開放的な雰囲気なので，催しにめりはりをつけないとだらけた感じに見えてしまう。そこで，制作方法を説明する場所，制作をする場所，できた作品を見る場所に区切り，入場から退場まで子どもたちの緊張感が持続するようにした。その結果，多い人数の場合も混乱することなく，スムーズな流れを作りだすことにも効果があった。

(2)不思議な映像実験室

ＡＶ事業部の映像ワークショップの総称として，「不思議な映像実験室」と名付けている。映画発明以前の“視覚玩具”といわれる“映像おもちゃ”を題材にしたものを中心に数種のプログラムを実施。視覚玩具を“つくる”ことが作業の中心ではあるが，ここで目的としているのは，“工作”ではなく，完成した視覚玩具によって生ずる“映像的効果”を体験することである。

円板の表と裏に絵を描き，円板を表裏が交互に見えるように回転させると，表裏の絵が合成されて見える「ソーマトロープ」，円すい状の鏡などに映したときに正常な絵が見えるように歪んだ絵を描く「アナモルフォシス」，風景写真に針などで夜景のイルミネーションを想像して穴を開ける「ライトパノラマ」などを開催。また，昨年まで土曜日の枠で開催していた「ぱたぱたアニメ」も「不思議な映像実験室」の枠で開催した。

「不思議な映像実験室」は“視覚玩具”に関するプログラムと，“ビデオで遊ぶ”プログラムの２種類に大きく分けることができるが，本年度はビデオのワークショップは行っていない。ビデオ機材の老朽化により，安定したプログラム運営が困難であることがその理由である。

(3)ビデオ玉手箱

ＡＶ事業部のビデオ講座「ファミリー・ビデオ・クラブ」の宣伝を主な目的として開催。過去の講座受講者のビデオ作品の上映をスタンドアローンで行い，ビデオカメラに触れる「体験コーナー」を設置し，ビデオに関する質問も受け付けた。対象は，講座の受講者となる母親を想定。しかし，実際には，来館した子どもがビデオカメラを通してモニターに映った自分の姿に喜んで遊んでいる，という結果に終わった。

年間で，数人の大人からビデオに関する質問を受け付けた程度で，初期目的はほとんど果たせなかった。４階ロビーでの開催は，スタジオＢへの動線の悪さ，利用者の減少を理由に移動したものの，ほかのプログラムよりも一層の“仮

設”性が強まり，仕込みの形態などに考慮が必要と感じた。

次年度からは，ビデオ講座の内容改編に伴いプログラム内容を変更したい。

2）特別期間の活動

(ア)　〈みる〉

(1)ＡＶライブラリー【特集この10年 Ⅱ】

10年前，2,000タイトルでスタートしたライブラリーも，現在では12,000タイトルまで充実してきた。この10年間でどんなビデオが多くの利用者に視聴されてきたのだろうか。今回，１年ごとのベスト20や10年を通じて多く見られたビデオをポスターで紹介した。

その一例を紹介すると，年間ベスト１は85年『ゲゲゲの鬼太郎』，90年『起動戦士ＳＤガンダム』，93年『美少女戦士セーラームーン』，95年『クレヨンしんちゃん』などである。10年間を通してみると，『ドラゴンボール』『ドクタースランプ』『起動戦士ＳＤガンダム』『美少女戦士セーラームーン』『クレヨンしんちゃん』などがあげられるが，中でも『美少女戦士セーラームーン』は，非常に人気を得ていた。その原因をひとことでいうと，女の子のヒーロー物が少ないせいであると考える。

また，親も好意的で長く人気を得ているのが『ドラえもん』である。親が好意的というのは，「夢がある」「攻撃的でない」「安心感がある」「言葉が乱れてない」などが条件である（現在は著作権の関係で視聴不可能）。

さて，次の10年ではどんなものがブームとなり，人気を得るのだろうか。ＡＶライブラリーでは，人気のあるものはもちろんのこと，知識修得などの点で有意義なものも特集として子どもたちに紹介していきたいと考える。

(2)こどもの城映画劇場夏休み特別企画

第４回キンダー・フィルムフェスト・ジャパン

「キンダー・フィルムフェスト・ジャパン」は，ドイツのベルリン映画祭・子ども映画部門「キンダー・フィルムフェスト・ベルリン」(以下「キンダー」）から公認された，日本で唯一の子ども向け映画を展望する映画祭。今年，第４回目の実施に際しては，〔こどもの城〕を本会場として行いたいというキンダー実行委員会から提案を受けて，共催として〔こどもの城〕で

ドイツからバーバラ・ホフマンさんを招いてアニメのワークショップを開催

実施することになった。実施内容は以下のとおり。

【上映】「キンダー」で上映された秀作映画や中国，日本などの最新子ども向け映画，世界の短編アニメーション（以下アニメ）の上映を実施。特集としてイギリスと北欧のアニメを取り上げた。

【ワークショップ】講師にドイツのベルリン市ＡＶメディアセンター(Landesbildstelle Berlin)子ども芸術クラブで映像ワークショップを実施しているバーバラ・ホフマンさんを招き，ワークショップを実施。アニメ講座の教材を使用して，子どもたちが視覚玩具作りを行った。

【展示】スタジオＡでは，「キンダー」の実施風景，映画の歴史や仕組みを解説したパネルや模型などを展示した。視覚玩具のレプリカを自由に見ることができるコーナーは，多くの子どもたちでにぎわった。

【映写パフォーマンス】映画生誕100年を記念して，映画が生まれたころのエピソードを子どもたちに分かりやすく紹介。幻灯や特殊撮影を再現した映画などを交えて，フィルムや映写のメカニズムなどをパントマイマーが分かりやすく，楽しく実演した。続けて，物語映画の父と言われるジョルジュ・メリエスの伝記映画「グラン・メリエス」の弁士解説付き上映も実施した。

【ベスト・ビジョン・アワード】この映画祭の特徴として，公募で10歳から15歳の子ども審査員を募集して，ノミネート作品に賞を与える「子ども審査員」制度がある。今年はこれを「ベスト・ビジョン・アワード審査員」と命名。都内，近郊から多数の応募があり，13人を選出した。全員が上映作品を鑑賞し，期間中に討議の時間を設けて小学６年生の委員長を中心にして熱心な討論が交わされ，以下の賞が決定された。ベスト・ビジョン・アワード審査員賞『５等になりたい』(日本)，『白いゾウ』(インド)。授賞式は，特別プログラム『ムーミン・スペシャル』（会場＝ヤマハホール）に併せて実施された。

【セミナー】日本映像学会アニメーション研究会協力企画による，研究者，学生向きのセミナー。今年は，アニメーション制作における“演出”や“表現”についてを中心に構成した。

今回の会期期間中の入場者は，上映＝ 3,500人，スペシャル・イベント＝ 600人，セミナー＝ 200人，展示＝ 2,000人だった。

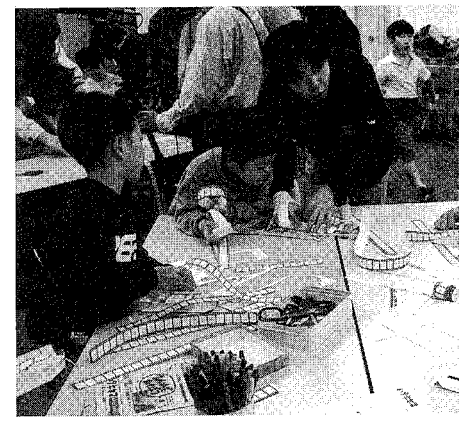
(イ)　〈しる〉〈つくる〉

(1)家族芸術祭　親子体験アニメワークショップ

ワークショップ「フィルムであそぼう」を実施。ここでもゴールデンウイークに開催した「光の魔法特別企画・映画歴史館」と同様に，目で見る映画史の展示を行った。ワークショップの開催に際して，内容に関連した展示を行うことで，より一層理解を深めることができると考えたからである。

ワークショップはパントマイムをするピエロが撮影された白黒映画フィルム

にマーカーで“足りないもの”を書き加えるプログラム「フィルムであそぼう」を中心に開催。過去に行った，透明フィルムに動画を描き，アニメーションを描くプログラムで，動きのリズムをつかむのが難しいことなどの問題点を考慮して“動きのガイド”としてピエロのパントマイムを焼き付けた。コストがかかりすぎるのが難点。高学年対応プログラムとして「ハタキネマ」(後述) も開催した。



高学年向きのプログラム「ハタキネマ」

(2)不思議な映像実験室

ゴールデンウイークに「光の魔法特別企画・映画歴史館」を開催。1995年は，仏のリュミエール兄弟が映画を発明してから100年。映画発明の年に関しては諸説があるが，一般的には1995年を映画生誕100年としている。

「映画歴史館」では展示とワークショップを実施した。展示は，映画の発明をはさんで，それ以前とそれ以後の３つの時代に区分した。展示品は，過去行った特別期間ワークショップ「光の魔法　うつる／うごく／うつす」で使用し，作りためてきたものである。作りためてきた展示品を一堂に展示したことにより，密度の濃い，満足度の高いものができた。

映画発明以前のものは，視覚玩具や映像装置に実際に触れてその効果を体験できる参加型のものを中心に展示。映画発明に関するものとしては，リュミエール兄弟の行った「グランカフェでの上映」と発明王エジソンの作った「キネトスコープ・パーラー」という映画装置の置かれた施設をそれぞれミニチュアで再現したものを中心に展示した。映画発明以後現在に至るものとして，映像装置の発達をさまざまな映画用カメラの実物や写真展示で構成した。

また，展示映像として，映画発明後間もないころにさまざまなトリック映像を駆使して映画制作を行った奇術師にして映画監督のジョルジュ・メリエスの作品『風船頭の男』の再現映画を制作。そのビデオと，撮影のメイキングビデオをスタンドアローン上映。黒い背景上に多重露光技術を使って合成する仕組みを紹介した。

ワークショップは13時と15時に開催。“残像現象”を体験する視覚玩具「ソーマトロープ」を作るプログラムを実施した。また，小学校４年生以上を対象とした高学年向けプログラムとして「ハタキネマ」を新規に実施。映画のフィルムを模倣した紙フィルムを“再生”するための“ビュアー”を紙工作で制作する，映画の“間欠運動”を体験するプログラム。子どもの紙工作の技量により，

完成品の“再生”能力が大きく変わってしまい，今後，工作方法，紙フィルムの間欠運動方法の変更，あるいは工作工程の指導方法に改善が必要と考えられる。なにより完成品で“映画的効果”を体験できなければ意味がない。

(3)いろいろ工作コーナー

今年で，夏の工作コーナーも4回目となった。過去3回はレンズを使った工作として，立体眼鏡・天体望遠鏡・顕微鏡を実施した。今回は，そのうちの立体眼鏡と天体望遠鏡をレンズを扱ったものの締めくくりとして実施した。

今回は，ボランティアの協力が得られ，全日程の大半に参加してもらうことができた。ボランティアたちも，今までこのような“教える”という経験が少なかったようで，最初は補佐役に終始していたが，回数を重ねるうちに指導の中心として活動してもらうことができた。

さて，参加した子どもたちの様子であるが，切る，張る，丸める，微妙な調整を行うなどが作業の中にあるが，カッターやのこぎりなどを使って切る作業に多く見られる傾向で，持ち方はともかくとしておっかなびっくりやっている子どもが多いように思われた。確かに学校で習っていないせいもあると思うが，日常の生活の中で，“思い切って”という経験が少ないためではないだろうか。失敗を恐れるあまり，手の動きがい縮して結局思ったように切ることができない。

今後も，子どもたちがさまざまな経験や知識を深める場として，この工作コーナーを続けていきたい。

3）講座・クラブ

(ア) ファミリー・ビデオ・クラブ

撮影の基礎から本格的な編集機器を使った作品作りまで，レベルに応じた講義と，実際に機材を操作する実習を組み合わせた一般成人対象のビデオ講座。本年度は，第1期＝必要な機材の選択と撮影の基礎を学ぶ初級の「初心者コース」，第2期＝家庭用ビデオ機器を使った編集方法を学ぶ中級者向け「簡易編集コース」，第3期＝プロ用の編集システムを使用した作品作りを学ぶ上級者向け「電子編集コース」を実施した。

前年度のこの講座では，「撮影」と「編集」とに2つのコースを設けていた。しかし「編集」受講者の興味や要望が「民生（家庭用）機器を使って自宅でも可能なシステムを作りたい」「音楽やナレーションなど音声まで完成させた作品を作りたい」「編集のソフト的なノウハウを知りたい」というように多岐にわたったため，取り上げる内容がかなり盛りだくさんで駆け足的に進めることになってしまった。その反省から本年度は「編集」を2つに分割し，3コースとした。

「初心者コース」では，使用しているカメラを持参してもらい，それに慣れることと，その機種ごとの特徴や欠点を補う撮り方などの実習が中心。更に編集しなくても他人が見て理解できるような撮影方法を説明した後，翌週までに実際に撮影をしてきてもらい，そのテープを再生し，講評する方法で進めていった。「簡易編集コース」では，ハードウエアの面に比重を置き，異なるフォーマット間での編集や，新しく登場した家庭用のデジタルビデオカメラと従来のシステムとのダビングの比較などを行った。「電子編集コース」は，業務用編集システムを操作して，受講者が撮影してきたテープを自身で編集し，作品を作り上げるまでを実習した。

(イ) 業務用ビデオ・ハードウエア講座

ＡＶ事業部では開館以来初心者やハイアマチュアを対象とするビデオ講座「ファミリー・ビデオ・クラブ」を実施してきたが，本年は10周年という区切りの年でもあり，新たな事業の展開を模索していく中で，本講座を実施した。

この講座は一般にはなじみの薄い放送用機器のハード部分に的を絞って行われ，内容的にはＶＴＲ，ビデオカメラ，測定機器，システム全般，ビデオ信号などを題材に取り上げた。参加者は，映像系を目指す学生から中高年のベテランまでと広範な層にわたっており，募集直後にはほぼ定員数に達してしまった。また，地域的にも近県はもとより地方からの参加も多く見られた。この傾向はメーカーなどがＰＲを兼ねて行うものを除いては同種の講座が少ないということを意味していると考えられる。

本講座は，内容が豊富である反面，実施形態が２日間の短期集中型であったため，カリキュラムの消化に戸惑う参加者も見られた。次年度以降の展開に当たっては，コース分けをするなどの対策を講じる必要があるだろう。

４）その他の活動

(ア) 〈動くこどもの城〉

本年度は，11月11日と12日の２日間，愛知県にある愛知こどもの国「わくわく工房」でアニメーション・キットの型紙を用いた「アニメ・ワークショップ」を実施した。幼児から小学校低学年は２枚の絵を描く「ソーマトロープ」と「マジックロール」を，小学校高学年以上は12枚の絵を描いて動かす「フェナキスティスコープ」と「ゾートロープ」作りを行った。また，キットに収録したアニメ作品の制作風景を写した写真パネルを展示し，アニメ作品をビデオで放映した。

２日間で約400人の利用者でにぎわい，小学校高学年から中学生の参加も多かった。10日には，近隣の保育所の保母を対象にキットを使用した実技指導講習会を実施した。マニュアル的な作り方の伝達ではなく，プログラムを作り上げ

ていくうえでの発想やプロセスを語るように心がけてほしいという先方の要望があったので，〔こどもの城〕でのワークショップや上映会を記録したビデオを流しながら，それについて解説する講義を後半に設けた。

(イ)劇場公演および館内外活動などの記録

本年度行われた劇場公演や館内外活動のビデオ記録は別表のとおり。多少の増減はあるものの，昨年並みである。

青山劇場で行われた「くろくろ沼のカッパくん」は外部公演ながら出演者などに記録ビデオを販売し，収入とすることができた。

【平成６・７年度収録状況】

		７年度	６年度
青山劇場	自主公演	1	1
	外部公演	2	0
青山円形劇場	自主公演	35	29
	外部公演	2	5
館内外活動		8	8
収録回数計		47	43

開館以来10年を経て，設備の老朽化が激しい。青山円形劇場では設置してある３台の収録用カメラのうち２台が不調で，メーカー側の対応も遅かったことから，年度末の収録は一様に１カメ収録になってしまった。単なる記録用としてだけではなく，後から人に見てもらう番組として考えた場合，１カメのふかん撮影のみというのではかなりの難がある。早急な設備の再整備が望まれる。

ほかに，ＡＶライブラリーの夏休み工作コーナーのＣＭビデオや，10周年記念に合わせ，インフォビジョンの視聴推進ビデオを制作，好評を博した。

(ウ) みる・しる・つくる　アニメーション・キットの製作

(開館10周年記念事業の項参照)

5）まとめ

ＡＶ事業部の活動は映像機器などある種の道具類を媒体として子どもたちに接するケースが多い。活動をしていくうえでのハード部分に当たる道具類も年々急速な陳腐化をたどりつつあるが，現在までのところ職員が日々ソフト面での工夫や改良を重ねることにより，総体としてプログラムの質や魅力の維持・向上につながっている。

しかし，マルチメディア時代に突入した昨今の現状を考慮すると，今後は映像機器のみにとらわれることなく，さまざまな媒体に視点を向けハード部分のリニューアルを行う時期にさしかかっているといえるだろう。

今後10年間という１つの節目を考えた場合，常にハード・ソフト両面において切磋琢磨（せっさたくま）に努め，子どもたちにとって魅力的な存在であり続けたいと考える。

6　保育研究開発部

(1)　7年度活動一覧

1）平常期間プログラム

名　　称	期　　間	備　　考
親子遠足	5.14	保育クラブ，幼児グループ2～5歳児の親子プログラムとして実施。公園の自然を生かして親子で楽しめるゲームや交流を深めるゲームを工夫した。家族90組が参加。家族の参加を目的として実施日を日曜日にしたため，祖父母，兄姉など家族ぐるみの参加が増えてきた。家族同士で交流したり家族でくつろぐ様子が目立った（東京都立砧公園）。
青空プレイ大会	10.15	保育クラブ，幼児グループ2～5歳児の親子プログラムとして実施。親子65組（父親の参加46人）が参加した。プログラムは家族で楽しめ，公園の自然を生かした内容を工夫した。父親の参加が増えたためプログラムのなかで父親インタビューを行い子どもとのかかわりかたを尋ねた。かなりよくかかわっている父親が多く，また母親とは違う角度で子育てをとらえていることが明らかになった（東京都立代々木公園）。
親と保育者の共同企画（あんこうの吊し切り）	2.18	保育クラブ，幼児グループ2～5歳児の親子プログラムとして実施。家族24組が参加した。保育クラブ，幼児グループの父兄15人とスタッフの共同企画。企画のプロセスを通じて家族同士の出会い，交流を進めることもねらった。午前・午後の2部構成。直接体験をさせたい，父親の力を示したい，親子でゲームを楽しもう――などをねらいにして午前はあんこうの吊し切りと親子ゲーム，午後はもちつきと親子ゲームを予定したが，当日大雪のため午後からあんこうの吊し切りと親子ゲームのみを実施。初めての企画であったが積極的な父親の参加が目立った。
保育活動展	2.24・25	1年間の保育クラブ・幼児グループの保育活動を子どもたちの作品や写真を中心に展示，紹介した。親子・家族で観覧，また一般にも開放した。保育担当スタッフが1年間の活動について説明しながら，家族とともに子どもの様子や成長の跡などについて懇談した。保育室Ⅰで開催。
保育室の一般開放	土曜日 14:00～17:00 日曜日・祝日 10:00～17:00	保育室Ⅱに遊具やがん具を用意して一般来館の親子が自由に遊べる場を提供した。父母そろっての利用や祖父母の姿，また中にはベビーシッターによる利用もみられた。ここを目指して来館する年少児の親子が増えている。大きい子どもたちと交じり合うほかのスペースと違って，親子が安心して過ごせる空間となっている。

2）特別期間プログラム

名　　称	期　　間	備　　考
〈夏休み〉 作ってあそぼう 親子工房	8.13~16	フィルムケースやプラスチック容器などに粘土を詰め，その上にクリップやボタン，ひも，葉っぱなどを置いてオリジナルスタンプを作る「ねんどでスタンピング」を保育室Ｉで実施。４日間で156組の親子が参加した。親子のコミュニケーション・身近な素材で遊ぶことがねらい。
〈　〃　〉 幼児グループ宿泊保育	9.1・2	５歳児の保育の一環として「こどもの国」（横浜市）で宿泊保育を行った。参加15人。
〈開館記念〉 作ってあそぼう 親子工房	11.1，3	「リースのブローチをつくろう」と題して，紙ひもで作ったブローチ型のリースにビーズやスパンコールをワイヤーに通したものを巻き付け，華やかに飾る。２日間で85組の親子が参加した。
保育室の一般開放	特別期間中の 土曜日 14:00~17:00 日曜日・祝日 10:00~17:00	保育室Ⅱに遊具やがん具を用意して一般来館の親子が自由に遊べる場を提供した。特別期間の館内混雑時には休憩室を兼ね，くつろぐ家族連れが目立った。

3）講座・クラブ等

〈講座〉

名　　称	対象・定員	受講数	曜　日・日　時	備　　考
親子教室　1期 2期 3期	(組) 1歳児親子 (各期14)	(組) ① 14 ② 〃 ③ 〃	月曜日　10:15~12:30	親子遊びを中心に育児の楽しさを両親で体験するプログラム。保育スタッフの援助により，他の親子との交流にもつなげる。医学・心理発達に関する講義，保健婦からのアドバイスもありよりよい子育てを目指す。両親参加が今年の特徴。申し込みは定員をオーバー（全12回。受講料35,000円）。
幼児グループ	(人) 4歳児(10) 5歳児(10)	(人) 15 8	火~金曜日	〔こどもの城〕を保育の場として週４日，２年間にわたる継続的な保育活動。異年齢保育として保育クラブの３歳児が，曜日ごとに異なる顔ぶれでこの活動に参加する。１人ひとりの個性を発揮させるために遊びの選択を幅広く考えている。音楽スタッフ，体育スタッフが加わり，他部門との人事交流を図っている。また，多様な人間関係を体験する場として本年度はさまざまな分野からのボランティア，人材を積極的に受け入れた。子どもたちの創造性，協調性を養う意味から野外での活動も多く取り入れ保育を進めた。５歳児は定員をオーバー（保育料は月額33,000円，給食費は月額4,800円）。

〈クラブ〉

名　　称	対象・定員	受講数	曜　日・日　時	備　　考
保育クラブ	(人) 2～5歳児 (登録児童数 483)	(人) 14 9 (1日当たり)	月～土曜日 (2歳) 火～金曜日 (3～5歳)	①集団への参加，母親の社会参加などを主な目的とした育児支援策として，日時を選べる保育プログラム　②イベント・通信・育児相談などの家族プログラム――を行った。父親の参加（送迎，イベント参加など），上の子や下の子に手がかかり相手ができないという利用理由が目立ってきた。民間育児サービスやベビーシッターなどと組み合わせて利用する姿がでてきた（入会金5,000円，年会費3,000円。保育料は1時間当たり，2歳児1,200円，3歳児以上850円。昼食代600円，おやつ代200円）。

〈講習会等〉

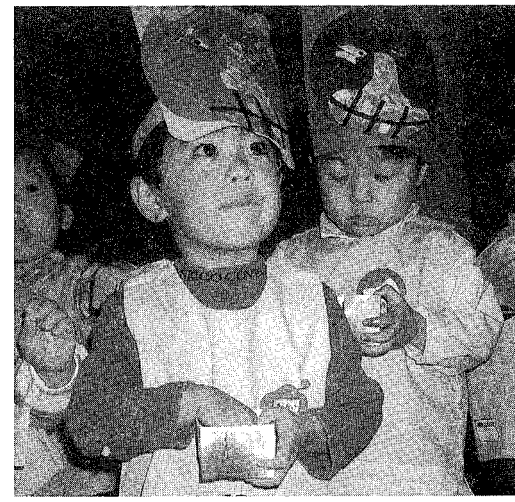
名　　称	対象・定員	受講数	曜　日・日　時	備　　考
第9回こどもの城保育セミナー こども・家族・社会　PARTⅡ	(人) 保育関係者・親など (150)	(人) 160	8.27　10:00～17:30 28　10:30～16:45	①記念講演「こどもの城開館10周年・児童福祉の足跡」高橋重宏（駒沢大学教授） ②分科会 Ⅰ.「保育とボランティア――民間活力を生かす――」 山田美和子(全国社会福祉協議会高年福祉部長)，柴内裕子（日本動物病院福祉協会コンパニオン・アニマル・パートナーシップ・プログラム委員長），名木純子（エスク代表），山田道子（こどもの城保育研究開発部） Ⅱ.「子どもを取り巻くおとなたち――子どもを取り巻く環境の変化について――」 山崎美貴子（明治学院大学教授） Ⅲ.「集団の中での子ども達」 関口はつえ(郡山女子短期大学教授)，大場幸夫(大妻女子大学教授) Ⅳ.「乳児保育の課題」 巷野悟郎(こどもの城小児保健クリニック顧問)，門脇世紀代（全国保育園保健婦看護婦連絡会会長） Ⅴ.ワークショップ「子どもの心をつかむ・パートⅡ――子どもを引きつけるコツ――」 小杉道雄（小杉教育研究所所長） ③対談「福祉ビジョンと児童福祉」 河幹夫（厚生省児童家庭局育成環境課長），山田美和子 ④パネルディスカッション「こども・家族・社会」 パネラー　巷野悟郎，小此木啓吾(慶応義塾大学教授)，森上史朗（日本女子大学教授），山崎美貴子 司会　岡本美智子（こどもの城保育研究開発部長）
育児相談研修会	育児相談担当者 (30)	49	6.24, 11.11, 1.27 14:00～20:00	テーマは「家庭育児の支援について～育児相談事業のすすめ方～」。スーパーバイザーは，山崎美貴子（明治学院大学教授）と山田美和子(全国社会福祉協議会高年福祉部長)。全3回シリーズ。
育児相談概論研修会	育児相談担当者(130)	119	5.1	テーマは「保育所保母が行う育児相談の基本と実践」。講師は山崎美貴子（明治学院大学教授），山田美和子（全国社会福祉協議会高年福祉部長）。

名　　称	対象・定員	受講数	曜　日・日　時	備　　考
ニュースレターの発行	児童福祉関係者（発行部数1,500部）	無料 750部 有料 250部 その他 500部	第8号(7.1) 第9号(12.1) 第10号(3.15)	平成4年度から発行してきたニュースレターが好評を得て，全国児童福祉・保育関係所管課などから，追加申し込み・問い合わせなどが多く寄せられた。全国各地で育児センター機能についてさまざまに取り組まれ，具体的な資料が求められていることを痛感した。前年度からニュースレターを定期的な刊行物として形を整え，年3回発行し，頒布価格を年間講読料1,000円（郵送費，印刷代一部負担金）とした。保育所や関係機関からの問い合わせ，有料講読も更に増えている。内容は，行政，経済界，利用者に関する情報および子育てをめぐって世界の情報，育児相談研修会の内容の概要など。主な配布先は，市長会，見学者，関係所管課。

4）その他（講師派遣等）

名　　称	期　　間	備　　考
多様な保育ニーズにこたえる保育	5.18	多様化する保育ニーズに，保育所がどのようにこたえていくことが期待されているのか，〔こどもの城〕で得られる情報や実践事例を基に提案報告を行った。富山県の保育所長が対象。主催は富山県児童家庭課。
母親学級育児科講習会	5.26，12.15	2回に分けて0・1歳児を持つ母親を対象に，しつけについての話や親子遊びの実技指導を行った。新宿区四谷保健所。
地域の子育て支援を考える	8.3	（社福）日本保育協会主催の平成7年度中堅保育所長研修会のパネルディスカッションで，子育て家庭が今，何を求めているのか，保育所ができること，保育者の役割などについて問題提起した。
親子の広場	8.19	新潟県長岡市の東部保育園が地域の親子を対象に行っている子育てグループで，母親向けのプログラムと親子プログラムのデモンストレーションを行った。
父と子のふれあい	8.29	2・3歳児を持つ父親と子どもを対象に，父と子の触れ合いの大切さについての講義と，体を使った親子遊びの実技を指導した。埼玉県富士見市保健衛生部主催。
ワクワク親子あそび	11.30	1歳前後の子どもを持つ親と子どもを対象とした育児相談の一環として行うプログラムで，触れ合い遊び，パネルシアター，手作りおもちゃなどを実技で紹介した。杉並区西保健所。
児童館活動を魅力的に	12.1	地域の環境，家族の実態，地域文化，地域ネットワークなどについて問題提起しディスカッションを行った。岩手県の児童館館長が対象。主催は岩手県社会福祉研修所。
育児支援の立場から～乳幼児のためのプログラムいろいろ～	1.31	育児支援の立場から乳幼児のためのプログラムをスライドと実技で紹介した。千葉県船橋市の児童館の児童厚生員が対象。
子育て環境講座	2.7	福島県郡山市中央公民館主催の4回連続講座の第3回目。乳幼児を持つ母親100人を対象に，子どもにとっての〈遊び〉について講義と実技指導を行った。
仕事を円滑にすすめるために	12.7，1.7，2.20	渋谷区の公立保育所職員を対象にした，3年間（各年3回）の継続研修。職場のコミュニケーション，チームワーク，地域のコーディネーターとしての保育所の役割について話した。主催は渋谷区保育課。
学会報告	5.21	第48回日本保育学会の自主シンポジウム「保育者の専門性を高める」で，保育者について，実践の場で必要なこと，研修の在り方，研修の評価についてなど報告と提案を行い論議した。

(2) 保育研究開発部の活動


「フーン、鬼をやっつけるのかあ」節分の話を聞く2歳児

多様化する保育ニーズに柔軟に対応する，育児不安や孤立する母親の相談相手になる，幼児の健全な遊び場を提供する——などを目的として“先駆的・実験的”な保育プログラムを模索して始まった保育研究開発部の実践も10年が経過した。

この間育児をめぐる社会環境の変化や，家族の意識の変化，少子化の進行など時代の変化に伴い，保育ニーズやプログラムの在り方も変わってきた。同時に，社会的な育児支援に対する関心や認識が高まり，保育所を中心として育児支援プログラムの情報や研修プログラムに対するニーズも高まっている。

保育研究開発部の事業は，昨年に引き続き「親子教室」「保育クラブ」「幼児グループ」を育児支援プログラムとして，また「保育セミナー」「育児相談研修会」「育児相談概論研修会」「ニュースレターの発行」を研修・情報プログラムとして実施した。

育児支援プログラムも研修・情報プログラムも時代を反映して，家族ぐるみで受け止め，育児生活を地域や社会に広げていくことが求められていることが感じられた。

本年度の活動について，それぞれ特徴的な事項を中心に報告する。

1）保育事業（親子教室）

本年度の親子教室では家族を取り込むプログラムに視点を当てた。中でも父親と母親が一緒にプログラムに参加することで共通の話題ができるように工夫と配慮を行った。

更に，リフレッシュゲームなどを通じてほかの家族と交流を深めた。育児や子どもの対応に悩む母親も相変わらず多いが，「親子教室」が大人同士のつながりと新たな育児の見直しの場になりつつあるようだ。

(ア) 親子教室で行った親向けプログラムの工夫と実際

(1)親向けプログラムのねらい

親子教室に対して，応募者が期待することとして次のような事柄が多い。

・遊び方を知りたい
・ほかの親子の様子を見たい
・専門家のアドバイスや情報を得たい
・子育てを楽しみたい（取り組み方や考え方を見直す機会にしたい）
・母親のみでなく父親も育児に対しての知識や理解を深めたい

これらにこたえるために次のことをねらいとして親向けのプログラムを行った。

・母親同士の仲間作りやリフレッシュ
・子育てに関する情報収集や交換
・育児に対する理解を深め子どもや自分自身を見直す機会を作る

【親向けプログラムの例】

○母親の集まり・自主企画

・交流を深め親しみを増すために身近で共感し合える話題を語り合う（出産や育児についての経験談や関心事など）
・母子同士が楽しめる遊びを一緒に企画して，講座の最終回に発表し合う（「大きなかぶ」などのお話を劇ごっこでしてみせるなど）

○父親参加のプログラム

・緊張感をほぐすために一緒に歌う（童謡だけでなく大人向けの歌も）
・子どものころの遊びや子どもの命名の由来などを話題に語り合う

○講師を囲んでのディスカッション

・子育てトークサロン（話題提供の講師を囲み夫婦が参加して，子育てと社会のつながりについてなど経験や実感をディスカッションする。話題の選び方をメンバー構成に合わせて工夫する。仕事と家庭，地域との関係，学校・教育など）
・社会と子育て（親が子に伝えたいこと。家族の中で気持ちを伝える表現のために，リラックスゲームなど）
・子どもを見る目（講師を囲み車座になって子どもの発達や親子の関係を踏まえて育児の気がかりや感想を語り，スーパーバイズを受ける）
・子育ての医学（子どもの発育やしつけなどについて小児科医の講義を受け質疑応答する）

(イ) 保育と保健の協力によるプログラムの広がり

保育と保健との連携によりプログラム内容を更に充実させることをねらいとし保育所保健婦の協力を得た。全12回のうち保健婦の参加は5回であった。

内容は「保健婦さんを囲んで」として20分ほど時間を組み，「子どもの健康，生活の中で気をつけること」「トイレットトレーニング」「寒さと健康」「予防接種」などの話題で話をする。また親子の集まりの中で，母親の疑問や質問に答

えたり，随時気付いた点について健康アドバイスをする，個人的な相談に乗る，など個別のかかわりも持つようにした。

参加者の反応は「今どんな病気がはやっているのか，どう処置をしたらいいのか細かく教えてもらって勉強になった」「集中して話を聴けたし，質問できるチャンスもあってよかった」「日常的なアドバイスが役立った」「実例に基づいた話がタイムリーで役立った」などであった。

保育所保健婦という立場からのアドバイスは具体的ですぐに役立ち，母親が今とらなければならない行動を分かりやすく伝えることができた。

(ウ) 1歳児に見られた特徴的な姿

【生活面では】

保育室内では子どもは素足になって活動する。靴下は脱いでも厚着をさせ，子どもが活動しにくくなっていたり，汗だくになって遊ぶ姿が目立った。また盛んに歩き回る子どもに履かせている靴の不適切も目立った。

これに対して保育者は「暑いですね。1枚脱がせましょうか」と声をかけたり，保健婦から，子どもは体温調節がうまくできないことを話したり，靴の選び方について具体的なアドバイスを行った。子どもの日常的な世話について，具体的な情報や指摘が必要であると思われた。

【しつけに関することでは】

紙おむつが普及し，保水性が良いこともあってなかなかおむつ交換をしないことなども目立ち，保育者が「おしっこいっぱい出ているようですよ」と伝える場面もあった。

また食事についての気がかりは，食べ方にむらがある，偏食がある，食べるのが遅い，などが訴えられた。プログラムには軽食が含まれるが，食事中に様子を見ながらアドバイスをすると効果的であった。

【生活リズムに関しては】

夜型の生活パターンが気になった。10時のプログラム開始時刻に，遅刻したりバギーで眠りながらの入室も少なくなく，しばらく調子が出ない子どもが見られた。家庭での生活が，大人と一緒に夜遅くまで起きていることが多く，プログラムのない日は午前中寝ていることもある。親子教室への参加が早く起きることのきっかけになった母子もあった。

「親子教室」のリフレッシュプログラムで“遊ぶ”お父さん，お母さん

2）保育事業（保育クラブ・幼児グループ）

保育活動は2年間週4日定期的継続的に保育参加する4・5歳児の幼児グループと，1年ごとに登録更新する保育クラブを統合した形態で行っている。

保育クラブ（2～5歳児）は更新，新規会員合わせて約400人が登録。2歳児の保育，3～5歳児の保育では友だちやいろいろな大人とのかかわりや，遊びや表現活動などにより，発達に見合った経験の場を提供する。親子プログラム，育児相談では家族同士の交流や育児の相談などにより，親に対してのプログラムを用意している。

(ア) 2歳児の保育

2歳児の保育は，子どものために集団の場を提供することを目的とするAプログラムと，親の仕事や社会参加などのために保育が必要な場合の保育援助を目的とするBプログラムがある。

Aプログラムは，月～土曜日の中から週1・2日（1日3時間）参加する。4か月を1単位とし，そのほかにもフリー予約や緊急予約の枠を2割程度設け，できるだけ多くの需要を受け止め，かつ個人的な対応を十分に行う保育方法を実現するよう活動した。

Bプログラムは，火～金曜日の中から，週1～3日（1日6～8時間）の参加。6か月を1単位とし，午前中はAプログラムと一緒に活動し，午後は年齢の異なる小グループで活動した。

(1)本年度の利用者の特徴（家族の特徴）

2歳児のプログラムは例年同様，近所に遊び友だちがいないため子ども同士のかかわりを持たせたいという理由が主流であった。また，子どもを預けて夫婦の時間に充てている家族も見られた。母親同士が既にほかのサークルや兄姉の塾などで顔見知りである場合も増えている。

そのほか次の理由で利用される場合が多かった。

・スムーズに母子分離を進めたい
・病人の看護・母の通院
・母親同士交流したい
・母親自身の時間が欲しい
　（まずAプログラムで慣れてからBプログラムへ移行）
・兄弟の用事
　（第1子の親は親子が一緒に参加するプログラムを，第2・3子を持つ親は兄弟の用事のために子どものみの保育を利用する傾向が強かった）

(2)子どもの姿

保育室にスムーズに入り興味のあるおもちゃ，なじみのおもちゃに近寄り抵

抗なく遊び始める。「お片付けをしましょう」と誘うと素直に片付け始める。自分から何か楽しいことはないかな，おもしろい遊びができるかな，と遊びだすよりは，初めは大人が作ったり描いたりするもので一緒に遊んでもらいたいという姿が多い。

これは，子どもが場に慣れていないための不安，というよりは，“教室”プログラムに慣れている，という印象が強く特徴的であった。

「あら！おててが青くなったわ」
ダイナミックなフィンガーペインティング

(3)親の育児意識（特に幼稚園の選択，父親の育児参加について）

例年より早い時期から，幼稚園についての相談が多かった。自分の子どもにはどんな幼稚園が合っているか，と基本的なことから考え，すぐに受験に走るのではなく自宅近くの幼稚園に当たるなど地道な選択をする親が増えた。幼稚園についての相談には父親と母親が一緒に訪れる例もあった。

父親の育児参加については，特に土曜日は父親の送迎が目立った。子どもが離れたがらないとき，父親が保育に参加する例もあった。保育観察日にも関心が高く，中には会社の休み時間を利用して積極的に参観する姿も出てきた。

(4)保育プログラム

【活動の主な内容】

○造形活動＝顔作り（ペーパー粘土）／ゆきだるま（ペーパー粘土）／フィンガーペインティング／鬼のお面／うさぎのゴム版画／自由画／切り紙／くるくる凧／染め紙――など

○食べること＝お団子作り／クッキー作り――など

○3～5歳と合同活動＝たなばた／ハロウィーン／すいか割り／豆まき／秋まつり／おしるこパーティー――など

○親子制作＝たなばたの短冊／クリスマスリース／おひなさま――など

○自由時間の遊び＝小麦粉粘土／自由画／油粘土／切り紙／スライム――など

※行事に関するプログラム（クリスマス・豆まきほか）は例年どおり行った。プログラム内容は，造形活動と紙芝居などにより導入していった。2歳児にとって，内容理解はいまひとつであったが，雰囲気を十分味わった。

【3歳児との交流】

普段の保育は，3～5歳児グループと2歳児グループに分かれて活動する。

子どもたちが安定し，活動に十分に楽しんで参加することができるようになる第２期に，２歳児と３歳児が合流して活動をすることを計画した。テーマは季節行事（秋祭りごっこ）で行った。

３歳児は，３～５歳児グループの中では年少児なので，この活動で保育者から「お兄さん」「お姉さん」と呼ばれて喜ぶ姿があった。普段３～５歳児の保育室に積極的に遊びに行っている２歳児は，３歳児と一緒の活動を楽しんでいたが，普段より人数の増えたことに驚いて不安になる子どももいた。

３歳児は年少児との活動でのんびりしたペースで活動を楽しんだが，自分の遊びに精いっぱいで２歳児のめんどうを見るまでにはいかない。２歳児は圧倒されながらも３歳児の動きを興味深く見ていた。２・３歳でグループ編成を行うことは意義深く，その場合は，日常的に触れ合う機会を持っていることが当然のことながら大切であった。

(イ)　３～５歳児の保育

４歳児と５歳児は週４日２年間にわたり継続的に保育参加する幼児グループである。３歳児は週１～３日，曜日を決めて（または選んで）交替に幼児グループに加わる。

各年齢10人を目安に約30人をグループの定員としているが，本年度は４歳児８人，５歳児15人，３歳児11人の34人で活動した。

保育は昨年に引き続き保母に加えて，音楽や体育を専門とする職員が保育スタッフとしてチームを組んで進めた。

(1)運動プログラムの展開例

チームで保育を進めるうえで大切なことはスタッフ間で共通理解を深めることである。それぞれのスタッフの視点の違いが結果的に子どもの多面的な理解につながるように，スタッフミーティングの時間を可能な限り多く持つように努力した。本年度は運動的な視点からのプログラム展開例について報告する。

保育に参加する３～５歳児を運動や体力の面から見ると，経験不足からくる動き方（身のこなし）が悪い点や歩く・走るといった基本動作がうまくない点，体は大きくても体力面で劣る点など典型的な現代の子どもたちであった。

保育の流れの中でいかにこの弱点を解消するかを考え，プログラムを組んでテーマ活動として行うとともに，保育生活の中に取り入れられるよう工夫し実施した。

【第１期の展開】

子どもたちに〈動き〉を見せることを大事にして，力を使う内容，体の各所を使う内容，巧ち性がより求められる内容を中心に運動の紹介を行った。

・５歳児には説明を聞いてから動くような設定で行う

・４歳児には説明を聞いて動く設定と５歳児を見て動く設定を半分ずつ

・3歳児は4・5歳児を見て，できる範囲での参加を促した

○実際の活動内容

お相撲／地面に耳を付けて音を聞く／動物リトミック／寝たまま気を付け，前へ習え／お母さん座り，お父さん座り／サッカー（走る，ける，ストップ，ターン，パス，ポジションの取り方など）／スポンジボール（つかむ，転がす，投げる，捕る，つぶすなど）／フープ(回す，転がす，くぐる，輪跳び，ハンドルに，電車になど)／プールでの水遊び（通年）／お化けの体操，風船体操（通年）

○様子

5歳児の半数は説明のみで意図した動きを理解できていた。担当者が設定した背筋を伸ばし，姿勢を良くする意図を含んだフープを使った運動や歩く・走るといった基本動作を入れた内容を繰り返していくごとに動き方や身のこなしが少しずつ良くなり，自分の思いと実際の動きとの差が少なくなる様子がところどころに見えてきた。しかし，うまく理解し得なかった子どもたちは，ほかの子の動きを見ながらまねをする参加方法だったので，プログラムで意図した動き方がうまくできなくてその都度修正する必要があった。

4歳児では5歳児のお手本を見ながら行う活動はスムーズに進んだが，個人差がより大きく出た。5歳児とそん色ない動き方になっている子どもがいる反面，参加すること自体ができず時間をかけて働きかける必要がある子どもがいた。

3歳児はいかに場に慣れて，自分のやりたいことを見つけ，ほかに伝えたりすることができるかどうかが課題となり，4歳児と同様個人差を吸収し差を少なくするために遊び感覚の強い，技術・体力が問われない模倣やじゃんけんゲームなどの活動と個人差を生かして年齢混合縦割りグループの利点を生かす活動との両面から展開した。

【第2期の展開】

第2期は第1期での経験を生かし子どもたちが見た〈動き〉をまねやすいように同一の内容，または同系統の内容を繰り返し行う。

・5歳児はルールのある運動を工夫しながら行う

・4歳児は体験を生かし，活動範囲を広げる

走る，跳ぶ，くぐるなど

フープを使っての運動遊び（3～5歳児の保育活動）

・3歳児は1人ひとりの体力に応じた量で動く

○実際の活動内容

鬼ごっこ(氷,手つなぎ,色,高,地蔵)／しっぽ取り／缶けり／フルーツバスケット／ハンカチ落とし／パラバルーン／フライングディスク／縄跳び(縄回し,ヘリコプター,だまし縄跳びなど)／ホッケー(ユニホック，あひるホッケー)

○様子

5歳児は運動量が増え，新しい内容にも積極的に参加する姿が見られた。ほとんどがルールを理解して活動できるようになったが，自分たちの工夫でゲームをアレンジしたり，新しく作ることはうまくできなかった。

4歳児は，ほかの体験を生かして応用することができるようになってきた。まだ個人個人の活動であり，集団としてまとまって運動するような設定で行う以外に自分たちから始めることは少なかった。

3歳児は場や活動の流れに慣れ，運動量も増やすことができるようになったが，幼児グループに比べて絶対的な運動量や経験は少なくなるため，目立った変化は出にくかった。

【第3期の展開】

第3期は〈動き〉を身に着けるため，第1・2期で経験した活動を中心に新しい内容を交えながら行った。

・5歳児は集団としてまとまりを持ちながら楽しく運動する

・4歳児は同じグループで工夫しながら遊ぶ

・3歳児は興味を持って遊びに参加できるように言葉かけする

○実際の活動内容

マラソン／縄跳び(単縄，長縄)／今まで経験した種目(子どもたちの声から，パラバルーン，しっぽ取り，フルーツバスケット，缶けりなど)

○様子

5歳児は更にリーダーシップを発揮し,年齢を超えて皆と一緒に遊んでいる。年齢別の活動でも積極的でおもしろいこと，新しいことに絶えず網を張っている。しかし，運動量の点で捕らえると2期よりも少なくなってしまった。

4歳児は集団で遊ぶことが楽しくなってきている。これを利用し，運動へ移行することができる条件がそろってきた。体力的には5歳児に肩を並べることができる子どもが数人出てきた。

3歳児は個人差はあるが，ルールを理解して参加できるようになってきている。変化も大きく楽しく活動していることが表情や行動から伝わってくる。いかに機会を与えられるかを問われた。

【課題と展望】

期ごとの課題として，第1期は，年齢別に集団として活動するための配慮，

いかに場に慣れやすくするか，興味を持たせることや理解しやすい説明の工夫。第２期は，行った活動を普段の遊びにどう結び付けるか，どう生かすことができるか。第３期は，行事との折り合いをどう付けるか，少ない機会をどう生かすかなどが挙げられる。

全体的には，４月の子どもたちの姿から，経験が不足していると思われる内容を選び，有効に行うことができたと考える。

経験不足による身のこなしの悪さは５歳児ではほとんどが無くなった。身のこなしが良くなった４歳児は数人しかいないが，積極的で好奇心おう盛な子どもが多いため，今後に期待できる。また，ほぼ半数が歩く，走るといった基本動作はスムーズになっていた。体力面は体の成長とともにほぼ標準的なレベルまで達する子どもがいる反面，個人差が大きく，１年間の活動ではなかなか向上が図れなかった。

フープ遊びやサッカー，鬼ごっこなどの第１期に行った活動は，子どもたちの一部ではあるが，それぞれを気に入った子が年間を通して行っていた。ここでは新たに参加したいと思う子どもたちが，軸になっている子どもたちと一緒に遊び，新しい人間関係を作る１つの手がかりになっていた。

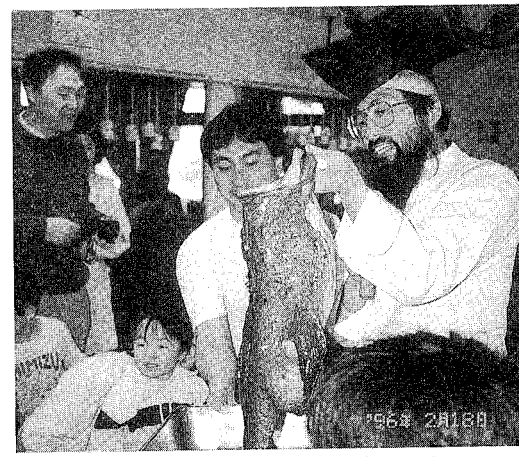
(ウ) ３歳児の保育

３歳児は週１・２回年齢混合保育に参加する。３歳児の需要は高く，特に近年目立つのは週１回の保育参加ではなく週２回以上の参加要望が高くなっていることである。その理由としては

・体力的にも週１回の活動ではもの足りない
・友だち遊びへの子どもの欲求が強い
・２歳児から保育クラブに参加して親子とも慣れている

などがあげられる。

また姉や兄が幼児グループに在籍していて一緒に活動参加したいと，フリー予約する姿が増えてきた。



親と保育スタッフの共同企画で実現した
“あんこうの吊し切り”おいしさもひとしお

(エ) 保育クラブ会員対象の親子イベント

保育クラブ２～５歳児と幼児グループの家族を対象とした親子イベントを行った。親子のスキンシップを深める，会員親子の交流を図ることを目的として行われ，①親子遠足（砧公園）　②青空プレイ大会（都立代々木公園）　③親

と保育者の共同企画を本年度は行った。

①，②のそれぞれのプログラムは，家族ぐるみの多数の参加があり，前年度第２土曜日に行ったことを発展させ日曜日に実施したところ，兄姉の参加も多く父親の参加も更に増え盛況であった。

③については本年度初めての試みとして，プログラムを保育者と会員の親の有志が共同で企画し実施する共同企画プログラムを行った。会員の家族のより親密な交流，コミュニケーションをねらいとした。実施に当たっては約15人の保育クラブの父母が企画メンバーとなり実施までに３回準備会を持った。親からの提案によりあんこうの吊し切り(後にあんこう鍋を囲む)，親子ゲームを内容とするプログラムを行い盛況であった。

(オ) 一般来館対象の親子プログラム

例年どおり土曜日の午後２時からと，日曜日，祝日の午前10時から保育室Ⅱに遊具やがん具を用意し，１・２歳児の遊び場として開放した。

夏休み特別期間と開館記念特別期間の２回，一般来館者対応のプログラムとして「親子工房」を行った。ここでは，「作る」ことを第１の目的とはせず，親子が和んで一緒に素材を通じて共通体験を図る，ここで行ったことを家に帰ってもやってみたい，楽しく遊べる，などをねらいとしてプログラムを考えた。また家族内の親子のコミュニケーションだけではなく，スタッフが媒体となってほかの家族との交流や情報交換のできる場として試みている。

親子工房は，日常の保育活動で実践した遊びやプログラムを，一般にも広めようとして３年目であるが今年も繰り返し参加する家族も増えている。

参加者の年齢は３～９歳と幅広く父母のみでなく，祖父母や友だちを誘っての参加も目立ってきた。

保育

３）研修事業

(ア) 保育セミナー

昨年に続き，テーマは「こども・家族・社会　PARTⅡ」を取り上げた。例年どおり厚生省などの後援を受けて８月27日･28日の両日，〔こどもの城〕研修室と青山円形劇場で開催した。

記念講演「こどもの城開館10周年・児童福祉の足跡」は，高橋重宏駒沢大学教授がこの10年間の児童福祉の動向を報告書などの紹介をしながら，考え方の変化についても触れた。また，児童の権利条約を取り上げ，今後の方向性についても示唆があった。

また１日目午後からは５テーマに分かれて分科会を行いテーマに沿って，論議，情報交換を行った。ここでは第２分科会「子どもを取り巻くおとなたち――子どもを取り巻く環境の変化について――」を報告する。

講師の山崎美貴子明治学院大学教授が本年度から実施された子育て支援事業を取り上げ講義形式で話が進められた。次に参加者の中から各地の実践例の報告があり，これについて参加者でバズディスカッションを行った。最後に山崎教授から，母親との関係を作っていくときには，保育者がコミュニケーションのチャンネルを多様化していき，母親が立っているスタートラインに保育者も立って一緒に歩き，プラスのメッセージを伝えながら支えていくことが大切である，とまとめがあった。

「こども・家族・社会」のパネルディスカッションには保健の立場から巷野悟郎こどもの城小児保健クリニック顧問，保育・教育の立場から森上史朗日本女子大学教授，精神医学の立場から小此木啓吾慶応義塾大学教授，社会学の立場から山崎教授をパネラーに迎えた。

それぞれ，ここ10数年の「こども・家族・社会」をめぐる特徴的な事項や新しい情報について紹介され討論が行われた。パネラーが参加者からの質問や意見に答える形でセミナーは終了した。

(イ) 育児相談研修会

保育所が行う育児支援事業に対する期待と関心の高まりは大きく，そのために各地で育児相談についての具体的な情報が望まれている。講師は例年どおり山崎美貴子明治学院大学教授と山田美和子全国社会福祉協議会高年福祉部長。

1回6時間という長時間にわたる研修会だが，各回とも事例に沿って具体的に相談の進め方についての問題点が明確化された。この研修には毎年多数の反響があり，今年も当初の予定より定員を増やしたが，申し込み者全員に応じ切れなかった。なお，各回のプログラムの内容は以下のとおり。

○第1回＝「保育所の果たす役割」・相談技法「聴く」について

○第2回＝「地域資源とは」「主訴とは」。講義と事例ディスカッション

○第3回＝「情報の整理」について講義とグループワークの後，本年度のまとめを行った

(ウ) 育児相談概論研修会

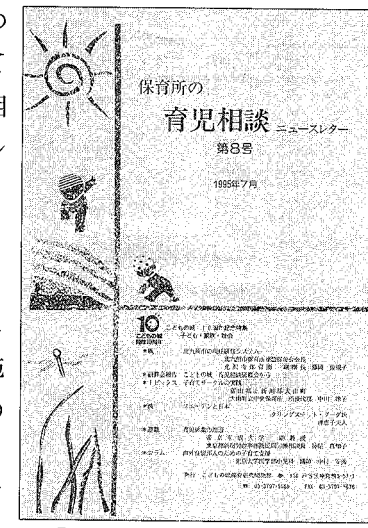
育児相談研修会への関心の高まりにこたえるために，本年度から相談事業実施予定者および初心者を主な対象とした概論的な研修会を新たに設置。3時間のプログラムを1回行った。講師は山崎美貴子明治学院大学教授，山田美和子全国社会福祉協議会高年福祉部長。

熱心にメモを取る参加者。質問も活発に出て盛り上がった（育児相談概論研修会）

児童福祉施設の場を生かした育児相談の進め方について，相談の基本と事業の実際についての講義。更に育児相談研修会の受講者により相談事例のロールプレイによるデモンストレーションと，講師によるスーパーバイズを受けた。

(エ) ニュースレターの発行

本年度は8号・9号・10号と年3回発行し，年間講読料を1,000円として一般に頒布したところ，全国児童・保育関係主管課，育児相談実施の保育所を始めとした児童福祉施設から多くの申し込みがあった。



「ニュースレター」(第8号)

本年度は「こどもの城10周年記念特集　こども・家族・社会」という特集を組み，行政関係の情報，地域の育児支援の実践報告，育児支援に関連する企業，経済界の動向，海外の子育て情報などについての記事を掲載した。

今後は児童館などほかの関係機関も視野に入れながら，広い意味での情報を提供していきたいと思う。また，更に保育所のみではなく，関係諸機関にも情報提供していきたい。

(オ) 実践報告および情報の提供

各地で育児支援活動への取り組みが活発になり，それに伴って〔こどもの城〕の保育実践について情報提供やプログラム紹介が求められた(112ページの表参照)。

保育

6　小児保健部の活動

(1)　7年度活動一覧

1）平常期間プログラム

名　　称	期　　間	備　　考
診療・相談 小児科診療 小児総合健康相談 育児・生活相談 乳幼児健診 心理相談 栄養相談 小児肥満相談 発達相談	月曜日を除く毎日 9:30～17:00	診療・相談はすべて予約制である。原則として健康保険が適用される。健康保険が適用されない場合には相談料扱いとなる（相談料1回5,000円）。 小児保健部の小児科医師，看護婦，保健婦，臨床心理士，栄養士，臨床検査技師が診療・相談を行う。また聴力検査，脳波検査，各種心理検査が可能。専門相談と連携しつつ行っている。
※専門相談 小児耳鼻科相談 （聴力・言語） 小児精神相談 小児神経相談 ダウン症相談	月1回 土曜日・日曜日	専門医が担当。
赤ちゃんサロン	毎月第2・第4火曜日 13:30～15:30	対象は0～2歳までの子どもとその親，あるいは妊婦。入館券対応。育児支援事業の一環として平成3年から実施。育児情報の交換や，医師，保健婦，栄養士，臨床心理士による育児相談が行われる。本年度は延べ1,920人が参加した。

「赤ちゃん大集合～赤ちゃんサロン秋季大会」は文字どおり赤ちゃんが大集合

2）特別期間プログラム

名　　称	期　　間	備　　考
〈夏休み〉 こども一日ドック	7.25 12:00～17:30	対象は小学生と中学生。体育事業部との共同事業。医師による診察，検査(呼吸機能・尿・血圧測定)，身体計測，生活習慣調査，食生活調査，心理検査，体力測定の結果に基づいた診断・指導。受診者は3人。
〈開館記念〉 赤ちゃん大集合～赤ちゃんサロン秋季大会	10.31 11:00～15:00	平常期間に行っている赤ちゃんサロンに，各種のイベントを盛り込んで行った。小児科医トーク，親子遊び（保育研究開発部），親子体操（体育事業部），育児漫才（小児保健部），大抽選会など。参加者474人。
〈　〃　〉 第10回小児保健セミナー「こどもの心身症」	10・7 10:00～17:00	最近，「心が関与しているからだの異常」を訴える子どもが増えているので，「心身症」をテーマに，こういった症状や訴えにどう対処したらよいか，小児科医・臨床心理士・養護教諭の各専門の立場から講演していただいた。講師は「不定愁訴についての考え方と対応」大国真彦日本大学医学部小児科教授，「心理的な面の理解と援助の実際」井口由子こどもの城小児保健部次長，「保健室を訪れる子どもの訴えと生活の背景」宍戸洲美渋谷区立本町東小学校養護教諭。参加者103人。
〈春休み〉 こども一日ドック	3.27 12:00～17:30	夏休み特別期間中に実施したものと同じ内容。受診者5人。

3）講座・クラブ等

〈講座〉

名　　称	対象・定員	受講数	曜　日・日　時	備　　考
健康スポーツ教室〈太りすぎクラス〉第12期	(組) 小学校1～6年生の太りすぎ児童とその親 (25)	(組) ① 24 ② 25 ③ 25	土曜日　14:00～17:00 〃 〃	体育事業部との協力事業。太りすぎの改善のために医学指導・栄養指導・体育指導を行う。外部講師として，村田光範東京女子医科大学第2病院院長・山崎公恵講師・市川みやぎ医師・数間雅子医師，坂本元子和洋女子大学教授・小林幸子教授・石井荘子助教授・藤澤由美子講師。
マタニティ・スイミング	(人) 妊娠16週以降の妊婦 (35)	(人) 4月25 5月25 6月31 7月30 8月33 9月34 10月37 11月32 12月25 1月20 2月20 3月22	水泳（火曜日・木曜日，月7回） 10:00～12:00 レクチャー（火曜日または木曜日，月1回） 13:30～14:30	体育事業部との協力事業。水泳という活動を通して，妊娠中を心身ともに健康に過ごすことをねらいとしている。講師として，日本赤十字社医療センター産科医師・助産婦。 月1回水泳終了後に助産婦や産科医師などによるレクチャーを行った。質疑応答の時間も設けている。
母と子のリトミック<ダウン症クラス>第12期	(組) 3～5歳のダウン症児とその親 (15)	(組) ① 15 ② 14 ③ 14	木曜日　13:30～15:30 〃 〃	音楽事業部との協力事業。リトミック活動を利用し，子どもたちが親やスタッフと一緒に活動する中で，自分の気持ちを表現できることをねらいとしている。講師は音楽事業部吉村温子。

名　　称	対象・定員	受講数	曜　日・日　時	備　　考
育児サークル・コアラッ子	(組) 3～18か月の乳児とその保護者 (10)	(組) 5月7 6月4 7月3 9月9 10月7 11月7 12月5 1月6 2月8 3月10	第4木曜日 13:30～15:00	本年度からの新しい講座。親たちが育児の疑問・不安・悩みを出し合い，それを経験談や助言を交換し合う中で解消していくグループ・カウンセリングの場。毎回募集。

〈講習会等〉

名　　称	対象・定員	受講数	曜　日・日　時	備　　考
小児肥満のための指導者講習会 (第18回)	(人) 養護教諭，栄養士，保健婦，保母など (50)	(人) 36	7.7・8 10:00～17:00	本年度は2日間のコースで実施。夏休み前であったが，全国から熱心に，肥満児の指導について学習したい養護教諭・栄養士らが集まった。内容「肥満の判定と指導」村田光範東京女子医科大学第2病院院長，「肥満改善のための食事・栄養指導」坂本元子和洋女子大学教授，「肥満児の運動指導・実技紹介」羽崎泰男こどもの城体育事業部長，「肥満児の理解と心理的対応」吉田弘道東京都精神医学総合研究所研究員。
小児肥満のための指導者講習会 (第19回)	養護教諭，栄養士，保健婦，保母など (50)	61	3.22・23 10:00～17:00	保健所などで幼児肥満の指導も開始されていることから，特に全国の保健所から肥満児の指導について学習したいと参加した人が多かった。内容「肥満の判定と指導」村田光範東京女子医科大学第2病院院長，「肥満改善のための食事・栄養指導」坂本元子和洋女子大学教授，「肥満児の運動指導・実技紹介」羽崎泰男こどもの城体育事業部長，「肥満児の理解と心理的対応」吉田弘道東京都精神医学総合研究所研究員。
第3回小児保健研修会 「幼児の栄養と食生活指導の実際」	栄養士，保健婦，看護婦，保母，養護教諭など (60)	54	8.2　10:00～17:00	離乳食と大人の食事の移行期にある「幼児食」について考える研修会を持った。各メーカーの幼児食の試食も行った。内容「幼児食の基本」今村榮一小児科医師，「幼児の食生活の実際と問題」太田百合子こどもの城小児保健部管理栄養士，「幼児期の食文化」足立己幸女子栄養大学教授。
第4回小児保健研修会 「小児感染症と予防接種」	医師，栄養士，保母，保健婦，看護婦，養護教諭など (60)	61	2.24　13:30～17:00	子どもの生活と健康を考える時に欠かせない感染症と予防接種の最新の情報と現場での対処のし方についての研修会。内容「感染症の動向と改正された予防接種」木村三生夫東海大学名誉教授，「集団における感染症の取扱い」池田宏日本保育園保健協議会副会長・川崎市医師会保育園医部会会長。

(2) 小児保健部の活動

小児保健部は，子どもの心と体の健康の問題に取り組み，親たちの心配や悩みの相談を受けながら，子育ての支援をしていくことを目的に活動している。この基本的な姿勢は開館以来10年間変わりない。

10年を振り返ると，初期のころはぜんそくや肥満の子どもたち，あるいは妊婦などを対象に，医療的なケアだけでなく運動・生活・心理などさまざまな保健的な観点からの援助を行う健康教室を運営し，その考え方を広める役割を担っていた。現在は，これらの活動は，各地の自治体によっても行われるようになり，より地域へと広まってきている。一方，子育てに不安を持つ親たちや，高学歴志向・競争社会などの風潮にほんろうされる子どもたちの問題は，より複雑化してきている。より広範に，ときには深く対応できる子育ての支援が大きな課題となっているといえよう。小児保健部は今後もこのような，社会が必要としている課題を見据えながら活動していきたいと考えている。

具体的には，個々の親子を対象にしたクリニックの診療・相談活動，グループで行う講座や子育て支援の活動，専門家向けの研修会などの啓発活動，そして研究活動の4領域に分けられる。本年度はこれらの活動を引き続き行い，更に新たな子育て支援の活動として「育児サークル・コアラッ子」を設けた。また，淡路島の一宮町に職員を派遣し，阪神・淡路大震災の被災幼児への心のケア活動を1年間継続した。

1）診療・相談活動

小児保健クリニックでは，体の発育や発達の状態，また社会適応や情緒・行動・性格などについて心配なことがある場合に，診療・相談に当たっている。小児科医をはじめ，保健婦・看護婦・管理栄養士・臨床検査技師・臨床心理士が連携して，心と体の両面について，いろいろな角度から相談に対応できるのがここの特色である。また，健康な子どもたちの“遊び場”の中にある診療所であるため，親は子どもを連れて訪れやすく，診療・相談を受けるかたわら遊んで帰ることができるので，家族関係の改善に役立つ場にもなっている。

本年度のクリニックの来所者概要をみると，診療・相談の総件数は，2,839件で，月別の内訳は表1のとおりである。ここでの診療とは，健康保険の適用を受けている診療である。医師の診察の結果，保険診療の対象となり，医師の依頼で心理相談を行った場合は，心理相談も診療の一部として換算されている。健診とは，公費による乳幼児健診と自費(5,000円)による健康診断の両方を含む。相談とは，自費の相談料(5,000円)による，育児相談と心理相談である。特に不

（表１）【新規来所者数（初診カルテ発行数）】　（平成７年４月１日～８年３月31日）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
診療	171	229	213	228	219	169	174	188	223	217	174	249
健診	3	6	51	8	14	12	4	10	5	9	2	6
相談	18	21	21	23	13	24	15	25	27	17	23	26
合計	192	256	285	259	246	205	193	223	255	243	199	283
内訳												
初診	23	26	42	37	44	32	26	31	24	20	15	41
再診	169	230	243	222	202	173	167	192	231	223	184	242

※診療合計＝2,454件，健診＝130件，相談合計＝255件，総合計＝2,839件
　初診合計＝361件，再診合計＝2,478件

（表２）
【来所者の居住地域内訳】

居住地域	人数	%
世田谷区	37	10.3
渋谷区	35	9.7
港区	25	6.9
目黒区	29	5.3
新宿区	12	3.3
その他の23区内	111	30.8
東京都下(市部)	24	6.6
東京都計	263	72.9
神奈川県	38	10.5
埼玉県	23	6.4
千葉県	16	4.4
その他の都道府県	21	5.8
総計	361	100.0

（表３）
【初回来所時年齢内訳】

	(人)
0	44
1	34
2	44
3	38
4	35
5	28
6	21
7	23
8	18
9	19
10	21
11	11
12～17	20
18歳以上	5
合計	361

登校などの場合，医師を通さずに緊急に心理相談を受けたいという要望があり，その場合は心理相談を相談料で行っている。新規来所件数(初診数)は，361件で前年度（310件）より増加している。すなわち診療は204件から233件に，相談料による相談が，29件から49件となった。

居住地域と年齢別の内訳（表２・３）は，地域的には東京都が約７割を占めているが近県・他県から３割近くあり，中には長野県・茨城県など遠方からの来所もある。診療・相談の来所者は年齢的には乳幼児から学童が多く，この傾向はこれまでと変わっていないが，年々10歳以上の思春期にある年長児が増加している。

相談の主な内容は次のとおりである（表４参照)。診療では，言語や精神・運動発達の遅れ・自閉症・学習障害・ダウン症などの発達の問題で来所する例は26％で，昨年（97件，31％）よりわずかに減少している。子どもの発達の遅れ

が気になった場合の第1次受診機関として，受診することが多いので，親の不安も高い。言葉の発達の遅れについては，器質的な障害をベースにする例だけでなく，家庭での親のかかわり方や育児環境に援助の必要なケースが多く含まれている。このようなケースには，小児科や発達相談で継続的に相談を行っていくこともある。ダウン症は，月1回のダウン症専門外来の受診が目的であることが多いが，その後各種検査や神経科・耳鼻科などの専門外来，発達相談で総合的に見ていくことが多い。

（表4）【新規来所者の診療・相談内容内訳】

		内　　容	人数	%
診療	発達の問題	ダウン症，その他の先天異常	23	6.4
		言語発達遅滞（疑いも含む）	50	13.8
		精神・運動発達遅滞（疑いも含む）	10	2.8
		自閉症・自閉的傾向	9	2.5
		学習障害・多動等	2	0.6
		小　　計	94	26.1
	心理的な問題	心身症・神経症・情緒障害等（脱毛・チック・恐怖症等）	56	15.5
		その他　心理面の相談（不登校・集団不適応等）	8	2.2
		小　　計	64	17.7
	身体の問題	肥満	39	10.8
		アレルギー疾患・湿疹等	3	0.8
		その他　身体面の問題（夜尿等）	33	9.1
		小　　計	75	20.7
	合　　計		233	64.5
健診・相談		健康診断（乳幼児検診含む）	79	21.9
		育児相談（相談料扱い）	22	6.1
		心理相談（　〃　）	27	7.5
	合　　計		128	35.5
合　　計			361	100.0

神経症・情緒障害・集団不適応など心理的な問題で来所する例は，診療の中では51件から64件と増加している。小児科医に初診を受けた後，心理相談に紹介されるものも多い。更に，相談料で心理相談に直接来所する緊急性の高い件数も23件から27件へと増えている。両方を合わせて，新規来所者の約25%は，心理的な問題である。肥満は，昨年と同じ39件で，健康教室を行っているため，外来受診も多い。外来から健康教室につながる例もある。肥満についても最近は，運動が嫌いで子どもらしくない不規則な生活を送っていたり，親子関係で満たされない部分や友人にいじめられたストレスを食べることで埋めているなど，生活や心理的側面を解決することなしには肥満も改善しないような複雑な背景を持つ事例が増えている。

このほか，身体面の問題で診療に来るケースが13件から33件と増加している。特に夜尿症を主訴に来談する者が増加しており，小児科医の診療を継続して経過を見ていくことがある。

個別の診療・相談も，広い意味での育児支援活動の１つであるが，決して病的で特殊なケースだけが訪れるのではなく，子どもの育つ環境のひずみやゆがみが子どもの心身の症状となって現れてきていることも多い。親たちは，それまでの経験から，成績のように数字や形で表される基準には慣れているが，自分の感性や人との情緒的なやりとりを通して相手とかかわっていかなくてはならない子育てのような場面では，とまどいが大きいようである。特に心理相談などでは，子どもが発達のやり残した部分を取り戻し，アンバランスを回復して成長していくには，親もともに成長する必要があり，親子ともどもじっくりと時間をかけて援助を受けることが必要となってきている。

2）グループで行う，講座や育児支援の活動

体育事業部と行っている「健康スポーツ教室〈太りすぎクラス〉」「マタニティ・スイミング」，音楽事業部と行っている「母と子のリトミック〈ダウン症クラス〉」など，ほかの部門と連携しながら行う講座があり，これらはクリニックでの臨床経験と他部門の専門的な指導力を生かして，生き生きと楽しい健康的な生活への援助を行うものである。

また，月２回行っている「赤ちゃんサロン」は，妊婦および生後３か月から２歳までの子どもとその親を対象にした，いわば“井戸端会議の場”である。ここでは，一般来館者として自由に集まった親たちに，親同士の語らいと交流の機会を提供し，小児保健部の小児科医・保健婦・臨床心理士・管理栄養士が中に入って育児の疑問に答え，正しい育児情報を伝えるようにしている。また，乳児自身にとっても，多くの仲間や人と出会い，新鮮な体験の場となっているようだ。若い母親たちは，家庭で孤立しがちで，育児への不安も高く，この「赤ちゃんサロン」は，本年度も毎回多くの参加者を得ている（１年間で1,920人）。

このように，乳幼児を抱え，まだ地域になじみの少ない親たちの育児をどう支援していくかは，今後の大きな課題となるであろう。例えば乳幼児を連れた母親たちが，仲間を求めて地域の児童館などを訪れる傾向も出てきている。「赤ちゃんサロン」の経験が，これからそうした地域での活動の広がりに役に立つことができればよいと考えている。

本年度から始まった「育児サークル・コアラッ子」

そうした育児支援活動の新しい試みの１つとして，本年度は，「育児サークル・コアラッ子」を月１

回行うことにした。これは，3か月から1歳半の乳児を持つ親対象のグループ・カウンセリングの場で，同じ部屋で子どもは別に遊び，母親たちは，少人数(10組）で育児の悩みをじっくり話し合う。そして，臨床心理士・看護婦・管理栄養士などの専門家の助言を得ながら，不安を解消し，子育てに楽しく向き合えるようにしていくものである。

3）啓発活動・研究活動

このほかに小児保健部の活動内容として，育児にかかわる専門家向けの研修会・講習会と研究活動があり，個別の診療・相談やグループでの活動の経験と互いにフィードバックし合いながら機能している。

本年度は，小児保健セミナーで「子どもの心身症」を取り上げ，小児科医・臨床心理士・養護教諭の各講師に，それぞれの経験を基に現場で役に立つ知識や子どもの見方・接し方などの講義をしていただいた。

また，より少人数の受講者対象の小児保健研修会では，第3回で離乳食と大人の食事の間にある「幼児食」の問題を取り上げ，第4回で「小児感染症と予防接種」についての最新の情報を提供した。

研究活動については，「母親たちの育児情報の受け止め方」や「肥満指導の事例の考察」，「心理相談における事例検討」などを関係学会で発表した。

4）その他の活動

本年度は5回にわたって，淡路島（兵庫県津名郡）一宮町の保育園の幼児と地域の親に対し，臨床心理士を派遣し，地元の子育てふれあいセンターの責任者と共同して，阪神・淡路大震災の被災後の心のケア活動を継続した。幼児には，クレヨンで絵画を描いてもらい，それを中心に日々接している保母たちと，子どもの様子について話し合いを持った。また，母親たちの希望者には，個別のカウンセリングを行った。被災という体験を乗り越えるには，長い時間が必要であるが，特に乳幼児にとって環境をなるべく早く安定させることが大切であると痛感させられた。

8　企画部の活動

(1)　7年度活動一覧

1）平常期間プログラム

名　　称	期　　間	備　　考
日本ブラジル修好100周年記念 日本ブラジル「こども絵画交流展」	9.15～10.10	日本とブラジルの修好100周年を記念して行われた，子どもたちの交流絵画展。日本とブラジルの子どもたちの絵画約400点とブラジルの国土と生活ぶりの紹介を行った。また関連イベントとして，サッカー大会やサンバコンサートも行った。〔こどもの城〕と日本ブラジル修好100周年記念事業組織委員会，㈳国際文化協会，㈶国際協力推進協会の共催（ギャラリー・体育室）。
おりがみカーニバル	11.10～12	日本折紙協会との共催で，折り紙作品の展示・ワークショップ・講習会などを実施した。伝統的な折り方からオリジナルまでの折り紙作品に接することで，造形的な楽しさも体験できるようにした。今回は当日参加の一般来館者が自分の作品を付け加えていくことによって，全員で1つの装飾を仕上げた（フリーホール）。

2）特別期間プログラム

名　　称	期　　間	備　　考
〈児童福祉週間〉 こどもフェスティバル	4.29・30, 5.3～5	親子で楽しめる参加型の音楽コンサートや，愉快なバラエティーショー，勇壮な和太鼓のコンサートなどを〔こどもの城〕の来館者を対象に行った（青山円形劇場）。 4月29日　「大地を揺るがす魂の響き」　富岳太鼓 4月30日　「たっちゃんといっしょ」　れもん座 5月3日　「愉快なコンサート」　ロバの音楽座 5月4日　「あれこれどれそれ　はてなDEショー」　劇団はてな 5月5日　「おんがくがスキ！」　おんがくずき
〈　〃　〉 ブルーノ・ムナーリ巡回キット展 「アートとあそぼう」	4.29～5.14	イタリアのアーチスト，ブルーノ・ムナーリ氏の絵本・遊具・アート作品・デザイン作品による子どもたちのための展示とワークショップ。昭和60年の〔こどもの城〕開館記念プログラムとして行った「アートと遊ぼう」を今回のために再構成。このプログラムはこの後，〈動くこどもの城〉のプログラムの1つとして他の児童館などでも展示された。
〈　〃　〉 マックロー グリーティング	5.5	5月5日は〔こどもの城〕のマスコット，マック・マックローの誕生日。こどもの日のお祝いを兼ねて，館内の子どもたちにグリーティング・カードを配ったり握手をして回った。
〈開館記念〉 開館10周年記念 第1回人形劇カーニバル	8.15～17	〔こどもの城〕を訪れる多くの親子連れにさまざまな人形劇を見る機会を提供するとともに，児童文化としての人形劇の魅力をより多くの児童健全育成関係者にも理解してもらうことを目的に実施。腹話術や大道芸も含め8劇団が青山円形劇場，研修室，館内のロビーで上演。後援は㈳全国児童館連合会と東京都公立児童厚生施設連絡協議会。

名　　称	期　　間	備　　考
〈開館記念〉 親子体験ワークショップ 第2回「おやっ！と発見　子と発見！」	10.28~11.5	昨年から始まった，11月1日の開館記念日の前後に行う，親子で参加する体験ワークショップ。体育・プレイ・造形・音楽・AVの5事業部と研修教養部，保育研究開発部，小児保健部がそれぞれのノウハウを生かして親子で楽しむプログラムを行った。プログラム全体の統一性や広報の方法を検討するため，7月から各部参加のミーティングをするなど各部にまたがる全館的な行事となった。プログラム詳細は各部の項参照。
〈　〃　〉 開館10周年記念セレモニー	11.3	開館10周年を迎えた〔こどもの城〕の記念セレモニー。本来は11月1日が開館記念日だが，平日なので人の集まりを考え，3日に行った。音楽事業部スタッフによるスチール・ドラムの演奏，理事長のあいさつに続き，子どもたちが大きなプレゼントの箱を開け，“こどもの城バッジ”とペンシルケースが記念品として参加者に配られた（アトリウム）。
〈冬休み〉 昔あそび大集合 「お父さんの少年時代」	12.23~1.15	今の子どもたちのお父さんの少年時代に行われていた，めんこ，べーごま，日光写真，紙芝居をテーマにした展示とワークショップ。懐かしいアニメヒーローのキャラクターを見たり，めんこや日光写真に挑戦したりと遊びを仲立ちに親子の話もはずみ，一緒に楽しめるプログラムとなった。会場には駄菓子屋が設けられ，本物の街頭紙芝居屋が登場したりと懐かしい雰囲気にもなった（ギャラリー）。
〈　〃　〉 凧作りのワークショップ	1.4~7，13~15	毎年冬休みには日本の伝統的な遊びを取り上げたプログラムが多いが，この凧作りのワークショップもその1つ。すっかりおなじみになった「えい凧」のほか，親子で作る本格的な「角凧」作りを日本の凧の会の協力により実施した（フリーホール）。
〈　〃　〉 新春もちつき大会	1.5	恒例のもちつき大会は，今年も昨年に続き，穏やかな天気に恵まれた。2組の臼と杵を用い，ほかの人がつく様子を見たり自分でも杵を持ってもちつきを体験した後，つきたてのおもちを食べた。400人近い親子がもちつきを楽しんだ（屋上遊園）。
〈　〃　〉 こま名人きたる！	1.13~15	日本独楽博物館（名古屋市）の館長である藤田由仁氏を迎え，こまの技のデモンストレーションとワークショップを実施。このプログラムもお正月恒例となっている。今年はこまのほかに，竹がえし，けん玉，南京玉すだれを披露，藤田氏の衣装の早変わりを交えたショー形式で構成した。ワークショップでも，子どもたちがお気に入りの技に挑戦した（スタジオBほか）。

3）その他

名　　称	期間・日時・場所	内　　容
〈おもちゃ図書館〉 おもちゃ図書館 マックロー	年末，年始を除く 毎週水曜日 11:00~16:00	心身に障害のある子どもたちを対象として設立され，全国に約500か所ある「おもちゃの図書館」のモデル的なケースとして，昭和62年に〔こどもの城〕に開設された。おもちゃの貸し出し事業のほか，その場でおもちゃを使って遊ぶこともできる遊び場として，障害のない子どもたちも含めた交流の場となっている。また，全国からの見学者も多い。10数人のボランテイアによって運営されており，本年度には52回開催され，利用者は延べ1,321人，おもちゃの貸し出し数は826個，活動に参加したボランティアは延べ576人にのぼった（研修室，9月以降は会議室）。
〈　〃　〉 豊かな遊びを広げるおもちゃ展	12.12~17	こどもの城ギャラリーで，おもちゃ図書館のボランティアが制作した手作りおもちゃの展示と，企業の協力で市販されているおもちゃの展示を行った。
〈　〃　〉 お店屋さんごっことコンサート	12.17	いつもおもちゃ図書館を利用している子どもたちを対象に，研修室を使って行われた“お店屋さんごっこ”。夕方には楽しいコンサートも開催。

4）ギャラリー使用一覧

名　　称	期　間	内　　容
「アートスケープ'95」	4.10～23	インターナショナル・スクールの生徒が制作した美術作品の展示。主催＝東京・横浜地区のインターナショナル・スクール８校と〔こどもの城〕(国際交流部)。
「ブルーノ・ムナーリ展 ～アートであそぼう」	4.29～5.14	〔こどもの城〕の事業。イタリアのアーチスト，ブルーノ・ムナーリ氏の作品を通し，子どもたちの触覚，視覚，体感覚を磨いてもらう展示とワークショップ。主催＝〔こどもの城〕(造形事業部＋企画部)。
「子供の世界，こころの旅」展	5.23～26	都内で幼児教室を主宰する大原とめ研究所が，教室に通う子どもたちのコンピュータグラフィックス作品と，教材などを展示。主催＝大原とめ研究所。
「第８回遊びと造形発想展 －かえる，かわる，みちがえる－」	6.17～25	造形の発想をテーマに，造形のおもしろさを発見し，体験する展覧会。主催＝遊びと造形発想の会と〔こどもの城〕(造形事業部)。
開館10周年記念 「第10回造形スタジオ展 手から心へ Hands-on to Minds-on」	7.21～9.3	開館10周年を記念して，〔こどもの城〕造形スタジオの活動の全ぼうが分かるように，その代表的なプログラムを紹介した展示とワークショップ。主催＝〔こどもの城〕(造形事業部)。
日本ブラジル修好100周年記念 日本ブラジル「こども絵画交流展」	9.15～ 10.10	日本ブラジル修好100周年を記念した，両国の子どもの絵画とブラジルの風土や生活を紹介するパネル展示。主催＝㈳国際文化協会と〔こどもの城〕(企画部)。
開館10周年記念 「ビクトル・ダミコ展」	10.29～ 12.3	ニューヨーク近代美術館初代教育部長として造形教育の分野に大きな足跡を残したビクトル・ダミコ氏の日本で初の本格的な展覧会。主催＝〔こどもの城〕(造形事業部)。
「豊かな遊びを広げるおもちゃ展」	12.12～17	おもちゃ図書館活動と市販されているおもちゃの紹介。主催＝㈶日本おもちゃ図書館財団と〔こどもの城〕(企画部)。
昔あそび大集合 「お父さんの少年時代」	12.23～1.15	めんこ，べーごま，紙芝居，日光写真を中心にお父さんの少年時代の屋外の遊びを紹介する展示とワークショップ。主催＝〔こどもの城〕(企画部)。
「龍敬一郎遺作展」	2.29～3.3	アマチュア写真家の龍敬一郎氏の遺作展。風景写真約100点を展示。
「第43回全国小中学生 優秀作品コンクール」入賞作品展	3.9～17	全国の小・中学生による絵画，書写，作文の入賞作品の展示。主催＝㈶児童憲章愛の会。
「キルト・スタジオ・布細工」 作品発表会	3.19～21	キルト・スタジオ・布細工で学ぶ人たちが制作したキルト作品の展示。主催＝キルト・スタジオ・布細工。
「ゆかいな絵本と童話の世界展」	3.26～4.3	童話と絵本のコンクール入賞作品の原画の展示。主催＝日産自動車㈱広報部。

(2) 企画部の活動

企画部の業務は，アトリウム（総合案内課）で担当する受付・案内業務と，総合オフィスで担当する企画・調整業務に大別される。

受付・案内業務としては，来館者や電話の問い合わせに対する案内，行事の掲示，館内放送，休憩室の確保，講座・クラブなどの受け付けや運営状況の把握，友の会の運営，グループ活動の運営，視察・見学の受け入れ，更におもちゃ図書館活動への対応などを行った。

企画・調整業務としては，各事業部が実施する事業の調整，事業予定の取りまとめや利用状況の統計の作成といった事務的な業務のほかに，〔こどもの城〕のほかの事業部，外部団体と協力する自主企画事業の企画，運営に当たった。これらにはギャラリーやフリーホールを使った企画展示，ワークショップ，講習会がある。また，ゴールデンウイークおよび夏休みには，青山円形劇場を使ったテーマ性のある催しを企画し，多くの来館者を集めた。

全館的事業への取り組みとしては，開館記念特別期間に行った「親子体験ワークショップ」で，子どもの活動にかかわりのある諸部門を統合する，事業全体の取りまとめ役を果たした。また，前年度から始まった国庫補助事業〈動くこどもの城〉では，事務局として事業全体の調整を行った。

これらの業務はすべて2つのセクションが独立して行ったわけではなく友の会の運営，グループ活動や催し物の館内広報などは総合案内のスタッフと企画・調整の担当スタッフが共同で仕事を進めた。

1）平常期間の活動

平常期間中は，企画部として特に担当する定番のプログラムを持っているわけではない。外部団体から申し入れのあった企画のなかで，〔こどもの城〕の事業にふさわしいと思われるものについて，次のように受け入れた。実施に当たっては，外部団体が提案したものをそのままではなく，〔こどもの城〕の活動に基づく展示，体験という考えを織り込んで，主体的に共催事業などとして行った。

(1)日本ブラジル修好100周年記念　日本ブラジル「こども絵画交流展」

（開館10周年記念事業の項参照）

(2)第2回おりがみカーニバル

前年度に続き，11月11日の「おりがみの日」にちなんで，日本折紙協会会員の作品展示と来館者向けのワークショップを実施した。折り紙は児童館，保育所などの児童健全育成の現場でしばしば取り上げられるが，活動の広げ方が1

つの課題である。折り紙には伝統文化としての一面のほか，創作の楽しみや造形的なおもしろさもある。そこで，このカーニバルでは創作折り紙の展示や折り上がった作品を展示する環境を見たうえで，自分の折りたいと思う題材に取り組むワークショップを通して，折り紙という表現手段の持つ奥行きの深さと可能性を知らせたいと考えた。

ワークショップは，折った鳥や動物などをダンボール素材で作った島と木に飾り付けていく「おりがみ島をつくろう」という参加型のプログラムとした。ダンボールを選んだ理由は，できるだけ折り紙に近い素材(紙)で，しかも折り紙だけでは出し切れないダイナミックさを演出できると考えたからである。「折って楽しむ」にとどまらず，不特定多数の参加者がそれぞれの作品を飾り，みんなで1つのものを作り上げる楽しさを体験し，小さな折り紙でも全体的に大きな作品にすることができ，ワークショップに広がりを持たせることができた。親子はもちろん，大人の参加も多かったのが特徴だと言える。

併せて，幼稚園・保育所などの先生を対象とした「第2回おりがみにつよくなる講習会」を2日間開催した。希望者が多く，現場で折り紙をどう教えるか，どう生かすかについて，先生方の関心の強さを知るところとなった。

2）特別期間

(ア) 児童福祉週間特別期間

(1)ブルーノ・ムナーリ展～アートとあそぼう～

〔こどもの城〕の開館記念に行われた「ブルーノ・ムナーリ展」を10年目に再構成した展覧会とワークショップ。

イタリア生まれのデザイナーであるブルーノ・ムナーリ氏は，一流アーチストとして幅広い活動している一面と，その資質を生かして，子どもたちが興味をもって造形活動を行えるようなワークショップを実践する造形教育者としての両面を持っている。今回も，そのアーチストとしてのさまざまな作品を展示し，同時にムナーリ氏から〔こどもの城〕が学んだ造形ワークショップのうち「さまざまなかたち」「直接の映写」を行った。〔こどもの城〕の展覧会では，子どもたちが「展示を見る」ことから入り，「見ること」が「体験する」ことにつながるような構成を心がけてきた。開館記念事業として実施したこの展覧会はまさにその最初の試みであり，開館10年を迎えた今年，「見る・体験する」ことの重要性を改めて考え直す機会となった。

(2)こどもの城開館10周年記念　こどもフェスティバル

毎年恒例となっている青山円形劇場での親子で楽しめる音楽プログラムを中心とした公演。この時期は来館者が多く館内が混雑するために，混雑緩和の対策も含めて，入館券と当日配付する整理券のみで観覧できるようにしている。

本年度は〔こどもの城〕開館10周年記念ということで，毎年実施している５月３日～５日のほかに，４月28日・29日を加えて，５日間の公演を行った。

４月28日の「富岳太鼓」は，もともと障害を持った子どもたちの運動療法として始められたものだったが，今回も障害を持った人たちが一生懸命にたたくその太鼓の響きは心に訴えかけてくるものがあった。５月３日～５日の各公演は観客と一体になって進行するコンサートだったが，どの公演もそれぞれの特徴を生かし，古楽器，手遊び，パネルシアターなどを交えて，音楽の楽しさが伝わってくる内容だった。

(イ) 夏休み特別期間

(1)こどもの城開館10周年記念　第１回人形劇カーニバル

(開館10周年記念事業の項参照)

(ウ) 開館記念特別期間

(1)第２回親子体験ワークショップ「おやっ！と発見　子と発見！」

(開館10周年記念事業の項参照)

(エ) 冬休み特別期間

(1)昔あそび大集合「お父さんの少年時代」

「子どもたちに伝えていきたい遊び」をテーマに，さまざまな遊びを紹介する企画展。今までは，独楽（こま）や凧（たこ）の展示を中心とした企画であったが，今回は特にギャラリーでの体験ワークショップにも力を入れた構成とした。

昭和30・40年代の高度経済成長とともに都市化が進み，道路や空き地など子どもたちの遊び場は失われていった。それに伴い，子どもたちの遊びに変化が生じ，屋外や集団での遊びが減少していった。そのことは，子どもたちの社会性などの発達に対しさまざまな影響を及ぼしている。

そこで，現在の子どもたちのお父さんの少年時代，まだ町中で子どもたちが元気に遊び回っていた昭和30年代の路地裏遊びに焦点を絞り，懐かしむだけでなく，集団遊びの楽しさや，今とは違う遊びのなかから生まれる人間関係が伝わるような展示を企画した。当時隆盛を極めた，「めんこ」「べーごま」「日光写真」「街頭紙芝居」を取り上げ，当時の遊びを見直すとともに，遊びが大きい子から小さい子へ伝承されていったように，親から子へ知識や体験が伝わる，そんな交流のきっかけとなるよう心がけた。

導入の部分では駄菓子屋の再現と当時のおもちゃや看板，ポストの複製などを展示し，昭和30年代の雰囲気に入り込めるような環境設定をした。なかでも駄菓子屋では，お父さん，お母さんが昔を懐かしみ，子どもたちに自分たちの子ども時代を語る場面が多く見られた。また，「めんこ」の体験コーナーでは，最初にスタッフが“がき大将”的に子どもたちと勝負を始め，単純な投げ方の

ヒントやルールを教えた。子どもたちは，しだいにルールをアレンジしたり，投げ方のこつを伝授し合ったりと，路地裏遊びが本質的に持っている，屋外の遊びの楽しさや，集団の中で生まれる年少者へのいたわりや配慮などを再現することができた。

(2)昔あそび大集合「凧作りワークショップ」

短い時間で，手軽に取り組めるという理由から，小さな子どもでも簡単に作れてよく揚がる「えい凧」を例年どおり実施した。本格的な凧に挑戦することや親子で楽しめることを考慮し，今年は新たに親子コーナーを設け，「角凧作り」を行った。事前に「こどもの城友の会」に参加を呼びかけるなど，友の会活動の活性化にもつなげることができた。普段簡単には触れることのできない本格的な凧を自分の手で作れることから，角凧作りは幅広い年齢の来館者に受け入れられた。えい凧で興味を持った子どもたちに，より深くじっくりと凧に触れる機会を提供することができ，浅く広くいろいろな文化を紹介することから一歩踏み出すことができた。

(3)昔あそび大集合「こま名人きたる！」

恒例，“こまのおっちゃん”で親しまれているこま名人，日本独楽博物館館長，藤田由仁氏の技の披露。今年はギャラリーとの兼ね合いで，こま以外にも遊びとして竹がえし，南京玉すだれ，けん玉を衣装の早変わりを交えて紹介するプログラムとして構成した。藤田氏の実演が終わった後のワークショップでは，ボランティアの協力も得て，子どもたち自身が体験。初めての遊びに挑戦することもでき，こま回しだけだった例年以上に充実したワークショップとなった。

3）グループ活動

一般来館者へのプログラム提供，講座・クラブの運営と並んで〔こどもの城〕の事業の１つの柱といえるのが「グループ活動」である。その利用状況は，平成３年から５年にかけ利用団体数が100件を割る停滞期を迎えた。しかし，保育所・幼稚園・小学校などに対する定期的な広報活動や，受け入れ日やプログラムに柔軟性を持たせるなどの地道な努力が実り，前年度には利用団体数が100件を超えるまでに回復した。本年度も前年度の実績と同等の109団体・2,410人の参加があり，この傾向は定着してきたと言える。本年度の特徴としては，開館以来10年間引き続いて利用のあった団体以外にも，新規の受け入れが31件と例年より多かったことが挙げられる。

繰り返し利用する団体の増加とともに，ここ２年間の利用団体数の回復は，「グループ活動」の具体的なイメージを少しずつ伝えることができるようになってきたことと，プログラムそのものの趣旨が理解され，評価されてきたためだと考える。

また，今後の広報活動を更に充実させるため，より明確にこの事業のイメージを伝えることができるよう，リーフレットを改訂した。

(ア) グループ活動利用状況（22ページ表参照）

(イ) まとめと今後の課題

利用件数としては，「グループ活動」に利用できる日数（平常期間の平日の午前中）が限られているため，100件強の現在の状況がほぼ限界と考える。プログラムの充実に加え，利用団体の希望・期待と提供プログラムの一致という，事業としての完成度を高めることをこれからの目標としたい。

改訂リーフレットでは，具体的なイメージを持ちにくい「グループ活動」の内容を明確に伝えることに重点を置いたが，今後はビデオなどの映像を用いて，館内施設を含めて，活動の内容を紹介できるものを制作していきたい。また，一般来館者にも「グループ活動」を知ってもらい，まだ利用したことのない団体や先生方に対しても広くアピールできるよう，広報活動を充実させていきたい。

4）その他の活動

(ア) ギャラリーの使用（135ページ表参照）

5）まとめと今後の課題

前述してきたように，いろいろな専門性を持つ〔こどもの城〕の事業部間の調整とまとめ，案内，受け付けといった業務が，企画部の主要な役割の１つである。この役割を十分に果たすため，正確な情報の早期の収集，調整，館内での効果的な案内，広報に努力してきた。また，特別期間など来館者が多い時期を中心に，ギャラリーなどの共用スペースを有効活用したプログラムを提供した。調整役の企画部が担当することで，多方面からの切り口（広く浅く紹介する），複数の事業部への働きかけなどが容易になり，更に幅広いプログラム展開の可能性を示した。

開館10年を経過し，〔こどもの城〕を取り巻く環境が開館当時とは変化してきている。平日に来館する乳幼児と母親，土曜日に増える小・中学生など，来館者への新しい提案を積極的に行っていく必要がある。また，事業部間の取りまとめにおいて，全体的な１つの方向性を示せるよう，企画・調整能力を養う必要がある。これらを身に着けることは，〔こどもの城〕の日常活動にとどまらず，〈動くこどもの城〉のように外へ向けた事業を行う際にも，必ず効果をもたらすと考える。

9 劇場事業本部

(1) 演目一覧表

1）青山劇場

公演名称	期間	回数	料金	総席数	入場者数	入場率	備考
	(日)	(回)	(円)	(人)	(人)	(%)	
<自主公演>							
開館10周年記念 イーハトーボの音楽劇「銀河鉄道の夜」	7.31~8.7 (8)	9	S:6,000・A:5,000	9,990	9,013	90.2	
第10回青山バレエフェスティバル ~10周年記念ガラ公演~	8.8~10 (3)	4	A:7,000・B:6,000	4,312	3,427	79.5	
(小計) 2		13		14,302	12,440	87.0	
〈貸し館〉							
エステー化学ファミリーミュージカル 「ピーターパン」 (ホリプロ)	4.1~23 (23)	33	S:7,500・A:5,500	36,234	24,052	66.4	3.27から続演
明治生命ミュージカル「アニー」 (日本テレビ)	4.24~5.21 (28)	34	S:7,500・A:5,500	37,740	32,883	87.1	
石川さゆり音楽会 '95春 (ホリプロ)	5.25~29 (5)	5	SS:10,000・S:8,000	5,780	5,119	88.6	
ミュージカル「ラ・マンチャの男」 (東宝)	5.30~6.29 (31)	38	S:12,000・A:7,000 B:4,000	42,180	40,346	95.7	
プレゾン10周年 少年隊ミュージカル 「KING & JOKER」 (ジャニーズ事務所)	7.3~30 (28)	32	11,000均一	34,568	32,364	93.6	
プロミス presents ミュージカル・アドベンチャー「ウィンドインザウィロー」 (ホリプロ)	8.11~31 (21)	26	S:9,000・A:7,000 B:5,000	28,028	20,499	73.1	
「ブラッド ブラザース」 (松竹)	9.1~27 (27)	31	A:10,000・B:7,000 C:3,000	34,038	22,008	64.7	
音楽座ミュージカル「星の王子さま」	10.1~22 (22)	23	SS:8,000・S:7,000 A:6,000・B:5,000 C:3,000	24,242	21,339	88.0	
ミュージカル「スクルージ——クリスマス・キャロル——」 (劇団ひまわり)	10.23~ 11.17(26)	28	S:10,000・A:9,000 B:6,000・C:4,000	29,176	18,396	63.1	
「献血の絵」絵画展 授賞式&アトラクション	11.26 (1)	1	無料	1,190	780	65.5	

公演名称	期間	回数	料金	総席数	入場者数	入場率	備考
	(日)	(回)	(円)	(人)	(人)	(%)	
谷村新司リサイタル '95～'96 NEC PRESENTS 「CORAZON IX　I・T・A・N」	11.28～ 12.26(29)	22	VIP：10,000 オーケストラ：8,000 バルコニー：6,500	25,432	23,754	93.4	
ドラえもんハッピー・ニューイヤー・ショー	12.27～29 1.3～7　(8)	9	3,500均一	10,728	8,406	78.4	
「オペラ座の怪人　by　ケン・ヒル」	1.8～2.4 (28)	32	S:10,000・A:8,500	32,320	24,032	74.4	
ビッグバンドフェスティバル in TOKYO'96　(東京都)	2.5　(1)	1	3,000均一	1,156	1,020	88.2	
明治メルティーキッス Presents 「MAMA, I WANT TO SING!」	2.6～18 (13)	15	S:8,500・A:7,000	18,000	14,065	78.1	
Super Live Week ペギー葉山リサイタル'96	2.19　(1)	1	特別席9,500 S:8,000・A:6,500	1,156	1,095	94.7	
チョーヨンピル　コンサート	2.20・21　(2)	2	特別席9,500 S:7,500・A:6,500	2,312	1,506	65.1	
カフェの光景／暮色のパリ　山本達彦	2.23　(1)	1	S:5,000・A:4,000	1,156	793	68.6	
光の国　宗次郎	2.24・25　(2)	2	S:5,500・A:4,500	2,312	1,521	65.8	
音楽座最終公演 「マドモアゼル・モーツァルト」	2.28～3.7 3.17～24 (17)	18	SS:8,000・S:7,000 A:6,000・B:5,000 C:3,000	21,244	19,381	91.2	
ロシア国立レニングラード男性バレエ	3.14～16 (3)	3	6,000均一	3,576	2,480	69.4	
ミュージカル「ピーターパン」 (ホリプロ)	3.25～31 (7)	7	S:7,500・A:5,500	7,770	5,982	77.0	4.14まで続演
(小計)　22		364		400,338	321,821	80.4	
<内部利用>							
オペラ・クリエーション・イン青山 「くろくろ沼のカッパくん ーリトル博士がやってきた」	6.30～7.2(3)	2	A:3,500・B:2,500	2,220	2,058	92.7	
開館10周年記念 こどもたちからのサウンドメッセージ 「時のおくりもの」	11.18・19 (2)	1	500均一	1,152	997	86.5	音楽事業部
(小計)　2		3		3,372	3,055	90.6	
青山劇場　計　26		380		418,012	337,316	80.7	

2）青山円形劇場

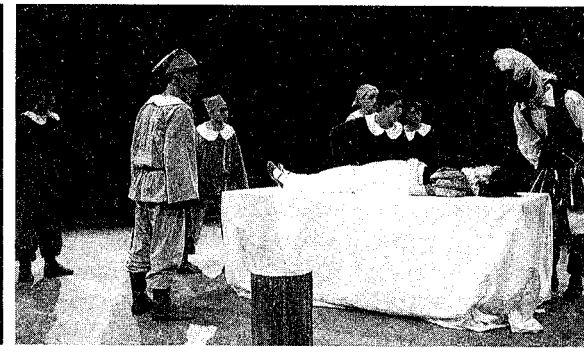
公演名称	期間	回数	料金	総席数	入場者数	入場率	備考
	(日)	(回)	(円)	(人)	(人)	(%)	
〈自主公演〉							
五線譜のなかの動物たち15 奇想天外音楽活劇「グリム号の大冒険」	4.1・2 (2)	4	2,500	1,157	767	66.3	3.28から続演
五線譜のなかの動物たち16 奇想天外音楽活劇「夏の夜の夢」	7.31～8.8 (9)	13	2,500	4,243	3,257	76.8	
こどもの城おまつり劇場 '95 「こどもの花ごよみ」	8.18～20 (3)	4	無料	968	815	84.2	
第10回こどもの城・キリンファミリー劇場「7人のこびとと白雪姫」	8.21～27 (7)	10	2,500	2,790	2,297	82.3	
第9回青山演劇フェスティバル ～わたしの考える演劇1995～ 遊◉機械／全自動シアター「独りの国のアリス」	10.2～24 (23)	27	4,500	9,165	8,337	90.9	
ク・ナウカ「サロメ――セ・グロテスク――」	10.25～30(6)	6	3,200 前売3,000	1,469	1,209	82.3	
ザズゥ・シアター「C.B.」	10.31～11.7(8)	9	4,200 前売3,800	3,168	2,656	83.8	
山の手事情社「トンビリラロ」	11.8～14 (7)	7	3,800 前売3,500	1,862	1,582	84.9	
遊園地再生事業団#6「知覚の庭」	11.15～23(9)	10	4,000 前売3,800	2,950	2,589	87.8	
「ア・ラ・カルト」 ー役者と音楽家のいるレストランー	12.13～25(13)	14	5,000	5,124	4,767	93.0	
第8回こどもの城・キリン・ファミリーオペレッタ「トンガリぼうしの魔法つかい～パパとアキオの時間旅行～」	12.26～29 1.3～7 (9)	12	2,500	4.092	3,516	85.9	
五線譜のなかの動物たちアンコール公演「12秒間の鳥たち～ライト兄弟物語～」	1.11～15 (5)	7	2,800	2,415	1.973	81.7	
オブジェクトシアターVol.5 「乙女文楽と車人形による生写朝顔話」	2.2～6 (5)	5	4,500 前売4,000	1,041	694	66.6	
〔第1回東京ダンスコレクション〕 Aプログラム ICOSAEDRE DANCE／竹内登志子	2.16～19 (4)	4	5,000	768	315	41.0	
Bプログラム 加藤みや子／能美健志	2.20～23 (4)	3	5,000	606	436	71.9	
Cプログラム COMPAGNIE ALLE-R-ETOUR 武元賀寿子	2.24～28 (5)	4	5,000	726	331	45.6	

公演名称	期間	回数	料金	総席数	入場者数	入場率	備考
	(日)	(回)	(円)	(人)	(人)	(%)	
五線譜のなかの動物たちアンコール公演「モーツァルトの音楽遊園地 パパゲーノ！」	3.27~31 (5)	6	2,800	2,028	1,927	95.0	4.4まで続演
(小計) 17		145		44,572	37,468	84.1	
〈貸し館〉							
ZAZOUS THEATER PRESENTATION 17「LOONY——エレクトリックエイジのロミオとジュリエット」	4.3~14 (12)	12	4,200 前売3,800	3,388	2,041	60.2	
武元賀寿子「A・huu・・・Vol.Ⅲ 記憶する肉体 その2」	4.15・16 (2)	3	4,000 前売3,600	522	250	47.9	
東京ギンガ堂「狂想曲」	4.17~23 (7)	7	3,300 前売3,000	1,757	972	55.3	
ダンス・エレマン	5.1・2 (2)	3	5,000	864	666	77.1	
Hawaiian Night IN AOYAMA	5.8 (1)	1	4,500	246	240	97.6	
梯郁夫「PERCUSSIVE MOVEMENT Vol.II」	5.9 (1)	1	3,500	358	192	53.6	
COMPANY KIMEI「SILENT CALL」	5.10~12 (3)	4	A:3,800 B:2,800	1,132	694	61.3	
劇団ステージドア ミステリーミュージカル「誰が駒鳥〔コック・ロビン〕を殺したか」	5.13・14 (2)	3	2,500	900	700	77.7	
青空美人「スラッガー」	5.15~23 (9)	9	3,200 前売3,000	2,133	995	46.6	
水織ゆみリサイタル '95「水の女」	5.27・28 (2)	3	5,000	858	677	78.9	
帰ってきたゑびす「ジギ」	5.29~6.4 (7)	6	3,300 前売3,000 中高生2,000	924	765	82.8	
フリーアトム「プレイ・ア・ソング Vol.3」	6.5~11 (7)	7	3,300 前売2,800	1,614	1,303	80.7	
ジャパン・メリーモナーク・フェスティバル'95	6.12 (1)	1	10,000	242	209	86.4	
KEI ONO DANCE NUTS SHOW-CASE VOL.5「ゴブリンとレプリシア」	6.13~18 (6)	7	3,500 前売3,000	1,500	1,199	79.9	
リリパット・アーミー「こどもの一生」	6.19~25 (7)	8	3,500 前売3,300	2,392	2,291	95.8	
仲井戸"Chabo" 麗市 「密室」'95	6.26,28 (2)	2	5,665	776	725	93.4	
初夏のコンサート	6.27 (1)	1	5,000	332	301	90.7	
湖東美歌ライブコンサートVol.2「GIRL TALK」	6.29・30 (2)	2	5,000	452	390	86.3	
'95 LIVE 神力 裕	7.1 (1)	1	3,500	282	240	85.1	

公演名称	期間	回数	料金	総席数	入場者数	入場率	備考
	(日)	(回)	(円)	(人)	(人)	(%)	
吉田恵美コンサート「まるでお芝居のように」	7.2 (1)	1	5,500 前売5,000	320	244	76.3	
劇団一跡二跳「眠れる森の死体」	7.3～9 (7)	6	3,500 前売3,000	1,496	1,300	86.9	
MOTHERプロデュース「プラシーボ・デパート」	7.10～16 (7)	7	3,500 前売3,300	2,044	1,891	92.5	
劇団冒険物語「タイムマシンにお願い」	7.17～23 (7)	8	指定4,000 自由3,500	1,720	1,083	63.0	
児童青少年演劇フェスティバル 95 夏・こどもたち・未来							
劇団かかし座「ミスターシャドウの仲間たち」	7.24 (1)	1	3,000 前売2,700	185	152	82.2	
劇団らくりん座「ガリレオおじさん元気です」	7.25 (1)	1	3,000 前売2,700	270	233	86.3	
劇団風の子北海道「おっきな人間とちっちゃな人間」	7.26 (1)	1	3,000 前売2,700	230	210	91.3	
劇団ちろりん「ぼくらの城」	7.27 (1)	1	3,000 前売2,700	200	178	89.0	
劇団青芸「でこぼこひょろりん」	7.28 (1)	1	3,000 前売2,700	244	239	98.0	
劇団風の子九州「風の子あそびや　とっぴんしゃん」	7.29 (1)	1	3,000 前売2,700	280	273	97.5	
日本ワヤン協会「忍者アンギスロノ」(生演奏版)	7.30 (1)	1	3,000 前売2,700	350	262	74.9	
波瀬満子のやってきたアラマ先生	8.10～13 (4)	5	3,500 前売3,200	1,250	722	57.8	
芸能屋台村	8.29・30 (2)	4	大人3,000 子ども2,000	888	754	84.9	
THE NEWSPAPER YOUTH	8.31～9.3 (4)	3	4,000 前売3,500	1,480	1,171	79.1	
花組芝居「泉鏡花の夜叉ヶ池」(神宝寿夢vol.2)	9.4～19 (16) (9.10)	16 (1)	4,000 (2,000)	5,376	4,716	87.7	
古舘伊知郎「TALKING BLUES 8th」～1965年の通知表～	9.24～10.1 (8)	7	5,000	2,547	2,378	93.4	
ダンスにGONE「あらためだんす」	11.24～26 (3)	4	4,500	1,008	778	77.2	
田中郁代　スペイン舞踊りサイタル	11.28 (1)	1	4,000	246	225	91.5	
アキコ・カンダとダンス・カンパニー	11.29～12.3 (5)	5	4,000	1,041	900	86.5	
'95美歌ブランドSHOW UP VOL.6「GO! GO! GO!」	12.5～7 (3)	3	6,500 前売6,000	744	560	75.3	
シャクティ＆ヴァサンタマラ舞踊公演「チベット死者の書」	12.11・12 (2)	3	6,500 前売6,000	780	455	58.3	

公演名称	期間	回数	料金	総席数	入場者数	入場率	備考
	(日)	(回)	(円)	(人)	(人)	(%)	
zinjanthropusboisei Presents「Dots」	1.16~21 (6)	6	2,700 前売2,500	1,338	950	71.0	
中村明一とわらび座ニュースターたち「響」	1.22~25 (4)	4	4,500 前売4,000	876	700	79.9	
名倉ジャズダンススタジオ「'S WONDERFUL」	1.26~31 (6)	9	5,000	2,322	2,223	95.7	
水織ゆみ&菅有鬼一のコンサート	2.1 (1)	2	5,500 前売5,000	604	522	86.4	
岩下徹ソロダンス公演「放下8」	2.7 (1)	1	3,000 前売2,500	346	262	75.7	
ラフィング・キャッツVol.6「舞夢 '95」	2.8~12 (5)	6	5,000 前売4,500	1,410	1,042	73.9	
日本映画学校「ライオンは夢を見る」	2.29~3.4(5)	5	2,000	1,450	1,160	80.0	
(小計) 47		195		51,717	40,433	78.1	
<内部利用>							
こどもフェステバル	4.28~30, 5.3~5 (6)	15	無料	4,770	3,702	77.6	企画部
第1回人形劇カーニバル	8.14~17 (4)	9	無料	2,950	2,710	91.9	〃
第9回こどもの城保育セミナー	8.28 (1)	1	13,000	249	192	77.1	保育研究開発部
第7回 田島佳子「三味線のつどい」	9.23 (1)	1	大人3,000 子ども1,500	322	168	52.2	音楽事業部
国際交流バイリンガルファミリーシアター「ミセスサンタのクリスマス」	12.8~10 (3)	4	無料	1,320	1,260	95.5	国際交流部
ぼくらのサウンド '96	3.24~26 (3)	5	無料	1,141	971	85.1	音楽事業部
(小計) 6		35		10,752	9,003	83.7	
青山円形劇場 計 70		375		107,041	86,904	81.2	
劇場総計 96		755		525,053	423,423	80.6	

『トンガリぼうしの魔法つかい
～パパとアキオの時間旅行』



『7人のこびとと白雪姫』

(2) 劇場事業本部の活動

1）本年度のまとめ

「パ・ドゥ・カトル」
～第10回青山バレエフェスティバルから～
（写真・瀬戸秀美）

開館10年の大きな節目を迎えた平成７年度の劇場にとって最大の事業は「イーハトーボの音楽劇　銀河鉄道の夜」である。こどもの城開館10周年記念事業の中でも最大規模で，また，青山劇場の演劇企画としても開館５周年記念の「龍の子太郎」以来の大型オリジナル作品に取り組んだ。

通常業務のほかに大きな演目を立ち上げることや劇団などの組織を持たない劇場がオール・プロデュース公演を企画制作するに当たっての物理的な制約や難しさに，専従の臨時職員１人を雇ったほか技術部，運営部総力を挙げての態勢で臨んだ。事業内容，付帯事業の詳細は「10周年記念事業」の項目の中で述べるが，舞台成果，観客動員とも大きな成功を収め，劇場としての大きな財産を残すことができた。

国内外を問わず優れた公演を取り上げてきた青山円形劇場の舞踊企画の集大成とも言える「東京ダンスコレクション」が本年度の新シリーズとして始まったほか，従来の自主公演企画は着実な成果を積み上げた。

また，景気も底を打ち，やや上向いてきたと言われていてもいまだ民間スポンサードに多くを望めない社会状況にあって，本年度は公的助成に比較的恵まれた。本年度の共催・助成・協賛などの実績は下記のとおり。

【青山劇場】

①イーハトーボの音楽劇　銀河鉄道の夜
　　＝日本船舶振興会補助事業
　　＝芸術文化振興基金（助成）
　　＝こども未来財団（協賛）
　　＝Ｐ＆Ｇ（マタニティシアター協賛）

②第10回青山バレエフェスティバル＝芸術文化振興基金（助成）

【青山円形劇場】

①五線譜のなかの動物たち　Vol.16

「夏の夜の夢」＝芸術文化振興基金（助成）

②こどもの城おまつり劇場 '95＝芸術文化振興基金（助成）

③第10回こどもの城・キリンファミリー劇場

「７人のこびとと白雪姫」＝キリン福祉財団（共催）

④第９回青山演劇フェスティバル＝日本テレビ（共催）

⑤ア・ラ・カルト＝キリンビール㈱（協賛）

⑥第８回こどもの城・キリン・ファミリーオペレッタ

「トンガリぼうしの魔法つかい」＝キリン福祉財団（共催）

⑦オブジェクトシアター Vol. 5

「生写朝顔話」＝芸術文化振興基金（助成）

⑧「東京ダンスコレクション」＝東京都国際平和文化交流基金（助成）

以上のほか，富士銀行から青山劇場・青山円形劇場の自主事業全般に対してのご協賛をいただいた。パーヘッド（協賛金額÷対象人数）の投資効率の低さから，舞台芸術は全般的に企業協賛が付きにくい性質がある。特に青山円形劇場公演ではフル動員数でも1,500～2,000人という小規模公演も多く，個別の協賛の獲得に苦戦している中，劇場の運営自体にご理解いただき，自主事業全般に対する協賛という新しい形の企業協力はこれからも強く望まれるものである。

2）本年度の主な演目

㈠　青山劇場

(1)「イーハトーボの音楽劇　銀河鉄道の夜」（開館10周年記念事業の項参照）

(2)「第10回青山バレエフェスティバル」

第10回を迎えた青山バレエフェスティバルは10周年を記念したガラ公演で，ボリショイ劇場，チリ・サンチャゴ国立劇場，ロイヤル・ウィニペグ・バレエ，アメリカン・バレエシアター，アメリカ・コロラド・バレエなどから，かつてこのフェスティバルで踊り，巣立った若者たちが里帰りし，国内で活躍している多くの若者たちと，この出会いを楽しみにしている多くの観客のもと，華やかに開催された。10年前に“次代を担う，若い舞踊手たちに踊る場を”という願いで始められたこの企画も，このフェスティバルを出発点にして国内外で活躍している多くの舞踊手を見るにつけ，所期の目的を果たしていると確信している。また，この企画は単にバレエのテクニックを競うのではなく，芸術性の高い表現力を身に着けてもらうように多くの創作バレエを生み出してきたが，この10周年記念ガラ公演でも鈴木稔，堀内充に続く坂本登喜彦という振付家も鮮烈にデビューさせ，絶賛された。

(イ) 青山円形劇場

(1)五線譜のなかの動物たち

クラシック音楽のなかから動物や虫や鳥を描いた曲を集めて芝居仕立てにし，動物当てクイズを織り交ぜながら，子どもと大人が一緒になってクラシック音楽を楽しめるよう構成したファミリーコンサート。1990年のシリーズ第1弾以来7年目に入り，〔こどもの城〕オリジナルのシリーズ企画として定着しつつあるが，本年度は各種生活協同組合など，チケットあっ旋先を開拓することによる動員基盤の強化と，アンコール上演による芸術面での充実という2つの側面からシリーズの活性化を目指し，どちらも手ごたえがあった年だった。

五線譜のなかの動物たちアンコール公演
『モーツァルトの音楽遊園地　パパゲーノ！』

■シリーズ第16弾　奇想天外音楽活劇「夏の夜の夢」

メンデルスゾーン作曲「真夏の夜の夢」を中心に，パーセル作曲「妖精の女王」，プロコフィエフ作曲「ロミオとジュリエット」など，シェークスピア劇を題材にした音楽と動物を描いた曲で構成した新作。「真夏の夜の夢」に登場する妖精たちと少年シェークスピアが森で戯れるという内容。演奏陣は常連ピアニスト・伊藤エイミーまどかに，ヴァイオリンの桐山なぎさ，フルートの斉藤佐智江を加え，変化に富んだ楽器編成と選曲が好評を博した。白井博之と児玉順子によるクラウン二人組「Wテイク」を相手に，初出演の絹川友梨が少年シェークスピア役を好演した。

1月公演と春休み公演は，過去の上演作品のなかから再演に値する作品を選び，シリーズ初の試みとして「アンコール公演」を実施した。

■アンコール公演　「12秒間の鳥たち　～ライト兄弟物語～」

人類初の動力飛行に成功したライト兄弟を，鳥や動物たちの視点から描いた作品。出演者はピアニスト（伊藤エイミーまどか）と役者（みっせなるこ）の2人だけだが，構成演出に再検討を加え，工具類やがらくたを組み立てて作っていく動物たちの造形が好評を博した。初演は1993年1月のシリーズ第9弾。

■アンコール公演　「モーツァルトの音楽遊園地　パパゲーノ！」

モーツァルトの「魔笛」のなかから，鳥さし男のパパゲーノやその恋人のパパゲーナ，夜の女王，善と光の世界を支配するザラストロといった登

場人物を借り，「魔笛」や「フィガロの結婚」などのアリアや二重唱をちりばめたオペラ仕立ての音楽劇。舞台美術などを全面的に新しくし，ピアニストには作曲家でオペラの分野にも造けいが深い伊藤康秀を迎え，まったくの新演出による質の高い舞台作りが実現した。再演の要望が特に高かった作品ということもあり，動員面でも，追加公演を急きょ決定して4,000人を突破するなど，シリーズ最高の記録を更新した。初演は1994年１月のシリーズ第12弾。また，前年度には長崎県島原市公演でも好評を博した。

(2)「こどもの城おまつり劇場'95――こどもの花ごよみ」

日本の伝統芸能や郷土芸能を伝承する子どもたちの活動を紹介するとともに，各地で郷土芸能を伝承している子どもたちと，〔こどもの城〕の三味線グループや和太鼓グループとの交流・交歓を目的とした夏休み恒例の企画。今回は「こどもの花ごよみ」と題し，四季おりおりの花にちなむ日本舞踊やわらべうたを春夏秋冬の４つの章に構成した。郷土芸能のゲストには東京都小金井市無形文化財の「目黒流貫井囃子保存会」を招き，江戸時代末期から伝承されている「貫井囃子」を披露してもらった。

(3)第10回こどもの城・キリンファミリー劇場　「７人のこびとと白雪姫」

「新しいカタチの児童劇の確立」をテーマに立ち上げたファミリー劇場シリーズの10回目。企画第一主義で，良質の演劇の提供を目指し“プラチナ・ペーパーズ”を主宰する堤泰之が，グリム童話の「白雪姫」に新しい解釈と大胆なアレンジを加え，７人のこびとたちに主眼を置いた劇を創作した。

原作のイメージをあまり損なわずに，軽快で，巧みで，そして意表を突いた話の展開と，小さい子どもにも大人にも親しみやすいオリジナルの歌とダンスで観客の目と心を引きつけた。

(4)第９回青山演劇フェスティバル～わたしの考える演劇1995～

今年の前半は，阪神大震災やらオウム事件やら，それこそ人間存在を根底から揺るがすような事変・事件が相次いだ。そんな世相を反映してか，人間存在と人生をもう一度深いレベルで考え直そうとする哲学書がブームになったりもした。本年度の青山演劇フェスティバルでも，そのテーマを「わたしの考える演劇」として演劇論に正面から臨んだ。「演劇」というものに自覚的であり，世相を映し取るための独自の方法論を意識して作品を作っている演出家が率いる５つのカンパニーが参加した。

■遊◉機械／全自動シアター

「独りの国のアリス　～むかし，むかし，私はアリスだった……～」

この劇団は大きな物語を拒否し，「私」や「ぼく」という一人称のリアリティーを手がかりにして世界をつかもうとする。今回の一人称のキャラクターは，人生を嘆いてばかりいる孤独な中年女性。彼女は自分が昔アリス

だったことを思い出し，再びワンダーランドへと旅立ち，そこで自らをいやしていくさまを描く。作＝高泉淳子，演出＝白井晃。

■ク・ナウカ　「サロメ――セ・グロテスク――」

日常を越えたスケールの人物を描くため，1つの役を「動く俳優」と「語る俳優」が二人一役で演じるという，いわば“人間”浄瑠璃のようなユニークなスタイルを特徴とする。今回のテキストはワイルドの「サロメ」で，美術や衣裳のコンセプトを60年代の「サイケ」にして，世紀末の退廃とは違った角度からサロメを描いた。台本・演出＝宮城聰。

■ザズゥ・シアター　「C.B.」

演劇に「ダンディズム」を持ち込むことが，このカンパニーの目指すところである。タイトルは，19世紀フランスの詩人シャルル・ボードレールの略。あらゆる俗物主義に反抗しながら孤独を愛し続けたこの『悪の華』の詩人の多面的な姿を，自らの価値観と重ね合わせながら4人の男優を用いて描いた。構成・演出＝鈴木勝秀。

■山の手事情社　「トンビリラロ」

現在，この劇団がとっている手法は「ハイパーコラージュ」と自ら呼ぶもの。1つの物語に，唐突にほかの物語が入って来たり，ナンセンスなギャグやダンスが挿入され，「演劇」そのものを対象化しようとする。今回は特にその傾向が強く，「演劇」の化石を巡る超未来の話となった。構成・演出＝安田雅弘。

■遊園地再生事業団#6　「知覚の庭」

このカンパニーは，いわゆる「劇」的な要素を取り払ったところに，「演劇」のリアリティーを探ろうとする。また，何かのために演技をするのではなく，ただそこに在ることが表現につながることを目指す。今回は，題材を「オウム事件」に取り，閉そくした状況が何かを信じようとする人間を徐々に暴力に追い込んでいく様を描いた。作・演出＝宮沢章夫。

(5)「ア・ラ・カルト――役者と音楽家のいるレストラン――」

あるレストランの開店から閉店までを，ショートショートの芝居と音楽でつづるエンターテインメント作品。青山円形劇場では，毎年クリスマスの時期に行われ，今年で7年目を迎えた人気企画である。今年はステージ数を例年のほぼ倍に増やして14ステージとしたが，チケットは2時間で売り切れた。出演は，高泉淳子，白井晃，陰山泰。演出＝吉澤耕一，音楽監督＝中西俊博。

前年度に引き続き，年末の大阪(近鉄百貨店主催)，年が明けてからの仙台公演(仙台放送主催)が行われたほか，本年度新たに札幌(北海道文化放送主催)，三鷹公演（三鷹市芸術文化振興財団主催）が加わり全23ステージとなった。ツアー展開が広がっていくことは，内容的にも商品価値的にも成熟したことを示

すものである。

(6)第8回こどもの城・キリン・ファミリーオペレッタ

「トンガリぼうしの魔法つかい～パパとアキオの時間旅行～」

〔こどもの城〕のスタッフが総力を挙げて作る，正月恒例のオリジナル・ファミリーオペレッタ。トンガリぼうしシリーズの5作目。30年前の世界にタイムスリップしてしまったアキオとパパをトンガリぼうしの魔法使いのプリンさんとその仲間たちが元の世界に連れ戻すという話を通し，友情のすばらしさや本当の強さとは何かということを描いた。30年前を映像や衣裳によって表現したが，大人には懐かしく，子どもには親の子どものころの様子を知ることができ，身近な話と相まって，親子で楽しい会話ができたのではないかと思われる。トンガリぼうしシリーズは今回で最終回だが，これからも歌とバレエでつづる良質のオペレッタをより多くのお客様に提供していきたい。

(7)オブジェクトシアターVol. 5　「乙女文楽と車人形による生写朝顔話」

大人の鑑賞にも堪えうる斬新な人形劇の開発を目指すオブジェクトシアターの第5弾。文楽の3人遣い人形を1人で操れるように創意工夫されて生まれた車人形と，乙女文楽という2つの伝統人形芝居を取り上げた。1つの演目をリレー形式で演じることで，両者の特徴がつぶさに比較でき，「進化する伝統」が実感できたと好評を博した(乙女文楽：人形劇団ひとみ座乙女文楽部，車人形：八王子車人形西川古柳座)。動員的には，青山円形劇場のイメージと伝統人形芝居がストレートには結び付かないせいか苦戦したが，新聞・雑誌での広報活動が実を結び，後半飛躍的に伸びた。それは，とりもなおさず，青山円形劇場が大人のための人形劇に積極的に取り組んでいる姿勢を広く世間にアピールできたことであり，今後につながる展開であったと思われる。

(8)「第1回東京ダンスコレクション」

欧米においては成熟したクラシックバレエに代わって，コンテンポラリーダンスやモダンダンスに対して経済的に助成する傾向が強くなり，それだけに世界に向かって衝撃的な作品が発表されている。それにひきかえ，我が国のコンテンポラリーダンスの世界はいまだ劣悪な状況の中での芸術活動を余儀なくされている。そんな状況を少しでも切り開くべく，内外の優れたコンテンポラリーダンスを紹介し，ダンスに対する新たな関心の波を起こすために東京都国際平和文化交流基金の助成を受けて，この事業は開催された。

フランスからイコザエドル・ダンスとカンパニー・アルレトゥールを，日本からはバニョレ国際振付賞に参加した加藤みや子，竹内登志子，武元賀寿子，そして若き鬼才・能美健志の振付作品がコレクションされた。いずれもダンスと演劇の境界が取り払われ，新しい表現の形態を探り，低迷しているダンス界に一石を投じた。

■Aプログラム　ICOSAEDRE DANCE「Le Fou des rois」／「ＩＦ」
竹内登志子　「月の光」
■Bプログラム　加藤みや子　「霧の向こうの島－３つの神話」
能美健志　「CONTACT IN THE CAVE」
■Cプログラム　COMPAGNIE ALLE-R-ETOUR
「LES PROMISES」
武元賀寿子「トルコ桔梗に西洋梨，尖った横顔」

3）今後の課題

(1)11年目を迎えるに当たって

開館10年を経て，劇場として成熟期を迎えた青山劇場・青山円形劇場が今後の10年を充実したものにするために，文化事業の発信元としての自主公演と貸し劇場の両輪のバランスは欠かせない。健全な経営状態を保ちつつ，観客に対しては過去に培われたイメージ“劇場の顔”を損なわないラインアップを組むことに今まで以上に留意せねばならないであろう。これまでの歩みを振り返りつつ，次の10年に向けての課題と問題点をあげる。

◆自主事業の一層の充実

平均して青山劇場では年間５～14日，青山円形劇場では約120日の自主公演を行っている。自主公演は我々がどのような劇場でありたいかを具体的に示す重要な顔である。オープン以来の10年間は劇場として試行錯誤の期間であったととらえられよう。特に青山円形劇場での幾つものシリーズ企画は，劇場の特性を最もよく打ち出した斬新かつ独創的なもので，「青山円形劇場を使って新しい公演を打ってみたい」と利用者を触発するに十分なものであった。これは，現在まで劇場利用希望が切れ目なく続いていることの大きな一因である。つまり，劇場にとって自主公演で着実な成果を上げることは，同時に外に対して，最も有効なデモンストレーションと成り得る。したがって，青山劇場・青山円形劇場が発信するにふさわしい，十分な内容と意義が自主公演の企画立案には更に求められるであろう。

◆安定した貸し劇場運営

自主事業に対する予算上の措置がない以上，安定した貸し劇場運営に支えられてこそ初めて自主公演が実施できる。青山劇場の公演には９年10年とロングランを続けているものも少なくないが，これら常連の利用者にも，10年を機に企画の見直しを図ろうというムードがあることは否定できない。一方，イメージ，知名度の高まった青山劇場を使用したいという団体も増えている。今までの利用団体との緊密な関係を保ちつつ新規の主催者に対しても積極的に門戸を開き，上演作品面での充実を図りたい。特筆すべきことは，来る平成９年度か

ら10年度にかけての新国立劇場をはじめとする劇場のオープン・ラッシュである。競合する相手は多く，青山劇場にとっても青山円形劇場にとっても，買い手市場に安閑としていられる時代ではなくなったことを痛感させられる。

◆内部資金のストック・外部資金導入の努力

バブルのはじけた不況感が相変わらずただよう社会状況の中で十分なスポンサードは望むべくもなく，限られた入場料収入のなかで公演を実行しなければならないことの不安定さは大きい。往々にして先駆的な作品を取り上げようとすると動員面では苦戦を強いられるが，十分な価値と意義が認められるものであれば，劇場の鮮度，活気を支えるためにも積極的にかけていきたい。しかし，経済面での裏付けが不可欠である以上，年間を通じて，あるいは年度をまたがってストックできる企画調整費などの有効利用を検討したい。

一方，外部資金＝協賛・助成獲得の努力を続けることは言うまでもない。投資効率の低さが企業がスポンサーに付かない理由の１つであるならば，劇場がスポンサー企業に提供できるメリットを増やす努力も必要である。〔こどもの城〕の他事業部との連携を図り，ギャラリー展示，来館者へのサンプリング，自動販売機の媒体提供など，劇場事業に付加価値を付けることも考えていきたい。

(2)文化事業機関のネットワーク

官立（国立）の劇場でありながら，単なる貸し劇場運営だけでなく，自ら創造する力を持つ劇場として青山劇場・青山円形劇場の活動は高く評価されている。後発の地方公共団体設立のホールから運営面，技術面での助言を求められたり，シンポジウムなどの講師やパネラーを依頼されることも多くなっている。多忙な日常業務の合間を縫って準備し出張するわけであるが，地方公共団体・ホール間のつながりを密にすることは，自主事業の地方展開のうえからも大いに有効であろう。また，劇場とともに劇場事業部員の成長を示すものである。

(3)劇場機器の更新

10年の年月のもう１つの側面は各種劇場機構の劣化である。年々高度化する機構設備や要求の高まる演出効果に対応するため，また，何よりも安全面から劇場全般の機器に対する保守工事は無視できない状況にある。本年度は，青山劇場１週間，青山円形劇場３週間という開館以来初めての長期保守工事期間を設けた。大型工事に対する予算措置と同時に，休館に伴う貸し劇場収入の減少に対処することは今後の大きな課題になるであろう。

Ⅲ　各部の活動(2)

1　広報部 ……157
2　研修教養部 ……163
3　国際交流部 ……173
4　営業部 ……183

1　広　報　部

(1)　7年度の活動

広報部では〔こどもの城〕をより多くの人に理解してもらうために，『こどもの城ニュース』などの定期刊行物と『事業年報』の編集・発行のほか，新聞・雑誌などの各種媒体への情報提供と広告の掲載，特別期間のちらし・ポスターなどを作成している。

本年度は〔こどもの城〕開館10周年に当たり，多彩な記念事業が展開されると同時に，5年ぶりの「こどもの城パンフレット」の全面改訂，「こどもの城の10年（パンフレット）」の作成，『こどもの城ニュース』の増刊（7月，11月，3月の3回増刊）など広報部にとっても多忙な1年になった。

また，長年にわたって発行してきた『児童手当』に代わって4月に創刊された『こども未来』（発行＝㈶こども未来財団）に〔こどもの城〕のページ「〔こどもの城〕から」が設けられ，広報部を窓口に毎月原稿を提供した。

1）印刷物などの編集と発行

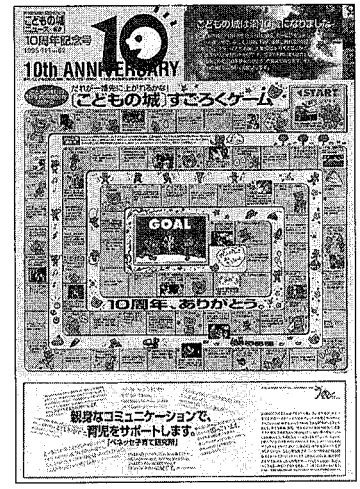
(ア)『こどもの城ニュース』の編集・発行

定期刊行物として『こどもの城ニュース』を年9回，編集・発行した。〔こどもの城〕利用者や周辺の学校，幼稚園，保育所などを主な対象に，〔こどもの城〕の活動を紹介している。

B3版，表面4色(カラー印刷)，裏面1色印刷。本年度は，増刊号を含めて9回発行した(発行日と主な内容は別表のとおり)。

昭和60年（1985年）11月1日に開館した〔こどもの城〕は，平成7年（1995年）11月1日で満10歳の誕生日を迎えた。本年度は「開館10周年記念」の年として，さまざまな記念事業が行われた。そのため，伝えるべき情報も多く，通常の年6回に加えて3回増刊号を発行した。

開館記念日に合わせて発行した11月1日号は，〔こどもの城〕利用者にも10年の歩みと〔こどもの城〕が目指すものを知ってもらおうと企画さ



『こどもの城ニュース』11月1日号

れた10周年記念号。表面が「こどもの城の10年間の足跡が分かる　こどもの城すごろくゲーム」という今までにない紙面。すごろくを楽しみながら，〔こどもの城〕の10年の歩みをたどることができるようになっている。裏面は，各部門の歩みと〔こどもの城〕とともに育ってきた子ども３人のインタビューで構成した。

６月15日号で10周年記念事業の概要を紹介し，７月15日号で「イーハトーボの音楽劇　銀河鉄道の夜」，10月15日号で「ビクトル・ダミコ展」を取り上げるなど，10周年記念の年をアピールすることに力を注いだ。

【平成７年度発行の「こどもの城ニュース」の主な内容】

	発　行　日	内　　容	発行部数
第57号	平成７年４月15日	パソコンであそぶ	25,000部
第58号	平成７年６月15日	ありがとう〔こどもの城〕は　満10歳になります～10周年記念プログラムの紹介	25,000部
第59号	平成７年７月15日	イーハトーボの音楽劇　銀河鉄道の夜	25,000部
第60号	平成７年８月15日	第10回造形スタジオ展 手から心へ～Hands-on to Minds-on	25,000部
第61号	平成７年10月15日	ビクトル・ダミコ展	25,000部
第62号	平成７年11月１日	10周年記念号　〔こどもの城〕の10年の足跡がわかる〔こどもの城〕すごろくゲーム	25,000部
第63号	平成７年12月15日	ひらこう!!　遊びのタイムカプセル‥‥	25,000部
第64号	平成８年２月15日	幼児からおとなまでユニークな講座・クラブがいっぱい　〔こどもの城〕も新学期	25,000部
第65号	平成８年３月15日	アニメおもちゃであそぼう	25,000部

主な配付先は下記のとおり。

ネットワーク会員…… 4,380部
こどもの城友の会会員…… 約3,800部
都道府県民生部（全国57か所）…… 1,150部
保育所，幼稚園，小学校，中学校（渋谷区，港区）…… 438部
（219件×２部）
渋谷区町会長，渋谷区ボーイスカウト，ガールスカウトほか… 284部
（142件×２部）
その他（一般入館者，招待者，視察・見学者など）……約15,000部

（イ）『こども未来』への原稿提供

『児童手当』が，平成７年４月から『こども未来』（発行＝㈶こども未来財団）として生まれ変わった。それに伴い，毎号２ページを〔こどもの城〕のページ（コラム名＝〔こどもの城〕から）として原稿を提供することになった。本年度は，初年度でもあるので，改めて〔こどもの城〕の活動を紹介することにし，部門ごとの活動のねらい，主な活動の紹介を順次掲載した。

【『こども未来』の「〔こどもの城〕から」の主な内容】

号　　数	内　　容
平成7年4月号	フロアごとに夢と感動とふれあいと……（こどもの城の概略）
5月号	あそびの空間には道具と夢がある（プレイ事業部）
6月号	映像をみて，つくって，楽しさ体感（AV事業部）
7月号	今を生きるすべての人に捧げる舞台づくり（劇場事業部）
8月号	しなやかな五感を育むために（造形事業部）
9月号	耳をひらけば豊かになる日常の生活と心（音楽事業部）
10月号	運動することの楽しさを体感してほしい（体育事業部）
11月号	実践を通じての模索　育児支援プログラム現代への提案（保育研究開発部）
12月号	心とすこやかな成長をサポート（小児保健部）
平成8年1月号	ボランティアを通して児童の健全育成と自己実現を（研修教養部）
2月号	“こどもの城”の統合イメージをめざして（企画部）
3月号	情報を発信・受信して“城”と人との架け橋作り（広報部・国際交流部）

（ウ）その他

定期刊行物のほかにも，パンフレットやちらし，『事業年報』などの印刷物の作成も行った。また，本年度は開館10周年でもあり，〔こどもの城〕パンフレットを5年ぶりに全面改訂すると同時に，10年の歩みをまとめたパンフレットを作成した。

(1)〔こどもの城〕パンフレットの全面改訂

〔こどもの城〕パンフレットは，開館前に完成予想図をベースに作成し，開館直後に写真と差し替えた第1版と，開館5周年を機に全面改訂した第2版があり，ほぼ5年ごとに改訂している。活動内容も変化し，施設・設備も更新され現状に適合しなくなることが，改訂の大きな要因。初心は変わらなくても，活動の内容は時代とともに変化するからだ。今回の改訂に当たっては，抽象的なイメージパンフレットではなく，10年間の活動実績を踏まえた内容にすることを念頭に置いた。

〔こどもの城〕および各部門の活動のねらいが明確に伝わるものにする，いわゆるパンフレットのスタイルにとらわれずに実用的な提案をしてほしいことなどを説明した後，2つのデザイン事務所からプランと経費を提案してもらった。提案されたプランを検討した結果。イメージを中心とした部分と説明的・解説的な部分の2部構成とする，㈲コイルの提案を採用することにした。

〔こどもの城〕パンフレットは，A4版で表紙4ページ，本文32ページ（うち16ページ4色，16ページ2色）。10周年記念劇場公演「イーハトーボの音楽劇銀河鉄道の夜」への関係者観劇招待日に間に合うように，7月中の完成を目指して作業を進めた。写真撮影のための日程，場所などの確保と立ち会い，原稿

のチェックなど各部とデザイン事務所との間に入って調整を行った。

(2)「こどもの城の10年」(パンフレット)**の作成**

本格的な「10年史」の編集・発行は，満10年が経過した後の平成８年度にすることにし，本年度は10年の歩みを概観する年表を中心としたパンフレットを作成した。記念式典・パーティーに代わる10周年記念青山劇場公演の招待者へ記念品として配付した。また，〔こどもの城〕の活動を紹介する資料として使えるように，情報量の多い内容の濃いものにするよう心がけた。

年表作成に際しては，過去の印刷物などから拾いだしたが，日時やプログラム名など参考にする文献によって異なることも少なくなかった。意識して“歴史”を記録しておかないと消え失せていってしまうという人間の記憶のあいまいさと，形に残るものに記録しておくことの重要さを痛感した。

(3)そのほかの印刷物(ちらし・ポスターなど)**の作成**

そのほか，児童福祉週間(ゴールデンウイーク)，夏休み，冬休み，春休みなどの催し物案内や講座・クラブの募集案内など，特別期間や募集時期に合わせて作成した。

また，来館者向けに配付している館内案内リーフレットについては，前年度に全面改訂し，日本語版と英語版を作成したが，本年度は中文，ハングル文，スペイン語，ポルトガル語の各国語の説明文を作成した。英語版ほどの需要がないことから，日本語版（あるいは英語版）と対照できるような文章だけのもの（版下）を作り，必要に応じてコピーして添付するようにしている。外国人利用者の使用言語を考慮しながら，順次拡充していきたい。

【作成した印刷物などの一覧】

名　　称	発行部数	内　　容
平成６年度事業年報	1,300部	６年度の〔こどもの城〕の活動記録 （Ｂ５版 196ページ）
平成８年度講座一覧	100,000部	８年度全講座・クラブの案内 （Ｂ４版２色４ページ）
館内案内リーフレット 〃　　（英語版）	250,000部 20,000部	〔こどもの城〕の館内案内を増刷 同（英語版）を増刷 (ハングル文，中文，スペイン語，ポルトガル語の各国語訳については，版下を作成し，必要に応じてコピーして使用)
その他（各種ちらし）	100,000部	ＧＷ，夏休み，冬休み，春休みなどのちらし（日本語・英語）
こどもの城パンフレット	5,000部	５年ぶりに全面改訂（A4版32ページ）
こどもの城の10年	8,000部	開館10周年を迎え，10年の歩みを年表中心に概観するパンフレット（A4版16ページ）
開館10周年行事一覧ちらし	50,000部	８・９月分を中心にした記念行事お知らせ
同（改訂版）	20,000部	10月分以降の記念行事のお知らせ

2）広告関係

経費削減に伴い，必要最小限の広告を行うにとどめた。限られた予算で有効な広告活動を行うには，専門的な知識が要求されるが，広告代理店などと相談しながら実施した。

（ア）新聞広告

夏休み，冬休みの特別期間を前に，以下のように新聞広告を実施した。デザインは，ポスター・ちらしに合わせ，イメージの統一を図った。

掲載紙	掲載形式	掲載日時	掲載内容
朝日新聞 東京新聞 読売新聞 朝日小学生新聞 毎日小学生新聞	半5段 半2段 半5段 〃 〃 タブロイド3段	平成7年7月1日～21日 東京本社版・都内版高校野球特集，西部版，都心版 南部版，北部版 東京本社版（夕刊）	夏休み特別期間の催し物案内
日刊スポーツ新聞	70×50㎜		※こどもの国と共同で出稿
日刊スポーツ新聞	70×100㎜	平成7年10月27日	開館記念特別期間の案内
東京新聞 朝日小学生新聞	全5段 〃	平成7年12月20日 〃 〃 23日	冬休み特別期間の催し物案内
朝日新聞 東京新聞 朝日小学生新聞	全5段 〃 全3段	平成8年2月14日～29日 北部版，南部版(2)，南部版(2)	平成8年度第1期講座・クラブ
毎日小学生新聞	タブロイド3段1/2	平成8年3月15日	春休み特別期間の催し物案内
日刊スポーツ新聞	70×50㎜	平成8年3月25日	※こどもの国と共同で出稿

（イ）折り込み広告

平成8年度の講座・クラブの受講生募集に当たっては，受講者が〔こどもの城〕周辺地域の人であることを考慮し，渋谷区，港区，目黒区，世田谷区などを中心に，前年と同様に読売新聞（約14万部）と毎日新聞（約3万部）に平成8年2月18日に折り込み広告を行った。

3）取材関係

雑誌・情報誌（特に，子どもや若い家族を対象としたもの）などの取材は多く，〔こどもの城〕が子どものためのスポットの１つとして，広く認知されていることを示している。

しかし，月刊誌などの締め切りは発行の約３か月前と早く，提供する情報が集まりきらない段階で問い合わせてくる。外部への情報提供を考えた場合，早い段階で提供する情報をまとめる必要がある。〔こどもの城〕全体の問題として考えなければならないと思う。

取材を受けた媒体には，定期的に催し物の情報などを送るようにしている。宣伝（広報）予算の限られている〔こどもの城〕のような施設にあって，取材＝パブリシティーというのは大切なこと。各媒体と良好な関係を保っていけるように努力していきたい。

本年度の取材件数は，新聞27件，テレビ26件，ラジオ５件，雑誌89件，その他30件の合計 177件で，前年比28件増だった。

4）その他

（ア）渋谷スタンプラリー

夏休みには恒例となった「渋谷スタンプラリー」に参加した。今年が12回目。「ＮＨＫスタジオパーク」「こどもの城」「電力館」「たばこと塩の博物館」「東京都児童会館」「五島プラネタリウム」の６館で実施した。約１万人が参加した。

このスタンプラリーは，渋谷周辺にある各館が共同して施設の存在と活動をＰＲすることを目的としている。＜点＞ではなく＜面＞でＰＲするところが大きな特徴といえる。

2 研修教養部

(1) 7年度活動一覧

1）ボランティア関係の活動

〈平常期間の活動〉

名　　称	期　　間	備　　考
おはなし紙芝居のつどい　(プレイ)	火曜日 15:00～15:30	9年以上続けている女性ボランティアに，新しい期のボランティアも参加して紙芝居の持つ温かさを伝えることを目標に定期的に活動している。
おはなし人形広場Ⅰ　(プレイ)	水曜日 15:00～15:30	女性ボランティアの人形劇・影絵の両グループと青年ボランティアのパネルシアターグループが週替わりで公演。毎週練習を積み重ね，充実した活動を展開している。
手作り人形　(研修教養)	木曜日 11:00～15:00	女性ボランティアのグループが，週に1度集まり，プレイホールの抱き人形を製作している。
おりがみあそび広場　(プレイ)	木曜日 14:00～15:00	主として女性ボランティアが中心となって運営している。週1回の活動とともに各シーズンごとにプレイホールの壁面に展示する折り紙制作も行っている。
木曜ワンダーランド　(音楽)	木曜日 16:00～16:30	手遊び中心のプログラムを実施していたが，低年齢の子どもの参加が多くなってきたため，音楽スタッフが運営する“サンバ”のリズム遊びの補助活動をしている。
楽器であそぼう　(音楽)	金曜日 15:00～15:30	6人の女性ボランティアが定期的に活動。音楽のスタッフと一緒に“サンバ”を素材としたリズム遊びのプログラムを運営している。
手足の不自由な子の水泳　(体育)	土曜日 17:00～18:00	ハンディキャップを持つ子どもたちを対象とする唯一の活動。定期的に活動するボランティアが増えてきているので，マンツーマンで指導補助を行っている。
体育室の活動　(体育)	日曜日 14:00～17:00	日曜日の体育室プログラムで指導補助として活動している。週替わりで実施しているスポーツゲームのチームリーダーが役割。

いろいろな場面でボランティアが活躍

名　　称	期　　間	備　　考
マックロー人形劇場 (研修教養)	第2土曜日 15:00～15:30	〔こどもの城〕のキャラクター“マックローとその仲間たち”が繰り広げる人形劇を中心に公演。主として青年ボランティアが活動している。
キッズクラブ (プレイ)	毎月2回土曜日 15:00～17:00	小学校1～4年生，30人の遊びのクラブ。ボランティアは，グループワーカーとしての視点からプログラムの立案・準備・実施にかかわっている。
ユースクラブ (プレイ)	毎月2回日曜日 13:00～15:00	小学校5年生から中学生までの40人が対象。グループリーダーとしてのボランティアは，思春期の子どもたちにとって“モデル”的な大きな存在となって活動している。
ファミリープレイタイム (プレイ)	第2土曜日 11:00～12:30	親子を対象に毎回さまざまなプログラムに挑戦。ボランティアリーダーはプログラムの運営をサポートした。
十べえの会 (研修教養)	金曜日（不定期） 13:00ごろ～	プレイホールでの自由遊びの一環として，女性ボランティア10期の有志が来館する子どもたちとごっこ遊びを展開している。
パネルであそぼう (研修教養)	毎月2回日曜日 12:00～15:30	パネルシアターの公演とプレイホール（幼児コーナー）で子どもたちとさまざまなパーツのパネルを使って自由に遊んだり，お話を楽しむ「あそびの広場」を展開した(12月から実施した)。
日曜クラブ (研修教養)	日曜日 13:00～17:30	屋上ふしぎが丘で，昔遊びを中心に長縄，路地裏遊び，こま回しを実施。その後16時からプレイホールでレクリエーションプログラム「さよならのつどい」を開催。

※（　）は主催事業部

〈特別期間の活動〉

名　　称	期　　間	備　　考
〈児童福祉週間〉 マックロー人形劇場 (研修教養)	5.3～5 ①13:00　②15:00	5月5日はマック・マックローの誕生日であり，毎年この時期に青年ボランティアによる「マックロー人形劇場」(保育室Ⅰ)の公演を行っている。マックローは，幼児を中心に子どもたちに人気があり，5月5日には，ボランティア人形劇グループのメンバーが，着ぐるみを着てグリーティングも実施した。
〈　〃　〉 キャッスルファイトファイナル (プレイ)	5.3～7 11:00～16:00 (受け付け)	テレビゲームの主人公になって，集団じゃんけんなどさまざまな修行を積んで，カードを集め，伝統ある武闘大会に出場する，というのが主旨。運営するボランティアが“劇遊び”の世界に入り込めるか否かにかかっている。館内のほか，屋上ふしぎが丘で実施。
〈夏休み〉 ウオーターアドベンチャー '95 (研修教養)	8.15～20 11:00～16:00 (受け付け)	屋上ふしぎが丘を使って，5人程度のグループを組んだ子どもたちが，水鉄砲と盾を駆使して，数々の難関を突破しながら大敵「水の魔神」を倒すというストーリーのもとに実施。ボランティアは，魔神の手下，子どもたちを率いる隊長，魔神の宮殿の門番などの役割を演じながら，子どもたちとともにずぶぬれになった。
〈開館記念〉 チャレンジゲーム大会 ～遊びのフェスティバル～ (研修教養)	10.28・29，11.3～5 11:00～16:00 (受け付け)	ボランティアによる屋上を使ったさまざまな記録にチャレンジするゲーム大会を実施。10周年記念ということで，過去，子どもたちに人気のあった種目を中心に，初心に返ってシンプルなゲームを楽しんだ。親子での参加が多かった。
〈　〃　〉 あそびのおもちゃ箱 (研修教養)	11.18・19，23 ①11:00　②13:30 ③15:30	人形劇，影絵，紙芝居，パネルシアター，音楽のグループの合同公演を実施した。公演の合間には，手作り人形で遊ぶワークショップも行った。日常一緒に活動する機会が少ないそれぞれのグループにとって，お互いに触れ合うよい経験となった。フリーホールで開催。
〈冬休み〉 昔あそび大集合 ～昔あそびコーナー～ (研修教養)	1.3～7 13:00～15:00	こまやけん玉などの伝承遊びを中心に親子で参加するプログラム。お父さんの参加も多く，ボランティアが教わる場面もあった。寒空の下ではあったが，アットホームな行事となった。屋上ふしぎが丘で実施。

名　　称	期　　間	備　　考
〈冬休み〉 昔あそび大集合 ～紙ずもう初場所'96 (研修教養)	1.4～7 11:00～16:00 (受け付け)	毎年恒例となったこの行事は，村杉紙相撲道場の村杉輝治氏の協力で行われている。親子が一緒になって紙で力士を作り，けいこを積み，みごと大関になった力士は「横綱決定トーナメント」の出場権を握る。スタジオBで実施。
〈春休み〉 君こそ！あそびの鉄人 (研修教養)	3.23～27，4.6・7 ①11:00～15:30 ②16:00～	じゃんけん，長縄跳び，こま回し，おにごっこなどの外遊びに親子で挑戦するプログラム。さまざまなレクリエーションを1時間構成のプログラムにして，ネット広場で遊んだ。新人のボランティアが先輩ボランティアのアドバイスを受け，日に日にレクリエーションの技術を高めていった。 16時からはゲームやダンスの「さよならのつどい」をプレイホールで行った。

〈L.I.T.(Leader in Training)の活動〉

名　　称	日　　程	備　　考
年間計画立案 ※前年度からの継続者	4.9　10:00～15:00	高校2・3年生で，本年度のプログラムを計画。新入生の受け入れと開講式についての準備を行った。
開講式，個人面接，親睦のつどい	4.23　10:00～15:00	新規・継続者を含め，面接を実施，その後本年度の開講式を行う。後半は，親睦の集い，自己紹介やグループワークトレーニングをした。
上半期ワークショップの計画	4.30　10:00～15:00	来館者を対象とした「作って遊べるプログラム」を計画，グループ討議の後，「コトコト」という，動く遊びのおもちゃに決める。
ワークショップ準備	5.4　10:00～15:00	イベントの名前を「七転び八起ダ!!　それいけコトコト」に決定。
〃	5.7　〃	ポスター作りと，イベントの運営について話し合った。
〃	5.14　〃	大看板・ポスター完成。遊ぶコース作り，型紙作成，表示の作成とグループに分かれ，作業を行った。
ウオークラリー参加	5.21　9:00～14:00	全国一斉ウオークラリーに参加。毎年恒例となった行事へ2チームを編成して参加した。会場は豊島区総合体育館。
ワークショップ準備	5.28　10:00～15:00	イベントの準備。
〃	6.4　〃	イベントの最終準備。
ワークショップ実施	6.18　9:30～16:00	フリーホールでワークショップを実施。延べ192人が参加。12人で運営をした。反省会では1人ずつ，リーダーからアドバイスがあり，今後の活動への指針となった。
夏合宿	7.8・9	11人が参加。テント設営，野外炊事など，アウトドアスクールに向けて実習を行った。グレードアップ講習会と合流プログラムも実施。小林牧場キャンプ場。
ジュニア・アウトドア・スクール	8.3～9	10人が参加，ボランティアリーダーと班付きカウンセラーの役割を体験した。
ウオーターアドベンチャーのオリエンテーション	8.14　10:00～15:00	〔こどもの城〕でのボランティア活動を体験する目的で参加。事前に活動内容の説明会を実施。
ウオーター アドベンチャー	8.15～20　11:00～16:00 (受け付け)	毎日3～5人が参加。子どもたちへの言葉かけや，ボランティアリーダーの行動から得るものがあったという声が多かった。

名　　称	日　　程	備　　考
夏の活動のふりかえり	9.14　10:00～15:00	夏の活動を互いに報告。その中で自分たちの活動姿勢について，いま一度話し合いすることになる。連絡がきちんと回らないこと，L.I.T.として自覚を持って行動することとは何か，真剣な意見が交わされたが，グループ内での人間関係作りが進まないなどの問題が出始めた。
L.I.T.活動の休止	10.8　10:00～11:00	半年を過ぎたところで人間関係作りのざ折，グループ・イン・グループの発生など新たな問題が明らかになった。現グループの状態では，この問題を解決するのは無理と判断し，活動を一時休止。その後，メンバー個々と面接を行い，活動継続の意思を確認する。
新しい活動への準備	12.17　10:00～15:00	その後，もう一度活動を再建したいという8人の有志が集まった。新生L.I.T.(仮称)を発足するために，自分たちはなぜこの活動をやりたいのか，何のための活動か，じっくりと考えることになった。
冬合宿の準備	12.19，26　16:00～18:00	自分たちの活動を振り返るために，自分たちの手ですべてを行う合宿を計画，食事班・プログラム班に分かれ，準備作業を行った。
〃 (追跡ハイキング講習)	1.7　10:00～15:00	プログラム計画の中でメインとなる「追跡ハイキング」について，ボランティアリーダーから講義を受けた。その後最終準備活動となる。
冬合宿	1.13～15　2泊3日	自分たちの立てた計画を基に，キャンプを実施。野外炊事の材料がないなど失敗もみんなでカバーし，有意義な共同生活を送った。今後の活動について，零下2度の中熱い意見が交わされた。8人参加。船橋市大神保キャンプ場。
新しい活動への準備	2.4，12，3.8，17 10:00～15:00	新生L.I.T.を発足させる前に，高校生が集まり，夏休みに〔こどもの城〕で何か行事を企画・運営し，自分たちができることを再確認することになった。数回の話し合いの後，「ミステリーツアー」を計画。実行委員会を結成し，新しく仲間を募集することになった。

〈ボランティア講習会〉

名　　称	対象・定員	修了者	曜　日・日　時	備　　考
第32期 ボランティア 講習会	(人) 18歳以上 (50)	(人) 50	5.27～6.21 18:00～20:30 (6.9～11宿泊研修)	社会人の参加が半数近くになる。講習会修了後間もなく実施した野外活動に多数が参加した。また，夏休みの大型プログラムには，企画の段階から積極的に参加した。宿泊研修は千葉県市川少年自然の家で実施。
第33期 ボランティア 講習会	18歳以上 (50)	50	2.16～29 18:00～20:30 (2.16～18宿泊研修)	来年度進学予定の高校3年生が3人参加。また3分の1が社会人であった。修了後間もなく始まる〔こどもの城〕の春休みやゴールデンウイークの行事などのさまざまな活動に参加した。宿泊研修は千葉県市川少年自然の家で実施。
第11期 女性ボランティア 講習会	女性 (20)	8	10.4,6,11,13 14:00～16:00	〔こどもの城〕に興味を持って参加した人もいるが，いろいろな事情から参加する人がやや少なかった。修了者は日常活動に定期的に参加している。

〈ボランティア・グレードアップ講習会〉

名　　称	対象・定員	受講数	曜　日・日　時	備　　考
野外活動講習会	(人) 野外活動に参加するボランティア (25)	(人) 22	6.30～7. 9 18:30～20:30 (7.7～9宿泊研修)	講義は「こどもの城とキャンプ活動」「こどもの心を育てる聴き方」「これは知っておきたい応急処置」の内容で実施。宿泊研修（千葉県・小林牧場）では，キャンプ生活で必要な技術を中心とした実技講習や自然をテーマとしたプログラムの企画・実施などを行った。

2）講座・クラブ

名　　称	対象・定員	受講数	曜　日・日　時	備　　考
手話講座（前期）	(人) 高校生以上 (30)	(人) 30	火曜日　18:30～20:00	4月から9月までの6か月間，全15回の講座。講師は（社福）トット文化館貞広邦彦館長。指導者への人気が高く，継続して手話を学ぶ受講者が多いのが特徴である。
手話講座（後期）	高校生以上 (30)	35	火曜日　18:30～20:00	10月から2月までの5か月間，全15回の講座。講師は前期と同じく貞広邦彦館長。社会人がほとんど。
点訳入門講座	高校生以上 (30)	30	火曜日　18:30～20:00	1年間，全24回の講座。講師は(社福)日本点字図書館の河井久美子氏。新聞掲載などによって情報を得た受講者が多くみられ，点字への関心の高さを再認識した。
点訳サークル（クラブ）	点訳入門講座修了者 (30)	28	火曜日　18:30～20:00	毎月1回，全12回。今年は28人と定員に近く充実したサークルとなった。講師の河井久美子氏の指導の下，和気あいあいと点訳奉仕活動を継続している。

3）その他（野外活動など）

〈主催キャンプ〉

名　　称	期　　間	備　　考
ジュニア・アウトドア・スクール	8.3～9	Aコース6泊7日（中学生のみ）35人，Bコース4泊5日（小学校4年生～中学生）60人，スタッフ41人，合計136人で実施。Aコースは那須三山を縦走する厳しい山の旅を体験した。幸い好天にも恵まれ，Bコースと合流した後の4泊5日の日程も全員が大自然の中で充実したキャンププログラムを行うことができた。栃木県青少年野外活動センター。
ジュニア・スプリングキャンプ	3.28～31	小学校4年生～中学生まで39人，スタッフ16人，計55人で実施。従来のスキー指導中心のキャンプを春山の自然を体験するキャンプに衣替えした初めての活動。クロスカントリースキーや雪上ゲームなど楽しい野外活動を体験した。雪，大雨，晴天と春らしい天候の変化はあったものの，プログラムも予定どおり実施し全日程を終えた。長野県望月少年自然の家。

キャンプの前と後に参加者とスタッフが一堂に顔を合わせてミーティング（ジュニア・アウトドア・スクールの事後講習会）

〈児童厚生員等実技指導講習会〉

名　　称	対象・定員	受講数	曜　日・日　時	備　　考
平成7年度 第1回児童厚生員等実技指導講習会	(人) 児童館職員 ほか (40)	(人) 42	5.31~6.3	「出会いと発見，遊び心～児童館を拠点に地域を遊ぶ～」をテーマに，都会の街でのさまざまな条件をフィールドにして「イメージ遊び」を展開した。講師には，遊び・劇・表現研究所代表北島尚志氏ほか。こどもの城・横浜市三ツ沢公園青少年野外活動センター(3泊4日)。
平成7年度 第2回児童厚生員等実技指導講習会	児童館職員 ほか (50)	56	9.26~28	「こどもが育つ　あそびプログラム」をテーマに，児童館の日常活動や行事活動に役立つ室内レクリエーションを中心に，クラフト，ダンス，ゲームなどを紹介しながら，参加者にも実際に遊びを展開してもらうなどの実習をした。講師は奥野レクリエーション研究所の奥野正恭氏，日本児童遊戯研究所の有木昭久氏ほかと〔こどもの城〕の職員など。こどもの城研修室(2泊3日)。
平成7年度 第3回児童厚生員等実技指導講習会	児童館職員 ほか (50)	52	11.17，22	「児童文化にじっくりとりくもう～パネルシアターで遊ぶ～」をテーマに，パネルシアターの準備から実施までを学んだ。材料を基に実際にパネルを作り，それを基にパネルシアターで遊ぶ実技を展開し，児童館で直ちに生かされる技術を学んだ。講師はパペットマーケットの和気瑞江氏。こどもの城研修室(2日連続通い型)。
平成7年度 第4回児童厚生員等実技指導講習会	児童館職員 ほか (50)	58	8.1.24~26	「親子でいきいき！児童館の子育て支援プログラム」をテーマに，〔こどもの城〕の実践活動を通じて子育て支援プログラムを学んだ。地域の子育てセンターとしての役割を求められている児童館にとって，乳幼児とその親を対象にしたプログラムは関心が高く多くの参加があった。 赤ちゃんとお母さんの体操，音楽や保育，保健の実践を学んだ。講師は〔こどもの城〕の体育・音楽・保育・小児保健の各部のスタッフ。こどもの城研修室(2泊3日)。

「こどもが育つ　あそびプログラム」をテーマにした
平成7年度第2回児童厚生員等実技指導講習会

(2) 研修教養部の活動

本年度の研修教養部の活動は，①ボランティアの養成，活動関係　②野外活動関係　③福祉講座関係　④実習生・研修生の受け入れ関係の4点を中心として活動が展開された。

1）ボランティアの養成と活動

〔こどもの城〕の事業に協力するボランティアを養成するためにボランティア講習会を実施しているが，本年度の講習会修了者は108人。実際に〔こどもの城〕で活動を希望し登録をしている人は，前年からの継続者も含め年度末現在442人となった。

阪神・淡路大震災を契機にボランティアに関する国民の関心が高まってきていること，〔こどもの城〕のボランティアの活動が認識されてきたことなどの理由で，〔こどもの城〕のボランティアの希望者が増加している。本年度の青年ボランティアの養成講習は定員いっぱいの100人が受講，全員が修了して登録された。近年，企業の社会参加の影響もあって，社会人ボランティアが増加している。土・日曜日や学校の休み期間には館内では，たくさんのボランティアが活動をする姿が見受けられた。

一方，育児経験や社会経験が豊富な主婦層を中心とした女性ボランティアの養成も行っており，その女性ボランティアが主として平日に人形劇や影絵，紙芝居といった児童文化を中心に活動を活発に展開してきた。

今後増加する社会人ボランティアの受け入れ，養成，活動の活性化を図るためのコーディネートなどスタッフの役割や責任は大きくなってきている。そのためには，スタッフの態勢（遅番など勤務時間のシフトなど）を整えるなど，より充実した方法を考えることが必要である。

節分の鬼の扮装のまま打ち合わせするボランティア

(ア) 平常期間プログラムの中での活動

〔こどもの城〕のボランティアは，各事業部からの要請を受け定期的に平常期間のプログラム活動に参加している。各活動とも長く継続しているものも多く，メンバーの技術の向上のための準備や練習の活動も積み重

ねてきた。

また新しいボランティアの多くがメンバーとして参画するようになり，新規プログラムへの試みも積極的に行われてきた。

また，社会人ボランティアが増えたことによって，土・日曜日の活動が一層活発になった。平日には女性ボランティアの参加が増加し，経験も増えたことにより，週間行事の中心役となって活動を進めた。

（イ）特別期間プログラムの中での活動

子どもたちの学校の長期休み期間で来館者が集中する時期を利用して，より多くの子どもたちが，一度に参加して遊ぶことができるプログラムを計画。スタッフとともにボランティアが企画立案の段階から参加し，〔こどもの城〕オリジナルのユニークなプログラムを多くのボランティアによって実施した。

毎年恒例となった行事を目当てに来る親子も増え，“屋上でのプログラム”を楽しみに来館する声も多く聞かれた。一方，平常期間活動と同時並行して計画されるため，準備不足やメンバー不足が表面化することもあった。今後これらの行事に対して，スタッフがどうボランティアを導き，励ましながらより新しく，楽しいプログラムを生み出すかが活動の活性化のための課題である。

そのほか「節分」「ひなまつり」「母の日」などの季節行事の運営補助も行った。

（ウ）L.I.T.（Leader In Training）の活動

L.I.T.は〔こどもの城〕で活動をする高校生のグループ。メンバーは，いずれも過去に〔こどもの城〕の講座やクラブ，キャンプ活動に参加をしていた子どもたち。高校生になってからも〔こどもの城〕を活動の基盤にして，スタッフやボランティアリーダーとともに，学校生活だけでは体験できない活動を自主的に計画しながら活動した。

活動の基本は，将来ボランティア活動をしてみたい，〔こどもの城〕に遊びに来る子どもたちと遊びを通してリーダーとしての心得や社会参加の活動を学んでいきたい，という考えで活動している。本年度は，自分たちでイベントプログラムを企画し，経験豊かなボランティアリーダーの指導のもとで準備し，6月に実施した。

本年度（当初）は22人が登録し，月平均2回程度の活動を展開してきたが，半年を過ぎたころからグループ内での人間関係作りのざ折などの問題が明らかになり，10月8日をもって活動を一時休止した。

その後，活動を再建したいという有志8人が集まり，新生L.I.T.を発足するための準備に取りかかり，平成8年9月を目途に準備活動を行った。

（エ）ボランティア養成のための講習会

ボランティア活動が初めてという人のために，健全育成ボランティアの基本

的な考え方（ボランティア論，子ども論，リーダ論など）や〔こどもの城〕の事業とその活動内容などを理解してもらい，ボランティアとしての共通基盤を作ることをねらいとして，次の講習会を実施した。

「野外活動講習会」で応急処置について学習

(1)青年ボランティア講習会

本年度は，学生および社会人を対象にして2回の講習会（第32・33期）を実施。各期8回の講義と2泊3日の宿泊研修（実習）を行った。

社会人の参加が急増し，受講者の半数を占めるようになった。熱心に受講する社会人の態度に，ともに参加している学生たちも刺激され，宿泊研修などでも意欲的に取り組むメンバーが増え，講習の雰囲気もしだいに活発になってきた。年間を通して100人が修了した。

(2)女性ボランティア講習会

社会経験の豊かな家庭の主婦を対象に，4回の講義を中心とした講習会を実施。年齢層は20代から60代までとバラエティーに富んだ人材が集まった。

修了者は8人で，修了後はグループで，プレイホールでの自由遊びの活動を企画・運営した。

（オ）ボランティア・グレードアップ講習会

〔こどもの城〕で活動をしているボランティアを主な対象として，その資質や技術の向上を図ることを目的に実施。本年度は「野外活動講習会」を行った。受講者は22人。

2）野外活動

「ジュニア・アウトドア・スクール」「ジュニア・スプリングキャンプ」を実施したほかに，各事業部が行う次の野外活動にも多数のボランティアが参加し，班付きカウンセラーや本部運営を積極的に行った。

スポーツキャンプ（体育事業部）／ちびっこ冒険団（プレイ事業部）／合唱団合宿（音楽事業部）／ファミリーキャンプ，ファミリーハイキング（企画部）／スキースクールⅡ（体育事業部）／ゆきんこ冒険団（プレイ事業部）

3）福祉講座

〔こどもの城〕の社会福祉講座は，開館以来実施してきたが本年度は，「手話

講座」「点訳入門講座」「点訳サークル」の3講座を実施した。受講者は延べ123人。

4）実習生・研修生の受け入れ

大学・短期大学や専門学校などからの依頼により実習生の受け入れを行っているが，本年度は保育研究開発部，体育事業部，プレイ事業部，音楽事業部へのコーディネートをした。

研修生については，全国から児童館単位での職員研修の依頼を受け，主に〔こどもの城〕の事業概説などの説明を行った。また最近は，各事業部のプログラムの企画や運営について，実際に現場での研修を希望する児童館も増加する傾向にある。

本年度は，富山こどもみらい館から研修生1人を受け入れたほか，8大学・専門学校から22人の実習生を受け入れた。

5）その他の活動

（ア）児童厚生員等実技指導講習会

こどもの城全国連絡協議会をネットワークに，全国から児童厚生員などの関係スタッフを集め，本年度は前年度より1回増やし年4回の講習会を実施した。

実技研修への関心の高まり，〔こどもの城〕の講習会が認識されてきたこと，などから多くの参加希望者があり，毎回10人程度が受講できない状況になった。本年度は初めての試みとして，4回のうち1回を1つのテーマで短期の日帰り講習（2日間）として実施した。気軽に参加できることで関東近県を中心に参加者が受講した。4回の受講者は208人。

研修教養部では，本講習会の準備・事務・実施に際しての運営をこどもの城全国連絡協議会と連携して行った。

野外活動が活発になる夏休み前に行われる1回目の講習会は，年度が始まってから間もないこともあり，参加者が少ない傾向にあったが，残りの3回は多くの参加者があり，好評であった。全国で同じ活動をし，日夜同じような悩みを抱えて頑張っている児童厚生員同士が一堂に集まり，さまざまな情報交換をすることは大きな意義がある。お互いに励まされて帰っていった参加者も多かった（日程などはこどもの城全国連絡協議会の項を参照）。

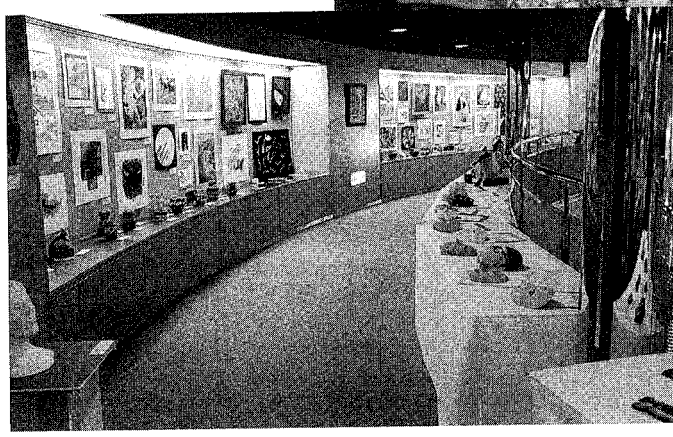
3　国際交流部

(1)　7年度活動一覧

1）平常期間プログラム

名　　称	期　　間	備　　考
アートスケープ展 Artscape '95	4.11~23 （4.10はレセプション）	〔こどもの城〕では10回目，通算で16回目を迎えた春の恒例展覧会。本年度は東京・横浜地区のインターナショナル・スクール8校から生徒（中・高生）たちの美術作品約400点を1階のアトリウム・ギャラリーに展示。美術を通しての国際交流を図るべく，インターナショナル・スクールの生徒たちが実際にボランティアで参加し，レセプションや一般来館児・者のための陶芸のワークショップなどを行った。入場は無料。
ミセスサンタのクリスマス Mrs. Santa's Christmas	12.9・10 ①11:00 ②13:00	すべての子どもたちとファミリーを対象に，バイリンガル（英語と日本語）で行われるファミリーシアター第22弾。北極から来たミセス・サンタとユキ・ダルマン，おもちゃたち（PAG＝パフォーミング・アーツ・グループ）が観客と一緒に参加する愉快なクリスマス・プログラム。前年度に引き続き，土曜日に幼児向け特別プログラムを実施。保育クラブ・幼児グループの子どもたちが出演した。PAGのOBたちもボランティアとして手伝ってくれた。特別ゲストとして，ボディービルの元アメリカチャンピオンのジェフ・ライベングットさんが出演。子どもたちに健全育成や健康について話をした。

「ミセスサンタのクリスマス」（青山円形劇場）



「アートスケープ展」（ギャラリー）

2）講座・クラブ

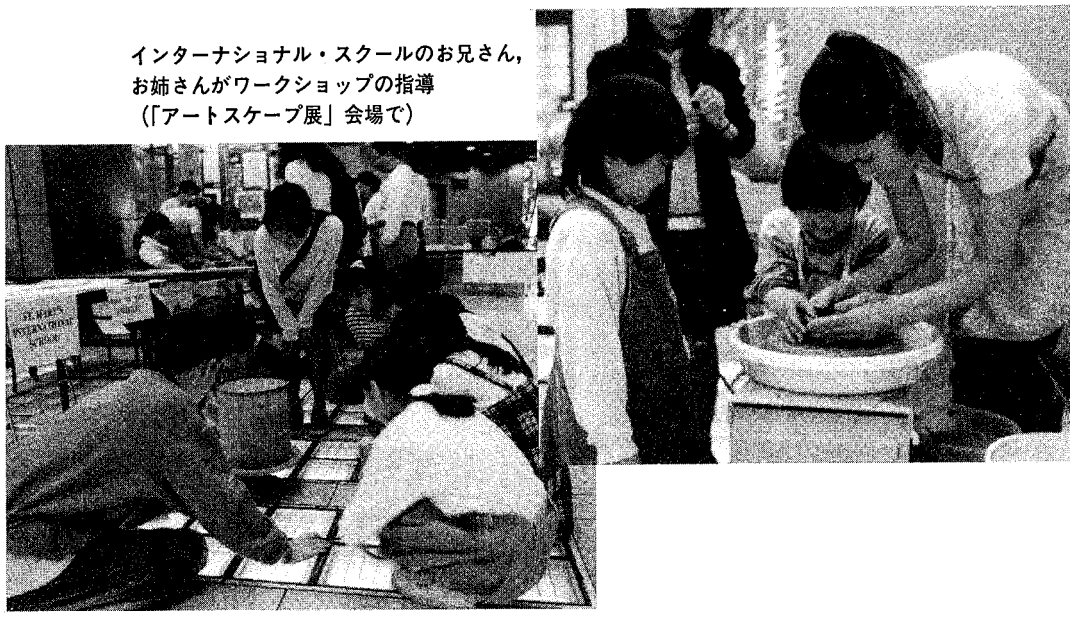
＜講座＞

名　　称	対象・定員	受講数	曜　日・日　時	備　　考
パフォーミング・アーツ・グループ Performing Arts Group (PAG)	(人) 小1～6 (各期30)	(人) 32 27 26	(回) 4.19～7.12　12 9.20～12.20　12 12.7・8(リハーサル)　2 1.17～3.20　10 水曜日　16:00～17:30	講師はテリー・スザーン（アメリカ）。 小学生（6～12歳）と少数だが外国籍の子どもたちと一緒にダンス，歌，演技，表現力をバイリンガル（英語と日本語）で学ぶ。本年度は個人よりもグループでの表現に重点を置き，クリスマス公演のダンスの振り付けや企画のアイデアを出してもらった。1期と3期には，アシスタントの林久美子が30分間の“林タイム”で身体表現を指導した。

3）その他（講演活動など）

名　　称	期　　間	備　　考
こどもの感性を伸ばす	3.7	子どもの心を理解するための方法（褒め方，しかり方など）と日本とアメリカのボランティア活動の違いなどを講演。国立吉備少年自然の家（岡山県）主催の少年自然の家学生ボランティア研修。
世界のこどもとテレビジョン	5.26	世界の各国では，子どもの健全育成に及ぼすテレビの影響（良い面，悪い面）についてどのように考えているか，親（大人）としての責任について講演。文部省生涯学習局・国立教育会館社会教育研修所主催の社会教育主事アドバンスト・セミナー。
子育てって	5.28	親と子のコミュニケーションのしかた，母親と父親の役割，親の時間・親子の時間，そしてファミリー会議，家族の夢作りなどをゲームを通して実際に自分自身のことを体験するプログラム。〔こどもの城〕の親子教室。
The Future of Children	5.31～6.4	家庭，健康，遊び，家族と社会のつながりなどから子どもの未来を考えることをテーマにしたプロジェクト。日本青年会議所などが計画し，アジア太平洋各国の代表が参加し，韓国の済州島で開かれ，メイン・スピーカーとして出席した。
子どもの休日とボランティア	6.9	日本と海外の子どもたちのボランティア活動やその考え方，子育ての中でどのようにボランティアの心を育てるかについて講演。新潟県小千谷市・小千谷市教育委員会ほか主催の「小千谷の教育を考える会～生涯学習時代のボランティア活動」。
子育て～The Great Adventure	6.11	親子のコミュニケーション，仕事と家事の両立，父親母親の大切さ，子どもとの時間作りなど子育てについて講演。愉快な親子遊びを講演後に参加者と楽しむ。飯田市(長野県）福祉事務所社会課ほか主催。
子育て～The Great Adventure	6.17	外国から見た日本のＰＴＡ，家庭教育における日本の父母の在り方など，親や教師の立場を考えながらＰＴＡをサポートする方法について講演。栃木県ＰＴＡ連合会。
園長研修会（見学）	6.21	〔こどもの城〕の説明，国際交流の役割，子どもの創造力や表現力を伸ばす方法などを講義。高松市民間保育所共励会主催（こどもの城研修室）。
保育のための表現とあそび	7.17	表現遊び，子育て，親子のコミュニケーション，文化の違い，健全育成の中での表現力（親，子どもほか）の重要性について講演。ソウルＹＭＣＡ保育教師学生日本研修団（主催＝在日本韓国ＹＭＣＡ，アジア総合情報センター）。
Performing Arts ～表現力	7.24・25	国際交流と活動について，日本，中国，韓国，ロシア，アメリカ，オーストラリアなど世界の子どもたち120人が参加した「ジュニアサミットキャンプ」で言葉が分からなくてもコミュニケーションできる表現力を身に着けるプログラムを実施。ジュニアサミットキャンプ実行委員会（岡山県）。

名　　称	期　　間	備　　考
アメリカの幼児教育と表現あそび	8.2	体全体を使った表現，子どもの指導方法について講演。東京都レクリエーション協会「第13回幼児実技セミナー」。
The Future of Children	8.18~22	5月31日～6月4日に行われた「The Future of Children」プロジェクト（日本青年会議所などが主催）が国連創設50周年会議としてニューヨークでも取り上げられ，ゲストとして出席した。
教育の新しい方向と親のあり方	8.24・25	子育てと社会参加，親子のコミュニケーションについてパネルディスカッションで報告。第43回日本ＰＴＡ全国研究大会札幌大会。
表現は人間の魔法 Express Yourself	8.29・30	東京都中野区のジュニアリーダーの子どもたちと一緒に，表現力や創造力を身に着けるワークショップ。中野区教育委員会ジュニア・リーダー講習会。
Global 子育て	9.30	日本人として，地球人として，日本と世界のためにどのような子育てをすればよいかの講演と親子の体験遊び。埼玉県関沢小学校ＰＴＡ。
Get Genki！ キッズは元気！	10.14	表現遊び，はさみを使った創造力遊び（切り絵）など，子どものためのクリエイティブ・ワークショップ。中野区教育委員会ジュニアリーダー講習会「夏休み中野ゼロ・キッズ」。
日常生活の国際化について	10.26	国際化における，日本の大切な心と子育てとのかかわりについて講演。群馬県教育委員会主催「群馬県国際理解教育と国際交流活動研修会」。
「心とからだの健康づくり」シンポジウム	11.10	いじめを考え，いじめをなくすためのシンポジウムに出席。海外と日本でのカウンセリングや対応のしかた，学校と父母と子どもの関係や役割などについて報告。主催は，東京都教育委員会。
表現力と創造力を生かすための講演会	1.19~24	韓国青少年の村の招きで，ソウル，テジュン，プサンの３都市で，各２日間の講演を行った。対象は，保育所，幼稚園，小・中・高校，大学の教師。国立教育大学などでも特別講義を行った。



インターナショナル・スクールのお兄さん，お姉さんがワークショップの指導（「アートスケープ展」会場で）

(2) 国際交流部の活動

〔こどもの城〕における国際交流部の役割というものは，日本人と外国人コミュニティーを結ぶ架け橋となることだと考えている。「国際的」という言葉の中にはまず基本として「人と人との関係」が含まれると考え，その触れ合いと交流を大切に活動している。

国際交流部では他事業部の協力活動としてちらし，パンフレットなどの英語版作成（広報部），外国人来館者のための英語案内・館内表示などの作成，外国人の講座への電話問い合わせや，外国からの団体や貴賓の視察，見学案内などの対応（企画部）を行っている。また，在日外国人と日本の子どもたちとの交流を図るためのプログラム（「アートスケープ展」や「バイリンガル・ファミリーシアター」など），小学生を対象とした講座「ＰＡＧ（パフォーミング・アーツ・グループ）」などの活動をしている。

本年度は開館10周年であり，その節目として「国際交流部」について改めて見つめなおすため，各事業部にアンケートを配付し各事業部からの意見を聞き，回答があった事業部と話し合いを行った。

1）平常期間・特別期間

(ア) アートスケープ展

東京・横浜地区のインターナショナル・スクールの小学校５年生～12年生（高校３年生），60か国以上の国籍の生徒たちの手による水彩画，油絵，版画，陶芸，ガラス工芸，建築，写真など400点以上の作品が展示される美術展。

今回は清泉，聖心，横浜，セント・ジョセフ，セント・メリーズ，アメリカン・スクール・イン・ジャパン，クリスチャン・アカデミー・イン・ジャパンとキニック・ハイスクールの８校が参加した。昨年から始めたインターナショナル・スクールの生徒と先生による陶芸，アニメーション，金属細工のアート・ワークショップも行われ，生徒たちはすべてボランティアで参加した。

本年度は昨年のように日本の学校の生徒たちの参加が得られなかったが，〔こどもの城〕と外国人コミュニティー，インターナショナル・スクールの生徒たちとの間に文化的・国際的な交流が生まれ，コミュニケーションの機会が増えることを期待して毎年４月に開催している。

毎年４月の開催が恒例となっているが，これはインターナショナル・スクールの学期に合わせているためで，日本の学校の生徒にとって新学期になったばかりで，条件的に参加しにくい面がある。今後双方の生徒たちが一緒に参加できる開催時期を考える必要がある。

開催前日の4月10日に恒例行事のレセプションがフリーホールで行われ，参加した各学校から多くの生徒と先生が参加した。オープニング・レセプションには，アメリカ大使夫人のジョーン・モンデールさん（Mrs. Joan Mondale ）が出席，“Art in Public Places”というスピーチをした。また，参加した生徒の保護者が経営しているインド料理店から料理の差し入れがあり，モンデール夫人を囲んで生徒も先生たちも関係なく和やかに楽しい一時を過ごした。

〔こどもの城〕での開催回数を重ねるごとに，少しずつではあっても，国際交流の輪が広がっている。春の恒例行事となった「アートスケープ展」が新たな外国人利用者を増やす，よいきっかけになることを今後も希望する。

(イ) バイリンガル（2か国語）・ファミリーシアター

バイリンガル・ファミリーシアターの歴史は1985年12月の「ファミリー・ディスコ」に始まる。このイベントを始めた目的は，①日本人に海外の習慣・伝統的行事（クリスマスやハロウィーン）を紹介すること　②日本語以外の言葉による外国人向けのファミリー・プログラムを提供し，外国人利用者を増やすこと　③家族全員が楽しく参加でき，日本人家族と外国人家族が交流する場を提供すること　④家族で参加して（日本人の場合は特に父親）楽しく踊ることにより，家族のコミュニケーションを図ること――など。つまり“家族のための＝ファミリー”“一緒に踊る場所＝ディスコ”が名前の由来である。回を重ねるうちに内容も変化し，より幅広い意味を持つ“シアター”という現在の名称に変更した。

舞台は同時通訳でない独特のバイリンガル方法で進行し，青山円形劇場で行っている（以前は春とクリスマスの年2回だったが，平成6年度から諸々の事情によりクリスマス公演のみに）。国際交流とファミリー・ディスコを中心に観客も一緒に参加できる楽しい舞台を目指している。

音楽，ドラマ，ダンス，遊びを通して家族の触れ合いを深めるためのバイリンガル・ファミリーシアターは，日本人と外国人の家族が一緒にステージに登り，共通の体験を通して理解し合う絶好の機会。いろいろな国々の習慣や考え方を紹介することで，国際的な相互理解を深めている。また，近年増加の一途にある帰国子女や海外に居住経験のある人には，なじみ深く参加しやすいプログラムとなっている。だが，このようなプログラムは多大の経費を必要とする。その年の景気動向により，外部からの協力は変動が激しく，限られた経費・人材面などの厳しい条件からいかに効果的に公演を成功させるかが，このプログラムの存続の鍵となっている。

【ミセスサンタのクリスマス】

バイリンガル・ファミリーシアター第22弾。通算公演回数では107回目。今回も昨年に続き入館券対応（公演の入場料を無料にして開演前に整理券を配り，

入館料のみで入れる方法）にした。整理券は開演の１時間前から１階のアトリウム受付で配付。全公演とも325人の定員数を早々に配り終えた。

〔こどもの城〕の開館10周年を祝うため，ユキ・ダルマン（林久美子）とクリスマスのおもちゃたち（ＰＡＧ）は北極に住むミセスサンタ（テリー・スザーン）を〔こどもの城〕に呼び出す。おもちゃたちはミセスサンタに「一度だけでいいから本当の子どもになりたい」と願い，会場にいる大人たちの協力によってその夢がかなう。そして観客と一緒に効果音や動物の鳴き声を使った手遊び，全員で参加する数字当てゲーム，ファミリーディスコをして過ごすという内容。

最後に，子どもたちがおもちゃのときに入っていた手作りの箱を持って登場し，１人ずつクリスマス・ウィッシュ（願い事）を言いながら舞台に積み上げて大きなバースデー・ケーキを作り，〔こどもの城〕にプレゼント。今回のテーマソング『Thanks Santa』に合わせて観客と一緒に踊って幕を閉じた。

また，初日の第１回のステージは幼児のための特別プログラムとして，〔こどもの城〕の保育クラブと幼児グループの子どもたちが出演し，かわいい雪だるまの衣装で『森のクリスマス』ほか２曲を歌った。

後半の恒例のファミリー・ディスコもジョン・デイビス（イギリス）のアレンジによるクリスマスソングで大いに盛り上がった。この１時間半ほどの公演は，観客とキャストがゲームやダンス，歌などを一緒に参加することで効果を発揮する，大人数に適したプログラムで，子どものみならず，大人だけでも十分に楽しむことができた。

音楽は聖心インターナショナル・スクールでアートスケープ展を担当しているスティーブ・トゥートゥル（イギリス・作曲）と，ジャズ界の大御所ポール・ジャクソン（アメリカ・編曲），テリー・スザーン（アメリカ・作詞）。10年目を迎えた「バイリンガル・ファミリーシアター」を記念して，今までに使われた曲を集めて作られたオリジナルＣＤ『ミセスサンタ・シリーズ“Thanks Santa”』の曲をふんだんに使い，子どもたちが振り付けを考え，観客と一緒に踊った。

本年度は，マスターフーズ㈱，東京体育専門学校，㈱河田，㈱ファミリア，㈱エッグ，㈱東京高島屋から協賛が得られ，ちらしには講座の生徒が描いた雪だるまのイラストを採用した。また，入館券対応の方法も，昨年同様の問題（観客に気軽に入場してもらえる反面，整理券の紛失や観客が舞台を見ずに帰ってしまった分だけ空席ができてしまうこと）が多少起こったものの，整理券配付を担当するアトリウム側の柔軟な対応でかなりカバーすることができた。入館券のみで入場できるようにしたことが，マイナスでなくプラスになるような対応方法を考えなければならない。

公演に当たっては，企画の段階から子どもたちの意見を取り入れ工夫した。

クリスマスのおもちゃが箱から出てきてミセスサンタを驚かすアイデアや，『Thanks Santa』の踊りの振り付けは子どもたちが講座の時間に考えだしたもの。おもちゃ箱のデザインも子どもたち自身で考え，親と一緒に協力して作った。このように手作りのもので表現し，かつ舞台で実際に観客の反応を得られることで自分に自信がつき，表情が明るく伸びやかに変化していった。子どもの姿を見た親（父親も）は，本番ではサンタクロースの赤い衣裳を着けて参加するなど，さまざまな形で協力してくれた。

公演に向けて練習するPAGメンバー

10年前に比べ，父親の参加が年々増加するようになり，家族全員が参加するという姿に近づいてきた。ボランティアの参加もあったが，国籍を問わずもっとさまざまな人がこの公演に携わってほしいと願っている。また，講座を卒業した７人の生徒が進んで手伝いを引き受けてくれたことは，何よりも喜ばしい出来事だった。初日の本番前に緊張している子どもたちに向かって，適切なアドバイスや自分たちの経験を話すことで，子ども同士のコミュニケーションが広がった。舞台監督補もＰＡＧの最古参ＯＢの真由香・タイースが担当してくれた。かつては小学生だった彼らの成長ぶりに，改めて10年の歳月を感じた。ＯＢＰＡＧを作ってほしいという子どもも多かった。

ＰＡＧの親たち，保育研究開発部のスタッフから，今回のサポートが良かった，今後も子ども同士のつながりがもっと増えてほしいと期待された。昨年から参加した保育クラブ・幼児グループの子どもたちにとっても，青山円形劇場の公演は年に１度の貴重な表現の場なのである。

2）講座・クラブ

(ア) パフォーミング・アーツ・グループ（ＰＡＧ）

パフォーミング・アーツ・グループは小学校１年～６年生を対象に，週１回，英語と日本語のバイリンガルで演技，歌，ダンスなどの表現活動を指導する講座である。国際交流の一環として，いろいろな国籍の子どもたちが集まり，自分を表現することでコミュニケーションの輪を広げることができる。日本以外の人や言葉との接触の場として，外国人の指導者を招いている。

通常の活動に加え，毎年12月には青山円形劇場のバイリンガル・ファミリーシアターに参加している。舞台を作り上げる過程において必要な協調性や，自

分自身を表現する方法を子どもたちの中に芽生えさせることが大切であると考えるからだ。

第１期は新入生が多かったので，音楽や効果音を使って体で表現することから始めた。アシスタントの林久美子は30分の「林タイム」で集中して体の部分を動かすこと（指や手足を違った動きで交互に動かす遊び）の練習。その結果，子どもたちに興味と集中力が出てきた。後半は，青山円形劇場の公演の準備とダンスの振り付けを練習。第１期の最後にフリーホールで，石膏のテープを顔に張り付けて作るお面を親子で作った。

第２期は公演の練習を中心に活動。第１期で始めた振り付けに子どもたちの意見を取り入れた。グループで発表したアイデアから，一番子どもたちがおもしろいと思うものを採用した。大きなダンボール箱（おもちゃ箱）に入って踊るダンスもあり，毎回汗だくになりながら練習した。時間のかかる箱の出し入れも，子どもたちが積極的に手伝う姿勢も見られた。公演終了後，クリスマス会。親子でプレゼント交換をするなど，楽しい時間を過ごした。

第３期はグループで表現することを中心に活動した。前半は与えられたテーマに沿って表現を考え，発表することを繰り返した。後半は紙とはさみを使ったユニークな方法で表現を発表した。これは，紙をはさみでさまざまな形に切る，紙を丸めるなどの様子を見せ，その一連の動きを体を使って表現するというものである。青山円形劇場の公演後は，グループでの発表がスムーズにまとまるようになった。子どもたちは自分の意見を積極的に出し，協力的になり，ほかのグループの良い点を素直に認め，受け入れた。笑顔も増えてきた。

子どもや両親が望んでいることが，バイリンガル教育という表面的なことから自分を表現することへ，そして青山円形劇場の公演に参加できることへと変化していく。日本の学校では軽視されがちな表現活動，自分を表現すること（Self Expression）が持つ大きな効果の１つとして，心のリハビリテーションがあげられるが，舞台に立ったことで自分に自信が持てるようになり，生き生きとした表情が見られるからである。

本年度から講座に参加した子どもの中には，集中力が続かない，疲れやすい，協調性に欠け自分の意見のみで行動するタイプが多かった。学校や親などから精神的にスポイルされ，自分で自分を持て余してしまうのだと思う。継続して講座に参加することで，子どもたちも変化していった。

効果音を使った遊びを子どもたちとする。自分が聞いた音（サイレン音，雨や風，日常的な周りにある音）を体全体で表現するものだが，初めは他人を気にしたり，違った行動を避けがちな子どもに「どんな動きをしてもいい。何をやっても間違いではない」と話すと，しだいに体を使って表現することが楽しくなり，伸び伸びとしてくる。講座でしか知り合えない友だちも増えるので参

加する意欲も出てくる。6歳から12歳までの年齢差，外国人がいる場合には言葉の壁を乗り越えた交流，そしてグループで考え，想像してものを作ることで子どもたちは自然にコミュニケーションを学ぶのである。「表現力」の育成は，ひいては子どもたちの健全育成につながっていくのである。

ＰＡＧで学んだことを一般の人々に知ってもらうため，青山円形劇場のほかに今後もいろいろな場所で表現活動を続けていきたいと思っている。このような活動が子どもたちにとって，そして近い将来，必ず〔こどもの城〕にとっても大切なものになると信じている。

3）その他（国際交流に関する外部での活動ほか）

〔こどもの城〕で1987年から1989年の3年間にわたりテリー・スザーンの指導で"Sound of Scissors"という切り絵講座を行った。これは英語と日本語を使いながらはさみの使い方や指先の動かし方，創造力を伸ばすこと，文化的な交流（クリスマスやハロウィーン，イースターなど）を身近に知るための講座だった。この講座が終了後も，〔こどもの城〕の活動の一環として，日本全国の保育所や学校，社会教育や健全育成の団体などの集まりで講演したり，健全育成のために必要な表現力や創造力を高めるための指導をしている。

(1)海外活動

平成7年2月25日に㈳日本フォークダンス連盟の主催で「表現力とは何か」というテーマの講演を行った際，韓国のグループが招待されて講演会に参加していた。これをきっかけに韓国から「表現力と創造力を生かすための講演会をしてほしい」という旨の依頼書が送られ，平成8年1月19日から6日間，ソウル，テジュン，プサンの3都市で各2日間，1日5・6時間（通訳付き）の日程で講演を行った。対象は韓国各地から集まった保育所や幼稚園，小・中・高校，大学の教師。このほか，韓国の国立教育大学や保育所の園長会でも講演を行い，〔こどもの城〕の施設や事業内容もスライドで説明した。〔こどもの城〕に興味を持っている参加者が多く，講演会は大好評だった。テジュンの児童福祉施設を訪れたときには，80人の子どもたちと歌や表現遊びの交流会なども行い，親睦を深めた。

韓国では現在，子どもの教育にかなり力を入れているが，今回のような表現力や創造力を育てるという面で，韓国だけでなく世界の子どもの健全育成に役立ちたいと思っている。

5月31日から6月4日まで，「The Future of Children」というプロジェクトの1つとして日本青年会議所などが計画した会議に参加した。これは大人が子どもの未来を家庭，健康，遊び，家族と社会のつながりなどから積極的に考えることを主題にしたもの。香港，韓国，中国，シンガポール，オーストラリ

ア，ニュージーランドのアジア太平洋各国から代表を選び，約４万人の参加者を集めて韓国の済州島で会議が行われた。その会議にメイン・スピーカーとして出席，講演を行った。また，このプロジェクトは８月に国連創設50周年会議としてニューヨークでも行われ，ゲストとして出席した。

青年会議所の世界大会なので，参加者の規模は大きく，世界各国から子どもの未来を考える事業や現状報告があった。その膨大な数に上る報告を聞き，日本の子どもがいかに経済的に恵まれているか，身をもって体験することができた。国によってはストリート・チルドレンや教育の問題も報告され，今後どのような援助ができるかという会議も行われ，国は違っても子どもの健全育成のために力を入れるべきだと感じた。

なお，海外の子どものための施設・団体（アメリカン・ユース・ミュージアム協会など）との情報交換も重要な活動として今後進めていきたい。

(2)国内活動

〔こどもの城〕国際交流部長として，全国で各種の講演，セミナー，フォーラム，会議に出席する機会に恵まれている。外国籍を持ち，日本に19年滞在し，自分でも子育てをし，〔こどもの城〕を始め全国で子どもを中心にした活動を行っていることで，以下のようなテーマを中心にさまざまな角度から話をすることができた。講演には〔こどもの城〕の事業内容も取り入れている。

①親子の関係とコミュニケーションを良くする
②先生と生徒の相互理解，お互いに尊敬できる関係作りについて
③働く女性が，家族と子育て，そして仕事をどのように考えればよいか
④社会人として，日本人としての社会参加について
⑤長年にわたり〔こどもの城〕で指導した「ＳＯＳ－はさみによる表現方法」と「Ｘ－ＰＲＥＳＳ　表現力を伸ばす方法」について

このような講演に参加した親や教師に，「子どもの健全育成」をより深く受け止め，考えてもらうことが目的である。特に家族の大切さ，子育てのすばらしさ，父親の参加の必要性に力を入れた講演内容にしている。

(3)国際交流部ミーティング

平成７年秋，国際交流部では各事業部に向けて，国際交流部の活動に関するアンケートを配付。年度末までに回答のあった５つの事業部（アトリウム，小児保健，プレイ，保育研究開発，研修教養）と話し合う機会を持った。

外国人（英語圏以外の人も）の利用が増えていることを踏まえて，外国人ボランティアの養成，外国の人と交流するプログラムの検討など，さまざまな提案・意見交換が行われ，今後の国際交流部の在り方を考えるうえの参考になった。ほかの部門も含めて，今後も話し合う機会を設けていきたい。

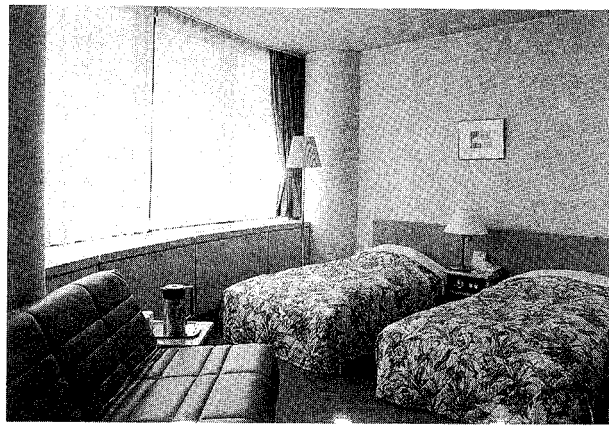
4 営業部

(1) 業務の概要

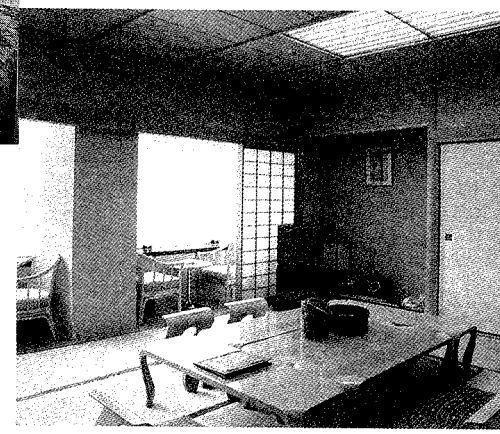
業種	店名等	場所	利用客席数	営業日・営業時間等	備考
ホテル	こどもの城ホテル	6・7階	客室数 27 客室定員64	無休（12月29日～1月2日を除く）	洋室24室（シングル3，ツイン10，デラックスツイン11） 和室3（4人用1，5人用1，10人用1） 料金1泊 6,300円(税込み)～
貸し室	研修室	8・9階	室数 10 ※一部通しで使用できる。利用人員 350人ぐらいまで	無休（12月29日～1月2日を除く） 営業時間：9:00～21:00	研修および会議など 料金：1単位時間 11,500円～(税別)
	ギャラリー	1階アトリウム		無休（12月29日～1月2日を除く） 営業時間:10:00～18:00	各種展示会および実演など 料金：1日 30,000円（税別）
物品販売	売店	1階アトリウム	1か所	営業日時：こども活動エリアの開館日時と同じ。毎週月曜日休業（月曜日が祝・休日のときは火曜日） ※土・日曜日，祝日，春・夏・冬休みの特別期間:10:00～17:30 ／その他の平日:12:30～17:30	絵画，造形用品，文具，遊具，がん具，印刷出版物，電気用品，音楽用品，衣料，スポーツ用品，劇場関連用品，催事関係用品，雑貨など
	自動販売機	館内各所	飲・食・乳販売 12か所 たばこ販売 7か所 フィルム 1か所	無休	ドリンク類，牛乳類，スナック類，カップ麺類
公衆電話		館内各所	15か所24台	無休	
駐車場		屋内＝地下2階～地下4階 屋外＝1階	約116台 （業務車両分を含む）	無休（12月29日～1月2日を除く） 営業時間：8:00～22:00	普通車両は地下，バスなど大型車両は屋外（1階）に駐車 料金：普通車両30分 300円 マイクロ車1時間 820円 大型車 1時間 1,240円 (税込み)

業種	店名等	場所	利用客席数	営業日・営業時間等	備考
飲食関係	カフェテラス「アンファン」	1階	客席数 140	無休（12月29日～1月2日を除く） 営業時間：7:30～20:30	ファミリーレストランおよび弁当仕出し，パーティーなど ホテル宿泊者の食事
	すし「ひさご」		カフェテラス「アンファン」内	無休（12月29日～1月2日を除く） 営業時間:11:00～20:30	すし，和食および弁当・料理の仕出しなど
	コーヒーラウンジ「アミティーエ」	2階	客席数 60	毎週月曜日休業（月曜日が祝・休日のときは火曜日） 営業時間:11:00～20:00	喫茶，軽食
	劇場内「スナック」	青山劇場内地下ロビーおよび2階ロビー	立食	公演に合わせて営業 営業時間：開演前・幕間	喫茶，軽食

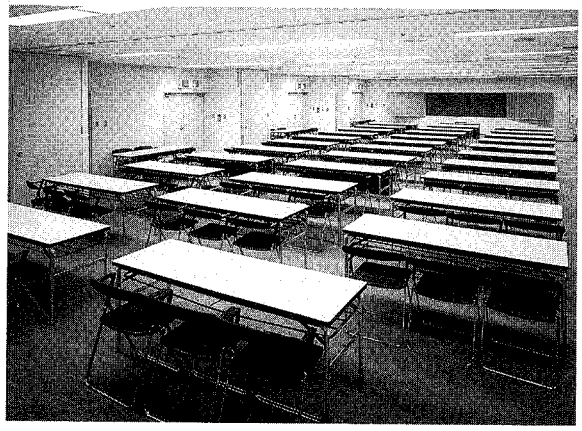
注）1.この表は平成7年4月1日以降の利用者サービス事業について掲げたものである。
　　2.飲食関係は，平成7年5月1日以降，テナント業者による営業に切り替えた。



ホテル客室(洋室)



ホテル客室(和室)



研修室

【営業許可等の状況】

業　種	店　名　等	営業許可を受けた日	営業許可番号	行政庁	備　考
旅　館　業	こどもの城ホテル	昭60. 10. 30	60澁保衛環旅 第 10 号	渋谷区保健所	表示基準適合（渋谷消防署）平 6. 11. 1　第1024号
飲　食　業（飲食店）	自動販売機	平 6. 10. 27	6 澁保衛食ほ 第 2157 号	〃	
飲　食　業（喫茶店）	〃	平 6. 10. 27	6 澁保衛食ほ 第2160～4 号	〃	
乳 類 販 売	〃	平 6. 5. 9	6 澁保衛食ほ 第 241 号	〃	
〃	〃	平 6. 10. 27	6 澁保衛食ほ 第2158・9 号	〃	
〃	〃	平 7. 2. 13	7 澁保衛食ほ 第 3150 号	〃	
食料品等販売	〃	平 7. 4. 6	7 澁保衛食れ 第 9・10 号	〃	
たばこ小売	〃	昭60. 11. 30		大　蔵　省 関東財務局	
飲　食　業（飲食店）	カフェテラス「アンファン」	昭63. 11. 12	63澁保衛食ほ 第 2307 号	渋谷区保健所	平成７年５月11日で廃止
〃	コーヒーラウンジ「アミティーエ」	昭60. 10. 22	60澁保衛食ほ 第 1554 号	〃	平成７年５月11日で廃止
〃	劇場スナック	昭60. 10. 22	60澁保衛食ほ 第 1553 号	〃	平成７年５月11日で廃止

【飲食テナント業者（廣宴堂）における営業許可の状況】

業　種	店　名　等	営業許可を受けた日	営業許可番号	行政庁	備　考
飲　食　業（飲食店）	カフェテラス「アンファン」	平 7. 5. 12	7 澁保衛食ほ 第 305 号	渋谷区保健所	
〃	コーヒーラウンジ「アミティーエ」	平 7. 5. 12	7 澁保衛食ほ 第 302 号	〃	
〃	劇場スナック	平 7. 5. 12	7 澁保衛食ほ 第 304 号	〃	
〃	従業員食堂	平 7. 5. 12	7 澁保衛食ほ 第 303 号	〃	

(2) 業種別の状況

1）ホテル

営業収入は，本年度9,374万円で，前年度１億33万円に比べ 299万円の減収となった。

客室の利用状況を見ると，客室利用率は合計で80.3%，客数利用率では64.5%となっており，前年度に比べ客室・客数利用率ともほぼ横ばいであるが，平成８年１月以降は利用率が回復し始めた。

客数利用率が客室利用率に比べて低いのは，ツインルームのシングルユーズおよび和室の利用人員が客室定員より少ない場合が多かったためである。

本年度は，デラックスツイン室を除き，客室のベッドをワイドシングルベッドに更新するとともに，ソファーベッドをハイダーベッドに，毛布を羽毛布団に切り替えた。また，ヘッドボード，ナイトテーブル，ベッドパッド，ティーテーブルも更新したほか，全室のテレビも更新した。更に，和室の畳・ふすま・障子を張り替え，施設の改善に努めた。

また，子ども連れの家族には，春・夏・冬休みとゴールデンウイークの特別期間に限り「こどもの城入館招待券」をサービスしていたが，平成８年１月の冬休み特別期間終了後からは，すべての期間で行うこととした。

【ホテルの利用状況】

客室種別	利用客室数	客室利用率	利用客数	客数利用率
シングル	995室	93.4%	995人	93.4%
ツイン	5,739室	80.8%	10,111人	71.2%
和室	681室	63.9%	3,094人	45.9%
合計	7,415室	80.3%	14,200人	64.5%

(注) 利用率は次により算出した。

(1) $客室利用率=\dfrac{利用客室総数}{営業日数(355日)\times販売可能客室数(26室)}\times100$

(2) $客数利用率=\dfrac{利用客総数}{営業日数(355日)\times収容可能客数(62人)}\times100$

※総客室数は27室，総定員は64人だが，このうちツイン１室を予備室としているため，販売可能客室数は26室，収容可能客数は62人となる。

2）研修室・ギャラリー

研修室の営業収入は本年度9,686万円で，前年度１億146万円に比べ460万円の減収となった。

利用率も合計で60.7%となり，前年度に比べやや減少したが，平成８年１月からは利用率が回復し始めた。

利用の内容は，外部への有料貸しのほか，〔こどもの城〕の企画による催事などにも利用されている。とりわけ春・夏・冬休み，ゴールデンウイーク（児童福祉週間）などの特別期間中は，研修室，ギャラリーのいずれも内部利用の割合が極めて高く，〔こどもの城〕の限られたスペースでの充実したプログラム作りに寄与している。

本年度は，研修室のカーテンおよび休憩ロビーの長いすを更新するとともに，貸し出し備品のオーバーヘッドプロジェクター，ホワイトボード，講演台，ワイヤレスアンプ・マイクを更新し，大型パーティションを追加購入し，ワゴンアンプのワイヤレス受信部分を改善し，各室に仮設電話を設置できるよう電話回線を増設するなどの改善を行った。

【貸し室の利用状況】

区分		有料利用		内部利用		計	
		件数	利用率	件数	利用率	件数	利用率
研修室	午前	1,763	49.6%	330	9.3%	2,093	58.9%
	午後	2,340	65.7%	360	10.1%	2,700	75.8%
	夜間	1,088	37.1%	223	7.6%	1,311	44.7%
	合計	5,191	51.6%	913	9.1%	6,104	60.7%
ギャラリー		40	11.1%	177	49.2%	217	60.3%

(注) 利用率は次により算出した。

$$(1)\text{研修室利用率}=\frac{\text{各室を午前・午後・夜間各１件とした場合の年間利用件数}}{\text{年間営業可能件数}}\times 100$$

※平成７年度における年間営業可能件数は，午前 3,556件，午後 3,562件，夜間 2,935件の合計10,053件（日曜日・祝日の夜間休業のほか，じゅうたんクリーニング，工事などのため利用不可能となった件数を除く）。

$$(2)\text{ギャラリー利用率}=\frac{\text{利用日数}}{366\text{日}-(\text{年末年始５日}+\text{停電試験日１日})=360\text{日}}\times 100$$

3）レストラン・喫茶

平成７年５月１日付けで，飲食関係の全業務をテナント業者（廣宴堂）による営業に切り替えた。

営業内容は，直営の場合と同様，１階のカフェテラス「アンファン」，寿司「ひさご」，２階コーヒーラウンジ「アミティーエ」，劇場内「スナック」である。

また，営業日・営業時間ともこれまでと同様とし，メニュー・価格・サービスなどについてもこれまでの水準を維持するよう申し合わせるとともに，より利用者の満足を得られるよう努力することを要請している。

更に，平成６年９月30日に閉鎖したレストラン「ラブニール」の跡は，平成６年10月18日から従業員食堂として活用していたが，これも飲食関係業務の切り替えと同時に，テナント業者（廣宴堂）による営業に切り替えた。

4）その他の業務

売店，自動販売機による販売，駐車場の提供，館内公衆電話の管理などについては，前年度に引き続き〔こどもの城〕事業活動に即応する形で利用者サービス事業の一環として実施してきている。これらの収入の状況は，本年度１億6,398万円となっている。〔こどもの城〕の利用を促進していくうえで，これらの利用者サービス事業はいずれも欠くことのできないものなので，引き続き多様な利用者需要に合わせたサービスの向上を図っていく必要がある。

Ⅳ　〔こどもの城〕開館10周年記念事業

1　〔こどもの城〕開館10周年記念事業 …191

1 〔こどもの城〕開館10周年記念事業

昭和60年（1985年）11月１日に開館した〔こどもの城〕は，平成７年11月１日で満10年を迎えた。これを記念して，平成７年度を開館10周年記念の年として，今までの活動の成果を踏まえた記念プログラムの数々を実施した。記念プログラムは，自主公演『イーハトーボの音楽劇　銀河鉄道の夜』(青山劇場・８月３日～７日)，「ビクトル・ダミコ展～こどもアートカーニバル」(ギャラリー，造形スタジオ・10月28日～12月3日)などの大規模なものから，「みる・しる・つくる　アニメーション・キット」の制作・ワークショップ開催，「こどもたちからのサウンドメッセージ」コンサートなど積み重ねてきた活動成果をまとめたものまでさまざまであったが，どれもが〔こどもの城〕が歩んできた10年の歴史を反映したものであった。

特別な記念式典は開催しなかったが，お世話になった人たちを開館10周年記念公演『イーハトーボの音楽劇　銀河鉄道の夜』に招待した。このときに，〔こどもの城〕の10年の歩みを概観するパンフレット「こどもの城の10年」と新しい「こどもの城パンフレット」を手渡した。

また，11月３日には来館児・者と一緒に〔こどもの城〕の誕生日を祝う簡単なセレモニーを開催。“形”ではなく“実”のある記念プログラムを実施するように心がけた。

本年度は，活動プログラムの多くに「開館10周年記念」という冠を着け実施し，開館10周年を迎えたことをアピールした。また，劇場公演も青山劇場，青山円形劇場を問わず，すべて自主公演に「開館10周年記念」の冠を着けて公演した。主な開館10周年記念プログラムは下記のとおりである。

1）『イーハトーボの音楽劇　銀河鉄道の夜』公演

(ア)　企画の趣旨

(1)「銀河鉄道の夜」を深く広く大きな舞台作品として上演

「銀河鉄道の夜」は宮沢賢治の代表作であり，児童文学ばかりか日本文学を

代表する名作である。今までも，この作品の劇化は特に小さな子どもを対象にした児童劇の分野で多く行われてきたが，今回は，原作の持つ内容の奥深さに注目して，子どもから大人までがそれぞれの視点でそれぞれに楽しめ，何かを感じさせられる真に幅広いファミリー層を対象にした新しいタイプの作品として上演することとした。また，これまでは児童劇の性格上，小さな劇場で行われることが多かったが，宇宙を旅するという原作の持つスケールの大きさをダイレクトに表現するため，日本で初めて，大劇場での上演に挑戦することにした。

加えて，翌平成８年（1996年）は賢治生誕100年の年であり，各方面で宮沢賢治の作品と人物の読み直し，とらえ直しの熱が高まりつつある。そんな高まりの中でのこの公演は，非常にタイムリーでもあり，注目を集める作品とすることができた。

(2)テーマは，“幻”を見ることの大切さ

宮沢賢治は故郷＝岩手の自然（森，星空，透き通った空気，光，風……）に触発されて，あるときは美しく，あるときは恐ろしい多様なイメージに満ちた“幻”を見たと言われる。今，都会に住む我々の周りには，森も星空もなく，目を開けていても鉄とコンクリートを見るばかりで，せかせかと味気ない生活を送っている。けれども，その同じ目で，舞台化された宮沢賢治作品（その中でも特に幻想性の高い「銀河鉄道の夜」）を見ることによって，賢治の経験しためくるめく胸の高鳴るような“幻”の世界を，我々もまた経験し直すことができるのではないのかと考えた。大人から子どもまでが目先の日常だけを見つめて，あくせくしているような現代人にとって遠くはるか，あるいは自分の奥深く“幻”を見ることがいかに大切なことか。それが人生をどれだけ豊かにするか。そのことを，この作品を通じて訴えた。それはすなわち，「銀河鉄道の夜」を古典的な童話作品として舞台化するのではなく，現代を生きるすべての人々に必要な生きた作品として舞台化したということでもある。

(3)死を見つめることは生を生きること

もう１つのテーマは“死”である。主人公ジョバンニが親友カムパネルラの死出の旅の供をするというストーリーの「銀河鉄道の夜」は，宮沢賢治がその最愛の妹トシの死に出会ったことを契機にして発想したと言われている。賢治は「銀河鉄道の夜」を書くことで妹の死を乗り越えようとし，ジョバンニもまたカムパネルラの死を見つめることによってより力強くなって生の側に戻ってくる。思えば，現代は暴力的で薄っぺらな死のイメージにあふれた時代と言えよう。

テレビやコミックスや映画の中で人は簡単に死んでいき，新聞を開けば，人は人を簡単に殺し，あるいは自分の命すら簡単に捨てている。それはもしかしたら，“死”ということが本当はどういうことなのかについて考える機会が奪わ

れているからではないだろうか。死について考えることはそのまま生について考えることであり，より良い生を生きることにつながるということ，薄っぺらな死のイメージにあふれた時代だからこそ，そのことを「銀河鉄道の夜」の中に描かれた生と死を通して訴えようとするものである。

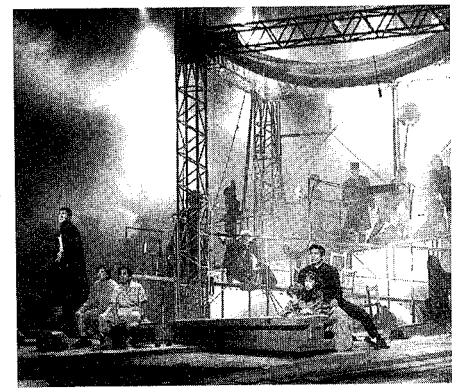
(4)“イーハトーボの音楽劇”として

「岩手」のエスペラント語読みとも言われる「イーハトーボ」は，賢治が作った架空の土地の名であり，賢治のドリームランド（夢の国）である。そこで繰り広げられるさまざまな物語は，音楽を愛し自らチェロを弾いた賢治らしく音楽的な魅力にあふれてもいる。我々が「銀河鉄道の夜」を“イーハトーボの音楽劇”と銘打ったのは，そこに理由がある。すなわち，賢治の夢見たドリームランド＝イーハトーボの物語を，賢治の愛した音楽の要素を十分に取り入れた“音楽劇”のスタイルで上演したいということである。とは言っても，賢治の作品が，何か奇妙な，既製の“物語”とは一味も二味も違った新鮮な魅力を持っているように，“イーハトーボの音楽劇”もまた，既製の“ミュージカル”とは一味も二味も違った新鮮な魅力を持つものである。

子どもから大人までが，見て楽しく，心に何かを感じる作品，そんな舞台を作り上げることが，〔こどもの城〕開館５周年記念として作り大好評をいただいた『日本のミュージカル　龍の子太郎』（平成２年）に続く，〔こどもの城〕開館10周年記念『イーハトーボの音楽劇　銀河鉄道の夜』の目指すところであった。

(イ)　スタッフについて

演出の白井晃氏（しらいあきら・1957年生まれ）は，主に10代から30代までの若者を中心として圧倒的な人気を持つ，いわゆる小劇場の劇団「遊◉機械／全自動シアター」の主宰・演出・役者である。その演出作品の特色は，どこかヨーロッパ的な幻想性，おもちゃ箱をひっくり返したような楽しさ，人間を見つめる温かいまなざしと冷静な視点，音楽を積極的に取り入れる姿勢，などと言える。同劇団の代表作である『僕の時間の深呼吸』（高泉淳子主演）は，１人の少し脆弱（ぜいじゃく）な少年が幻想の中で遊ぶことによって自らの孤独を引き受ける強さを獲得するというもので，現代を代表する演劇として大評判を得た。


『イーハトーボの音楽劇　銀河鉄道の夜』

音楽監督の中西俊博氏（なかにしとしひろ・1956年生まれ）は，人気，実力とも若手を代表するヴァイオリンのプレイヤーであり，作曲家，編曲家である。４

歳から父親の英才教育を受けた彼は，クラシックの理論とテクニックに裏付けられながらも，その活動範囲をポップスやジャズ，あるいはテレビドラマの主題歌，映画音楽，CM音楽へと広げている。美しく親しみの持てるメロディー・ライン，どこか郷愁を誘う音色，音の表情の豊かさ，それらが彼の音楽の特色である。演劇作品の音楽監督としては，上記の白井晃氏と組んだ青山円形劇場プロデュース作品『ア・ラ・カルト』がある。

舞台美術の小竹信節氏（こたけのぶたか・1950年生まれ）は，かつて寺山修司氏が主宰し日本のみならず世界で活躍した演劇実験室「天井桟敷」での美術監督（1975～83年）として，舞台美術・衣裳・メイク・照明などを担当するというキャリアの持ち主で，遊び感覚と幻想味にあふれたその独特の美術感覚は同劇団の魅力の一翼を大きく担っていた。その後，演劇作品の舞台美術はもちろんのこと，沢田研二や松田聖子コンサートの舞台美術やスパイラルホール(1991年／東京・表参道）の芸術監督，渋谷109 PART 2のアートディレクター，テレビCMなども手がけている。

脚本の能祖将夫（のうそまさお・1958年生まれ）は〔こどもの城〕の職員で，青山劇場と青山円形劇場の企画，制作，広報などを担当している。脚本としては，ファミリーオペレッタ『おとぎの国のメルヘン通り』シリーズや永井荷風の小説『短夜』に想を得た『ムーンレイン』（ともに青山円形劇場）があり，今回の『銀河鉄道の夜』に当たっては，〔こどもの城〕のオリジナル・スタッフが作品創作に直接参加するという特色を出すために抜てきされた。

(ウ) 公演の概要

タイトル：こどもの城開館10周年記念
『イーハトーボの音楽劇　銀河鉄道の夜』

劇　　場：こどもの城　青山劇場

日　　時：平成8年8月3日(木)①17：00／4日(金)②13：30③18：30／5日(土)④12：00⑤17：00／6日(日)⑥12：00⑦17：00／7日(月)⑧13：30⑨18：30

対　　象：一般およびファミリー層（小学校中学年～大人）

メイン・スタッフ：原作＝宮沢賢治／脚本＝能祖将夫／演出＝白井晃／音楽監督＝中西俊博／舞台美術＝小竹信節／振付＝川原あけ未／照明＝吉澤耕一／音響＝大坪正仁／衣裳＝前田文子／映像＝福井正紀／レーザー＝沓澤玄・矢萩秀二／小道具＝福田秋雄／ヘアメイク＝角田和子／舞台監督＝安藤純一／技術監督＝真野純

メイン・キャスト：ジョバンニ＝伊崎充則／カンパネルラ＝石村美果(新人)／ケンジ＝

清水明彦（文学座）／アメユキ［歌］＝さねよしいさ子／鳥捕り＝赤星昇一郎／大学士＝陰山泰（遊◉機械／全自動シアター）／ネリ＝岡本麻弥／ザネリ＝富浜薫(遊◉機械／全自動シアター)／車掌＝深貝大輔／楽士[演奏]＝中西俊博，寺井尚子[ヴァイオリン]／四家卯大［チェロ］／古川昌義［ギター］／山口とも［パーカッション］／鶴来正基［キーボード］

主 催 等：主催＝こどもの城／後援＝厚生省，読売新聞社，日本テレビ，㈶こども未来財団，宮沢賢治記念館／協賛＝富士銀行／助成＝芸術文化振興基金／補助＝㈶日本船舶振興会／企画制作＝こどもの城劇場事業本部

料　　金：S席6,000円／A席5,000円

「イーハトーボの音楽劇　銀河鉄道の夜」（こどもの城）
～　死から生の輝き見つめる　～

宮沢賢治のこの代表作を一度大きな舞台で見たいと思っていた。こどもの城が運営する東京・青山劇場で実現した。開館十周年を記念しての若手を起用した音楽劇で、一粒の真珠を思わせる大人のメルヘンだ。

午後の授業、活版所、ジョバンニの家、牛乳屋、星の広場、そして銀河鉄道の旅……。賢治と思われるマントを着た青年・ケンジ（清水明彦）と歌姫アメユキ（さねよしいさ子）が舞台に姿を現すほかは、原作に沿って物語が進む。

星降る夜、少年二人が銀河鉄道に乗り込み、天空をかける――。このような甘いファンタジーを想像して劇場へ足を運んだ人は、この舞台に戸惑うかもしれない。列車も星のきらめきもほとんど登場しない。舞台では、「本当の幸せって何だろう」「人が生きていることの証明はどうしたらいいのか」の問い掛けが繰り返される。

前半は、テンポ良い演出を意識するあまり、美術（小竹信節）や照明（吉沢耕一）に振り回された印象も残る。しかし、後半、主人公ジョバンニ（伊崎充則）が夢の中で友人のカムパネルラ（石村美果）と銀河を旅する場面に入ってから、賢治の描く死の世界にグイグイと引き込んでいく。

ケンジに父と理性、アメユキに母と感情の役割を持たせ、ジョバンニの心象風景を舞台で立体化させた能祖将夫の脚本。ファンタジー色を抑え、死から生の輝きを見つめ、物語を純化させた白井晃の演出。飾り気のない澄んだ真珠を手にした時のような喜びが心に残った。

子どもたちの食い入るような真剣なまなざしが、何よりも雄弁にこの作品の深さを語っている。劇場を後にして、亡くなった人を思い出していたら、まもなく盆だと気がついた。　（杉山　弘　／　1995年8月5日　読売新聞夕刊）

㈡ 結果について

内容，観客動員ともに大成功だったと言えよう。総入場者数は9,013人(うち，有料入場者数は8,111人)，総客席数との割合でいうと総入場者数は90.2%，有料入場者数は81.2%である。観客の構成はアンケートのデータによるとそれぞれ以下のとおりである。

平均年齢：23.6歳（最高年齢76歳，最小年齢６歳）

男 女 比：男性20%，女性80%

この数字を見る限り，また実際に客席で観客を見回してみて，“真にファミリーを対象とした”という我々の目標は達せられたと考える。

評価については，代表として，８月５日付け読売新聞に掲載された劇評（前ページ）を参照されたい。

今回の公演で得た経験と評価は，何物にも代えがたいたいへん貴重な財産と言えよう。今回は10周年ということでさまざまな協力が得られ，これだけ大掛かりのものができたわけだが，本来は「劇場」である限り常時，ものを生み出し続けていく姿勢を保たなければならない。また，この『イーハトーボの音楽劇　銀河鉄道の夜』も，劇場のレパートリーとして更に育てていく努力を続けたいと望んでいる。

2）「銀河鉄道の夜・児童イメージ画コンクール」

『イーハトーボの音楽劇　銀河鉄道の夜』の付帯事業として，㈶こども未来財団との共催で行った。小学校３年生から高校生（同年齢であれば高校に在学していなくても可）までを対象とし，イメージの宝庫である宮沢賢治の「銀河鉄道の夜」から自由に発想した絵を描いてもらうというもの。募集期間が短か

審査感想

童話の中でも宮沢賢治のものはとても難しく、彼の言葉の世界が持つ祈り、詩性、四次元性などは、なかなか捕らえがたいものです。わたしも岩手にいた青春時代、何度か彼の作品を絵にしてみようと試みましたが、この「銀河鉄道の夜」だけは描けなかった思い出があります。今回は正直いって心配していましたが、しかし、これだけ沢山の絵が集まり、面白いものが多かったのにはびっくりしました。

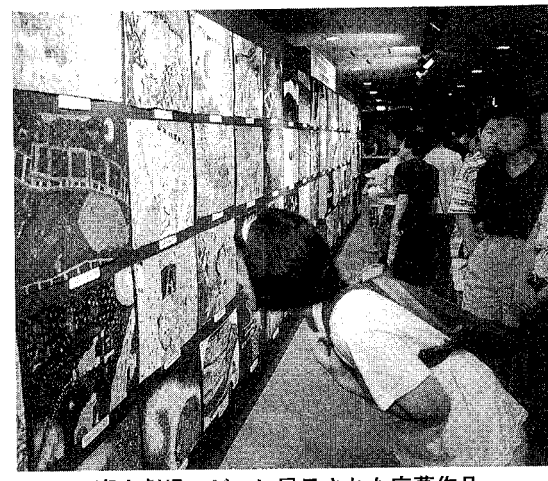
選考のときに注意したことは、作品の持つイメージ性です。逆に言えば、いかに現実的な汽車から離れられるかということで、できれば大人には描けないイメージを探し出そうとしました。ストーリーのあるものを描くとき、どのシーンを選ぶかは一つのポイントですが、単に星空に夜行の列車が走っているのではなくて、それをどの程度超えられるか、大人の思いつかないようなシーンをどのようにして描いているのかを気にしました。

中でも面白く感じたのは、中・高校生の作品で、「銀河鉄道の夜」を読みながら、現実の自分たちの青春の悩みみたいなものをよく表現しているものがあったことです。ストーリーを描くのだけれど、自分の今の現状を銀河鉄道に託しているのです。また、一、二点全く不思議な絵もありました。常識的なシーンを描くのではなくて、描く人の思いがわかるような、精神を描くというか、気分とか心の動きを描いたようなものです。

本当に、これだけ多くの絵が集まったことにびっくりしています。できれば、こういうコンクールが続いてほしいと思っています。

デザイナー　福田繁雄

ったにもかかわらず，応募数は予想をはるかに上回る1,576点もあり，レベル的にも高いものが多かった。7月15日に審査会を開催し，優秀賞を147点，佳作を390点選考した。優秀賞，佳作入選者ともペアで8月4日の舞台公演に招待し，また優秀賞受賞作は公演期間中，青山劇場ロビーに展示した。審査員は，次の7人（敬称略・順不同）。



青山劇場ロビーに展示された応募作品

福田繁雄(デザイナー)，ますむらひろし（漫画家），小竹信節（舞台美術家），高橋雅之（デザイナー），土光哲夫（㈶こども未来財団専務理事），弓掛正倫（㈶日本児童手当協会常務理事），岩崎清（こどもの城造形事業部長）。

各審査員の「審査感想」もロビーに展示したが，ここには代表して福田繁雄氏のそれを記しておく（前ページに掲載）。

3）第1回人形劇カーニバル

〔こどもの城〕では，子どもの感性を豊かにする児童文化として，さまざまな形で人形劇を取り上げてきた。また，その児童文化としての必要性を広く訴えかけていくために，プロの人形劇団の団体と共催して「人形劇見本市」という催しに，平成5年度から取り組んできた。しかし，このような催しはさまざまな場所で実施されるようになり，〔こどもの城〕で開催する独自性が薄くなってきた。

そこで，その趣旨は引き継ぎながらも，〔こどもの城〕ならではの企画として「第1回人形劇カーニバル」を開催した。日常的に〔こどもの城〕で活動をしている「人形劇・木ぐつの木」および「パペットBOX」にアドバイザーを依頼し，〔こどもの城〕が企画したテーマに基づき，出演劇団を選定した。

今回のテーマは「観客と舞台が一体となるような人形劇」と設定した。〔こどもの城〕の入り口であるアトリウムや4階のロビーなどで大道芸的に演じてもらい，多くの来館者に楽しんでもらうことができた。また，青山円形劇場では，中国では6人だけという中国政府の国家一級演員の資格を持つ譚志遠氏の中国伝統の棒遣い人形の公演≪むすび座「嬉春（シーチュン）」≫を行い，人形劇の奥深さも味わってもらうことができた。

この催しの趣旨に基づき，児童館，保育所などで児童文化にかかわる仕事に

携わる人たちを多数招待し，子どもの健全育成の現場で生かしてもらえるよう，劇団や公演内容をまとめた小冊子を配付した。

4）日本ブラジル修好100周年記念　日本ブラジル「こども絵画交流展」

日本とブラジルが正式に国交樹立して100周年を迎えたことを記念して実施した絵画展。両国の子どもたちが，“将来の夢”“私たちの国”などをテーマに描いた絵，約400点を展示し，またその絵の背景となっているブラジルの国土を立体的に紹介する展示を行った。

この交流展は，もともとは絵画の展示として外部団体から持ち込まれた。子どもたちに外国というものを認識・理解させ，更に交流につなげていくためには，単に絵を見るという体験だけでなく，子どもたちにより能動的な体験をさせることが必要であると考え，企画を膨らませていった。今回はブラジルの文化を代表する音楽，スポーツ，自然環境とさまざまな切り口でブラジルという国を知ってもらえるように工夫を凝らした。

絵画では，ブラジルの子どもたちが日本という国をどのようにイメージし，自分の国についてどんなふうに考えているかがよく表現されていた。また，その色彩感覚が，日本の子どもとはかなり異なっていたのが印象的であった。

ブラジルの国土紹介では，音楽事業部や多数の企業の協力を得て「カーニバル」「サッカー」「食文化」「コーヒー」「アマゾンの大自然」を取り上げ，サンバの手作り楽器の制作やコンサートを行ったり，コーヒーの木，食品，民芸品などを展示したほか，アマゾン流域の魚の生態をビデオや写真で紹介した。

また，期間中の10月10日には，関連事業として，体育事業部の主催で在日ブラジル人の子どもと日本の子どもとのサッカー大会を開催し，交流を図った。このような国際理解的な催しについて，過去にもさまざまな取り組みをしてきたが，子ども同士の交流については，ほとんどできなかったというのが現実である。しかし今回は，横浜市の外国人児童生徒保護者交流会の協力もあり，サッカー試合だけでなく，ブラジルの代表的な音楽であるサンバを踊ったり，絵画展を観覧したり，幅広い交流ができたことは，特筆すべきことである。

今回，このように広く立体的な紹介が行えたことは，企画部の要請による複数の部の協力によるもので，その取り組みは，在日外国人の子どもたちとの交流プログラムの実施とともに，今後の〔こどもの城〕全体の取り組みの１つの方向性を示すものとなった。

5）ビクトル・ダミコ展
～こどもアートカーニバル in Tokyo～人間性の美術

本展は，美術教育者であり，美術館教育家として半世紀にわたり，造形美術

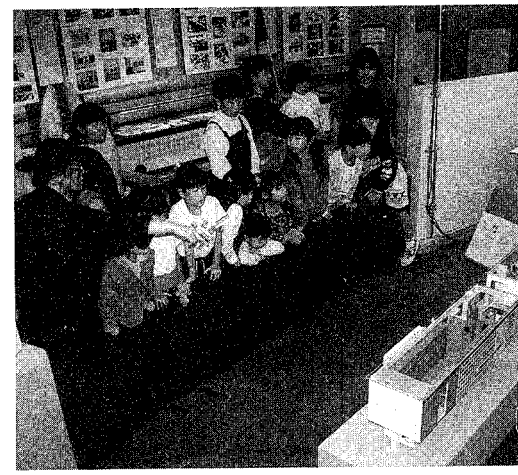
教育に貢献したビクトル・ダミコ氏（1904-1987)の業績を日本で初めて紹介したものである。

ビクトル・ダミコ氏がアメリカのニューヨーク近代美術館の初代教育部長(1937-1969)として実施した教育活動を中心に，生涯をかけて美術の必要性を説いた彼の指導力のある活動に関する展覧会である。彼の教育に関する手書き資料，著書を展示したのをはじめ，子どもの美術を親に理解させるためにプロデュースしたテレビ番組「魔法の門をくぐって」を上映し，美術館でさまざまな人々に美術の門戸を開いた多様な活動の記録写真をパネルにして展示した。更にビクトル・ダミコ氏が当時設定した美術教育玩具とワークショップを復元し，子どもたちが実際に造形体験ができる環境を設営し活動を実施した。

また同展を記念して，アーサー・エフランド教授の「ビクトル・ダミコ：人間性の美術」の講演会を開き，ビクトル・ダミコ氏とともに働いた人々の証言を含め，彼の美術教育がいかに当時の環境に新たな視点を投げかけたかを話した。

ビクトル・ダミコ氏は20代の初めから子どもたちに美術を教え始めた。学校で学んだ色環表，遠近法や学習案などを用いた美術の指導では子どもたちが自らを解き放って生き生きとした表現をしないことに気づき，その後独自の創造的美術教育を模索し，32年間にわたって美術館，大学，施設において展開した。地域の子どもたちには町の中を探索させ，自ら発見することによって子どもたちの力を開花させ，美術館では子どもたちに造形美術への関心を動機づけるための環境を，アーチスト，学校の教師，親とのかかわりを持ちながら，ダイナミックな試みによって創造していった。大学では美術教師の育成に携わり，ビクトル・ダミコ・インスティテュート・オブ・アートでは海辺の自然の環境の中で感性を豊かにする造形美術の実現に努力した。

さまざまな活動の中で当時最も人気を博していた「こどもアートカーニバル」は子どもが感覚を刺激され，造形する心をより強く喚起されるものとして，1942年から1969年の間に実施された造形活動である。ビクトル・ダミコ氏は光や色を伴う美術玩具による刺激的な体験である“動機づけ”と，コラージュと三原色を使った絵画制作，およびモビール制作の活動を行う“ワークショップ”の一連の流れを「こどもアートカーニバル」の基本的な活動主旨としていた。その活動はア



ワークショップに参加する子どもたち

メリカを越え，イタリア（ミラノ），スペイン（バルセロナ），ベルギー（ブリュッセル），インド（ニューデーリー）ほかに渡り，多くの子どもたちに美術の本来持つ楽しさと驚きをもたらした。

本展の「こどもアートカーニバル」は，その当時のカーニバルにビクトル・ダミコ氏の最終創案である「こどもアートキャラバン」の復元玩具を加えて，創造性と想像力の広がる環境を設定した。

〔こどもの城〕で開催された「こどもアートカーニバル」は物と人とのかかわりを体験する中から，子どもたちが自らの表現を見つけだすプロジェクトとして，ビクトル・ダミコ氏の考えが時代と場所を超えたものであることを具現したもののように思われる。

展覧会の「こどもアートカーニバル」に参加した子どもたちは，日常の中にモダンアートを通して自らの造形的な感覚を開き，興味と意欲をもって“みる，つくる”体験をした。ファンタジーと現実との間の橋を自在に幾度も往来したことである。それはダミコ氏が「何歳になっても想像力があれば，ファンタジーの世界にいつだって入ることができる」という美術の持つ力を，子どもたちに分かりやすく伝え経験させるものであった。ともすると，子どもたちの造形美術を難解なとらえ方で考えてしまいがちであるが，造形美術とは本来楽しいものであることを大人も子どもたちも体験できた。万人に美術が必要であり，子どもと美術の関係が学校，家庭，美術館でどのように実践されるべきかを啓もう的に知らせる展覧会であったように思われる。

「ビクトル・ダミコ展～こどもアートカーニバル」は〈動くこどもの城〉の巡回展キットとして，次年度から巡回できるようにする計画である。

(1)事業の概要

名　称：こどもの城10周年記念“ビクトル・ダミコ展”
　　こどもアートカーニバル in Tokyo 人間性の美術
会　期：10月28日（土）～12月3日（日）　32日間
　　（入場者総数　約15,000人）
会　場：〔こどもの城〕1階ギャラリー＋3階造形スタジオ
主　催：㈶日本児童手当協会　こどもの城
後　援：朝日新聞＋アメリカ大使館
協　力：多摩美術大学＋コロンビア大学ティーチャーズ・カレッジ
　　＋ビクトル・ダミコ・インスティテュート・オブ・アート

(2)特別記念講演

主　題：「ビクトル・ダミコ“人間性の美術”」
日　時：　11月18日（土）
　　（定員 200人，応募総数 261人）

講演者：　アーサー・エフランド氏
後　援：　国際交流基金＋朝日新聞社＋アメリカ大使館

6）第2回親子体験ワークショップ「おやっ！と発見　子と発見！」

前年度に引き続き，開館記念特別期間に全館で親子を対象にしたプログラムを行った。日ごろ〔こどもの城〕で行われているプログラムの多くが子どもを対象としたものであるのに対して，親子が一緒に，または同時に参加できるプログラムを提供しようと「国際家族年」の昨年から始められたものである。〔こどもの城〕の事業対象を「子ども」から「子どもと子どもを取り巻く大人」へと広げて考えた点で，近年言われている「子育て支援」へ対応するものとも考えられる。

前年度については，国からの委託事業であった「家族芸術祭」の１つの催しとして親子体験ワークショップを実施した。本年度は，前年度の実践を踏まえて，予算作成の時期から企画部が中心となって各部に呼びかけ，体育・プレイ・造形・音楽・ＡＶの５事業部に研修教養部，保育研究開発部，小児保健部を加えた８つの部で14のプログラムが展開された。各部の担当者と企画部のスタッフ，総合案内課のスタッフも加わり，夏前から数回にわたりミーティングを持ち，運営や広報の統一的な方法について相談を行った（各事業部の項参照）。

このミーティングで，造形事業部のプログラムのなかで作成する「カーニバルハット」を，期間中のメインキャラクターとすることが決まった。館内の掲示や音楽などのプログラムの衣装として使用し，館全体の統一感を出すことを試みた。全館的にみると統一的なイメージはまだまだ弱かったが，造形スタジオでカーニバルハットを作成し，音楽のスタッフの演奏するサンバに合わせて館内をパレードするという複合的なプログラムがそのなかから生まれ，好評を博した。

"カーニバルハット"をかぶって館内をパレード

従来の全館事業は，１つの催しを複数の事業部が共同で行う形がほとんどであったが，この「親子体験ワークショップ」は親子体験という統一テーマの下に，複数のプログラムが同時に行われるという点で，今までにないものといえる。親子に対するプログラムの提供の仕方や各部の専門性に違いがあるため，それぞれの個性を失うことなく，どうやって統一感を持

たせていくかが今後の課題である。

7）こどもたちからのサウンドメッセージ

〔こどもの城〕が地域に出かけるだけではなく，〔こどもの城〕においても交流を実施するという〈動くこどもの城〉の考えの下に，10周年を記念して，〔こどもの城〕と交流のあるさまざまな「合唱団」との交流コンサートが行われた。

総勢500人がステージの上に勢ぞろい

こどもの城児童合唱団は，地域と世代を超えた音楽交流をテーマに，「こどもたちからのサウンドメッセージ～時のおくりもの」というタイトルで11月19日(日)に，青山劇場でコンサートを行った。

出演はこどもの城児童合唱団・混声合唱団をはじめ，平均年齢80歳という広島県のおばあちゃんコーラスグループ「トワ・エ・モア」，本年度の夏合宿でジョイントコンサートを行った岩手県水沢市の「Ｚ児童合唱団」，かねてより交流のある埼玉県の「狭山第２児童館合唱クラブ」。そしてジャズヴィブラフォーン奏者やオペラ歌手もゲストとして迎え，総勢500人の大ステージとなった。

それぞれのグループの個性が表れた内容で，「トワ・エ・モア」は広島被爆体験をストーリーテリングを含めた組曲で歌い上げ，「Ｚ児童合唱団」は宮沢賢治ゆかりの地ということで，彼の詩の朗読を交えた「星めぐりの歌」や地元の「あじゃら踊り」を披露。「狭山第２児童館合唱クラブ」は子どもたちに人気のある「となりのトトロ」（このアニメーションは狭山が舞台となっている）の曲を取り上げた。そして，こどもの城児童合唱団は10年間の活動の思い出のある曲を中心に構成。劇場事業本部の全面的な協力も得られスライド映像や照明などのビジュアルな面でも巧みな演出が施された。フィナーレは出演者全員の大合唱で10周年を祝った（〈動くこどもの城〉の項参照）。

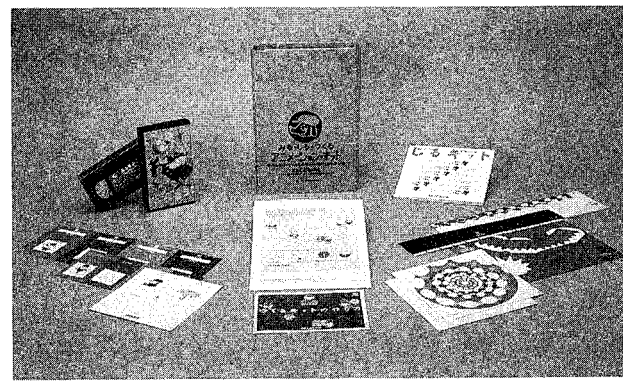
8）みる・しる・つくる　アニメーション・キットの制作

アニメーションを題材とした教材「みる・しる・つくる　アニメーション・キット」を開館10周年の記念として制作した。

(1)キットの内容

オリジナル・アニメ作品のビデオ・ソフト＝「みる」，制作工程や映像の歴史を

解説した本＝「しる」，4種類の視覚玩具が作れる工作型紙集＝「つくる」がセットになったもの(「つくる」キットの単品パッケージもあり)。子どもたち自身が(幼児は，指導者と一緒に)，アニメ作品を鑑賞し(みる)，楽しみながらアニメの制作工程を知り(しる)，自分で描いた絵を視覚玩具で動かして見ることで映像の仕組みに触れ(つくる)，全体を通して映像への理解が深められる構成になっている。



「みる・しる・つくる　アニメーション・キット」

(2)制作の意図

ＡＶ事業部では，この10年間に子どもたちのアニメへの興味を入り口にして，アニメを含めたいろいろな映像作品を見るおもしろさ，そして作るおもしろさを伝えるため，そのよりよい方法を考え，上映やワークショップを実践してきた。そして，伝えたい内容が凝縮され，どこ(の施設)でも，だれでも取り組むことが容易な教材がぜひとも必要だと考えた。ところがアニメや映像全般についての子ども向け書物は非常に少ない。雑誌の付録としての簡単な内容のものか，人気のテレビや映画作品を取り上げ，表面的な興味や特定の技法に片寄ったものばかりのようだ。総合的な教材となると我が国には皆無である。そこで，総合的なキット作りを発案することにした。

(3)制作の実際

キットの意図が伝わるよう内容物の役割を明確にするとともに，相互に関連性を持たせるため，オリジナルのアニメ作品を制作し，それを軸にして展開できるようにした。アニメ作品の制作，内容物の設計，執筆などは，良質な子ども向けアニメを作り続けているアニメ作家の山村浩二氏が主宰するヤマムラアニメーション有限会社に依頼した。山村氏はＮＨＫの幼児向けアニメをはじめ，ＣＭ，ビデオソフトなどの制作で優れた技術を発揮し，国内外での受賞も多数。また教育者向けの執筆活動や子ども向けのワークショップも行っているので，キット制作には大きな理解を得られた。そして企画段階から，双方で検討を重ねて構成を慎重に進めていき，全体のほとんどの実制作をヤマムラアニメーションに委託した。また映像の歴史分野についての執筆は，学術研究団体の日本映像学会に監修を依頼した。

(4)制作で留意した点

「みる」キットは，小学生向けの『キップリングJr.』と幼児向けの『キッズ

キャッスル』のアニメ2作品の間に制作の実際を見せるビデオ作品『アニメーションのひみつ』をはさみ，アニメの表現，いろいろな技法，制作者の意図などを展望できる構成にした。

「しる」キットは「みる」キットの作品を例にして企画から上映までの工程，スタッフの役割などをイラストを豊富に使って分かりやすく記した。また「つくる」キットに添付した解説書とも，単に作り方を示したマニュアル的要素にとどめず，映像制作に向ける制作者たちの意図や情熱，歴史や仕組みなどをできるだけ詳しく，分かりやすく記すことで，映像への親しみを膨らますことができるように心がけた。

「つくる」キットは，それ自体はただの印刷した厚紙を打ち抜いたものなのだが，実在した視覚玩具になるべく近い形態をとり，作画に適した材質を用いたもので，海外の製品にも引けを取らないと自負している。視覚玩具自体にある程度の精度がないと，いくら動画をち密に描いても上手に動いて見えないので，作画に力を注げるよう，型紙の工作は容易にし，だれでも正確なものが組み上がるような設計にした。

(5)キットの公開と頒布

11月の開館10周年記念特別期間にキットの作品上映と公開ワークショップを実施した。頒布に関しては1セット＝7,500円で一般への販売が決定(「つくる」キットのみは，1,500円)，1階売店で取り扱うことになった。また通信販売を専門業者の有限会社ノースウェットに委託して実施することになった。企画立案当初，児童施設などへの無料配布も検討されたが，すべてに行き渡らないことと，一般の希望者が入手できないといった不公平感を生むことが懸念され，販売することに落ち着いた。一般販売価格は，既成のビデオソフト，書籍，学習教材の一般的な小売価格を参考にして，ソフトウェアとしての商品の性質を加味して設定した。また，ビデオソフトの著作権保護のために，施設での上映権と1年間の保証書を添付した業務用パッケージを設定した(権利料込み＝15,000円)。

V　動くこどもの城

1　動くこどもの城
（キャラバン隊派遣事業）……207

1　動くこどもの城（キャラバン隊派遣事業）

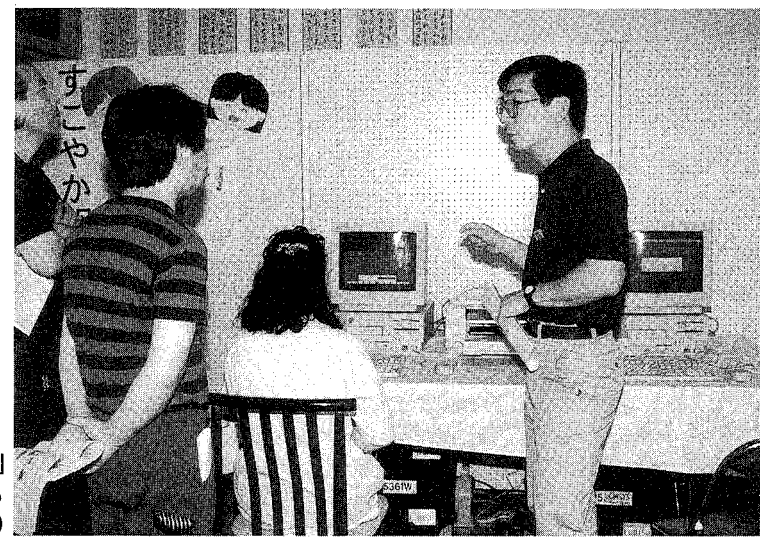
(1)　7年度活動一覧

1）プログラム一覧

〈子どもとその親を対象としたプログラム〉

名　　称	内　　容
おんがくがスキ！	観客が演じ手と一緒に楽しめるように，歌遊びや手遊びの要素が盛り込まれたコンサート。演ずる・見る・聞く・楽しむなどの行為が一体となり，音楽の楽しさを体験できるプログラム。
がらくた楽器コンサート	普段は，楽器に使われるなどとは想像できないものが，扱い方1つで楽器に変身。それぞれの物の固有の音を快く聞かせる異色のコンサート。
造形ワークショップ展	〔こどもの城〕の造形スタジオで実践されてきたプログラムを視覚的に分かりやすく，パネルで展示し，その中から幾つかのプログラムを子どもたちやその家族を対象に実施。
パソコン遊びのワークショップ	パソコンを〈道具〉として遊ぶプログラム。パソコンでカード作りのデザインをする「カードをつくろう」やしりとりや暗号解読を楽しむ「ことばであそぼう」など幾つかのプログラムの中から選択して実施。
アニメ・ワークショップ	子どもたちが優れた映像作品に触れ，また遊びを通して映像の仕組みを考えるためのプログラム。国内外のアニメーションの上映と，アニメの仕組みを簡単に体験できるワークショップで構成。
楽しいスポーツに挑戦	場所や対象に合わせてルールをアレンジして，ドッジボール，サッカー，ユニホック，フライングディスクなどのスポーツを楽しむプログラム。
ボランティア交流プログラム	〔こどもの城〕で活動しているボランティアリーダーによる影絵や人形劇などの公演と，地域のボランティアとの交流や情報交換を図るプログラム。
交流コンサートなどのプログラム	〔こどもの城〕の講座受講生などと，各地の子どもたちとの交流を図るためのコンサートなどのプログラム。

「全国児童館
造形フェスティバル」
（ぐんまこどもの国児童会館で）



「パソコン遊びのワークショップ」
児童厚生員を対象に講習会も
（埼玉県草加市住吉児童館で）

児童厚生員を対象に
「手作り楽器のワークショップ」
（宮崎県立図書館で）

「ブルーノ・ムナーリ展」
（東京都東村山市
富士見児童館で）

〈児童厚生員等を対象としたプログラム〉

名　　称	内　　容
造形ワークショップ	〔こどもの城〕の造形スタジオで実践されてきたプログラムの講習会。どこにでもある素材を用いて，少し発想や技法を変えると今まで見えなかった新しいプログラムが生まれる。
手作り楽器の　ワークショップ	普段ではがらくたとして捨ててしまうようなものを生き返らせて，さまざまな楽器に変えてしまう。金属の缶やフィルムケースで楽器を制作して，みんなでコンサートも行う。
アニメ・　ワークショップ	映像の基本的な原理について，遊びを通じて理解させるためのワークショップ。

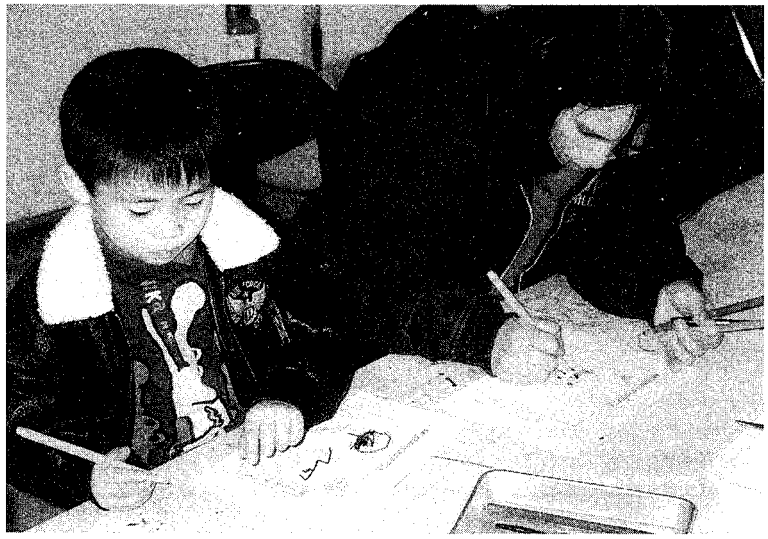
〈特別巡回展示プログラム〉

名　　称	内　　容
田沼武能の写真による「世界の子どもと家族」写真展	世界中を駆けめぐり，生き生きと生活する子どもたちの姿を撮り続けている写真家，田沼武能氏のフィルムライブラリーから国際家族年を記念して，子どもと家族をテーマに選んだ130点の作品の展示。
全国児童館　造形フェスティバル	全国93館の児童館の子どもたちが「わたしたちの家族」をテーマに共同制作した造形作品の展示。作品からは地域の特性や子どもたちの日常の生活ぶりが生き生きと伝わってきた。
家族・はがきアート展	国際家族年を記念して全国から募集した，はがきに家族を自由に表現した作品約2,000点の展示。福田繁雄氏，やなせたかし氏ら招待作家15氏の作品も同時に展示。
ブルーノ・ムナーリ展	1985年に〔こどもの城〕開館を記念して行われた，イタリアのアーチスト，ブルーノ・ムナーリ氏制作のグラフィック・アート，プレイシングス，絵本，オブジェなどの展示とワークショップ。

2）実施一覧

プログラム名（事業部）	会　期	都府県名	主催団体	実施場所	備　考
「世界の子どもと家族」写真展　（企画部）	4.17～5.12	兵庫県	伊丹市	伊丹市役所	
全国児童館造形フェスティバル　（企画部）	4.22～5.7	群馬県	ぐんまこどもの国児童会館	ぐんまこどもの国児童会館	
ボランティア交流プログラム　（研修教養部）	6.6・7	福島県	原町市橋本町児童センター	原町市橋本町児童センター	
楽しいスポーツに挑戦　（体育事業部）	7.9・10	大分県	大分県大分福祉事務所 大分県児童家庭課	大分県大分郡挟間町勤労者体育センター	児童厚生員研修会も併せて実施
パソコン遊びのワークショップ　（プレイ事業部）	7.20～8.4	埼玉県	草加市住吉児童館	草加市住吉児童館	〃
「世界の子どもと家族」写真展　（企画部）	8.1～31	千葉県	千葉市	千葉市美術館・鞘堂ホール	
全国児童館造形フェスティバル　（企画部）	9.11～22	大阪府	吹田市	吹田市役所	

プログラム名（事業部）	会　期	埼玉県名	主催団体	実施場所	備　考
おんがくがスキ！（音楽事業部）	9.9・10	三重県	三重県 三重県教育委員会　ほか	桑名市民会館	児童厚生員研修会も併せて実施
ブルーノ・ムナーリ展（造形事業部）	9.19～10.8	福島県	霊山こどもの村	霊山こどもの村	〃
手作り楽器のワークショップ（音楽事業部） 造形ワークショップ（造形事業部）	10.3	宮崎県	宮崎県児童館連絡協議会	宮崎県立図書館	児童厚生員研修会のみの実施
造形ワークショップ（造形事業部）	10.18	広島県	広島県児童館連絡協議会	府中市こどもの国	児童厚生員研修会も併せて実施
ブルーノ・ムナーリ展（造形事業部）	10.18～31	東京都	東村山市保健福祉部児童課	東村山市富士見児童館	〃
アニメ・ワークショップ（ＡＶ事業部）	11.11・12	愛知県	愛知こどもの国協会	愛知こどもの国	〃
こどもたちからのサウンドメッセージ（音楽事業部）	11.19	東京都	こどもの城	こどもの城青山劇場	
手作り楽器ワークショップ（音楽事業部）	11.24	静岡県	静岡県東部地区児童厚生施設連絡協議会	長泉町児童館	児童厚生員研修会のみの実施
家族・はがきアート展（企画部）	12.23～1.15	香川県	さぬきこどもの国	さぬきこどもの国	
おんがくがスキ！（音楽事業部）	1.21	青森県	青森県児童家庭課ほか	弘前市民会館 弘前市文化ホール	児童厚生員研修会も併せて実施
家族・はがきアート展（企画部）	3.9～4.21	富山県	富山県こどもみらい館	富山県こどもみらい館	



「アニメ・ワークショップ」
（愛知こどもの国で）

(2) 〈動くこどもの城〉の活動

国からの補助事業として前年度から実施している〈動くこどもの城〉は本年度も引き続き実施した。

「楽しいスポーツに挑戦」
(大分県挾間町勤労者体育センターで)

本年度は，少子化によるさまざまな社会問題の解決のために，社会全体で子育て支援を推し進めていく「エンゼルプラン」の初年度であり，各地でさまざまな取り組みがスタートした年だった。各地の児童館や児童センターでも，子育て支援の地域の拠点となることが期待され，単に子どもの健全育成という視点だけでなく，親子を対象とした幅広い事業を進めていかなくてはならないという状況だった。

1）本年度の特徴

本年度の特徴は，体育部門およびプレイ部門のプログラムが加わったことにより，「こども活動エリア」を構成している5部門すべてから出そろい，プログラム選択の幅が広がったことがあげられる。

体育プログラムは，放課後に児童館などを訪れる学童たちをダイナミックに遊ばせるためには，欠かせないものである。また，プレイ事業部のパソコンのプログラムは，マルチメディア時代といわれる昨今，児童館などでも取り組んでいく必要が出てくるものだと思われる。

この事業がスタートした当初は，開催予定が決定した催しの一部を埋めるプログラムとしての問い合わせがあるなど，事業の趣旨を理解してもらうのにも時間がかかった。本年度は，派遣したほとんどのケースにおいて，地域の児童館などを訪れる親子を対象にプログラムを実施したのと併せて，児童厚生員などを対象とした実技研修会を行うことができ，地域にプログラムが浸透し，児童館活動の活性化の一端を担うというこの事業本来の目的を果たすことができた。これは，具体的なプログラム内容なども盛り込んだ事業報告書や，事業案内などを通じて，事業趣旨を広報してきたものが，少しずつ理解されてきたためと考えられる。

この事業では，企画部が事務局としての機能を果たし，全国の関係団体への

事業案内の告知をすると同時に，開催団体と実際にプログラムを実施する事業部との調整役に当たった。開催団体には，この事業の趣旨を理解してもらい，研修会の実施や広報などについて十分な準備体制をとってもらえるように調整した。

また事業部には，開催団体の意図している企画趣旨などを伝えるとともに，研修会のテキスト編集などに協力した。このテキストは，研修会の内容が実技中心で，体験することに重点を置いているということもあり，参加者からもたいへん好評であった。

事務局としてのもう１つの大切な役割は，実施の際に，第三者としての視点でプログラムを見つめ，それを開催者やプログラムを実施した事業部にフィードバックすることがある。今後は新規プログラムの作成も必要であり，この第三者としてのより確かな視点が求められてくる。

2）今後の課題

〈動くこどもの城〉は，〔こどもの城〕がナショナルセンターとしての機能を果たすための最も大切な事業であり，今後もプログラムの内容を充実させていくことが必要である。また，この事業を通じて地方の児童館との直接的なコミュニケーションを活発に行い，県立児童館などの大型児童施設とのネットワークを構築していくことも今後の課題としてあげられる。

VI　その他の活動

1　こどもの城全国連絡協議会 ……215
2　チャリティー事業 ……220
3　こどもの城友の会 ……221

1　こどもの城全国連絡協議会

子どもたちに受け継がれている伝統芸能を紹介

こどもの城全国連絡協議会は，昭和60年４月の設立以来，全国の児童の健全育成に資することを目的に，会員相互の連携により事業を展開してきた。具体的には，情報交換，資料提供，催事の支援，研修会の開催などである。

しかし，児童厚生員の研修事業を実施するに当たり，㈳全国児童館連合会と競合することもあり，全国児童館連合会に組織を一本化する形で，平成８年３月31日をもって，こどもの城全国連絡協議会を解散することになった。

(1)　事業実施状況

1）情報交換・資料提供・事業協力支援

加盟している児童館・児童センターの健全育成活動の活性化に資するため，〔こどもの城〕の活動紹介を中心に情報・資料の交換・提供，および直接に加盟の館の主催事業の支援活動を実施した。

(ア)　機関誌に代わる記事掲載

「児童手当」誌の廃刊に伴い，従来の「ネットワーク」を「こどもの城ニュース」の中の「こどもの城となかまたち」というコラムで継承。年８回（４・６・７・８・10・12・２・３月）掲載。

(イ)　情報交換・資料提供

(1)〔こどもの城〕の情報提供

会員へ「こどもの城ニュース」を年９回（４・６・７・８・10・11・12・２・３月）各5,600部余を送付し，各地域の児童館活動の参考に供した。

(2)児童館活動実践情報の提供

会員へ冊子「音体験」（こどもの城造形事業部編集）を送付し，各地域の児童館活動の参考に供した。

2）児童文化・芸能などの活動紹介

加盟している全国の児童館・児童センターなどの所在する地域の児童文化活動・芸術活動・スポーツ活動の支援を目的とした，公演・競技会を開催した。

(ア)「こどもの城おまつり劇場」の開催（青山円形劇場）

子どもたちが今もその伝承の担い手として，受け継いでいる地方の伝統芸能を紹介し，その活動を励ます催し。「こども花ごよみ」と題して，四季折々の花にちなむ歌や踊りを春夏秋冬の４つの章に構成した。来場者も参加できる和楽器体験コーナー「お囃子道場」や江戸時代の縁日で盛んだった「富くじ」コーナもあるバラエティーショー形式で行われた。

出演は，望月太左衛こどもグループ（囃子），目黒流貫井囃子保存会（東京都小金井市），そのほかに，日本舞踊わらんべ座，こどもの城三味線グループと和太鼓グループ。

期　間：平成７年８月19日・20日（２日間，４公演）

入場者：約1,200人

(イ)「児童館こども卓球大会」の開催（体育室）

東京都内の児童館活動に参加している小・中学生たちによる卓球大会を開催し，子どもたちの交流を深め，児童館活動の活性化を図った。共催は東京都公立児童厚生施設連絡協議会。

期　間：平成７年８月５日・６日（２日間）

参加者：小学生／31チーム　約124人
　　中学生／８チーム　約32人

3）児童厚生員等の研修・現任訓練

児童館・児童センターで実際に子どもの指導に当たっている児童厚生員の資質の向上を図るため，研修教養部の協力を得て宿泊型を３回，通いを１回の計４回の講習会を開催した。また，児童館・児童センターからの要請に応じ，職員研修を受け入れた。

(ア)　第１回　児童厚生員等実技指導講習会

「出会いと発見，遊び心　ー児童館を拠点に地域を遊ぶー」

第１回目の講習会は一昨年，昨年に引き続き，児童館を１つの拠点とし，その外側に広がっていく活動を紹介する講習会とした。

期　間：平成７年５月31日～６月３日（３泊４日）

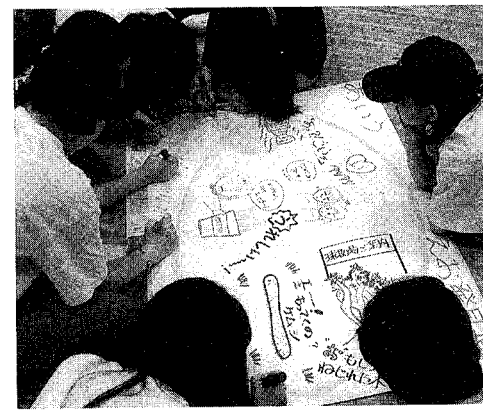
会　場：こどもの城／神奈川県三ツ沢公園青少年野外センター

参加者：42人（男子７人・女子35人，19都道府県），スタッフ２人・ボランティア３人

【プログラムの概要】

実　技：「地域を遊ぶ考え方」
「歌を感動的に遊ぶ」
「街を徹底的に遊ぶⅠ」
「街を徹底的に遊ぶⅡ」

講　師：遊び・劇・表現活動研究所　北島尚志氏
こどもの城　佐野真一



〈あそび〉の実技に取り組む児童厚生員

(イ)　第2回　児童厚生員等実技指導講習会
「こどもが育つ　あそびプログラム」

いろいろな集いの場面を想定したレクリエーションプログラムの基礎知識と基本技術の習得を目的とした講習を行った。

期　間：平成7年9月28日～30日（2泊3日）

会　場：こどもの城

参加者：56人（男子8人・女子48人，25都道府県），スタッフ2人

【プログラムの概要】

実　技：「心をつなぐレクリエーションダンス」「行事を演出するうたあそび」「誰もが楽しいレクダンス」「紐とスカーフの簡単手品」「遊んでこそレククラフト」

見　学：こどもの城事業概説・館内見学

研究協議：情報交換，レク材の活用法を語ろう

講　師：民族舞踊研究家　奥野正恭氏
日本児童遊戯研究所　有木昭久氏
伊藤忠記念財団　東京小中学生センター　柴田俊明氏
こどもの城　音楽事業部職員

(ウ)　第3回　児童厚生員等実技指導講習会
「児童文化にじっくりとりくもう－パネルシアターで遊ぶ－」

児童館などでよく使われるパネルシアター。今回はその制作から，出来上がった作品を使っての上演までを，見せる工夫を交えて講習した。この講習会は2日間にわたる通いで行われた。

期　間：平成7年11月17日，22日（2日間）

会　場：こどもの城

参加者：52人（男子3人・女子49人，10都道府県），スタッフ2人

【プログラムの概要】

実　技：「つくってあそぶパネルシアター」「パネルシアターであそぼう」

見　学：こどもの城事業概説・館内見学

講　師：パペットマーケット　和気瑞江氏

(エ) 第4回　児童厚生員等実技指導講習会

「親子でいきいき！児童館の子育て支援プログラム」

現在の児童館活動のなかで1つの課題となっている，乳幼児と親への取り組みについて，〔こどもの城〕で行われているプログラムの紹介を中心に具体的な内容の講習会。

期　間：平成8年1月24日～26日（2泊3日）

会　場：こどもの城

参加者：58人（男子5人・女子53人，20都道府県），スタッフ2人

【プログラムの概要】

実　技：「赤ちゃんとお母さんの体操～こどもの城体育事業部の実践プログラムから～」「うごく・うたう・つくる～こどもの城保育研究開発部の実践プログラムから～」「ゆったり親子のおんがく園～こどもの城音楽事業部の実践プログラムから～」

講　義：「児童館での育児支援活動の可能性」「いきいきとした親子関係をつくる」

見　学：こどもの城事業概説・館内見学

講　師：こどもの城　体育事業部・保育研究開発部・音楽事業部・小児保健部職員

(エ) 現任訓練のための各児童厚生施設からの職員派遣

現任訓練のために富山県立こどもみらい館職員（1人）の派遣を受けた。

(2) 総会・幹事会など

平成8年3月9日，午前から幹事会，引き続き総会をそれぞれ開催し，本協議会の事業決算および本会の解散について審議決定した。

なお，本年度の各都道府県（指定都市を含む）児童福祉主管課・児童館連絡協議会・関係団体などの本会入会状況および役員は次のとおりである（平成8年3月31日の解散時）。

(ア) 会員数

区　分	都道府県	指定都市	団体等	合　計
入　会	42	9	6	57
未入会	5	3		8
合　計	47	12		

(イ) 役　員(平成８年３月31日現在)

区　分	氏　　名	ブロック	所属する会員組織の役職名	勤　務　先
会　長	今泉　昭雄	こどもの城	日本児童手当協会理事長	日本児童手当協会
副会長	津金　正司	東　　京	東京都公立児童厚生施設連絡協議会長	東京都児童会館
〃	隆琦　大我	近　　畿	大阪府福祉部児童福祉課長	大阪府福祉部児童福祉課
幹　事	木村　吉基	北　海　道	北海道児童館連絡協議会長	釧路市福祉部児童家庭課
〃	大江　重子	東　　北	宮城県児童館連絡協議会長	大河原町立上谷児童館
〃	朝原　法江	中国四国	広島県児童館連絡協議会長	呉市二川児童館
〃	久々山義人	九　　州	熊本県児童館連絡協議会長	本渡市市長
〃	弓掛　正倫	こどもの城	日本児童手当協会常務理事	日本児童手当協会
会計監事	古川　峰生	関　　東	神奈川県公立青少年育成施設連絡協議会長	神奈川県立青少年センター
〃	市川勝太郎	中　　部	愛知県児童館連絡協議会長	豊橋市福祉部

(ウ) 会　計

こどもの城全国連絡協議会会計を設け，会費（１会員年5,000円）および日本児童手当協会助成金を原資として，前記の業務に関する経理を次のとおり施行した。

【平成７年度収支決算書】

科　　目	収　　入
	(円)
繰越金収入	10,824
会費収入	285,000
日本児童手当協会助成金収入	5,820,097
雑収入	1,171
合　　計	6,117,092

科　　目	支　　出
	(円)
役員会・総会費	267,842
業務諸費	67,917
機関紙発行費	2,122,080
協力援助費	3,659,253
合　　計	6,117,092

2 チャリティー事業

本年度の青山劇場，青山円形劇場におけるチャリティー観劇は養護施設などの児童らを対象に延べ21回，880人を招待した。

その内訳は，養護施設などの児童51か所，410人，母子寮の親子9か所，98人，障害児・者のグループ26か所，124人，そのほかホームヘルパー，ボランティアなど248人となっている。

月　日	回数	場　所	演　目	人数	対　象　者
	(回)			(人)	
8.5～7	3	青山劇場	イーハトーボの音楽劇 銀河鉄道の夜	200	養護施設の児童，母子寮の親子，障害児・者グループ，社協のボランティアほか
8.2～6，8	6	青山円形劇場	五線譜のなかの動物たち「夏の夜の夢」	180	〃
8.23～25，27	4	〃	キリンファミリーシアター「7人のこびとと白雪姫」	199	〃
1.4～7	4	〃	キリンファミリーオペレッタ「トンガリぼうしの魔法つかい」	100	〃
1.12.14・15	3	〃	五線譜のなかの動物たち「12秒間の鳥たち」	159	〃
3.29	1	〃	五線譜のなかの動物たち「パパゲーノ!」	42	〃
計	21			880	

3　こどもの城友の会

(1)　7年度の活動概要

年9回の「こどもの城ニュース」を含め，計12回のダイレクト・メールを「こどもの城友の会」会員に発送し，行事予定，講座募集などの案内をした。この案内には，劇場公演の優待を含む。また，会員を対象として，次項のような催し物をそれぞれ行った。

1）友の会会員向けの催し物

	実施日	場所・活動内容
ファミリーハイキング	5.27（第4土曜日）	実施場所＝千葉県鋸南町・鋸山 家族参加型の，自然に触れる会員の親睦プログラム。バス，フェリー，ロープウエーを利用しながら岩を切り出した跡がのこぎりのように見える「鋸山」に赴き，日本一大きいといわれる大仏などを見学しながら，温暖な新緑美しい南房総を満喫した。下山したあとは浜辺でゆったりと過ごした。6家族15人（大人8人，子ども7人）とボランティア・リーダー2人，スタッフ2人の計19人で実施。
ファミリーキャンプ	9.23～24	実施場所＝神奈川県南足柄市「どんぐりの家」 恒例となった「どんぐりの家」での1泊2日のキャンプ。東京近郊にしては豊かな自然の中で，さまざまなプログラムを実施した。特に，今回はプログラムを担当するスタッフとして，音楽事業部および造形事業部の職員も参加し，その専門性を生かした新しいキャンプ活動を展開した。キャンプファイヤーでは，インドネシアの竹の楽器，アンクルンの演奏を聴いたり，体験したりした。また，自然の木々を紙テープで装飾する「虫になって巣をつくろう」という野外アート的なプログラムも展開した。
わいわいスタジオ「童謡コンサート」	12.24	「わいわいスタジオ」に，フィンランドから同国政府公認のサンタクロースが登場。友の会会員家族20組を招待し，ともにクリスマスソングを歌ったり，記念撮影をした。
凧作りのワークショップ	1.4～7	冬休み行事「凧作りのワークショップ」で親子プログラムの角凧作りの優先予約と材料費の割り引き（企画部の項参照）。
劇場公演に招待		青山円形劇場「こどもフェスティバル」（4月29日～30日，5月3日～5日）「第1回人形劇カーニバル」（8月15日～17日）「ぼくらのサウンド '96」（3月24日～26日）

2）友の会会員・地区別分布

【地区別会員分布】

平成８年３月31日現

	東京都					埼玉県	神奈川県				千葉県	茨城県	その他	不明	合計
	特別区			市町村	小計		川崎市	横浜市	その他	小計					
	渋谷区	港区	その他												
家族数（世帯）	166	167	1,080	277	1,640	172	112	154	76	342	149	33	109	7	2,45
人数（人）	632	617	3,970	832	6,051	656	414	544	263	1,221	556	136	412	26	9,05

「その他」の都道府県別内訳（家族数）

秋田県	3	山形県	1	宮城県	5	福島県	5	新潟県	4	栃木県	13	群馬県	7	山梨県	4
長野県	4	富山県	1	石川県	1	岐阜県	2	静岡県	14	愛知県	8	三重県	1	京都府	2
奈良県	1	大阪府	17	兵庫県	4	岡山県	1	広島県	5	香川県	2	徳島県	1	福岡県	2

【就学区分別】

区分	未就学児	小学生	中学生	高校生	大人	計
人数（人）	1,217	2,048	278	102	5,413	9,058

注）１．就学区分は，平成７年度の区分による。
　　２．全世帯のうち185世帯が大人のみの世帯。

3）まとめと今後の課題

春のハイキングと秋のキャンプの野外プログラムのほか，親子で良質の児童文化に触れてもらうことを目的に，ゴールデンウイークの「こどもフェスティバル」と夏休みの「人形劇カーニバル」（いずれも青山円形劇場）への参加を呼びかけた。特に本年度後半からは，年間を通じて家族そろって楽しんでもらえるプログラムを増やし，参加を促すことにも積極的に取り組んだ。友の会の会員は〔こどもの城〕の事業の理解者であり，同時に批評家である。会員に満足感を与えるプログラムを提供するとともに，参加者の率直な声に耳を傾けて，一般来館家族向けのプログラムに反映できるよう，積極的な取り組みを続けていきたい。

㈶日本児童手当協会は，平成８年８月１日から法人の名称を
「財団法人 児童育成協会」に変更いたしました。

こどもの城事業年報　平成７年度

平成８年11月１日発行

財団法人　児童育成協会

理 事 長　今泉　昭雄

〒150　東京都渋谷区神宮前５―53―１
電話　03(3797)5666

印刷所　オーイ・アート・プリンティング